

白井北中道Ⅲ遺跡(1)

— 弥生時代以降編 —

一般国道17号(鯉沢バイパス)改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査(その2)報告書 第5集

2009

国 土 交 通 省

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

白井北中道Ⅲ遺跡(1)

— 弥生時代以降編 —

一般国道17号(鯉沢バイパス)改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査(その2)報告書 第5集

2009

国 土 交 通 省
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



口絵1、白井北中道田遺跡空撮全体合成写真【左：1面（F P上）、右：2面（F P下）】（上が北。最北部は白井十二遺跡）



口絵2. 白井北中道田遺跡Ⅰ・Ⅱ区Ⅰ号古墳全景【7世紀後半：古墳終末期】(南から撮影)



口絵3. 白井北中道田遺跡Ⅴ区2面(FP下)1号道【7世紀中葉：古墳時代】(東から撮影)



口絵4、白井北中道Ⅲ遺跡Ⅳ区Y1号住居【焼失住居：弥生時代終末期～古墳時代初頭】（東から撮影）



口絵5、白井北中道Ⅲ遺跡Ⅴ区Y1号住居【手前】・Y2号住居【奥壁際】（弥生時代終末期～古墳時代初頭）（南から撮影）



口絵6. 白井北中道Ⅲ遺跡Ⅰ・Ⅱ区間Ⅰ号古墳出土土器 [7世紀後半：古墳時代終末期]



口絵7. 白井北中道Ⅲ遺跡Ⅴ区Ⅰ号住居出土土器 [弥生時代終末期～古墳時代初頭]



口絵8. 白井北中道Ⅲ遺跡Ⅴ区Ⅳ号住居出土土器 [弥生時代終末期～古墳時代初頭]

序

一般国道17号は、関東と北陸を結ぶ大動脈であり、本県においては東北の山間部と県南の平野部とを結ぶ地域の主要道路であります。この国道は、渋川市と旧子持村（平成18年2月に渋川市と合併）の市街地を通過することや国道353号と接続するなどの諸条件から、交通渋滞が恒常的になっていました。その交通渋滞解消のため、全長5.5kmの鯉沢バイパスが計画されました。平成8年10月には、渋川市東町から国道353号バイパスとの交差点までの2.3kmが開通し、さらに終点の旧子持村上白井までの3.2kmについても平成20年7月に開通し、全長5.5kmの鯉沢バイパスが全面開通しました。この供用により、交通渋滞が大幅に緩和されることになりました。

国道353号バイパス交差点から終点までの埋蔵文化財調査は、一般国道17号（鯉沢バイパス）改築工事に伴う埋蔵文化財調査（その2）として、平成14年8月に当時の建設省関東地方整備局長・群馬県教育委員会教育長・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長の三者で協定書を締結し、調査の運びとなりました。本書は、その内、平成15年から平成17年にかけて発掘調査を実施した、旧子持村大字白井に所在する白井北中道Ⅲ遺跡の調査報告書です。

白井北中道Ⅲ遺跡が位置する旧子持村地区では、榛名山が6世紀初頭に噴火した降下火山灰であるFAと6世紀中頃に噴火した降下軽石であるFPとが特徴的です。特に、6世紀中頃の噴火による降下軽石であるFPは、この地区で約1mも堆積しており、そのために、当時の地面が現代までそのまま保存されています。この地域では、この軽石の水はけの良さや気泡を含んでいる点に着目してコンニャク栽培や軽量ブロックの製造が盛んに行われています。全国的にも有名な黒井峯遺跡が、軽量ブロック用軽石を採取中に発見されたのは有名な逸話です。

白井北中道Ⅲ遺跡では、中近世の掘立柱建物や伏竈跡・平安時代の堅穴住居・7世紀の古墳時代終末期の古墳・6世紀中頃の道や畦状遺構・弥生時代終末期～古墳時代初頭の堅穴住居・縄文時代前期の堅穴住居等が調査されました。中でも、7世紀の古墳時代終末期の古墳は、『上毛古墳総覧』にも記載されていない新発見の古墳であることが判明しました。また、弥生時代終末期～古墳時代初頭の6軒の住居は、この地域でこれだけまとまった発見例はありません。利根川対岸の標式遺跡となっている、樽遺跡の樽式土器を伴っています。なお、縄文時代の遺構と遺物は、次巻の『白井北中道Ⅲ遺跡（2）：縄文時代編』で報告する予定です。

今回の報告書刊行に至るまでには、国土交通省関東地方整備局、同高崎河川国道事務所、群馬県教育委員会、旧子持村教育委員会、地元関係者の皆様方に格別のご尽力を賜りました。ここに記して、心から感謝申し上げます。本報告書が群馬県のみならず、広く歴史資料として活用されることを祈念し、報告書の序といたします。

平成21年2月吉日

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 高橋 勇 夫

例 言

- 1 本書は、一般国道17号（麗沢バイパス）改築工事に伴う白井北中道III遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡所在地 群馬県渋川市白井町地内（旧：北群馬郡子持村大字白井地内、平成18年2月市町村合併）
- 3 事業主体 国土交通省 関東地方整備局
- 4 調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 5 調査期間 平成15（2003）年1月6日～平成17（2005）年6月30日 [途中中断期間あり]
- 6 整理期間 平成19（2007）年4月1日～平成21（2009）年3月31日 [編文時代編を含む]
- 7 発掘調査組織 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

(1) 発掘調査担当 [() の現職記載が無い者は、現在、群馬文に所属している。]

平成14年度：平成15（2003）年1月6日～同年3月31日

杉山秀宏（群馬県立歴史博物館）・唐沢友之（嬋恋村立東小学校）・松原孝志（沼田市立沼田東小学校）

平成15年度：平成15（2003）年4月1日～同16（2004）年3月31日 [但し、全期間担当者は檜崎と齋藤のみ]

檜崎修一郎・齋藤 聡・井原陽一（玉村村立玉村中学校）・井上昌美（群馬県企画部世界遺産推進室：文化庁へ派遣）・吉田和夫（前橋市立朝倉小学校）

平成16年度：平成17（2005）年2月8日～同年3月31日

齋藤利昭・水田福夫（群馬県立前橋女子高等学校）

平成17年度：平成17（2005）年4月1日～同年6月30日

女屋和志雄・齋藤 聡

(2) 事務担当

高橋勇夫・小野宇三郎・津金沢吉茂・木村祐紀・住谷永市・吉田 豊・神保侑史・萩原 勉・矢崎俊夫・萩原利通・飯島義雄・相京建史・佐藤明人・中東耕志・西田健彦・右島和夫・市 隆之・大木紳一郎・関 晴彦・中沢 悟・国定 均・笠原秀樹・宮前結城雄・丸岡道雄・榎原恒夫・佐嶋芳明・石井 清・竹内 宏・高橋房雄・小山建夫・須田朋子・斉藤恵利子・柳岡良宏・吉田有光・矢島一美・今泉大作・清水秀紀・齋藤陽子・栗原幸代・佐藤聖行・森下弘美・田中賢一・阿久沢玄洋・今井もと子・内山佳子・若田 誠・佐藤美佐子・本間久美子・北原かおり・狩野真子・武藤秀典・松下次男・吉田 茂

8 整理組織

(1) 整理担当

整理担当 平成19・20年度 檜崎修一郎

整理班員 平成19年度 茂木範子・嶋崎しづ子・猪野熊洋子・大塚京子・佐々木雅子

平成20年度 茂木範子・新井雅子・猪野熊洋子・下田真弓

遺構写真 各現場担当者

遺物写真 平成19・20年度 佐藤元彦・檜崎修一郎（馬場）

保存処理 平成19年度 関 邦一・小村浩一・津久井桂一・多田ひさ子・森田智子

平成20年度 関 邦一・小村浩一・津久井桂一・多田ひさ子

器械実測 平成19年度 田所順子・伊東博子・岸 弘子

平成20年度 田所順子・岸 弘子・小池益美

デジタル版組 平成20年度 牧野裕美・市田武子・酒井史恵・廣津真希子・安藤美奈子・高梨由美子・

矢端真観・横塚由香・荒木絵美・下川陽子

(2) 事務担当

高橋勇夫・津金沢吉茂・木村祐紀・萩原 勉・飯島義雄・相京建史・佐藤明人・西田健彦・大木紳一郎・国定 均・笠原秀樹・宮前結城雄・丸岡道雄・榎原恒夫・佐嶋芳明・石井 清・須田朋子・斉藤恵利子・

柳岡良宏・矢島一美・齋藤陽子・今井もと子・内山佳子・若田 誠・佐藤美佐子・本間久美子・北原かおり・狩野真子・武藤秀典

9 本文執筆 編集：嶋崎修一郎

本文：Ⅰ・Ⅱ区間古墳 [遺構・遺物] (杉山秀宏)・弥生時代～古墳時代住居 [遺物観察表・まとめ] (友廣哲也)・陶磁器観察表 (大西雅広)・須恵器観察表 (神谷佳明)・鉄滓観察表 (笹澤泰史)・古環境復元 (バリノ・サーヴェイ株式会社 高橋 敦・馬場健司)・火山灰分析 (火山灰考古学研究所・早田 勉)・舞沢バイパス2面まとめ (齋藤 聡)・左記以外は嶋崎が執筆。

10 委 託

平成15年度 樹種同定 (バリノ・サーヴェイ株式会社)・火山灰分析 (古環境研究所 [当時・現火山灰考古学研究所])

平成19年度 石器実測トレース (技研)・デジタル版組 (技研)・全体図作成 (技研)・樹種同定 (バリノ・サーヴェイ株式会社)

平成20年度 石器実測トレース (技研)・デジタル版組 (技研)・全体図作成 (技研)

11 本遺跡の出土遺物及び図面・写真等の資料は群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

12 発掘調査及び報告書作成にあたっては、次の方々に有益な指導と助言を賜った。記して感謝の意を表す次第である (名前の五十音順)。

麻生敏隆(石器)・飯島静男(石材鑑定)・飯森康広(掘立柱建物)・石井克己(黒井峯遺跡)・石守 晃(焼失住居)・岩崎泰一(石器)・大木紳一郎(弥生土器)・大西雅広(伏燬)・女屋和志雄(遺跡全体)・齋藤 聡(遺跡全体)・齋藤利昭(遺跡全体)・坂口 一(土師器)・板井美枝(石器)・関根慎二(縄文土器)・高井佳弘(官牧)・高島英之(官牧)・谷藤保彦(縄文土器)・野村正弘(石材鑑定)

凡 例

- 1 調査区域には、国家座標に基づいて4m間隔のグリッドを設定した。本報告書で用いる原点Aa-0は、日本平面直角座標系第IX系のX=57,400m、Y=-72,300m(日本測地系対応)である。
- 2 本文中で使用した地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図「舞沢」・「渋川」・「金井」・「伊香保」、20万分の1地勢図「宇都宮」・「長野」である。
- 3 本書では、標名山の噴出物である標名二ツ岳渋川テフラをHr-FA(又はFA)と表記し、標名二ツ岳伊香保テフラをHr-FP(又はFP)と表記した。
- 4 遺構及び遺物実測図の縮尺は各図中表示してある。また、挿図中の「L=○○m」は、断面図の水糸標高を示す。
- 5 本文中では、掘立柱建物を「建物」、竪穴住居跡を「住居」と表記した。挿図中では、1号建物を「1建」、1号住居を「1住」、1号土坑を「1土」、1号ピットを「1ピ」等と表記した。また、建物や住居等に伴う遺構の場合、1号ピットを「P1」等と表記した。
- 6 挿図中の網掛け部分(スクリーン・トーン)は次のことを意味する。

遺構図	FP		FA		炭化物		焼土		攪乱	
遺物図	磨面		敲打痕		陰影		特殊			

- 7 住居の面積は、デジタルプランナーで3回計測した平均値を記載した。
- 8 土層断面の註記に用いた色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所監修の「新版標準土色帖」に従った。

目 次

口 絵
序
例 言
凡 例

第1章 調査の経緯と調査の方法	1
第1節 調査の経緯	2
第2節 調査の方法	4
第2章 地理的・歴史的環境	9
第1節 遺跡の位置と周辺の地形	10
第2節 周辺の遺跡	11
第3節 基本土層	15
第3章 1面(Hr-FP上面)の遺構と遺物	17
第1節 I区1面の遺構と遺物	19
第2節 II区1面の遺構と遺物	31
第3節 III区1面の遺構と遺物	41
第4節 IV区1面の遺構と遺物	55
第5節 V区1面の遺構と遺物	77
第6節 1面(FP上)遺構まとめ	88
第4章 I・II区間1号古墳の調査	89
第1節 白井北中道III遺跡1号古墳	91
第5章 2面(Hr-FP下面)の遺構と遺物	105
第1節 I区2面の遺構と遺物	107
第2節 II区2面の遺構と遺物	117
第3節 III区2面の遺構と遺物	127
第4節 IV区2面の遺構と遺物	143
第5節 V区2面の遺構と遺物	157
第6節 2面(FP下)遺構まとめ	164
第6章 3面の調査(FA上下面)	165
第1節 調査の概要	167

第2節 I区の検出状況	167
第3節 II区の検出状況	167
第4節 III区の検出状況	169
第5節 IV区の検出状況	171
第6節 V区の検出状況	173

第7章 IV区・V区の弥生～古墳時代住居	175
第1節 IV区出土弥生～古墳時代住居	177
第2節 V区出土弥生～古墳時代住居	180
第3節 弥生～古墳時代住居まとめ	206
第4節 白井北中道III遺跡住居出土弥生土器	207
第5節 白井北中道III遺跡出土焼失住居	211
第8章 自然科学分析	215
第1節 白井北中道III遺跡自然科学分析まとめ	216
第2節 白井北中道III遺跡の古環境復元	217
第3節 白井北中道III遺跡の火山灰分析	227
第4節 白井北中道III遺跡出土馬歯	233
第9章 ま と め	235
第1節 鯉沢バイパス Hr-FP上面調査遺跡集成	236
第2節 白井遺跡群の馬蹄痕と馬	241
第3節 鯉沢バイパス Hr-FP下面調査遺跡集成	247

写真図版 (50PLS)

抄 録

付図1	白井北中道III遺跡1面(Hr-FP上面)全体図
付図2	白井北中道III遺跡2面(Hr-FP下面)全体図
付図3	白井北中道III遺跡3面(Hr-FA上下面)全体図
付図4	鯉沢バイパス2面(Hr-FP下面)全体図

挿図目次

第1章第1図	白井北中道田遺跡位置図 (S = 1 : 20万) -----	2
第1章第2図	白井北中道田遺跡跡位置図 (S = 1 : 20,000) -----	3
第1章第3図	白井北中道田遺跡調査区位置図 -----	5
第1章第4図	白井北中道田遺跡グッド配置図 -----	6
第2章第1図	段丘面分類図 (「子持村誌・上巻」を改定) -----	10
第2章第2図	両辺遺跡位置図 (S = 1 : 25,000) -----	13
第2章第3図	白井北中道田遺跡土層柱状図 -----	15
第3章第1図	I区1面 (Hr-FP 上面) 全体図 -----	18
第3章第2図	I区1面 (Hr-FP 上面) 遺構全体図 -----	20
第3章第3図	I区1面 (Hr-FP 上面) 遺構位置図(1) -----	21
第3章第4図	I区1面 (Hr-FP 上面) 遺構位置図(2) -----	22
第3章第5図	I区1面 (Hr-FP 上面) 遺構位置図(3) -----	23
第3章第6図	I区1面1号独立柱建物 -----	24
第3章第7図	I区1面土坑(1) -----	25
第3章第8図	I区1面土坑(2) -----	26
第3章第9図	I区1面出土陶磁器 -----	27
第3章第10図	I区1面出土金属・石製品 -----	28
第3章第11図	II区1面 (Hr-FP 上面) 遺構全体図 -----	32
第3章第12図	II区1面 (Hr-FP 上面) 遺構位置図(1) -----	33
第3章第13図	II区1面 (Hr-FP 上面) 遺構位置図(2) -----	34
第3章第14図	II区1面 (Hr-FP 上面) 遺構位置図(3) -----	35
第3章第15図	II区1面土坑 -----	36
第3章第16図	II区1面出土陶磁器 -----	37
第3章第17図	II区1面出土金属製品 -----	37
第3章第18図	II区1面1号・2号溝 -----	40
第3章第19図	III区1面 (Hr-FP 上面) 遺構全体図 -----	42
第3章第20図	III区1面 (Hr-FP 上面) 遺構位置図(1) -----	43
第3章第21図	III区1面 (Hr-FP 上面) 遺構位置図(2) -----	44
第3章第22図	III区1面 (Hr-FP 上面) 遺構位置図(3) -----	45
第3章第23図	III区1面 (Hr-FP 上面) 遺構位置図(4) -----	46
第3章第24図	III区1面 (Hr-FP 上面) 遺構位置図(5) -----	47
第3章第25図	III区1面1号伏室 -----	47
第3章第26図	III区1面土坑(1) -----	48
第3章第27図	III区1面土坑(2) -----	49
第3章第28図	III区1面出土陶磁器 -----	50
第3章第29図	III区1面出土金属製品・鉄滓 -----	50
第3章第30図	III区1面1号~4号溝 -----	53
第3章第31図	III区1面1号~4号溝断面 -----	54
第3章第32図	IV区1面 (Hr-FP 上面) 遺構全体図 -----	56
第3章第33図	IV区1面 (Hr-FP 上面) 遺構位置図(1) -----	57
第3章第34図	IV区1面 (Hr-FP 上面) 遺構位置図(2) -----	58
第3章第35図	IV区1面 (Hr-FP 上面) 遺構位置図(3) -----	59
第3章第36図	IV区1面 (Hr-FP 上面) 遺構位置図(4) -----	60
第3章第37図	IV区1面 (Hr-FP 上面) 遺構位置図(5) -----	61
第3章第38図	IV区1面 (Hr-FP 上面) 遺構位置図(6) -----	62
第3章第39図	IV区1面 (Hr-FP 上面) 遺構位置図(7) -----	63
第3章第40図	IV区H1号住居 -----	64
第3章第41図	IV区H1号住居竈 (カマド) -----	65
第3章第42図	IV区H1号住居出土遺物 -----	65
第3章第43図	IV区1面1号独立柱建物 -----	66
第3章第44図	IV区1面1号・2号伏室 -----	67
第3章第45図	IV区1面土坑(1) -----	68
第3章第46図	IV区1面土坑(2) -----	69
第3章第47図	IV区1面出土陶磁器 -----	70
第3章第48図	IV区1面出土金属製品 -----	70
第3章第49図	IV区1面1号溝断面 -----	74
第3章第50図	IV区1面1号・2号溝、2号溝断面 -----	75
第3章第51図	IV区1面1号溝出土金属 -----	76
第3章第52図	V区1面 (Hr-FP 上面) 遺構全体図 -----	78
第3章第53図	V区1面 (Hr-FP 上面) 遺構位置図(1) -----	79
第3章第54図	V区1面 (Hr-FP 上面) 遺構位置図(2) -----	80
第3章第55図	V区1面 (Hr-FP 上面) 遺構位置図(3) -----	81
第3章第56図	V区1面1号独立柱建物 -----	82

第3章第57図	V区1面土坑(1) -----	83
第3章第58図	V区1面土坑(2) -----	84
第3章第59図	V区1面出土陶磁器・金属製品 -----	85
第4章第1図	I・II区間1号古墳位置図 -----	90
第4章第2図	白井古墳群分布図 -----	91
第4章第3図	I・II区間1号古墳石室掘り方・前庭部土坑 -----	92
第4章第4図	I・II区間1号古墳石室断面図(1) -----	93
第4章第5図	I・II区間1号古墳石室断面図(2) -----	94
第4章第6図	I・II区間1号古墳石室断面図 -----	95
第4章第7図	I・II区間1号古墳石室基礎図 -----	95
第4章第8図	I・II区間1号古墳石室平面図 -----	95
第4章第9図	I・II区間1号古墳石室構築状況 -----	96
第4章第10図	I・II区間1号古墳石室材別石室石材図 -----	96
第4章第11図	I・II区間1号古墳構築工程・復原図 -----	98
第4章第12図	I・II区間1号古墳遺物出土状況図 -----	100
第4章第13図	I・II区間1号古墳遺物断面図 -----	100
第4章第14図	I・II区間1号古墳出土土器 -----	101
第4章第15図	I・II区間1号古墳出土鉄製品 -----	102
第4章第16図	I・II区間1号古墳復原遺構平面図 -----	103
第4章第17図	I・II区間1号古墳復原遺構断面図 -----	103
第4章第18図	I・II区間1号古墳出土土器・金属製品 -----	104
第5章第1図	2面 (Hr-FP 下面) 全体図 -----	166
第5章第2図	I区2面 (Hr-FP 下面) 遺構全体図 -----	168
第5章第3図	I区2面 (Hr-FP 下面) 遺構位置図(1) -----	169
第5章第4図	I区2面 (Hr-FP 下面) 遺構位置図(2) -----	110
第5章第5図	I区2面 (Hr-FP 下面) 遺構位置図(3) -----	111
第5章第6図	I区2面1~8号畦、5・6号畦断面 -----	112
第5章第7図	I区2面1~3・7・8号畦 -----	113
第5章第8図	I区2面9号・10号畦 -----	114
第5章第9図	I区2面4号畦 -----	115
第5章第10図	I区2面立木 -----	116
第5章第11図	II区2面 (Hr-FP 下面) 遺構全体図 -----	118
第5章第12図	II区2面 (Hr-FP 下面) 遺構位置図(1) -----	119
第5章第13図	II区2面 (Hr-FP 下面) 遺構位置図(2) -----	120
第5章第14図	II区2面 (Hr-FP 下面) 遺構位置図(3) -----	121
第5章第15図	II区2面1~3号畦 -----	122
第5章第16図	II区2面4号~8号畦 -----	123
第5章第17図	II区2面7号畦断面 -----	124
第5章第18図	II区2面1~3号立木 -----	125
第5章第19図	II区2面4~7号立木、6号立木出土土器 -----	126
第5章第20図	II区2面 (Hr-FP 下面) 遺構全体図 -----	128
第5章第21図	II区2面 (Hr-FP 下面) 遺構位置図(1) -----	129
第5章第22図	II区2面 (Hr-FP 下面) 遺構位置図(2) -----	130
第5章第23図	II区2面 (Hr-FP 下面) 遺構位置図(3) -----	131
第5章第24図	II区2面 (Hr-FP 下面) 遺構位置図(4) -----	132
第5章第25図	II区2面1号道断面 -----	133
第5章第26図	II区2面1号畦断面 -----	133
第5章第27図	II区2面1号道・2号・4号畦 -----	134
第5章第28図	II区2面3号畦 -----	135
第5章第29図	II区2面5号・6号畦 -----	136
第5章第30図	II区2面5号・6号畦断面 -----	137
第5章第31図	II区2面1号・2号立木 -----	137
第5章第32図	II区2面3号~5号立木 -----	138
第5章第33図	II区2面1~3号倒木 -----	139
第5章第34図	II区2面1号倒木・炭化材 -----	140
第5章第35図	II区2面2号倒木・炭化材 -----	141
第5章第36図	II区2面3号倒木・炭化材 -----	142
第5章第37図	IV区2面 (Hr-FP 下面) 遺構全体図 -----	144
第5章第38図	IV区2面 (Hr-FP 下面) 遺構位置図(1) -----	145
第5章第39図	IV区2面 (Hr-FP 下面) 遺構位置図(2) -----	146
第5章第40図	IV区2面 (Hr-FP 下面) 遺構位置図(3) -----	147
第5章第41図	IV区2面 (Hr-FP 下面) 遺構位置図(4) -----	148
第5章第42図	IV区2面1号・2号畦 -----	149
第5章第43図	IV区2面1号・3号~10号畦 -----	150
第5章第44図	IV区2面1号・3号・6号・7号畦断面 -----	151

第5章第45回	IV区2面8号~10号畦断面	152
第5章第46回	IV区2面1号・3号~5号畦	153
第5章第47回	IV区2面1~3号立木	154
第5章第48回	IV区2面4号~7号立木	155
第5章第49回	IV区2面1号柳木版	156
第5章第50回	V区2面(Hr-PP下面) 遺構全体図	158
第5章第51回	V区2面(Hr-PP下面) 遺構位置図(1)	159
第5章第52回	V区2面(Hr-PP下面) 遺構位置図(2)	160
第5章第53回	V区2面1号道、1号~3号畦	161
第5章第54回	V区2面1号道断面	162
第5章第55回	V区2面2号~4号畦	162
第6章第1回	3面(Hr-PA上下面) 全体図	166
第6章第2回	I区3面全体図	167
第6章第3回	II区3面全体図	167
第6章第4回	II区遺構外出土遺物位置図	168
第6章第5回	II区遺構外出土遺物	168
第6章第6回	III区3面全体図	169
第6章第7回	III区遺構外出土遺物位置図	169
第6章第8回	III区遺構外出土遺物	169
第6章第9回	III区3面1号・2号立木	170
第6章第10回	IV区3面1号道位置図	171
第6章第11回	IV区遺構外出土遺物位置図	171
第6章第12回	IV区3面1号道平面図	172
第6章第13回	IV区3面1号道断面図	172
第6章第14回	IV区遺構外出土遺物	173
第6章第15回	IV区遺構外出土遺物位置図	173
第6章第16回	V区遺構外出土遺物	174
第6章第17回	V区遺構外出土遺物	174
第7章第1回	弥生~古墳時代住居位置図	176
第7章第2回	IV区Y1号住居炭化物出土状況	177
第7章第3回	IV区Y1号住居	178
第7章第4回	IV区Y1号住居出土土器	179
第7章第5回	IV区Y1号住居出土土器	179
第7章第6回	V区Y1号住居	181
第7章第7回	V区Y1号住居出土土器(1)	183
第7章第8回	V区Y1号住居出土土器(2)	184
第7章第9回	V区Y1号住居出土土器(3)	185
第7章第10回	V区Y1号住居出土土器(1)	186
第7章第11回	V区Y1号住居出土土器(2)	187
第7章第12回	V区Y1号住居出土土器(3)	188
第7章第13回	V区Y1号住居出土土器(4)	189
第7章第14回	V区Y2号住居炭化材出土状況	192
第7章第15回	V区Y2号住居	193
第7章第16回	V区Y2号住居断面	194
第7章第17回	V区Y2号住居出土土器	195
第7章第18回	V区Y2号住居出土土器(1)	195
第7章第19回	V区Y2号住居出土土器(2)	196
第7章第20回	V区Y3号住居	198
第7章第21回	V区Y3号住居出土土器(1)	199
第7章第22回	V区Y3号住居出土土器(2)	200
第7章第23回	V区Y3号住居出土土器	200
第7章第24回	V区Y4号住居	202
第7章第25回	V区Y4号住居出土土器	203
第7章第26回	V区Y4号住居出土土器	203
第7章第27回	V区Y5号住居出土土器	204
第7章第28回	V区Y5号住居	205
第7章第29回	白井北中道田遺跡住居 (弥生時代終末期~古墳時代初期) 位置図	207
第7章第30回	IV区Y1号住居出土小形埴輪(N3)	208
第7章第31回	IV区Y1号住居出土土壘(N4)	208
第7章第32回	V区Y1号住居出土土壘(N4)	208
第7章第33回	V区Y1号住居出土土壘(N5)	208
第7章第34回	V区Y1号住居出土土壘(N6)	208
第7章第35回	V区Y1号住居出土土壘(N7)	208
第7章第36回	V区Y4号住居出土土壘(N4)	209

第7章第37回	V区Y4号住居出土土壘(N5)	209
第7章第38回	V区Y4号住居出土土壘(N7)	209
第7章第39回	V区Y4号住居平面図	209
第7章第40回	家屋の構造(都出、1989を改定)	212
第7章第41回	白井北中道田遺跡住居 (弥生時代終末期~古墳時代初期) 位置図	213
第7章第42回	IV区Y1号住居築穴部平面図	214
第7章第43回	V区Y2号住居築穴部平面図	214
第7章第44回	V区Y3号住居築穴部平面図	214
第8章第1回	植物埋蔵体群集と珪化組織片の産状	220
第8章第2回	V区住居土層住居状況	232
第8章第3回	白井北中道田遺跡IV区1面1号溝出土土壘部位置図	234
第9章第1回	周辺遺跡分布図(S=1:25,000) ●印は古墳	237
第9章第2回	牧の分布図(白石、2007を改定)	244
第9章第3回	段丘面分類図〔子持村・上巻〕参照	247
第9章第4回	旧子持村地区Hr-PP下面調査遺跡位置図	248
第9章第5回	旧子持村地区Hr-PP下面土地利用分類図	249

表 目 次

第1章表1	調査面模式表	4
第2章表1	周辺遺跡一覧表	14
第2章表2	釧路バイパス(その2) 面積一覧表	16
第3章表1	I区1面1号掘立柱住居柱穴計測表	24
第3章表2	I区1面出土陶磁器観察表	27
第3章表3	I区1面出土金属製品観察表	28
第3章表4	I区1面出土土製土器観察表	28
第3章表5	I区1面土坑計測表	29
第3章表6	I区1面ピット計測表	30
第3章表7	II区1面出土陶磁器観察表	37
第3章表8	II区1面出土金属製品観察表	37
第3章表9	II区1面土坑計測表	38
第3章表10	II区1面溝計測表	39
第3章表11	III区1面出土陶磁器観察表	50
第3章表12	III区1面出土金属製品観察表	50
第3章表13	III区1面出土鉄押観察表	50
第3章表14	III区1面土坑計測表	51
第3章表15	III区1面溝計測表	52
第3章表16	IV区H1号住居出土遺物観察表	65
第3章表17	IV区1面出土陶磁器観察表	70
第3章表18	IV区1面出土金属製品観察表	70
第3章表19	IV区1面土坑計測表	71
第3章表20	IV区1面溝計測表	74
第3章表21	V区1面出土陶磁器観察表	85
第3章表22	V区1面出土金属製品観察表	85
第3章表23	V区1面土坑計測表	85
第3章表24	V区1面ピット計測表	87
第3章表25	I面遺構まとめ	88
第4章表1	I・II区間1号古墳石室使用石材一覧表	97
第4章表2	I・II区間1号古墳出土土器観察表	102
第4章表3	I・II区間1号古墳出土土製土器観察表	102
第4章表4	I・II区間出土土器・金属製品観察表	104
第5章表1	I区2面畦状遺構計測表	111
第5章表2	I区2面立木計測表	116
第5章表3	II区2面畦状遺構計測表	122
第5章表4	II区2面立木計測表	125
第5章表5	II区2面6号立木出土土器観察表	126
第5章表6	II区2面畦状遺構計測表	133
第5章表7	III区2面立木計測表	138
第5章表8	III区2面両木坑計測表	139
第5章表9	IV区2面畦状遺構計測表	149
第5章表10	IV区2面立木計測表	154
第5章表11	V区2面畦状遺構計測表	163
第5章表12	V区2面弥生~古墳時代住居凹み計測表	163
第5章表13	2面遺構まとめ	164

第6章表1	II区遺構外出土土器観察表	168
第6章表2	III区遺構外出土土器観察表	169
第6章表3	IV区遺構外出土土器観察表	173
第6章表4	V区遺構外出土土器観察表	174
第6章表5	VI区遺構外出土土器観察表	174
第7章表1	IV区Y1号住居出土土器観察表	179
第7章表2	IV区Y1号住居出土土器観察表	179
第7章表3	V区Y1号住居出土土器観察表	185
第7章表4	V区Y1号住居出土土器観察表	190
第7章表5	V区Y2号住居出土土器観察表	195
第7章表6	V区Y2号住居出土土器観察表	196
第7章表7	V区Y3号住居出土土器観察表	200
第7章表8	V区Y3号住居出土土器観察表	200
第7章表9	V区Y4号住居出土土器観察表	203
第7章表10	V区Y4号住居出土土器観察表	203
第7章表11	V区Y5号住居出土土器観察表	204
第7章表12	白井北中道II遺跡住居 (弥生時代終末期～古墳時代初期)まとめ	206
第8章表1	樹種同定結果表	221
第8章表2	植物性炭化分析結果	221
第8章表3	構築部材の遺構別種類構成	222
第8章表4	V区住居におけるテラコッタ出土分析結果	231
第8章表5	V区住居における屈折率測定結果	231
第8章表6	白井北中道II遺跡IV区1面1号溝出土馬歯計測表	234
第9章表1	国道17号(鶴沢バイパス)1面(FP上)検出遺構まとめ	238
第9章表2	国道33号道路(鶴沢バイパス)1面(FP上)検出遺構まとめ	239
第9章表3	国道33号道路 1面 (FP上) 検出遺構まとめ	242
第9章表4	日本の在来馬	249
第9章表5	動物糞と官牧	243
第9章表6	上野国 9御牧指定地	243
第9章表7	旧子持村地区 Hr-FP 下面調査遺跡一覧	257

文中写真目次

第1章写真1	白井北中道II遺跡空撮	1
第2章写真1	白井北中道II遺跡空撮	9
第3章写真1	1面 (Hr-FP 上面) 全景空撮	17
第3章写真2	I区1面空撮 [上が北]	19
第3章写真3	II区1面空撮 [上が北]	31
第3章写真4	III区1面南部空撮 [上が北]	41
第3章写真5	IV区1面東部空撮 [上が北]	55
第3章写真6	IV区H1号住居籠 (カマド)	65
第3章写真7	IV区1面1号溝出土馬歯	76
第3章写真8	IV区1面1号溝出土馬歯	76
第3章写真9	V区1面空撮 [上が北]	77
第4章写真1	I・II区間1号古墳空撮 [上が北]	89
第5章写真1	2面 (Hr-FP 下面) 全景空撮 [上が北]	105
第5章写真2	I区2面空撮 [上が北]	107
第5章写真3	I区2面4号畦 [南東]	115
第5章写真4	II区2面空撮 [上が北]	117
第5章写真5	III区2面南部空撮 [上が北]	127
第5章写真6	III区2面1号溝 [東→]	133
第5章写真7	III区2面1号側木版 [西→]	140
第5章写真8	III区2面2号側木版 [東→]	141
第5章写真9	III区2面3号側木版 [東→]	142
第5章写真10	IV区2面中央部空撮 [上が北]	143
第5章写真11	IV区2面1号側木版 [北東→]	156
第5章写真12	V区2面空撮 [上が北]	157
第5章写真13	V区2面1号溝 [東→]	161
第5章写真14	Y1号住居2面 (FP下) 検出状況 [東→]	163
第5章写真15	Y2号住居2面 (FP下) 検出状況 [南西→]	163
第5章写真16	Y3号住居2面 (FP下) 検出状況 [東→]	163
第5章写真17	Y4号住居2面 (FP下) 検出状況 [南→]	163
第5章写真18	Y5号住居2面 (FP下) 検出状況 [東→]	163
第6章写真1	白井北中道II遺跡II区3面調査風景 [南→]	165

第6章写真2	II区 Bm-66G 遺物出土状況 [南→]	168
第6章写真3	IV区1号遺全景 [西→]	171
第7章写真1	V区弥生～古墳時代住居空撮 (Y1号・Y2号・Y3号住居) [上が北]	175
第7章写真2	IV区Y1号住居炭化物出土状況 [東→]	179
第7章写真3	V区Y1号住居空撮 [上が北]	180
第7章写真4	V区Y2号住居炭化物出土状況 [南→]	191
第7章写真5	V区Y2号住居廻り方全景 [西→]	191
第7章写真6	V区Y3号住居炭化物・遺物出土状況 [北→]	197
第7章写真7	V区Y3号住居廻り方全景 [北東→]	197
第7章写真8	V区Y4号住居全景 [東→]	201
第7章写真9	V区Y4号住居遺物出土状況 [西→]	201
第7章写真10	V区Y4号住居遺物出土状況 [南→]	201
第7章写真11	V区Y4号住居遺物出土状況 [南→]	201
第7章写真12	V区Y5号住居廻り方全景 [北東→]	204
第7章写真13	V区Y5号住居空撮 [上が北]	204
第7章写真14	V区Y5号住居遺物出土状況 [北東→]	204
第8章写真1	炭化材、植物性炭体	215
第8章写真2	炭化材①	224
第8章写真3	炭化材②	225
第8章写真4	植物性炭体	226
第8章写真5	1号溝馬歯出土状況 [西→]	233
第8章写真6	白井北中道II遺跡IV区1面1号溝出土馬歯	234
第8章写真7	白井北中道II遺跡空撮	235
第9章写真2	I区1面 南部土坑群 [北→]	239
第9章写真3	II区1面 1号溝 [南→]	239
第9章写真4	III区1面 1号溝 [西→]	239
第9章写真5	IV区1面 H1号住居 [西→]	239
第9章写真6	旧子持村地区遠景	250
第9章写真7	中野田区遺跡で検出された高サク状品	252
第9章写真8	中野田区遺跡で検出された短サク状品	252
第9章写真9	中野田区遺跡で検出された水田	253
第9章写真10	北牧大塚遺跡で検出された水田	253
第9章写真11	白井十二遺跡で検出された畦状遺構	254
第9章写真12	白井十二遺跡で検出された土器を付帯する道	254

写真目次

I・II区間	1号古墳
V区1面	1号孤立柱建物
IV区1面	H1号住居
V区2面	1号溝
IV区Y1号住居	
V区Y4号住居	
PL 1	1, I区1面 作業風景 [北→]
	2, I区1面 南部土坑群 [北→]
	3, I区1面 空撮 [上が北→]
	4, I区1面 98～100号土坑全景 [南→]
	5, I区1面 35号土坑全景 [北→]
	6, I区1面 109号土坑全景 [北→]
	7, I区1面 1号孤立柱建物全景 [南→]
	8, I区1面 1号孤立柱建物全景 [北→]
PL 2	1, I区1面 1号孤立柱建物全景 [南→]
	2, I区1面 出土遺物
PL 3	1, II区1面 土坑群 1～3号 [東→]
	2, II区1面 土坑群 9～17号 [南→]
	3, II区1面 土坑群 9～17号 [東→]
	4, II区1面 18号土坑全景 [北→]
	5, II区1面 土坑群 19～26号 [東→]
	6, II区1面 土坑群 20～34号 [北→]
	7, II区1面 35号土坑全景 [東→]
	8, II区1面 空撮 [上が北]
PL 4	1, II区1面 土坑群 36～43号 [東→]
	2, II区1面 土坑群 52～59号 [東→]
	3, II区1面 土坑群 60～77号 [東→]

	4. II区1面	1号溝と土坑群	【北→】		5. I・II区間	1号古墳前底部掘り込み全景	【南東→】
	5. II区1面	1号溝と土坑群	【南→】		6. I・II区間	1号古墳前底部掘り込み全景	【南東→】
	6. II区1面	1号溝と2号溝合流部	【東→】	PL, 17	1. I・II区間	1号古墳出土遺物	
PL, 5	7. II区1面	出土遺物		PL, 18	1. I区2面	南部空堀	【上が北】
	1. III区1面	南部空堀	【上が北】		2. I区2面	北部空堀	【上が北】
	2. III区1面	土坑群 41～55号	【西→】		3. I区2面	1号・3号畦	【南→】
	3. III区1面	1号伏魔全景	【西→】		4. I区2面	2号畦	【南→】
	4. III区1面	1号溝	【南→】		5. I区2面	4号畦	【東→】
	5. III区1面	1号溝	【南→】		6. I区2面	4号畦出土土状況	【南→】
	6. III区1面	2号溝	【南→】		7. I区2面	5号畦	【東→】
PL, 6	1. III区1面	3号溝	【西→】		8. I区2面	6号・7号畦	【北→】
	2. III区1面	3号溝	【西→】	PL, 19	1. I区2面	7号畦	【東→】
	3. III区1面	1号道	【西→】		2. I区2面	8号畦	【北→】
	4. III区1面	1号道	【西→】		3. I区2面	9号畦	【東→】
	5. III区1面	出土遺物			4. I区2面	10号畦	【北→】
PL, 7	1. IV区1面	H1号住居全景	【西→】		5. I区2面	1号立木全景	【東→】
	2. IV区1面	H1号住居竈(カマド)	【西→】		6. I区2面	2号立木全景	【南←】
	3. IV区1面	H1号住居厨子方全景	【西→】		7. I区2面	3号立木全景	【南→】
	4. IV区1面	H1号住居土物№1出土状況	【西→】		8. I区2面	4号立木全景	【南→】
	5. IV区1面	H1号住居土物№2出土状況	【西→】	PL, 20	1. I区2面	空堀	【上が北】
	6. IV区1面	H1号住居出土遺物			2. I区2面	1号畦	【東→】
PL, 8	1. IV区1面	1号(右)・2号(左)伏魔全景	【東→】		3. I区2面	1号畦	【西→】
	2. IV区1面	1号伏魔全景	【南→】	PL, 21	1. II区2面	3号畦全景	【南→】
	3. IV区1面	2号伏魔全景	【南→】		2. II区2面	2号・3号畦全景	【南→】
	4. IV区1面	1号溝馬鹿出土状況	【南→】		3. II区2面	3号畦全景	【南→】
	5. IV区1面	1号溝馬鹿出土状況	【西→】		4. II区2面	4号畦全景	【南→】
PL, 9	1. IV区1面	64号土坑出土遺物		PL, 22	1. II区2面	4号畦	【北→】
	2. IV区1面	119号土坑出土遺物			2. II区2面	5号(右)・6号(左)畦全景	【東→】
	3. IV区1面	186号土坑全景	【東→】		3. II区2面	7号(左)・8号(右)畦	【北→】
	4. IV区1面	186号土坑遺物(鏡貨)出土状況	【東→】		4. II区2面	7号(右)・8号(左)畦	【南→】
	5. IV区1面	186号土坑出土遺物			5. II区2面	7号畦	【南→】
PL, 10	1. V区1面	東部土坑群	【北→】		6. II区2面	7号畦	【北→】
	2. V区1面	西部土坑群	【北→】	PL, 23	7. II区遺構外 Bm-66G出土土器		
	3. V区1面	南部道状燧化遺構	【東→】		1. II区2面	1号立木全景	【南西→】
	4. V区1面	南部土坑・ビット群	【東→】		2. II区2面	2号立木全景	【南西→】
	5. V区1面	南部道状燧化遺構	【東→】		3. II区2面	3号立木全景	【南→】
PL, 11	1. V区1面	1号獨立柱建物全景	【東→】		4. II区2面	4号立木全景	【北→】
	2. V区1面	1号獨立柱建物全景	【北→】		5. II区2面	5号立木全景	【東→】
	3. V区1面	1号獨立柱建物全景	【北→】		6. II区2面	6号立木全景	【北→】
	4. V区1面	出土遺物			7. II区2面	7号立木全景	【北西→】
PL, 12	1. I・II区間	1号古墳全景	【南→】		8. II区2面	6号立木出土石器(表裏)	
	2. I・II区間	1号古墳全景	【北→】	PL, 24	1. III区2面	北西部空堀	【上が北】
	3. I・II区間	1号古墳全景	【南→】		2. III区2面	南部空堀	【上が北】
	4. I・II区間	1号古墳全景	【東→】		3. III区2面	1号道	【西→】
	5. I・II区間	1号古墳全景	【西→】		4. III区2面	1号道	【東→】
PL, 13	1. I・II区間	1号古墳埋蓋石	【東→】		5. III区2面	1号畦	【西→】
	2. I・II区間	1号古墳狭道	【南→】		6. III区2面	2号畦全景(点線は1号道)	【東→】
	3. I・II区間	1号古墳狭道側壁	【西→】	PL, 25	1. III区2面	3号畦	【南→】
	4. I・II区間	1号古墳狭道側壁	【東→】		2. III区2面	4号(点線は1号道)畦	【西→】
	5. I・II区間	1号古墳空室	【南→】		3. III区2面	3号畦(手前)・5号畦(奥)	【東→】
PL, 14	1. I・II区間	1号古墳空室遺物出土状況	【南→】		4. III区2面	5号畦	【東→】
	2. I・II区間	1号古墳空室遺物出土状況 №2・3	【西→】		5. III区2面	6号畦(奥)	【南西→】
	3. I・II区間	1号古墳空室遺物出土状況 №4	【北→】	PL, 26	1. III区2面	1号側木痕全景	【北西→】
	4. I・II区間	1号古墳遺物出土状況 №11～30	【東→】		2. III区2面	1号側木痕全景	【北西→】
	5. I・II区間	1号古墳遺物出土状況 №11～30	【西→】		3. III区2面	1号側木痕出土	【北西→】
PL, 15	1. I・II区間	1号古墳石室椀石	【南→】		4. III区2面	2号側木痕全景	【東→】
	2. I・II区間	1号古墳石室椀石	【南西→】		5. III区2面	2号側木痕全景	【東→】
	3. I・II区間	1号古墳石室前庭部椀石	【北→】		6. III区2面	2号側木痕出土	【東→】
	4. I・II区間	1号古墳石室前庭部椀石	【北→】		7. III区2面	3号側木痕全景	【北東→】
	5. I・II区間	1号古墳石室石室部椀石	【南→】	PL, 27	1. III区2面	1号立木(手前)全景	・1号畦
PL, 16	1. I・II区間	1号古墳石室掘り方全景	【南→】		2. III区2面	4号立木全景	【西→】
	2. I・II区間	1号古墳石室掘り方全景	【南西→】		3. III区2面	4号立木全景	【東→】
	3. I・II区間	1号古墳掘り方全景	【南東→】		4. III区2面	4号立木セクション	【東→】
	4. I・II区間	1号古墳石室掘り方近接	【南→】		5. III区2面	5号立木全景	【東→】

	6. 旧区2面 作業風景 [西→]		4. V区 Y1号住居ビット3 [南→]
	7. 旧区遺構外 Cj-56G出土土器		7. V区 Y1号住居出土遺物
PL, 28	1. IV区2面 西部空堀 [上が北]	PL, 38	1. V区 Y1号住居出土遺物
	2. IV区2面 中央部空堀 [上が北]	PL, 39	1. V区 Y1号住居出土遺物
	3. IV区2面 東部空堀 [上が北]	PL, 40	1. V区 Y1号住居出土遺物
	4. IV区2面 1号・2号畦 [東→]	PL, 41	1. V区 Y2号住居2面 (FP下) 検出状況 [西→]
	5. IV区2面 1号畦 [南→]		2. V区 Y2号住居2面 (FP下) 検出状況 [南西→]
	6. IV区2面 1号畦近接 [南→]		3. V区 Y2号住居2面 (FP下) 検出状況 [南西→]
PL, 29	7. IV区2面 3号畦 [西→]		4. V区 Y2号住居周接帯 [北→]
	1. IV区2面 3号畦 [東→]		5. V区 Y2号住居周接帯 [南→]
	2. IV区2面 4号畦 [東→]		6. V区 Y2号住居周接帯近接 [南→]
	3. IV区2面 3号畦・5号畦 [南→]		7. V区 Y2号住居4面 (FP下) 検出状況 [西→]
	4. IV区2面 6号畦 [東→]		8. V区 Y2号住居4面 (FP下) 検出状況 [北→]
	5. IV区2面 6号畦 [西→]		
	6. IV区2面 7号畦・8号畦 [東→]	PL, 42	1. V区 Y2号住居出土検出状況 [西→]
	7. IV区2面 9号畦 [東→]		2. V区 Y2号住居出土検出状況 [南→]
	8. IV区2面 9号畦近接 [東→]		3. V区 Y2号住居出土検出状況 [南→]
PL, 30	1. IV区2面 1号側木塚全景 [北→]		4. V区 Y2号住居炭化材検出状況 [南→]
	2. IV区2面 1号側木塚近接 [北→]		5. V区 Y2号住居炭化材検出状況 [南→]
	3. IV区2面 2号側木塚全景 [南→]		6. V区 Y2号住居西壁炭化材検出状況 [北東→]
	4. IV区2面 3号側木塚全景 [南→]		7. V区 Y2号住居周り方全景 [西→]
	5. IV区2面 4号側木塚全景 [南→]		8. V区 Y2号住居調査風景
	6. IV区2面 5号側木塚全景 [南→]	PL, 43	1. V区 Y2号住居出土遺物
	7. IV区2面 6号立木塚・1号側木塚全景 [北→]	PL, 44	1. V区 Y3号住居2面 (FP下) 検出状況 [東→]
	8. IV区2面 6号立木塚周り方 [北→]		2. V区 Y3号住居2面 (FP下) 検出状況 [南→]
PL, 31	1. V区2面 空堀 [上が北]		3. V区 Y3号住居4面 (FP下) 検出状況 [東→]
	2. V区2面 1号道、1号・3号畦全景 [東→]		4. V区 Y3号住居4面 (FP下) 検出状況 [南→]
	3. V区2面 1号道、1号・2号畦全景 [東→]		5. V区 Y3号住居4面 (FP下) 検出状況 [東→]
	4. V区2面 1号道、3号畦全景 [東→]		6. V区 Y3号住居炭化材検出状況 [東→]
	5. V区2面 1号道 (継接部) [南→]		7. V区 Y3号住居炭化材・遺物出土状況 [東→]
	6. V区2面 3号畦 (継接部) [西→]	PL, 45	1. V区 Y3号住居炭化材・遺物出土状況 [北→]
	7. V区2面 4号畦全景 [南→]		2. V区 Y3号住居炭化材出土状況 [東→]
PL, 32	1. IV区 Y1号住居炭化材出土状況 [西→]		3. V区 Y3号住居周り方全景 [南→]
	2. IV区 Y1号住居炭化材出土状況 [東→]		4. V区 Y3号住居ビット1 [南→]
	3. IV区 Y1号住居炭化材出土状況全景 [東→]		5. V区 Y3号住居ビット2 [南→]
	4. IV区 Y1号住居炭化材出土状況 [南→]		6. V区 Y3号住居周り方全景 [北→]
PL, 33	1. IV区 Y1号住居炭化材出土状況 [西→]	PL, 46	1. V区 Y3号住居出土遺物
	2. IV区 Y1号住居炭化材出土状況近接 [北→]	PL, 47	1. V区 Y4号住居2面 (FP下) 検出状況 [南→]
	3. IV区 Y1号住居炭化材出土状況近接 [西→]		2. V区 Y4号住居2面 (FP下) 検出状況 [東→]
	4. IV区 Y1号住居炭化材出土状況 [北→]		3. V区 Y4号住居全景 [東→]
	5. IV区 Y1号住居炭化材出土状況近接 [西→]		4. V区 Y4号住居遺物出土状況 [西→]
	6. IV区 Y1号住居炭化材出土状況 [東→]		5. V区 Y4号住居遺物出土状況 [南→]
PL, 34	1. IV区 Y1号住居ビット [南西→]		6. V区 Y4号住居周り方全景 [南西→]
	2. IV区 Y1号住居遺物出土状況 №1 [南→]		7. V区 Y4号住居遺物出土状況 [南→]
	3. IV区 Y1号住居遺物出土状況 №2～4 [南→]		8. V区 Y4号住居遺物出土状況 [東→]
	4. IV区 Y1号住居遺物出土状況 №5 [南→]	PL, 48	1. V区 Y4号住居空堀 [上が北]
	5. IV区 Y1号住居炭化材出土状況近接 [西→]		2. V区 Y4号住居周り方 [上→]
	6. IV区 Y1号住居出土遺物		3. V区 Y4号住居貯蔵穴 [北西→]
PL, 35	1. V区 Y1号住居2面 (FP下) 検出状況 [東→]		4. V区 Y4号住居炭化材出土状況 [南→]
	2. V区 Y1号住居調査状況 [南→]		5. V区 Y4号住居出土遺物
	3. V区 Y1号住居調査状況 [南→]	PL, 49	1. V区 Y5号住居2面 (FP下) 検出状況 [西→]
	4. V区 Y1号住居調査状況 [南→]		2. V区 Y5号住居2面 (FP下) 検出状況 [東→]
	5. V区 Y1号住居竪穴部調査状況 [西→]		3. V区 Y5号住居全景 [北東→]
	6. V区 Y1号住居竪穴部調査状況 [南→]		4. V区 Y5号住居全景 [北東→]
	7. V区 Y1号住居竪穴部西側近接 [南→]		5. V区 Y5号住居周り方全景 [北東→]
	8. V区 Y1号住居竪穴部東側近接 [南→]		6. V区 Y5号住居空堀 [上が北]
PL, 36	1. V区 Y1号住居全景 [南→]		7. V区 Y5号住居遺物出土状況 [北東→]
	2. V区 Y1号住居竪穴部全景 [南→]		8. V区 Y5号住居遺物出土土器 №1 (黄銅)
	3. V区 Y1号住居竪穴部東側遺物出土状況	PL, 50	1. V区遺構外出土遺物
	4. V区 Y1号住居竪穴部東側遺物出土状況近接		2. 馬蹄痕出土状況
	5. V区4面 空堀 [上が北]		3. 馬蹄痕出土状況
	6. V区 Y1号住居空堀 [上が北]		
PL, 37	1. V区 Y1号住居跡セクション [北→]		
	2. V区 Y1号住居ビット1 [南→]		
	3. V区 Y1号住居ビット2 [南→]		

第1章 調査の経緯と調査の方法

白井北中道Ⅲ遺跡遠景（南から）。左奥に見えるのが子持山（標高1,296m）。奥から手前にかけて蛇行して流れているのが、利根川。河岸段丘がよく発達している。白井北中道Ⅲ遺跡は、5つある面の内、約14,000年前～13,000年前頃に形成された白井面に立地している。中央部の白線が、白井北中道Ⅲ遺跡。



第1章写真1 白井北中道Ⅲ遺跡空撮

第1節 調査の経緯

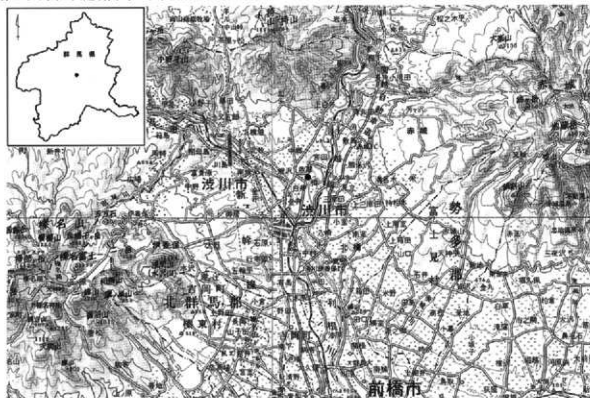
一般国道17号は、東京を起点として関東と北陸を結ぶ大動脈である。この国道は、澁川市及び平成18(2006)年2月に澁川市と合併した旧子持村の市街地を通過し、旧子持村澁沢で長野・草津方面に向かう国道353号と接続することなどから、交通渋滞が恒常的なものとなっていた。この交通渋滞解消のため、澁川市東町で現在の国道17号と分岐し、市街地を迂回しながら旧子持村上白井で国道17号と再び合流する4車線、約5.5kmの一般国道17号(澁沢バイパス)道路改築工事が計画された。

本事業は、事業地を大きく2分割する計画で進められ、澁川市東町から旧子持村上白井の、同事業と並行して進められた国道353号バイパスの接続部分までが、平成8(1996)年に供用を開始された。その後、旧子持村上白井から同村上白井の終点までの間については、国土交通省高崎川国道事務所(当時)、国土交通省高崎工事事務所)から、平成13(2001)年10月に一般国道17号(澁沢バイパス)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その2)として群馬県教育委員会文化財保護課に事業照会があった。同課は、6世紀代に2度噴火した標名山の火山灰・軽石に埋もれた遺跡が存在する旨を回答した。その後、事業者である国土交通省高崎工事事務所と協議を進め、

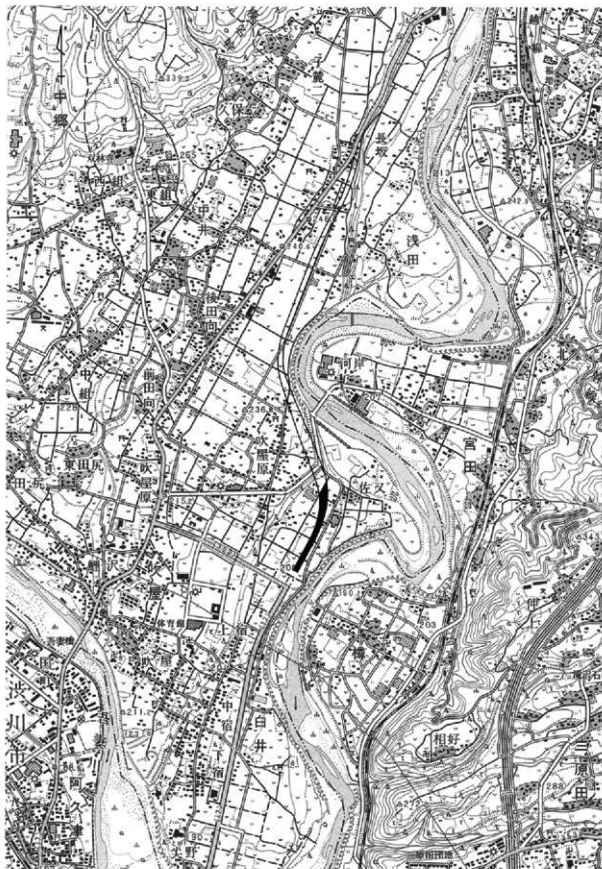
発掘調査を(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施することになった。

平成14(2002)年8月30日付で、国土交通省関東地方整備局長並びに群馬県教育委員会教育長、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長は、一般国道17号(澁沢バイパス)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その2)に関する協定書を締結した。また、国土交通省関東地方整備局長と(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長は、平成14(2002)年度の埋蔵文化財発掘調査に係る委託契約を締結し、発掘調査を進めることとなった。8遺跡、約115,000㎡に及ぶ発掘調査は平成17(2005)年7月まで実施し、整理事業は平成17(2005)年4月から開始した。

白井北中道田遺跡の発掘調査は、平成15(2003)年1月～平成16(2004)年3月・平成17(2005)年2月～6月にかけて、途中中断をはきんで4年度にわたって実施された。この調査期間には、白井十二遺跡の調査も含まれている。整理業務は、平成19(2007)年4月～平成21(2009)年3月にかけて実施した。本報告書は、弥生時代以降編として報告する。縄文時代編は、平成21(2009)年度に刊行予定である。なお、澁沢バイパスは平成20(2008)年7月に全面開通した。



第1章第1図 白井北中道田遺跡位置図 (S=1:20万)



第1章第2図 白井北中道川遺跡位置図 (S = 1 : 20,000)

第2節 調査の方法

調査区は、村道を境として、南から北にかけてI区～V区まで5箇所に分けて調査を実施した。なお、当初の調査時は、VI区を設けて調査を実施していたが、平成15(2003)年の調査途中で字名が異なることが判明したため、このVI区は遺跡名を「白井十二遺跡」として分けた。なお、「白井十二遺跡」の報告書は、すでに平成20年3月に刊行済みである。

調査区域には、国家座標に基づいて4m間隔のグリッドを設定した(第1章第4図参照)。南北をアルファベット、東西をアラビア数字で呼称し、南東隅のグリッド杭の名称をグリッドの名称とした。白井北中道III遺跡の原点Aa-0は、日本平面直角座標系第IX系のX=57,400m、Y=-72,300m(日本測地系対応)である。

本遺跡周辺では、古墳時代における榛名山の二度の噴火に伴う6世紀初頭の降下火山灰であるHr-FA(Haruna Futatsudake Ash)[以下、FA]と6世紀中頃の降下軽石であるHr-FP(Haruna Futatsudake Pumice)[以下、FP]の層が堆積しており、調査はこれらの鍵層のそれぞれ上面・下面あわせて4面、さらに縄文時代の遺物包含層及び旧石器時代の試掘調査を行うこととした。

当初、縄文時代の遺物包含層の試掘調査は全体面

積の約25%、旧石器時代の試掘調査は約12.5%を対象に行った。その結果、IV区において縄文時代前期の竪穴住居跡等が検出されたため、IV区においては対象を拡大し、縄文時代の調査を行った。

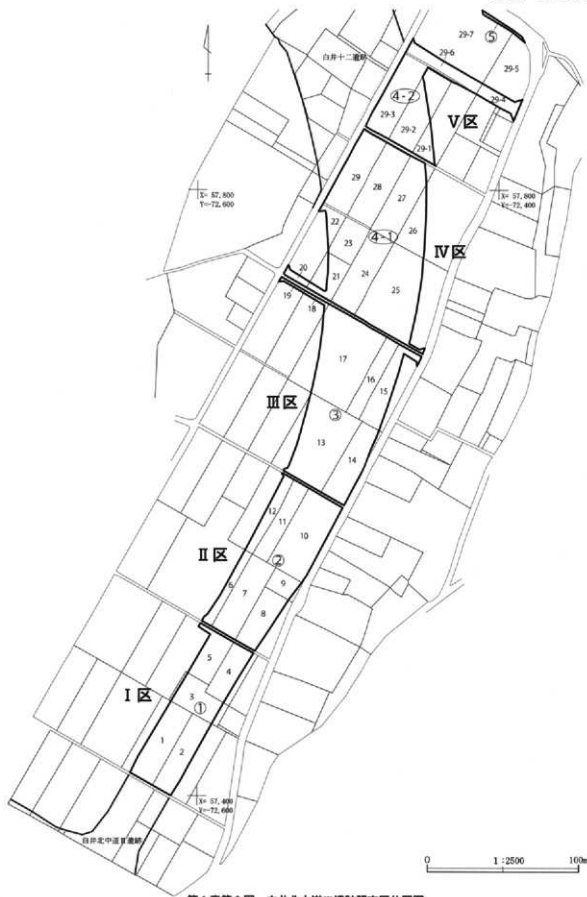
調査にあたっては、表上層とHr-FP層の除去については大型掘削重機(バックホー)を用い、その他は基本的に手作業により遺構・遺物の調査を行った。

1面のFP上では、古代の竪穴住居・主に中世～近代の掘立柱建物・伏窯・溝・土坑の調査を行った。また、FP降下後にFPを掘りこんで築造された古墳時代終末期の古墳1基の調査も行った。

2面のFP下では、古墳時代6世紀中葉の地表面が保存されており、主に放牧地を中心として、遺・畦状遺構・立木痕・倒木痕の調査をした。6世紀初頭に降下したFAの上と下を3面(FA上)と4面(FA下)に分けて調査を実施した。本報告書では、この3面と4面を合わせて3面とする。5面では、弥生時代終末期～古墳時代初頭の住居を検出した。6面では、縄文時代竪穴住居を検出し、包含層を調査した。旧石器時代の遺構及び遺物は、出土しなかった。

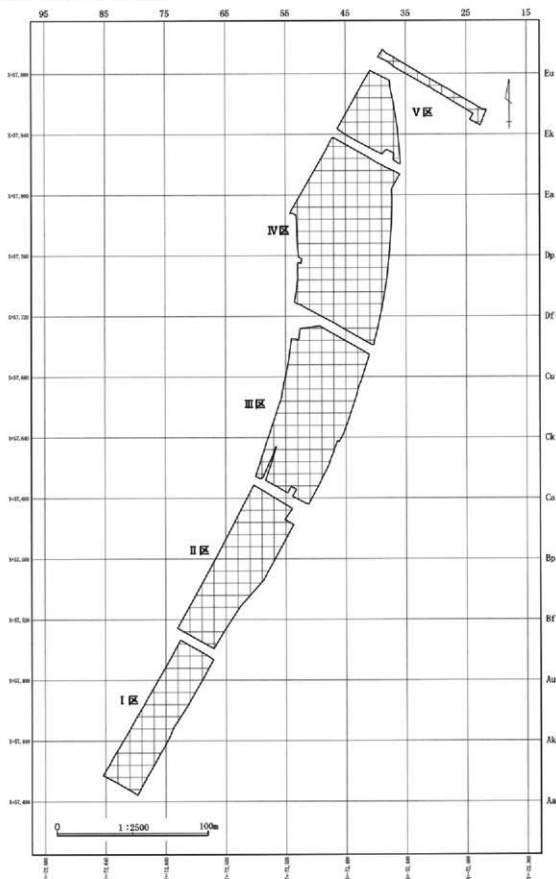
第1章表1 調査面模式表

調査面の呼称		主な内容	備考
基本土層	調査面		
I(表土)		1面:古墳以降 古墳(7世紀)・竪穴住居(10世紀)・掘立柱建物・土坑・溝	Hr-FP層上面の調査
II(Hr-FP)	←1面	2面:古墳時代(6世紀中葉) 遺・畦状遺構・立木痕・立木痕・弥生～古墳時代住居の囲み	Hr-FP層下面の調査
III	←2面	3面:古墳時代。6世紀初頭のFA降下後から6世紀中頃のFP降下までの30年に堆積した層。	Hr-FA層上下面の調査
IV(Hr-FA)	←3面	4面:古墳時代(6世紀初頭)。 立木痕。	*調査時は、FA上面を3面・FA下面を4面として調査したが、報告書ではFA上下面を3面として報告する。
V	←4面	5面:弥生時代～古墳時代前期 弥生時代終末期～古墳時代初頭の住居。	
VI～IX	←5面	6面:縄文時代 縄文時代前期竪穴住居・掘立柱建物・土坑	



第1章第3図 白井北中道III遺跡調査区位置図

第1章 調査の経緯と調査の方法



第1章第4図 白井北中道川遺跡グリッド配置図

調査日誌抄録

*実際の発掘調査は、白井十二遺跡と同時並行して行われたが、「白井十二遺跡」の報告書はすでに刊行されているため当該遺跡部分は割愛した。また、白井北中道III遺跡は、「白井北中道III遺跡(2)：縄文時代編」を続刊するため、なるべく縄文時代の調査に係わる部分は割愛した。

平成14年度

◎第1期調査

・平成15(2003)年

- 1月6日(月)：唐澤友之・松原孝志の2名着任。
- 1月9日(木)：試掘トレンチ3箇所確認。
- 1月10日(金)：II区北側の表土剥ぎ実施。
- 1月20日(月)：作業員作業開始。
- 1月22日(水)：II区1面(FP上)土坑調査。
- 1月31日(金)：II区1面(FP上)の空撮・空測実施[朝日航洋]。
- 2月3日(月)：杉山秀宏着任。調査体制は、杉山秀宏・唐澤友之・松原孝志の3名となる。I・II区間1号古墳の調査開始。古墳が村道下に広がることを確認。
- 2月5日(水)：II区2面(FP下)の調査。
- 2月13日(木)：古墳の石室が村道下に続くことを確認。
- 2月18日(月)：II区2面の空撮・空測実施[朝日航洋]。
- 2月19日(火)：II区3面(FA上)の調査開始。
- 2月26日(水)：I・II区間1号古墳前庭部検出作業。
- 2月28日(金)：II区4面(FA下)の調査。
- 3月3日(月)：III区1面(FP上)調査開始。
- 3月11日(水)：I・II区間1号古墳の空撮・空測実施[朝日航洋]。
- 3月15日(土)：I・II区間1号古墳調査終了。
- 3月18日(月)：V区下(VA区)1面(FP上)の空撮・空測実施[朝日航洋]。
- 3月24日(日)：III区北側2面(FP下)の空撮・空測実施[朝日航洋]。
- 3月27日(水)：II区埋め戻し。
- 3月31日(月)：杉山秀宏・唐澤友之・松原孝志の3名離任。

平成15年度

◎第2期調査

・平成15(2003)年

- 4月1日(火)：橋崎修一郎・齋藤 聡・井原岳史・井上昌美の4名が着任。なお、井原と井上は、年度内に幾つかの別の遺跡に異動したため、通年担当者とは、橋崎と齋藤のみ。
- 4月4日(金)：前任者の杉山秀宏と現場引き継ぎ。
- 4月8日(月)：II区南側のFP掘削。
- 4月10日(水)：I区表土掘削開始[4月16日まで]。
- 4月17日(水)：I区1面(FP上)調査。II区2面(FP下)・V区下(VA)区3面(FA下)調査。
- 4月22日(月)：I区・VA区1面(FP上)調査。
- 4月23日(火)：III区3面(FA上)調査。
- 4月28日(日)：I区及びII区南側1面(FP上)・V区1面(FP上)東側の空撮・空測実施[技研]。
- 4月30日(火)：I区及びVA区のFP掘削。
- 5月9日(金)：I区2面(FP下)南側・V区2面(FP下)の空撮・空測実施[技研]。
- 6月23日(月)：I区2面(FP下)北側の空撮・空測実施[技研]。
- 7月16日(水)：III区1面(FP上)南側の空撮・空測実施[技研]。
- 7月29日(火)：III区2面(FP下)南側の空撮・空測実施[技研]。
- 8月7日(水)：IV区南西部(IVA区)1面(FP上)の空撮・空測実施[技研]。
- 8月20日(水)：III区縄文包含層グリッド調査。IV区1面(FP上)H1号住居調査。午前中、国土交通省関東地方整備局高崎河川国道事務所主催で、群埋文共催の「日本のボンベイ子持村の歴史を知ろう」を遺跡にて実施。遺跡及び遺物の見学を行い、発掘体験を行う。親子10名参加。
- 8月22日(金)：よみうり文化センター横浜主催の「赤城山麓の遺跡をめぐる」会員28名が遺跡見学。IV区(IVA区)北側1面(FP上)・IV区南側2面(FP下)の空撮・空測実施[技研]。
- 8月29日(金)：V区4面(FA下)の空撮・空測実施[技研]。
- 9月2日(火)：IV区北側2面(FP下)の空撮・空測実

第1章 調査の経緯と調査の方法

施 [技研]。

9月18日(木)：Ⅲ区西側(ⅢC区)1面(FP上)の空撮・空測実施 [技研]。

9月30日(火)：Ⅲ区西側(ⅢC区)2面(FP下)の空撮・空測実施 [技研]。

11月5日(木)：Ⅳ区東側(ⅣB区)1面(FP上)の空撮・空測実施 [技研]。

11月14日(金)：Ⅳ区東側(ⅣB区)2面(FP下)の空撮・空測実施 [技研]。

11月12日(木)：(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団評議員が遺跡視察。

11月19日(木)～同月21日(金)：渋川市立金島中学校2年生徒2名が職場体験で来跡。

12月10日(木)：Ⅴ区上(ⅤB区)1面(FP上)の空撮・空測実施 [技研]。

・平成16(2004)年

1月13日(火)：Ⅳ区東側(ⅣB区)2面(FP下)調査。

1月19日(月)：Ⅴ区上(ⅤB区)FP軽石掘削作業。

1月22日(木)：Ⅴ区上(ⅤB区)2面(FP下)の空撮・空測実施 [技研]。

2月9日(日)：Ⅳ区東(ⅣB区)縄文住居及びⅤ区の弥生～古墳住居の空撮・空測実施 [技研]。

3月6日(出)：現地説明会実施。前夜の雪にもかかわらず、175名の来跡者。

3月11日(木)：Ⅳ区東側(ⅣB区)縄文住居の空撮・空測実施 [技研]。

3月15日(月)：Ⅴ区上(ⅤB区)埋め戻し。

3月24日(木)：遺構の調査終了。

3月31日(木)：発掘区埋め戻し終了。檜崎修一郎・齋藤 聡・井原岳史・井上昌美・吉田和夫の5名離任。

平成16年度

平成16(2004)年4月～平成17(2005)年1月の調査は無い。

◎第3期調査

・平成17(2005)年

2月8日(火)：齋藤昭昭・水田福夫の2名着任。Ⅳ区西側(ⅣC区)表土掘削開始 [2月14日まで]。

2月10日(木)：Ⅳ区西側(ⅣC区)1面(FP上)調査。

2月23日(木)：Ⅳ区西側(ⅣC区)1面土坑調査。

3月2日(火)：Ⅳ区西側(ⅣC区)1面(FP上)の空撮・空測実施 [技研]。

3月7日(月)：Ⅳ区西側(ⅣC区)FP軽石掘削作業。

3月16日(木)：Ⅳ区西側(ⅣC区)2面(FP下)調査。

3月22日(火)：Ⅳ区西側(ⅣC区)2面(FP下)の空撮・空測実施 [技研]。

3月31日(木)：齊藤昭昭・水田福夫の2名離任。

平成17年度

◎第4期調査

・平成17(2005)年

4月1日(金)：女屋和志雄・齋藤 聡の2名着任。

4月11日(月)：ⅢD区表土掘削。Ⅳ区西側(ⅣC区)2面(FP下)畦状遺構調査。

4月13日(水)：ⅢD区1面(FP上)調査。ⅣC区3面(FA上)調査。

4月18日(月)：Ⅳ区西側(ⅣC区)2面(FP下)畦のセクション調査。

4月19日(火)：Ⅲ区東側(ⅢD区)FP軽石掘削作業。

4月21日(木)：Ⅲ区東側(ⅢD区)FP軽石掘削作業終了。Ⅳ区西側(ⅣC区)3面(FA上)調査。

4月22日(金)：Ⅲ区東側(ⅢD区)2面(FP下)調査。

4月25日(月)：Ⅲ区東側(ⅢD区)2面(FP下)の空撮・空測実施 [技研]。

4月27日(水)：Ⅲ区東側(ⅢD区)3面(FA上)調査。Ⅳ区西側(ⅣC区)3面(FA上)調査。

5月6日(金)：Ⅲ区東側(ⅢD区)3面(FA上)調査。

5月11日(木)：Ⅲ区東側(ⅢD区)FA除去作業。

5月12日(木)：Ⅲ区東側(ⅢD区)4面(FA下)調査。

5月26日(木)：Ⅳ区西側(ⅣC区)5面(縄文)の空撮・空測実施 [技研]。

5月30日(月)：Ⅲ区東側(ⅢD区)・Ⅳ区西側(ⅣC区)トレンチ調査。

6月3日(金)：Ⅲ区東側(ⅢD区)・Ⅳ区西側(ⅣC区)調査終了。

6月7日(火)：Ⅳ区西側(ⅣC区)埋め戻し開始。

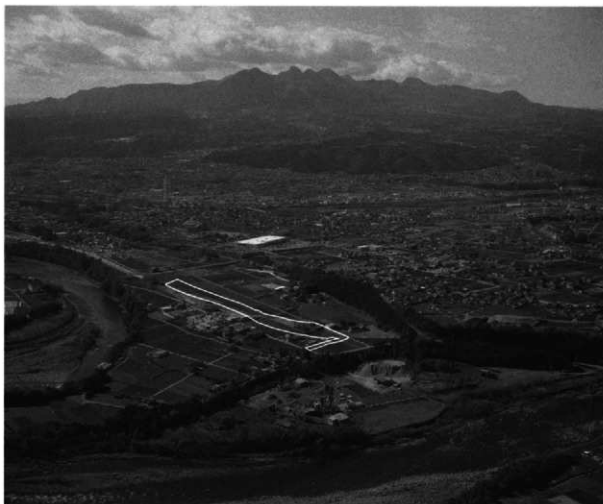
6月10日(金)：Ⅳ区西側(ⅣC区)埋め戻し終了。

6月13日(月)：Ⅲ区東側(ⅢD区)埋め戻し開始。

6月17日(金)：Ⅲ区東側(ⅢD区)埋め戻し終了。

第2章 地理的・歴史的環境

白井北中道Ⅲ遺跡遠景（北東から）。奥に見えるのが榛名山ニツ岳（標高1,344m）。古墳時代の6世紀初頭及び中頃に、現在のニツ岳付近で2度にわたる大規模な噴火を起こした。白井北中道Ⅲ遺跡では、6世紀初頭の降下火山灰であるFA（Hr-FA）と6世紀中頃の降下軽石であるFP（Hr-FP）が認められる。特に、FPは、1m以上の厚さで堆積している。そのため、6世紀中頃の生活面がそのまま保存されていた。中央部下の白線が、白井北中道Ⅲ遺跡。



第2章写真1 白井北中道Ⅲ遺跡空撮

第1節 遺跡の位置と周辺の地形

白井北中道Ⅲ遺跡は、群馬県の中央部やや北寄りに位置する渋川市白井〔調査時は子持村白井：平成18（2006）年2月市町村合併〕に所在している。渋川市北部の子持村は新潟へ向かう国道17号と長野方面に向かう国道353号の分岐点にあたり、交通の要衝となっている。

旧子持村は東に赤城山、西に榛名山、北に子持山・小野山と三方を山に囲まれ、関東平野の北端部に位置している。また北から利根川、北西から吾妻川が流下し、村の南端部でそれらが合流する。

山地から平野部への変換点にあたる村の南部では、利根川と吾妻川により形成された河岸段丘が発達している。これらの段丘面は形成年代の古い順に、雙林寺面・長坂面・西伊熊面・白井面・浅田面と呼ばれており、白井北中道Ⅲ遺跡は白井面に立地している。

白井北中道Ⅲ遺跡付近は標高207～210mで、北西

に隣接する上位段丘の長板面との比高はおよそ20mである。白井北中道Ⅲ遺跡付近の白井面は概ね平坦であるが、北から南へ向かって徐々に標高が低くなっている。また、上位段丘に近い西から下位段丘に近い東に向かって緩やかに下っている。

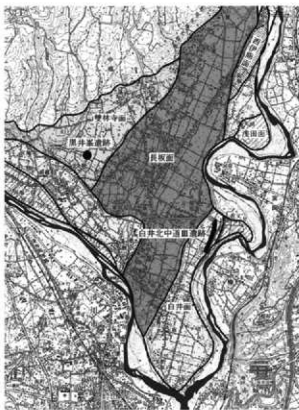
白井面の形成された年代は、段丘標層上に浅間山起源の浅間板鼻黄色軽石〔As-YP〕が部分的に認められることから、およそ1.4～1.3万年前頃と考えられる。

この地域は、古墳時代に2度の大きな火山災害に見舞われたことが特筆される。いずれも榛名山の噴火によるもので、6世紀初頭の噴火に伴う降下火山灰は、FA〔Futatsudake Ash〕〔榛名二ツ岳渋川テフラ〔Hr-FA〕〕と呼ばれ、6世紀中葉の噴火に伴う降下軽石は、FP〔Futatsudake Pumice〕〔榛名二ツ岳伊香保テフラ〔Hr-FP〕〕と呼ばれている。FPは、東北地方南部まで分布が確認されている。

FAは主に火山灰と火砕流堆積物で、白井北中道Ⅲ遺跡付近では最大でも厚さ10cm程度であるが、南に行くほど厚くなり、約2.5km南の白井二位屋遺跡では約40cm堆積している。FPは主に軽石で、白井北中道Ⅲ遺跡付近では厚さ100～150cmが残存している。子持村はFPの降下した範囲の中心軸上に位置しており、黒井峯遺跡では最大200cmに及ぶ堆積が認められる。なお、白井北中道Ⅲ遺跡は噴火口から東北東へ約10kmの位置に所在している。

この地域の主な産業はこんにゃくの生産と軽量ブロックの製造である。これらはFP層の存在によるものである。なぜなら、FP軽石は、水はけの良いためにこんにゃくの生産に適し、火山性軽石であるFP軽石内には気泡が多く存在するために軽量ブロックの製造に適しているからである。

白井北中道Ⅲ遺跡の西およそ1.5kmには、この軽石層に埋もれた古墳時代のムラ、黒井峯遺跡（国指定史跡）がある。ちなみに、この黒井峯遺跡は、軽量ブロックの原料としてFP軽石を採取中に発見されている。



第2章第1図 段丘面分類図（『子持村誌・上巻』を改変）

第2節 周辺の遺跡

白井北中道Ⅲ遺跡が所在する旧子持村とその周辺では、数多くの遺跡が調査されている。

1. 旧石器時代

この地域での旧石器時代の遺跡の存在は、長い間知られていなかった。実際、1987（昭和62）年に出版された『子持村誌』上巻では、1974（昭和49）年に子持山麓での表面採集石器と1984（昭和59）年の押出遺跡出土細石核石器の2点が紹介されているのみである。その後、見立溜井遺跡・諏訪西遺跡・中畦遺跡・房谷戸遺跡等の発見により事例が追加されている。また、吹屋犬子塚遺跡で浅間白糸降下軽石〔As-Sr〕下及び浅間板鼻褐色軽石〔As-BP〕下石器群が、吹屋中原遺跡で浅間板鼻黄色軽石〔As-YP〕下石器群が確認されている。

国道17号鮎沢バイパス関連でも、吹屋遺跡で浅間板鼻黄色軽石〔As-YP〕下、中郷遺跡で浅間板鼻褐色軽石〔As-BP〕下、上白井西伊熊遺跡で浅間白糸降下軽石〔As-SR〕から浅間板鼻褐色軽石〔As-BP〕にかけての石器群が検出されている。特に、上白井西伊熊遺跡では、瀬戸内技法を使用した石器約6,000点が検出されており、注目されている。

ちなみに、それぞれのテフラの年代は、浅間板鼻褐色軽石〔As-BP〕が約2～1.8万年前、浅間白糸降下軽石〔As-SR〕が約1.6万年、浅間板鼻黄色軽石〔As-YP〕が約1.4～1.3万年前である（小菅・大工原・麻生、2004）。

白井北中道Ⅲ遺跡においては、旧石器時代の遺物及び遺構は出土しなかった。

2. 縄文時代

(1) 縄文草創期

縄文草創期の遺跡は、旧石器同様に長い間知られていなかった。実際、1987（昭和62）年に出版された『子持村誌・上巻』には、縄文草創期の遺跡は紹介されていない。縄文草創期の遺跡として、白井北中道遺跡、吹屋伊勢森遺跡、中郷田尻遺跡が知られている。本白井北中道Ⅲ遺跡では、明確な縄文草創

期の遺物及び遺構は検出されていないが、調査区北部のV区と道をはさんで位置する白井十二遺跡では、草創期の遺物として、約4,650点の土器片及び黒曜石製石鏃が検出されている。

(2) 縄文前期

縄文前期の遺跡は、この地域から多数調査がなされている。吹屋犬子塚遺跡、吹屋中原遺跡、吹屋伊勢森遺跡、吹屋遺跡、中郷遺跡、上白井西伊熊遺跡、黒井峯遺跡、押出遺跡等が知られている。また、利根川対岸には、見立溜井遺跡、諏訪西遺跡、中畦遺跡、三原田城遺跡等で集落が検出されている。

白井北中道Ⅲ遺跡でも住居跡が6軒出土している。なお、この縄文時代の遺構及び遺物は、次回に出版する『白井北中道Ⅲ遺跡（2）』で報告する。

(3) 縄文中期

縄文中期の遺跡は、中郷遺跡で集落が出土しており、利根川の対岸には三原田遺跡や房谷戸遺跡等がある。

3. 弥生時代

弥生時代の遺跡は、長い間、知られていなかった。実際、1987（昭和62）年に出版された『子持村誌・上巻』によると、弥生時代の遺構は無く、黒井峯遺跡・押出遺跡・白井の大宮姫神社前等で、弥生後期の櫛形土器の遺物の出土があるのみである。利根川対岸にある渋川市〔旧赤城村〕樽遺跡では、1938（昭和13）年に明治大学の杉原庄介による発掘で「樽式土器」として命名され、群馬県における弥生時代後期の指標土器となった。

白井北中道Ⅲ遺跡からも、樽式土器を伴う弥生時代終末期～古墳時代初頭に属する壱穴式住居6軒が出土している。これだけまとまった数の出土は、旧子持村地区では初めてのことである。

4. 古墳時代

本地域は、古墳時代の遺構が多数検出されている。特に、6世紀初頭のFA及び6世紀中頃のFPに埋

もれた遺構が特筆される。

(1) FA 下遺構

6世紀初頭の榛名山の噴火によるFAの遺構としては、FA下水田が有名である。このFA下水田が出土した遺跡として、吹屋犬子塚遺跡・中郷恵久保遺跡・吹屋三角遺跡・中郷田尻遺跡・吹屋純屋遺跡・北牧大境遺跡・吹屋瓜生田・鯉沢瓜生田遺跡・北牧相ノ田遺跡・畑中遺跡・坂之下遺跡がある。

(2) FP 下遺構

6世紀中頃の榛名山の噴火によるFP下の遺構としては、集落・古墳・畠・水田・放牧地がある。

・集落

FP下集落が出土した遺跡として、黒井峯遺跡、西組遺跡、押出遺跡、田尻遺跡、八幡神社遺跡、吹屋恵久保遺跡がある。

・FP下畠

FP下畠が出土した遺跡として、吹屋伊勢森遺跡、白井北中道II遺跡、吹屋中原遺跡、中郷恵久保遺跡、西組遺跡、押出遺跡、田尻遺跡、八幡神社遺跡、中組遺跡、池田沢東遺跡、猫持久保遺跡、宮田諏訪原遺跡、吹屋恵久保遺跡がある。

・FP下水田

FP下水田が出土した遺跡として、中郷恵久保遺跡、吹屋三角遺跡、中郷田尻遺跡、吹屋純屋遺跡、北牧大境遺跡、吹屋瓜生田・鯉沢瓜生田遺跡、西組遺跡、北牧相ノ田遺跡、畑中遺跡、後田遺跡、宮田畔野遺跡がある。

・FP下放牧地

このFP下放牧地は、多くの遺跡が調査されている。白井十二遺跡、吹屋伊勢森遺跡、吹屋遺跡、中郷遺跡、上白井西伊能遺跡、白井北中道II遺跡、白井北中道遺跡、白井丸岩遺跡、白井南中道生、白井二位屋遺跡、白井大宮遺跡、吹屋犬子塚遺跡、吹屋中原遺跡、源光寺裏遺跡、白井在又遺跡がある。白井北中道III遺跡でも、道・畦・立木・倒木等が出土している。

・FP下古墳

FP下の古墳として、中ノ峯古墳、浅田遺跡、伊熊・

有瀬古墳群、丸子山遺跡等が調査されている。

(3) FP 上遺構

昭和10(1935)年に、県下全域にわたって古墳の分布調査が実施され、昭和13(1938)年に出版された『上毛古墳総覧』によると、旧子持村では、合計47基の古墳が記載されている。

白井北中道III遺跡では、この『上毛古墳総覧』に記載されていない、7世紀終末期の円墳が1基出土している。本古墳は、FPを掘りこんで構築しているが、昭和10(1935)年の調査時にはすでに墳丘部が削平されていたために、認識されなかったものと推定される。なお、『上毛古墳総覧』に記載された大塚(船荷塚)〔長尾村14号〕・斧塚〔長尾村15号〕は、古墳でない可能性もある。

5. 古 代

白井南中道遺跡・白井二位屋遺跡で、奈良・平安時代の集落が、北牧大境遺跡・中郷田尻遺跡で、平安時代の集落が出土している。また、平安時代の製鉄遺跡である金井製鉄遺跡は保存されている。

白井北中道III遺跡では、須恵器を伴う平安時代の竪穴住居が1軒出土している。

6. 中・近世

中世の城跡として、仁位屋城、白井上城遺跡がある。また、白井城跡は、中近世の城跡である。

参考文献

- 石井克己・梅沢重昭 1994 『黒井峯遺跡』、読売新聞社、p.230
大木謙一郎 2004 『第5章 群馬県史研究の歩み』、『群馬の遺跡3. 弥生時代』(財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団編)、上毛新聞社、p.151-171
小菅得夫・大工原 登・麻生敏雄 2004 『群馬の旧石器』、みやま文庫、p.175
関口博幸 2005 『第5章 ナウマンゾウのプレリュード』、『群馬の遺跡1. 旧石器時代』(財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団編)、上毛新聞社、p.79-101



第2章第2図 周辺遺跡位置図 (S=1:25,000)

第2章表1 周辺遺跡一覧表

No	遺跡名	概 要	文献	No	遺跡名	概 要	文献
	白井北中道遺跡	縄文前期住居、弥生～古墳集落、FP下道・FP下放牧地、7C古墳、平安住居	本書	30	北牧相ノ田遺跡	FA下水田、FP下水田	47
1	上白井西伊能遺跡	旧石器、縄文前期集落、FP下放牧地	35・36	31	畑中遺跡	FA下水田、FP下水田	24
2	中塚遺跡	縄文前・中期集落、FP下放牧地	35・36	32	後田遺跡	FP下水田	23
3	吹屋遺跡	縄文前期集落、FP下放牧地	29	33	塚空寺遺跡	FP下放牧地	50
4	吹屋伊勢森遺跡	縄文草創期遺物・前期集落、FP下島	14	34	浅田遺跡	FP下古墳	29・30
5	白井十二遺跡	縄文草創期・前期、FP下放牧地	19	35	白井井中學校前遺跡	古墳時代集落	38
6	白井北中道II遺跡	FP下島・放牧地	6	37	福持久保遺跡	FP下道・島	53
7	白井北中道跡	縄文草創期遺物、FP下放牧地	9・10	38	宮田跡跡遺跡	FP下水田	40
8	白井丸岩遺跡	FP下放牧地	9・10	39	見立瀧井遺跡	旧石器、縄文前・中期集落	54
9	白井南中道遺跡	FP下放牧地、奈良平安集落	8・10	40	諏訪西遺跡	旧石器、縄文前・中期集落	4
10	白井二位原遺跡	FP下放牧地、奈良平安集落	5・11	41	中塚遺跡	旧石器、縄文前期集落	4
11	白井大宮遺跡	FP下放牧地	7	42	三原田城遺跡	縄文前期集落	3
12	渡原遺跡	古墳前期集落	50	43	原谷戸遺跡	旧石器、縄文中期集落	2
13	吹屋中原遺跡	縄文前期集落、FA下水田、FP下放牧地	6	44	三原田遺跡	縄文前期～後期集落	39
14	吹屋中原遺跡	縄文前・中期集落、FP下島・放牧地	6	45	樽遺跡	弥生時代集落	55
15	中塚遠久保遺跡	4～5C集落、FA・FP下水田・島	13	46	坂之下遺跡	FA下水田	51
16	吹屋三角遺跡	FA下水田、FP下水田	16	47	中ノ峯古墳	FP下古墳	41
17	中塚田尻遺跡	縄文草創期遺物、5C集落、FA・FP下水田	18	48	白井古墳群	FP上古墳	44
18	吹屋椋屋遺跡	5C集落、FA・FP下水田	15	49	伊賀・有瀬古墳群	FP下古墳	44
19	北牧大田遺跡	FA・FP下水田、平安集落	12	50	河原古墳群	FP上古墳	37
20	吹屋瓜田・野尻瓜田遺跡	FA下水田、FP下水田	17・46	51	坂下町古墳群	FA下古墳	57
21	黒井寺遺跡	縄文集落、FP下集落	45	52	大塚(稲荷塚)遺跡	FP上古墳?(長尾村14号)	37
22	西原遺跡	FP下集落・水田・島	42	53	塚遺跡	古墳?(長尾村15号)	37
23	押出遺跡	縄文集落、FP下集落・島	43	54	金井製鉄遺跡	平安製鉄跡	1
24	龜野遺跡	FP下島	40	55	東町下遺跡	中近世水田	52
25	田尻遺跡	縄文集落、FP下集落・古墳・島	23～35	56	白井城遺跡	中近世城跡	44・56
26	八幡社遺跡	FP下集落・島	23	57	仁位屋城跡	中世城跡	56
27	中塚遺跡	FP下道・島	22	58	白井上城跡	中世城跡	56
28	地田沢家遺跡	FP下道・古墳	21	59	白井又遺跡	FP下放牧地	48
29	丸子山遺跡	FP下・FP上古墳	24	60	吹屋忠久保遺跡	FP下集落・島	49

文献

- 群堆文 1998 『東町下遺跡1』
- 群堆文 1989・1992 『房谷戸遺跡1』、『房谷戸遺跡II』
- 群堆文 1987 『三原田城遺跡』
- 群堆文 1986 『中塚遺跡・諏訪西遺跡』
- 群堆文 1994 『白井遺跡群：集落編1』
- 群堆文 1996・1998 『白井北中道II遺跡・吹屋犬子塚遺跡・吹屋中原遺跡』、第1冊・第2冊
- 群堆文 1993・2002 『白井大宮遺跡1・II』
- 群堆文 1996 『白井遺跡群：集落編II』
- 群堆文 1998 『白井遺跡群：縄文時代編』
- 群堆文 1997 『白井遺跡群：古墳時代編』
- 群堆文 1993 『白井遺跡群：中世編』
- 群堆文 2004 『北牧大田遺跡1』
- 群堆文 2006 『吹屋久保遺跡』
- 群堆文 2006 『吹屋伊勢森遺跡』
- 群堆文 2007 『吹屋椋屋遺跡』
- 群堆文 2007 『吹屋三角遺跡』
- 群堆文 1996 『吹屋瓜田遺跡』
- 群堆文 2007 『中塚田尻遺跡』
- 群堆文 2008 『白井十二遺跡』
- 群堆文 2007 『吹屋遺跡』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988 『年報7』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989 『年報8』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992 『年報11』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993 『年報12』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1994 『年報13』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1995 『年報14』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1996 『年報15』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1997 『年報16』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1998 『年報17』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999 『年報18』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2000 『年報19』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001 『年報20』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 『年報21』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003 『年報22』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004 『年報23』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005 『年報24』
- 群馬県 1938 『上毛古墳跡集』
- 群馬県教育委員会 1971 『群馬県遺跡台帳1 東毛編』
- 群馬県企業局 1980～1992 『三原田遺跡』第1～3巻
- 群馬県史編さん委員会 1986 『群馬県史 資料編2』
- 子持村教育委員会 1980 『中ノ峯古墳』
- 子持村教育委員会 1985 『西原遺跡発掘調査報告書』
- 子持村教育委員会 1987 『押出遺跡発掘調査報告書』
- 子持村史編さん室 1987 『子持村誌(上巻)』
- 子持村教育委員会 1991 『黒井寺遺跡』
- 子持村教育委員会 2000 『野尻瓜田遺跡』
- 子持村教育委員会 2000 『北牧相ノ田遺跡』
- 子持村教育委員会 2005 『白井又遺跡発掘調査報告書』
- 子持村教育委員会 2006 『吹屋忠久保遺跡』
- 渋川市教育委員会 石井克巳氏のご教示による。
- 渋川市教育委員会 1988 『坂之下遺跡』
- 渋川市教育委員会 1988 『金井製鉄遺跡発掘調査報告書』
- 赤城村教育委員会 2004 『宮田諏訪西遺跡III・福持久保遺跡』
- 赤城村教育委員会 1985 『見立瀧井遺跡』
- 杉原在介 『上野神社遺跡調査報告概要』『考古学』第10巻第10号1939
- 山崎 一 1972 『群馬県古墳地区の研究』
- 北群馬・渋川の歴史編さん委員会 1971 『北群馬・渋川の歴史』

第3節 基本土層

白井北中道Ⅲ遺跡では、段丘礫層を基盤とし、その上に砂礫層、ローム層、黒ボク土が堆積し、さらにHr-FAと厚いHr-FPが堆積している。

I層：黒褐色土。現在の耕作土でHr-FPを含む。層厚約30cm～60cm。

II層：榛名二ツ岳伊香保テフラ（Hr-FP、6世紀中頃）。層厚約100cm～150cm。

III層：黒褐色土。榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA、6世紀初頭）降下後から、榛名二ツ岳伊香保テフラ（Hr-FP）降下までの約30年間に堆積した層。層厚約5cm～10cm。

IV層：榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA、6世紀初頭）。道下や畦状遺構下等に、部分的に残存。

V層：黒色～黒褐色土。
白色軽石、黄褐色軽石を含む。

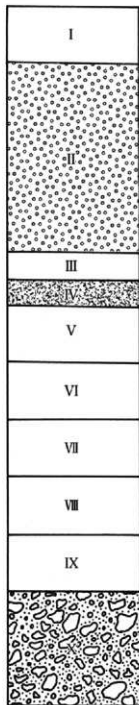
VI層：黒褐色～暗褐色土。淡色黒ボク土。白色軽石、黄褐色軽石を含む。

VII層：黒褐色～暗褐色土。ローム漸位層。部分的に白色軽石、黄褐色軽石を含む。

VIII層：暗褐色～黄褐色土。ローム層。軟質。部分的に明黄褐色軽石を含む。

IX層：褐色～明黄褐色土。ローム層。硬質。As-YPを含む。

X層：砂礫層。シルト層、細粒～粗粒砂層、拳大の礫を含む層まで様々な層の互層。



第2章第3図 白井北中道Ⅲ遺跡土層柱状図

第2章 地理的・歴史的環境

第2章表2 鯉沢バイパス（その2）面積一覧表

道跡	地区			道跡	地区			道跡	地区			道跡	地区			道跡	地区															
	土地番号	地区面積 ㎡	地区面積 ㎡		土地番号	地区面積 ㎡	地区面積 ㎡		土地番号	地区面積 ㎡	地区面積 ㎡		土地番号	地区面積 ㎡	地区面積 ㎡		土地番号	地区面積 ㎡	地区面積 ㎡	土地番号	地区面積 ㎡	地区面積 ㎡										
白井北中道川道跡	1	1	3,461.3	吹屋 勢森	9	49	6,337.4	吹屋 勢森	(13)	105	(3,914.9)	吹屋	26	165	230.7	中 郷	(32)	218	(4,940.8)													
		2				50				106				167				219														
		3				51				107				169				220														
		4				52				108				172				221														
		5				53				109				174				222														
	2	6	4,751.3			番号無し				14				110				493.8		吹屋	15	111	687.5	16	27	166	3,574.7	中 郷	28	170	1,182.5	
		7												56								112				171				223		
		8												56-2								113				173				224		
		9												57								114				176				225		
		10												58								115				177				226		
	3	11	5,958.2			61				16				58				3,075.6		17	116	27.3	18	19	175	511.0	29	176	1,182.5	30	177	4,338.3
		12												62							117				178			227				
		13												63							118				180			228				
		14												64							119				184			229				
		15												65							120				186			230				
		16												66							121				189			231				
		17												67							122				191			232				
		18												68							123				199			233				
		19												69							124				201			234				
		4-1												20							7,390.5				70			18			125	
	21		71			126				131				206				244-2														
	22		71-1			127				132				207				245														
	23		72			128				133				209				246														
	24		73			129				134				210				247														
	25		74			130				135				211				248														
	26		75			131				136				212				249														
	27		76			132				137				213				250														
	28		76			133				138				214				251														
	29		77			134				139				215				252														
	4-2	29-1	2,545.1			80				20				140				1,698.7		21	140	1,698.7	22	31	197	3,068.5	31	197	3,068.5	34	238	187.6
		29-2												81							141				141			198			239	
		29-3												82							142				142			199			240	
		29-4												83							143				144			200			241	
		29-5												84							144				145			201			242	
5	29-6	48.6	85	20	145	1,698.7	21	146	2,570.2	22	31	197	3,068.5	31	197	3,068.5	35-4	262	1,751.3													
	29-7				86			146				146			202			243														
	30				87			147				147			203			244														
	30-1				88			148				148			204			245														
	31				89			149				149			205			246														
	32				90			150				150			206			247														
	33				91			151				151			207			248														
	34				92			152				152			208			249														
	35				92-2			153				153			209			250														
	36				93			154				154			210			251														
	37				94-2			155				155			211			252														
	38				95			156				156			212			253														
	39				96			157				157			213			254														
	40				97			158				158			214			255														
	41				98			159				159			215			256														
	42				99			160				160			216			257														
43	100	161	161	216-2	258																											
44	101	162	162	217	259																											
6	45	8,080.9	92-2	22	152	36.9	23	152	2,164.4	24	32	214	4,940.8	32	214	4,940.8	35-5	267	2,064.2													
	45-2				98			153				153			215			259														
	46				99			154				154			216			260														
	47				100			155				155			217			261														
7	48	153.8	101	12	99	39.9	13	102	3,914.9	14	25	163	1,473.2	32	214	4,940.8	35-1	256	2,233.5													
	48				102			164				164			217			262														
	48				103			165				165			218			263														
8	48	2,764.8	104	13	103	3,914.9	14	104	3,914.9	15	25	163	1,473.2	32	214	4,940.8	35-2	273	3,676.4													
	48				104			166				166			219			264														
	48				105			167				167			220			265														
	48				106			168				168			221			266														

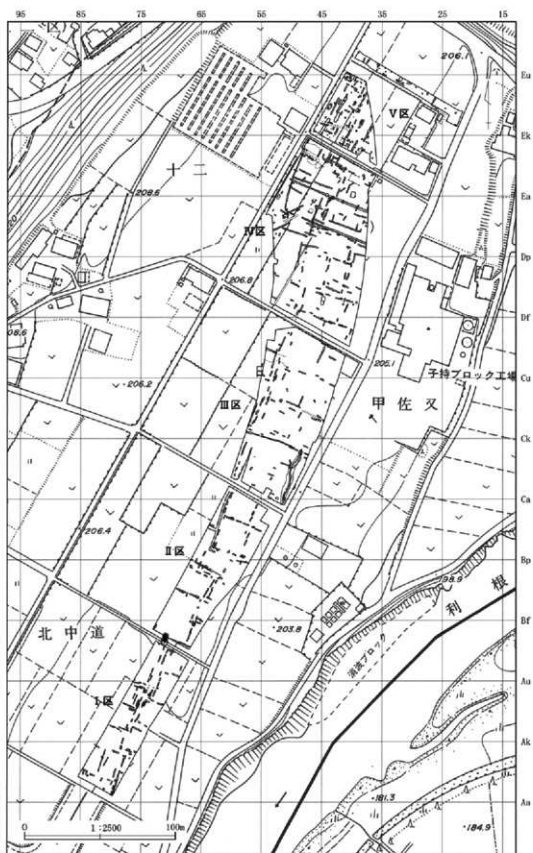
注：白井北中道川道跡の地区名と調査区名は、以下のように対応する。1→I区、2→II区、3→III区、4-1→IV区、4-2→V区。なお、「5」は、土地の形状が粗長く面積が狭いため調査は実施できなかった。

第3章 1面 (Hr-FP 上面) の遺構と遺物

1面は、6世紀中頃に榛名山が噴火して降下した軽石であるFP (Hr-FP) 層の上面である。したがって、時代は6世紀中頃～近代までとなる。I区では、掘立柱建物1棟・土坑112基・ピット8基が検出された。II区では、土坑87基・溝2条が検出された。III区では、伏窟1基・土坑89基・溝4条が検出された。IV区では、古代の住居1軒・掘立柱建物1棟・伏窟2基・土坑224基・溝2条が検出された。V区では、掘立柱建物1棟・土坑111基・ピット62基が検出された。1面の合計で、住居1軒・掘立柱建物3棟・伏窟3基・土坑624基・ピット70基・溝8条の遺構が検出された。



第3章写真1 1面 (Hr-FP 上面) 全景空撮



第3章第1図 1面 (Hr-FP上面) 全体図

第1節 I区1面の遺構と遺物

I区は、調査区が一番南にある。総面積は、3,461.3㎡である。1面は、6世紀中頃に榛名山が噴火して降下した軽石であるFP (Hr-FP) 層の上面である。したがって、時代は6世紀中頃～近代までとなる。但し、ほとんどの遺構は中世～近代であると推定される。I区1面では、掘立柱建物1棟・土坑112基・

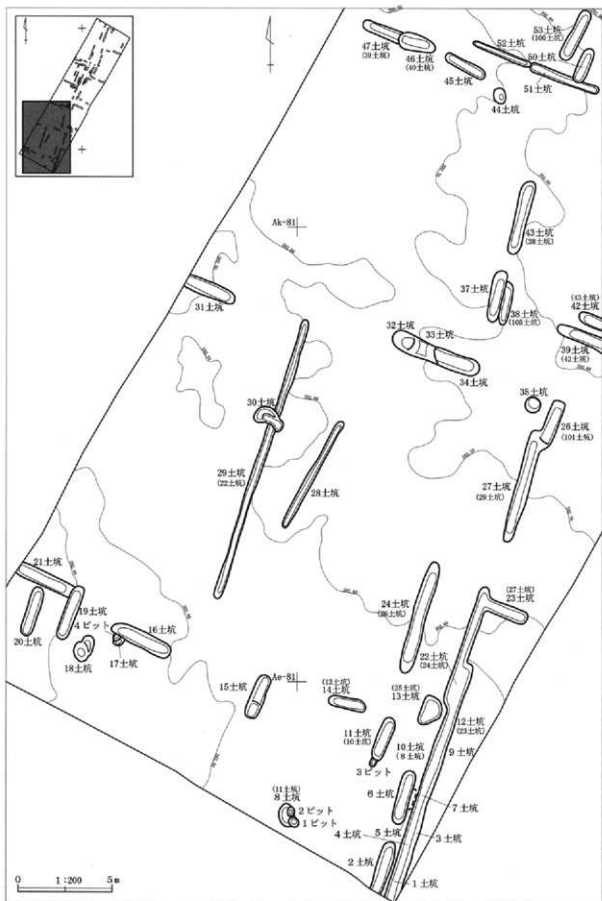
ピット8基が検出された。なお、I区及びII区の間
の農道下から、墳丘部を削平された古墳が検出され
ているが、I区とII区のどちらにも入らず、しかも
時代も古墳時代であるために、章を別にして第4章
で報告している。



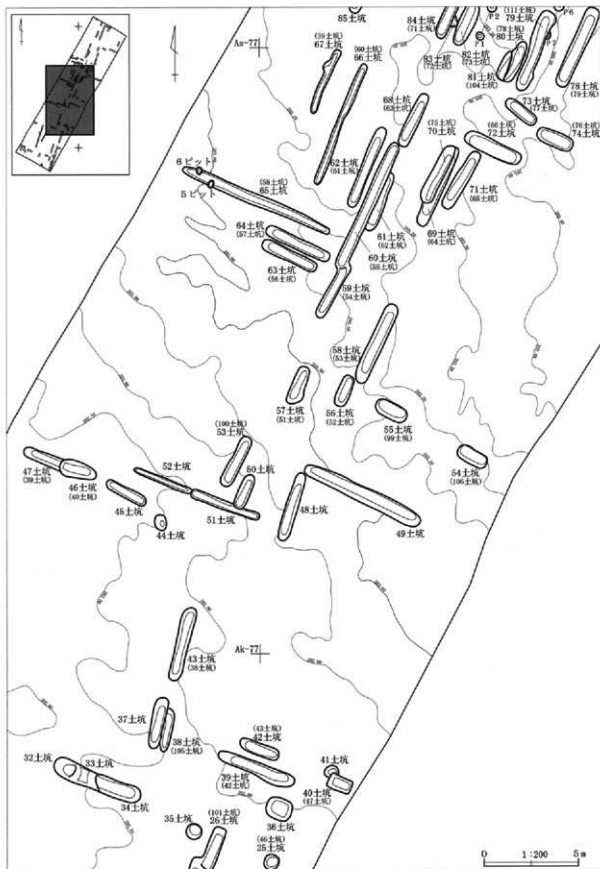
第3章写真2 I区1面空撮【上が北】



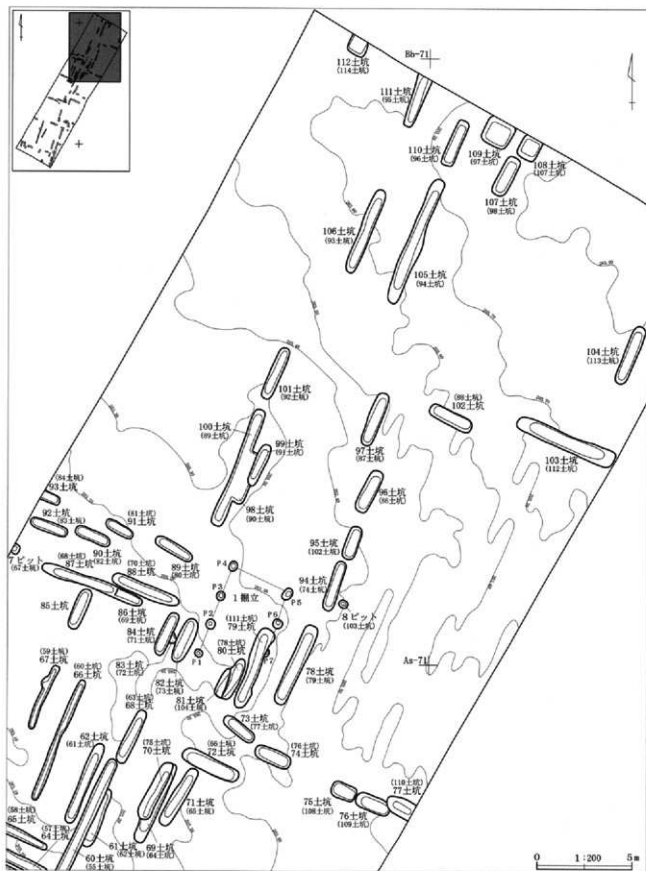
第3章第2図 1区1面 (Hr-FP 上面) 遺構全体図



第3章第3図 1区1面 (Hr-FP 上面) 遺構位置図(1)



第3章第4図 1区1面 (Hr-FP 上面) 遺構位置図(2)



第3章第5図 Ⅰ区Ⅰ面 (Hr-FP 上面) 遺構位置図(3)

1. 掘立柱建物 (PL 1・2)

I 区 1 面から、掘立柱建物が1棟検出された。本1号掘立柱建物は、調査区の北部の中央に位置する。

規模：1間×3間の規模である。柱穴の中心から計測して、桁行(長軸)約5m・同様に梁行(短軸)約3.25mである。

柱穴：柱穴は、全部で7基検出された。南東隅の柱穴は、79号土坑(旧111号土坑)と重複しているため、検出されなかった。しかしながら、南西隅の柱穴P1の南側には連続する柱穴の痕跡は検出されなかったため、元々は8基の柱穴を持つ構造であったと推定される。なお、柱穴の直径は約0.36m～約0.66mであり、深さは約0.25m～約0.55mである。

桁間：桁間は、柱穴の中心で計測して、約1.6m～約1.7mである。

梁間：梁間は、柱穴の中心で計測して、約3.25mである。

溝：雨落溝のような溝は、検出されなかった。

入口：入口を特定することはできなかった。

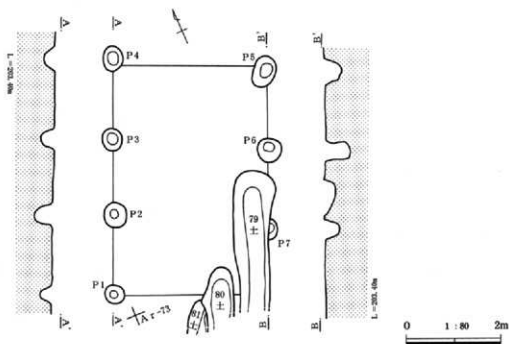
遺物：遺物は、検出されなかった。

時期：時期を推定できる遺物は検出されなかったため、時期は不明である。しかしながら、恐らく、中世～近世であると推定される。

重複：79号(旧111号)土坑・80号(旧78号)土坑・81号(旧104号)土坑の、3基の土坑と重複が認められた。この内、79号土坑は、柱穴P8があるべき位置と重複しており、新旧関係は、79号土坑の方が新しいと推定される。また、80号土坑と81号土坑は、1号掘立柱建物の内部にかかっているため、新旧関係は、79号土坑と同様に、2基の土坑の方が新しいと推定される。なお、この80号土坑と81号土坑も重複しており、この2基の土坑の新旧は、80号土坑の方が81号土坑よりも新しいと推定される。

第3章表1 I区1面1号掘立柱建物柱穴計測表

柱穴No	直径	深さ
P 1	36cm～40cm	25cm
P 2	48cm～50cm	40cm
P 3	40cm～50cm	30cm
P 4	42cm～54cm	25cm
P 5	46cm～66cm	40cm
P 6	50cm	55cm
P 7	(42cm)	30cm

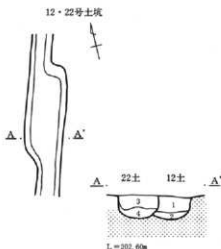


第3章第6図 I区1面1号掘立柱建物

2. 土坑 (PL. 1)

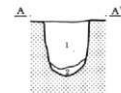
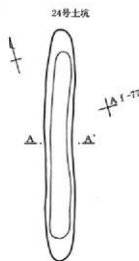
I区1面から、土坑が112基検出された。これらの土坑は、時代を特定できる出土遺物もほとんどないため、構築時期は不明であるが、ほとんどが中世～近代であると推定される。白井地区ではこんにゃく栽培が盛んであり、こんにゃく芋を冬期に保存する際、穴を掘って埋めたとされている。これら土坑の多くは、この痕跡であると推定される。

ここでは、112基の土坑中、12号・22号・24号・31号・58号・60号・61号・62号・69号・70号・71号・78号・96号・98号・99号・100号土坑の16基の土坑について、平面断面図を示した。なお、平面図の縮尺は1/100で、断面図の縮尺は1/50で示している。



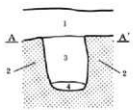
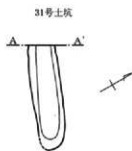
I区1面12(23)・22(24)号土坑

1. 黒褐色土 FPを多量に含む。粒径2～5cmのものが主。
2. 黒色土 FPの混じる量がやや少ない。
3. 黒色土 FPを多量に含む。(1層より少ない)粒径2～5cm増殖。
4. 黒色土 粒径1～2cm程度のFPの混じる量がやや少ない。



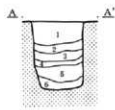
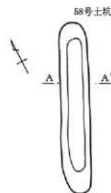
I区1面24(26)号土坑

1. FP(φ5cm以下)を主体とし、黒褐色土を少量含む。
2. 黒褐色土、FP(φ1cm以下)を少量含む。



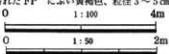
I区1面31(31)号土坑

1. 表土
2. FP
3. におい黄褐色土 汚れたFP、φ1～3cmのものが主体であるが、下部にはφ10cmを超えるものも含む。
4. 黒褐色土 FPの混じる量が少ない。



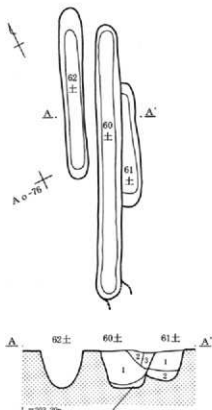
I区1面58(53)号土坑

1. 黒褐色土 FPを多量に含む。粒径0.5～1cm程度のものが主。
2. 汚れたFP におい黄褐色、粒径1～3cm。
3. 1層と同じ。
4. 2層と同じ。
5. 黒褐色土 FPを多量に含む。粒径1～5cm程度。
6. 汚れたFP におい黄褐色、粒径3～5cm。



第3章第7図 I区1面土坑(1)

60-62号土坑



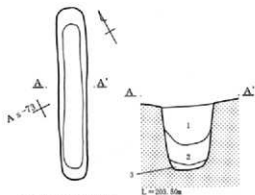
I区1面60(55)号土坑

1. FP(φ5cm以下)を主体とし、黒褐色土を少量含む。
2. 黒褐色土 FP(φ2cm以下)を含む。(耕作痕)
3. FP(φ5cm以下)を主体とし、黒褐色土を少量含む。
4. 黒褐色土 FP(φ1cm以下)を少量含む。

I区1面61(62)号土坑

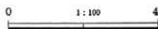
1. 60号土坑の1よりやや黒褐色土の割合が多い。
2. 60号土坑の2と同じ。

78号土坑

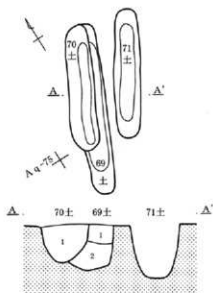


I区1面78(79)号土坑

1. FP(φ3cm以下)を主体とし、黒褐色土を少量含む。
2. FP(φ5cm以下)を主体とし、黒褐色土、礫をごく少量含む。
3. 黒褐色土 FP(φ3cm以下)を少量含む。



69-71号土坑



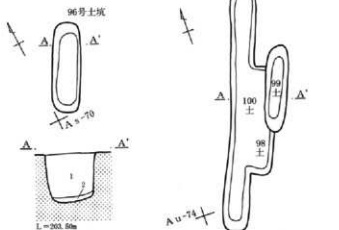
I区1面70(75)号土坑

1. 黒褐色土 FP(φ5cm以下)を多く含む。

I区1面69(54)号土坑

1. FP(φ5cm以下)を主体とし、黒褐色土を多く含む。
2. 黒褐色土 FP(φ3cm以下)をやや多く含む。

98-100号土坑



I区1面96(86)号土坑

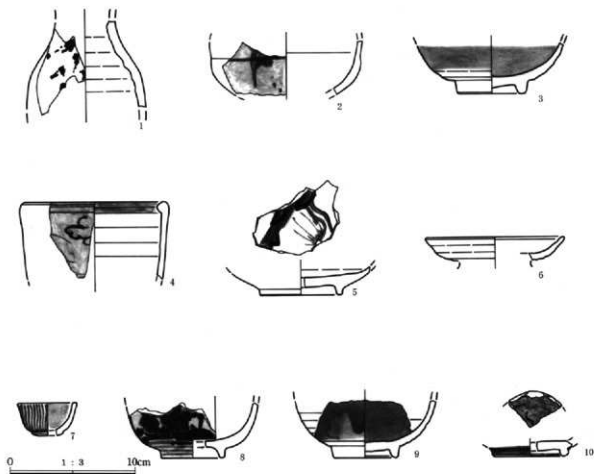
1. におい黄褐色土 汚れたFP。上部と下部に粒径の大きい(φ3~5cm)FPあり。φ1~2cmのFPが主。
2. 黒色土 FPの混じる量がやや少ない。

I区1面98(90)・99(91)・100(89)号土坑

1. 黒褐色土 FPを多量に含む。φ2~5cmが主。
2. 黒色土 1層よりFP含有量が少ない。FPφ1~2cmが主。
3. 1層と同じ。
4. 2層と同様だが、FPφ2~3cmが主。
5. におい黄褐色土 汚れたFP。φ2~7cmと、やや大きめ。
6. 4層と同様。



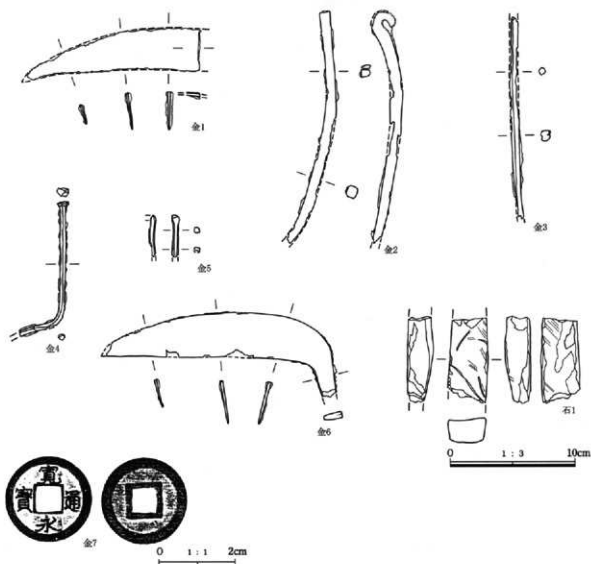
第3章第8図 I区1面土坑②



第3章第9図 I区1面出土陶磁器

第3章表2 I区1面出土陶磁器観察表 (PL, 2)

番号	遺構名	旧遺構番号	種別 器種	計測値 (cm)	残存状態	成・整形技法の特徴	備考
1	1号土坑	1号土坑	陶器 徳利?	残高・7.2	頸部～胴部 破片	外周錆色の鉄軸。肩部下位に指頭圧痕状の凹みめぐる。	瀬戸・美濃 17世紀か
2	6号土坑	6号土坑	陶器 腰折瀝	残高・4.7	体部破片	口縁部外面胎軸?を覆す。	瀬戸・美濃 18世紀中～19世紀中
3	27号土坑	29号土坑	陶器 碗	底・5.4 残高・4.6	体部～底部 1/3	内面～体部外面胎軸。	瀬戸・美濃 17世紀か
4	43号土坑	38号土坑	陶器 火入れか 香炉	口・(11.6) 残高・6.1	口縁部破片	陶胎染付、火入れ又は香炉。内面口縁部下無軸。漆継ぎの可能性あり。	肥前 江戸時代
5	58号土坑	53号土坑	磁器 皿	底・(6.4) 残高・1.7	体部～底部 破片	体部上位輪花状としたようで、残存部上位が波状を呈する。	肥前 江戸時代
6	59号土坑	54号土坑	陶器 丸皿	口・(11.6) 残高・1.8	口縁～体部 破片	焼成不良。長石軸か。	瀬戸・美濃 17世紀
7	60号土坑	56号土坑	磁器 ミニチュアか 紅皿	口・(5.1) 底・(3.1) 残高・2.7	口縁～底部 1/4	底部外面以外無軸。壓作り。白磁。	肥前 江戸～近代か
8	68号土坑	63号土坑	陶器 碗	底・(5.0) 残高・4.1	体部～底部	陶胎染付。呉須の発色良い。	肥前 17世紀後～18世紀前
9	68号土坑	63号土坑	陶器 茶碗	底・5.1 残高・3.9	体部～底部 1/4	内面～体部外面下位胎軸。	瀬戸・美濃 18世紀中～後
10	表土	—	青磁 模花皿か	底・(5.3) 残高・1.2	底部	高台内無軸。内面底部ヘラによる施文。	龍泉窯系 15世紀か



第3章第10図 1区1面出土金属・石製品

第3章表3 1区1面出土金属製品遺物観察表 (PL, 2)

番号	遺構名	旧遺構番号	器種	計測値				現存状態	備考
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
1	29号土坑	22号土坑	鎌の刃部	(13.8)	3.3	0.1~0.5	31	1/2?	鉄錆付着
2	55号土坑	99号土坑	五寸釘?	(10.5)	7.0	5.0	14	4/5?	鉄錆付着
3	65号土坑1	58号土坑1	火箸	(18.0)	0.9	0.9	36	1/2?	同一個体の頭部~体部。鉄錆付着
4	65号土坑1	58号土坑2	火箸	(15.8)	0.6	0.9	17	1/2?	同一個体の先端部。鉄錆付着
5	72号土坑	66号土坑	切釘?	3.3	0.6	0.5	2	ほぼ完形	鉄錆付着
6	1区表土	1区表土2	中鎌の刃部	17.7	3.5	0.3	45	ほぼ完形	鉄錆付着
7	1区表土	1区表土3	銭貨	直径2.3		0.1	2.9	完形	寛永通宝。銅銭

第3章表4 1区1面出土石製品遺物観察表 (PL, 2)

番号	遺構名	旧遺構番号	器種	石材	特徴	計測値				現存状態
						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	
1	56号土坑	52号土坑	礎石	流紋岩	1面のみ良く使用	6.7	3.0	2.0	62	1/2?

第3章表5 Ⅰ区1面土坑計測表

土坑 番号	長軸方向	平面形状	規模 (m)			出土遺物	重 複	旧番号
			長径	短径	深さ			
1	不明	不明	—	—	—	陶器彫り?	—	1
2	北北東～南南西	長方形	(2.70)	0.80	—	—	—	2
3	不明	不明	—	—	—	—	—	3
4	不明	不明	—	—	—	—	—	4
5	北北東～南南西	長方形	(1.00)	(0.50)	—	—	6号土坑	5
6	北北東～南南西	長方形	2.90	0.70	—	陶器腰折碗	5号土坑	6
7	不明	不明	—	—	—	—	—	7
8	—	楕円形	1.40	0.80	—	—	1・2号ピット	11
9	不明	不明	—	—	—	—	—	9
10	不明	不明	—	—	—	—	—	8
11	北北東～南南西	長方形	2.60	0.70	—	—	3号ピット	10
12	不明	不明	—	—	0.30	—	—	23
13	—	楕円形	1.60	1.20	—	—	—	25
14	西北西～東南東	長方形	2.20	0.70	—	—	—	13
15	北北東～南南西	長方形	2.50	0.80	—	—	—	15
16	西北西～東南東	長方形	3.40	0.90	—	—	17号土坑・4号ピット	16
17	—	円形	(0.60)	0.60	—	—	16号土坑・4号ピット	17
18	—	不整形	1.50	1.00	—	—	—	18
19	北北東～南南西	長方形	3.00	0.70	—	—	21号土坑	19
20	北北東～南南西	長方形	2.70	0.70	—	—	—	20
21	西北西～東南東	長方形	3.00	0.70	—	—	19号土坑	21
22	北北東～南南西	長方形	—	1.10	0.30	—	—	24
23	西北西～東南東	長方形	—	0.70	—	—	—	27
24	北北東～南南西	長方形	6.10	0.80	0.70	—	—	26
25	—	円形	0.80	0.80	—	—	—	46
26	北北東～南南西	長方形	2.90	0.70	—	—	27号土坑	101
27	北北東～南南西	長方形	6.10	0.80	—	陶器碗	26号土坑	29
28	北北東～南南西	長方形	6.40	0.50	—	—	—	28
29	北北東～南南西	長方形	15.50	0.50	—	鉄製品鏝	30号土坑	22
30	—	不整形	1.70	0.90	—	—	29号土坑	30
31	西北西～東南東	長方形	(2.80)	0.80	0.72	—	—	31
32	不明	不明	—	—	—	—	—	32
33	不明	不明	—	—	—	—	—	33
34	不明	不明	—	—	—	—	—	34
35	—	円形	0.80	0.80	—	—	—	35
36	—	方形	1.40	1.20	—	—	—	36
37	北北東～南南西	長方形	2.80	0.70	—	—	38号土坑	37
38	北北東～南南西	長方形	2.30	(0.60)	—	—	37号土坑	105
39	西北西～東南東	長方形	4.20	0.80	—	—	—	42
40	—	方形	1.30	0.80	—	—	41号土坑	47
41	—	円形	0.70	0.70	—	—	40号土坑	41
42	西北西～東南東	長方形	2.20	0.70	—	—	—	43
43	北北東～南南西	長方形	4.00	0.70	—	陶器香炉か火入れ	—	38
44	—	楕円形	0.90	0.70	—	—	—	44
45	西北西～東南東	長方形	2.40	0.60	—	—	—	45
46	西北西～東南東	長方形	2.00	1.00	—	—	47号土坑	40
47	西北西～東南東	長方形	(2.10)	0.70	—	—	46号土坑	39
48	北北東～南南西	長方形	3.70	0.70	—	—	—	48
49	西北西～東南東	長方形	6.70	0.90	—	—	—	49
50	北北東～南南西	長方形	1.90	0.70	—	—	51号土坑	50
51	西北西～東南東	長方形	3.80	0.50	—	—	50号土坑	—
52	西北西～東南東	長方形	3.30	0.40	—	—	—	—
53	北北東～南南西	長方形	3.00	0.70	—	—	—	100
54	西北西～東南東	長方形	1.70	0.80	—	—	—	106
55	西北西～東南東	長方形	1.80	0.90	—	鉄釘	—	99
56	北北東～南南西	長方形	1.80	0.80	—	—	—	52
57	北北東～南南西	長方形	2.20	0.80	—	—	—	51
58	北北東～南南西	長方形	4.50	0.80	0.90	磁器皿	—	53
59	北北東～南南西	長方形	3.40	0.60	—	陶器丸皿	60号土坑	54
60	北北東～南南西	長方形	7.20	0.70	0.50	磁器紅皿?	59・61号土坑	55
61	北北東～南南西	長方形	3.30	(0.60)	0.40	—	60号土坑	62
62	北北東～南南西	長方形	4.50	0.60	0.50	—	—	61
63	西北西～東南東	長方形	3.20	0.70	—	紙石	—	56

第3章 1面 (Hr-FP 上面) の遺構と遺物

土坑番号	長軸方向	平面形状	規模 (m)			出土遺物	重 複	旧番号
			長径	短径	深さ			
64	西北西～東南東	長方形	3.70	0.70	—	—	—	57
65	西北西～東南東	長方形	8.40	0.70	—	鉄製品火箸	5・6号ビット	58
66	北北東～南南西	長方形	6.90	0.50	—	—	—	60
67	北北東～南南西	不整形長方形	3.70	0.40	—	—	—	59
68	北北東～南南西	長方形	3.10	0.70	—	陶器碗・茶碗	—	63
69	北北東～南南西	長方形	4.50	0.70	0.60	—	70号土坑	64
70	北北東～南南西	長方形	3.40	0.70	0.48	—	69号土坑	75
71	北北東～南南西	長方形	3.40	0.70	0.68	—	—	65
72	西北西～東南東	長方形	3.20	0.80	—	鉄釘	—	66
73	北北東～南南西	長方形	2.00	0.70	—	—	—	77
74	西北西～東南東	長方形	2.00	0.80	—	—	—	76
75	—	方形	1.80	0.80	—	—	—	108
76	西北西～東南東	長方形	1.90	0.80	—	—	77号土坑	109
77	西北西～東南東	長方形	(1.50)	1.00	—	—	76号土坑	110
78	北北東～南南西	長方形	4.50	0.80	0.82	—	—	79
79	北北東～南南西	長方形	4.50	0.70	—	—	7号ビット	111
80	北北東～南南西	長方形	2.40	0.60	—	—	81号土坑	78
81	北北東～南南西	長方形	1.60	(0.50)	—	—	80号土坑	104
82	北北東～南南西	長方形	2.50	0.80	—	—	83号土坑	73
83	北北東～南南西	不明	(0.30)	(0.40)	—	—	82・84号土坑	72
84	北北東～南南西	長方形	2.40	0.60	—	—	82号土坑	71
85	北北東～南南西	長方形	2.20	0.70	—	—	—	85
86	西北西～東南東	長方形	—	0.60	—	—	87号土坑	69
87	西北西～東南東	長方形	—	0.50	—	—	86号土坑	68
88	西北西～東南東	長方形	3.80	0.70	—	—	—	70
89	西北西～東南東	長方形	2.20	0.70	—	—	—	80
90	西北西～東南東	長方形	2.20	0.60	—	—	—	82
91	西北西～東南東	長方形	1.60	0.60	—	—	—	81
92	西北西～東南東	長方形	2.00	0.60	—	—	—	83
93	西北西～東南東	長方形	(1.00)	0.50	—	—	—	84
94	北北東～南南西	長方形	2.70	0.60	—	—	—	74
95	北北東～南南西	長方形	1.90	0.70	—	—	—	102
96	北北東～南南西	長方形	2.30	0.80	0.64	—	—	86
97	北北東～南南西	長方形	3.00	0.70	—	—	—	87
98	北北東～南南西	不整形長方形	—	0.70	0.24	—	99・100号土坑	90
99	北北東～南南西	長方形	2.30	0.60	0.64	—	98・100号土坑	91
100	北北東～南南西	長方形	—	0.70	0.30	—	98・99号土坑	89
101	北北東～南南西	長方形	2.90	0.65	—	—	—	92
102	北北西～南南東	長方形	2.40	0.70	—	—	—	88
103	北北西～南南東	長方形	5.50	0.85	—	—	—	112
104	北北東～南南西	長方形	3.25	0.70	—	—	—	113
105	北北東～南南西	長方形	6.00	0.70	—	—	—	94
106	北北東～南南西	長方形	4.70	0.60	—	—	—	93
107	北北東～南南西	長方形	2.20	0.70	—	—	—	98
108	—	方形	(1.30)	1.10	—	—	—	107
109	—	方形	(1.50)	1.50	—	—	—	97
110	北北東～南南西	長方形	2.60	0.70	—	—	—	96
111	北北東～南南西	長方形	(2.80)	0.60	—	—	—	95
112	—	方形	(0.90)	1.00	—	—	—	114

第3章表6 I区1面ビット計測表

土坑番号	長軸方向	平面形状	規模 (m)			出土遺物	重 複	旧番号
			長径	短径	深さ			
1	西北西～東南東	楕円形	0.55	0.49	—	—	—	—
2	北～南	楕円形	0.49	0.37	—	—	—	—
3	北北東～南南西	不明	(0.41)	0.31	—	—	—	—
4	北北東～南南西	不明	(0.37)	0.37	—	—	—	—
5	北北東～南南西	楕円形	0.42	0.29	—	—	—	—
6	北～南	楕円形	0.40	0.30	—	—	—	—
7	北～南	楕円形	0.58	(0.40)	—	—	—	67号土坑
8	西北西～東南東	楕円形	0.47	0.40	—	—	—	103号土坑

第2節 II区1面の遺構と遺物

II区の総面積は、4,751.3㎡である。1面は、6世紀中頃に榛名山が噴火して降下した軽石であるFP(Hr-FP)層の上面である。したがって、時代は6世紀中頃～近代までとなる。但し、ほとんどの遺構は中世～近代であると推定される。II区1面では、土坑87基・溝2条が検出された。なお、I区及びII

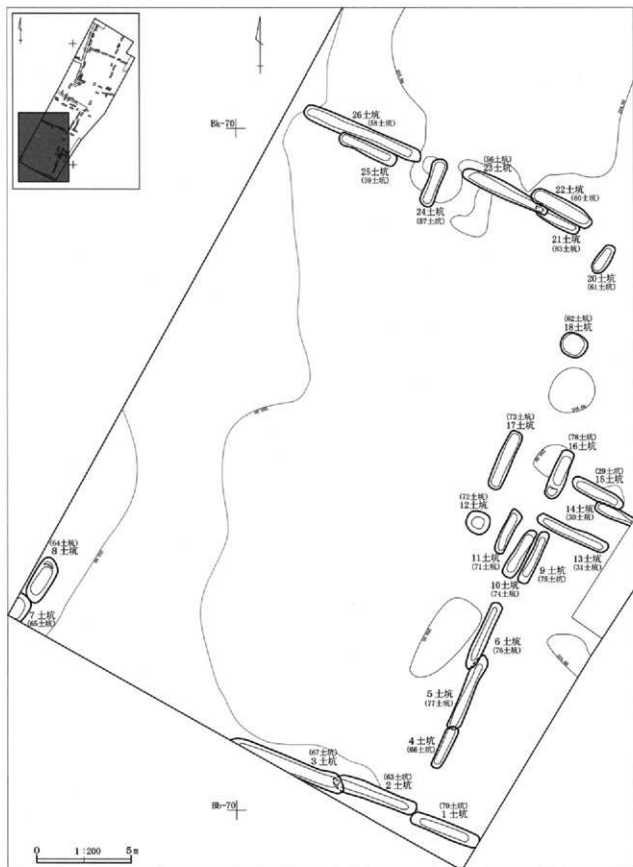
区間の農道下から、墳丘部を削平された古墳が検出されているが、I区とII区のどちらにも入らず、しかも時代も古墳時代であるために、章を別にして第4章で報告している。



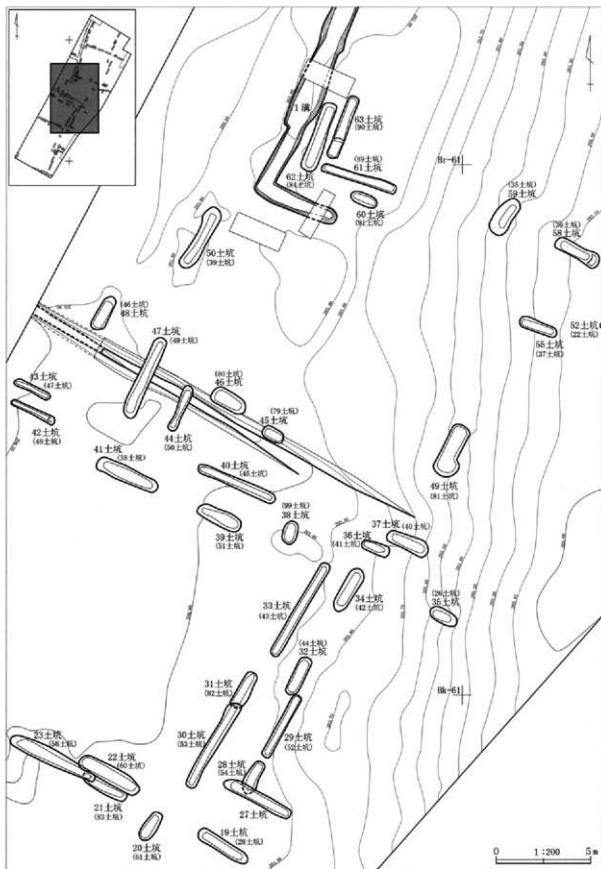
第3章写真3 II区1面空撮 [上が北]



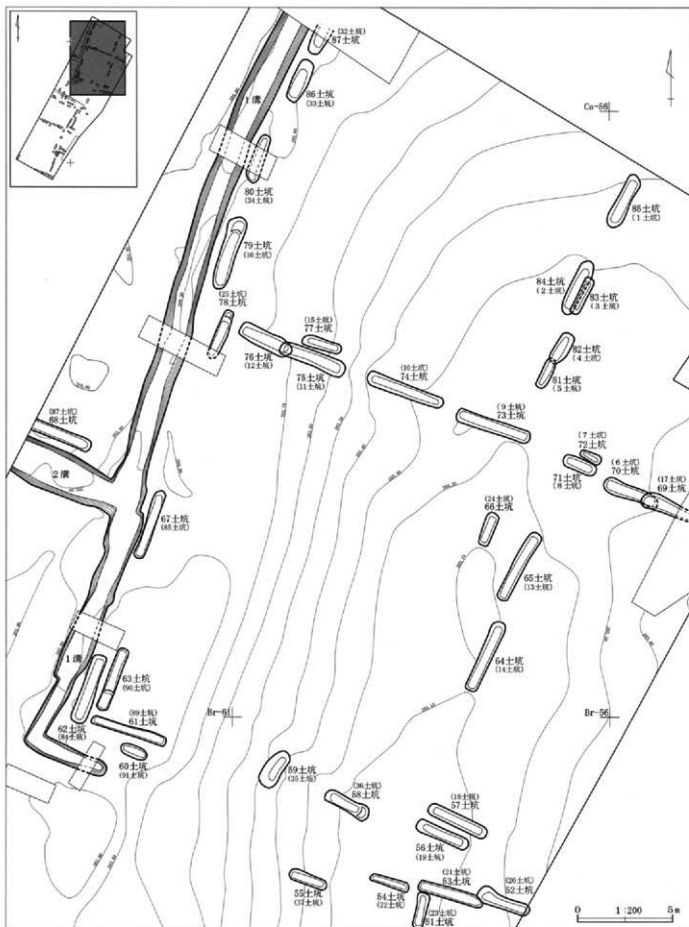
第3章第11図 II区1面 (Hr-FP 上面) 遺構全体図



第3章第12図 II区1面 (Hr-FP 上面) 遺構位置図(1)



第3章第13図 II区1面 (Hr-FP 上面) 遺構位置図②

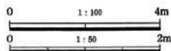
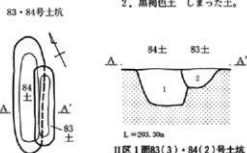
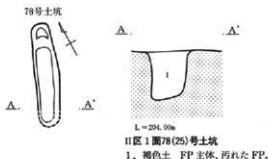
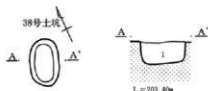
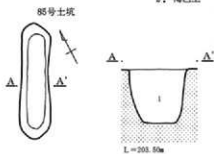
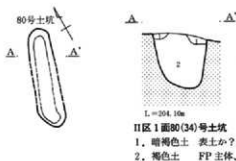
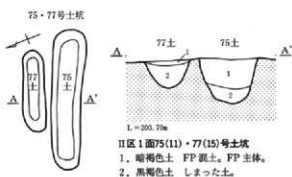


第3章第14图 II区1面(Hr-FP上面)遺構位置図(3)

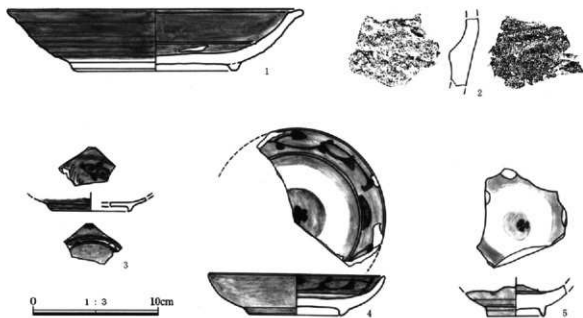
1. 土坑 (PL. 3・4)

Ⅱ区1面から、土坑が87基検出された。これらの土坑は、時代を特定できる出土遺物もほとんどないため、構築時期は不明であるが、ほとんどが中世～近代であると推定される。白井地区ではこんにやく栽培が盛んであり、こんにやく芋を冬期に保存する際、穴を掘って埋めたと言われている。これら土坑の多くは、この痕跡であると推定される。

ここでは、87基の土坑中、38号・75号・77号・78号・79号・80号・83号・84号・85号土坑の9基の土坑について、平面図を示した。なお、平面図の縮尺は1/100で、断面図の縮尺は1/50で示している。



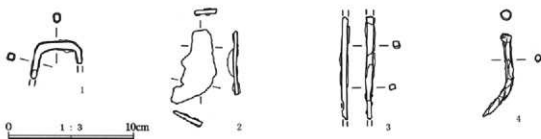
第3章第15図 Ⅱ区1面土坑



第3章第16図 II区1面出土陶磁器

第3章表7 II区1面出土陶磁器観察表 (PL. 4)

番号	遺構名	旧遺構番号	種別 器種	計測値 (cm)	残存状態	成・整形技法の特徴	備考
1	3号土坑	67号土坑	陶器鉢	口・(23.6) 高・4.9 底・(13.0)	口縁～底部 破片	見込み銅線軸の文様あり。内面底部と体部接投差。内面～高台駱状軸。	瀬戸・美濃 17世紀
2	3号土坑	67号土坑	陶器壺	残高・5.3	胴部破片		常世 中世か
3	13号土坑	31号土坑	陶磁器皿	底・(6.0) 残高・1.05	底部破片	染付。	中国 中世
4	FP	—	磁器皿	口・(14.0) 底・(7.2) 残高・3.2	口縁～底部 1/2	蛇/目軸判ぎ。見込み五弁花コンニャク判。	肥前・波佐見系 18世紀中～19世紀前
5	1号古墳	—	磁器碗	底・(4.6) 残高・2.3	体部～底部	見込み蛇/目軸判ぎ。コンニャク判による見込み五弁花小さい。	肥前・波佐見系 18世紀後～19世紀前



第3章第17図 II区1面出土金属製品

第3章表8 II区1面出土金属製品観察表 (PL. 4)

番号	遺構名	旧遺構番号	器種	計測値				残存状態	備考
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
1	84号土坑	2号土坑	鍔(かすがい)	(2.9)	3.9	0.7	7	3/4?	鉄錆付着
2	By-58グリッド	By-58グリッド	鍔の刃部?	(5.8)	(3.5)	0.3	19	破片	鉄錆付着
3	I・II区中間1号土坑	100号土坑1	切釘?	(8.1)	(0.8)	(0.5)	7	ほぼ完形?	鉄錆付着
4	I・II区中間3号土坑	98号土坑1	丸釘?	7.0	0.5	0.6	5	ほぼ完形	鉄錆付着

第3章 1面 (Hr-FP 上面) の遺構と遺物

第3章表9 II区1面土坑計測表

土坑番号	長軸方向	平面形状	規模 (m)			出土遺物	重 複	旧番号
			長径	短径	深さ			
1	西北西～東南東	長方形	3.80	0.90	—	—	—	70
2	西北西～東南東	長方形	(4.70)	0.90	—	—	3号土坑	63
3	西北西～東南東	長方形	(6.40)	0.80	—	陶器鉢・壺	—	67
4	北北東～南南西	長方形	(2.50)	0.70	—	—	5号土坑	66
5	北北東～南南西	長方形	(5.40)	0.70	—	—	4・6号土坑	77
6	北北東～南南西	長方形	(3.90)	0.70	—	—	5号土坑	76
7	北東～南東	不明	(1.90)	(0.90)	—	—	—	65
8	北北東～南南西	長方形	2.50	1.10	—	—	—	64
9	北北東～南南西	長方形	3.00	0.60	—	—	—	75
10	北北東～南南西	長方形	2.90	0.80	—	—	—	74
11	北北東～南南西	長方形	2.50	0.60	—	—	—	71
12	—	円形	1.20	1.20	—	—	—	72
13	西北西～東南東	長方形	4.00	0.70	—	陶器器皿	—	31
14	西北西～東南東 (長方形)	(2.10)	0.60	—	—	—	15号土坑	30
15	西北西～東南東	長方形	3.00	0.80	—	—	14号土坑	29
16	北北東～南南西	長方形	2.80	0.90	—	—	—	78
17	北北東～南南西	長方形	3.30	0.80	—	—	—	73
18	西北西～東南東	方形	1.40	1.30	—	—	—	62
19	西北西～東南東	長方形	3.00	0.70	—	—	—	28
20	北北東～南南西	長方形	1.70	0.80	—	—	—	61
21	西北西～東南東	長方形	(2.60)	0.60	—	—	22・23号土坑	83
22	西北西～東南東	長方形	3.50	0.90	—	—	21・23号土坑	60
23	西北西～東南東	長方形	4.90	0.80	—	—	21・22号土坑	56
24	北北東～南南西	長方形	2.70	0.70	—	—	—	57
25	西北西～東南東	長方形	3.80	0.70	—	—	26号土坑	59
26	西北西～東南東	長方形	6.70	0.90	—	—	25号土坑	58
27	西北西～東南東	長方形	4.00	0.70	—	—	28号土坑	27
28	北北東～南南西	長方形	(1.90)	0.80	—	—	27号土坑	54
29	北北東～南南西	長方形	3.70	0.50	—	—	—	52
30	北北東～南南西	長方形	5.10	0.60	—	—	31号土坑	53
31	北北東～南南西	長方形	(2.20)	0.80	—	—	30号土坑	82
32	北北東～南南西	長方形	2.40	0.70	—	—	—	44
33	北北東～南南西	長方形	5.70	0.60	—	—	—	43
34	北北東～南南西	長方形	2.60	0.80	—	—	—	42
35	西北西～東南東	楕円形	1.60	0.80	—	—	—	25
36	西北西～東南東	長方形	1.60	0.70	—	—	—	41
37	西北西～東南東	長方形	2.30	0.90	—	—	—	40
38	北～南	楕円形	1.30	0.80	0.26	—	—	99
39	西北西～東南東	長方形	2.50	0.90	—	—	—	51
40	西北西～東南東	長方形	4.40	0.60	—	—	—	45
41	西北西～東南東	長方形	3.50	0.90	—	—	—	38
42	西北西～東南東	長方形	2.60	0.40	—	—	—	48
43	西北西～東南東	長方形	2.10	0.40	—	—	—	47
44	北北東～南南西	長方形	2.60	0.60	—	—	—	50
45	西北西～東南東	長方形	1.20	0.80	—	—	—	79
46	西北西～東南東	長方形	2.00	0.90	—	—	—	80
47	北北東～南南西	長方形	4.60	0.70	—	—	—	49
48	北北東～南南西	長方形	2.00	0.70	—	—	—	46
49	北北東～南南西	不整形長方形	2.90	1.30	—	—	—	81
50	北北東～南南西	長方形	3.60	0.80	—	—	—	39
51	北北東～南南西	長方形	1.90	0.60	—	—	—	23
52	西北西～東南東	長方形	2.90	0.90	—	—	53号土坑	20
53	西北西～東南東	長方形	3.50	0.70	—	—	52号土坑	21
54	西北西～東南東	長方形	2.20	0.50	—	—	—	22
55	西北西～東南東	長方形	2.20	0.60	—	—	—	37
56	西北西～東南東	長方形	3.00	0.70	—	—	—	19
57	西北西～東南東	長方形	3.40	0.80	—	—	—	18
58	西北西～東南東	長方形	2.60	0.70	—	—	—	36
59	北東～南東	長方形	2.20	1.10	—	—	—	35

土坑 番号	長軸方向	平面形状	規模 (m)			出土遺物	重 複	旧番号
			長径	短径	深さ			
60	西北西～東南東	長方形	2.00	0.70	—	—	—	91
61	西北西～東南東	長方形	5.20	0.60	—	—	—	89
62	北北東～南南西	長方形	3.80	0.90	—	—	—	84
63	北北東～南南西	長方形	3.50	0.70	—	—	—	90
64	北北東～南南西	長方形	4.00	0.80	—	—	—	14
65	北北東～南南西	長方形	4.00	0.70	—	—	—	13
66	北北東～南南西	長方形	1.90	0.70	—	—	—	24
67	北北東～南南西	長方形	3.90	0.60	—	—	—	85
68	西北西～東南東	(長方形)	(3.30)	0.70	—	—	—	87
69	西北西～東南東	(長方形)	(2.00)	0.90	—	—	70号土坑	17
70	西北西～東南東	長方形	(3.00)	0.90	—	—	69号土坑	6
71	西北西～東南東	長方形	1.90	0.70	—	—	—	8
72	西北西～東南東	長方形	0.70	0.50	—	—	—	7
73	西北西～東南東	長方形	4.10	0.70	—	—	—	9
74	西北西～東南東	長方形	4.30	0.70	—	—	—	10
75	西北西～東南東	長方形	3.60	0.90	0.58	—	76号土坑	11
76	西北西～東南東	長方形	3.00	1.00	—	—	75号土坑	12
77	西北西～東南東	長方形	2.10	0.70	0.36	—	—	15
78	北北東～南南西	長方形	(2.80)	0.70	0.60	—	—	25
79	北北東～南南西	長方形	4.00	1.00	0.68	—	—	16
80	北北東～南南西	長方形	2.60	0.80	0.70	—	—	34
81	北北東～南南西	長方形	(1.70)	0.60	—	—	82号土坑	5
82	北北東～南南西	長方形	(1.80)	0.80	—	—	81号土坑	4
83	北北東～南南西	長方形	2.10	0.50	0.26	—	84号土坑	3
84	北北東～南南西	長方形	3.10	(0.80)	0.48	金属製品類	83号土坑	2
85	北北東～南南西	長方形	3.00	0.80	0.70	—	—	1
86	北北東～南南西	長方形	2.40	0.90	—	—	—	33
87	北北東～南南西	(長方形)	(1.00)	0.90	—	—	—	32

2. 溝 (PL. 4)

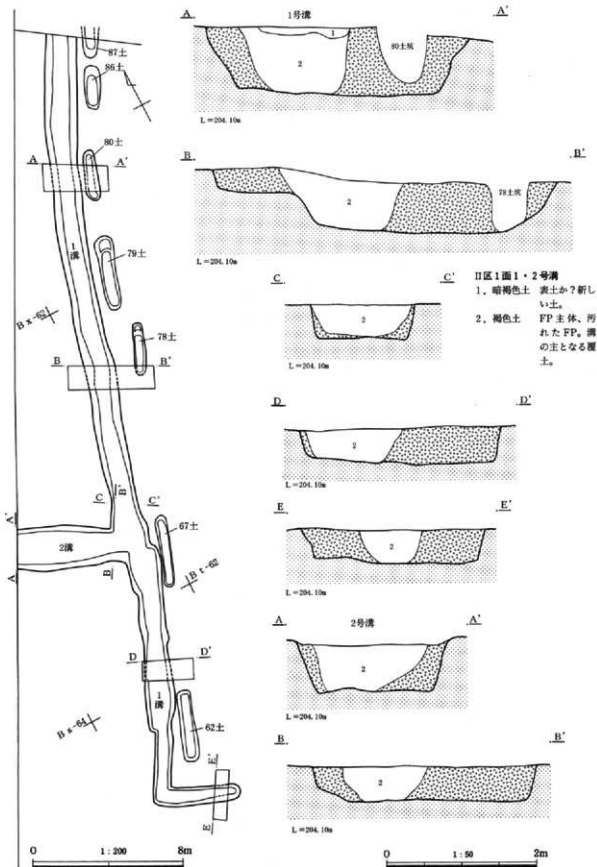
II区1面では、溝が2条検出された。この1号及び2号溝は、調査区の北西角で検出されている。

1号溝は、北北東～南南西にかけてほぼ直線に約37m走行する。規模は、幅約1.2m～1.6m・深さ約0.35m～0.9mである。南から約1/3の地点の西側で2号溝の起始部と重複する。覆土は、汚れたFPが主体であり、底部に砂等の堆積は認められず、水が流れた痕跡は認められない。従って、溝と言うよりも長く大きい土坑という様相を呈している。なお、遺物は検出されていない。

2号溝は、1号溝の南部1/3の地点の西側でほぼ直角に北西～南東に走行する。2号溝の起始部は、1号溝と重複する。規模は、幅約1.5m～2m・深さ約0.45m～0.6mである。しかしながら、一部しか検出されておらず、全容は不明である。この2号溝も、1号溝と同様に、覆土は汚れたFPが主体であり、底部に砂等の堆積は認められず、水が流れた痕跡は認められない。従って、溝と言うよりも長く大きい土坑という様相を呈している。なお、遺物は検出されていない。

第3章表10 II区1面溝計測表

遺構名	走行方向	規 模			遺物	重 複
		全長	幅	深さ		
1号溝	北北東～南南西	約37m	約1.2m～1.6m	約0.35m～0.9m	無し	2号溝
2号溝	北西～南東	約5m	約1.5m～2m	約0.45m～0.6m	無し	1号溝

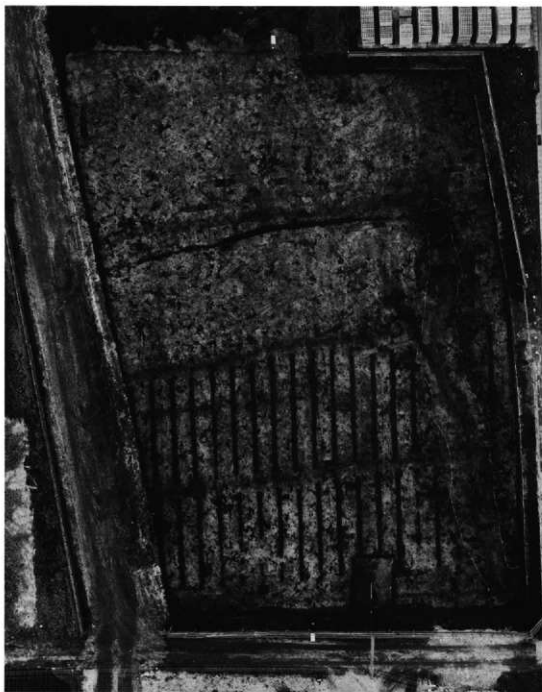


第3章第18図 II区1面1号・2号溝

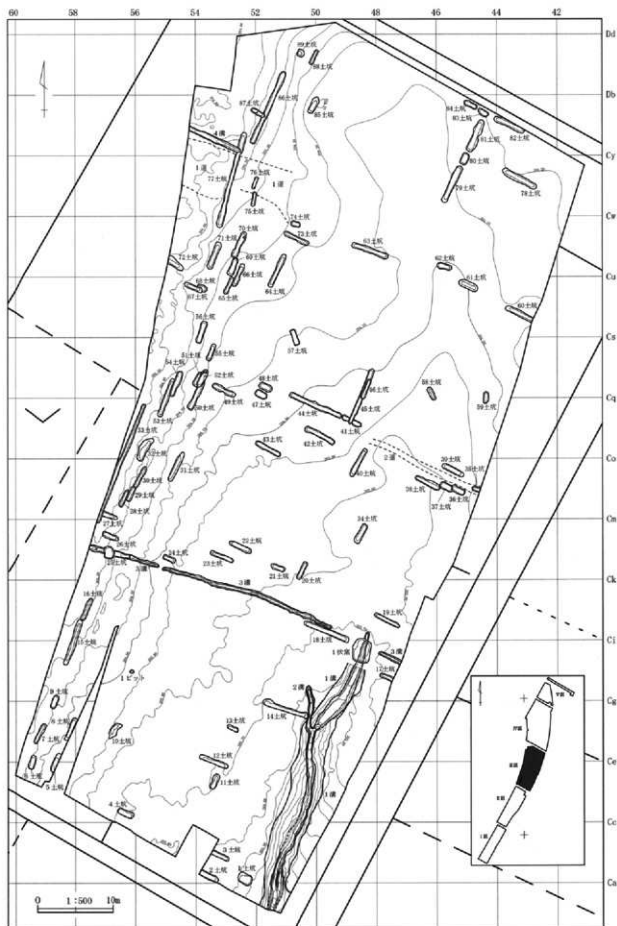
第3節 Ⅲ区1面の遺構と遺物

Ⅲ区の総面積は5,958.2㎡である。1面は、6世紀中頃に榛名山が噴火して降下した軽石であるFP(Hr-FP)層の上面である。したがって、時代は6世紀中頃～近代までとなる。但し、ほとんどの遺構は中世～近代であると推定される。Ⅲ区1面では、伏窓1基・土坑89基・溝4条が検出された。なお、

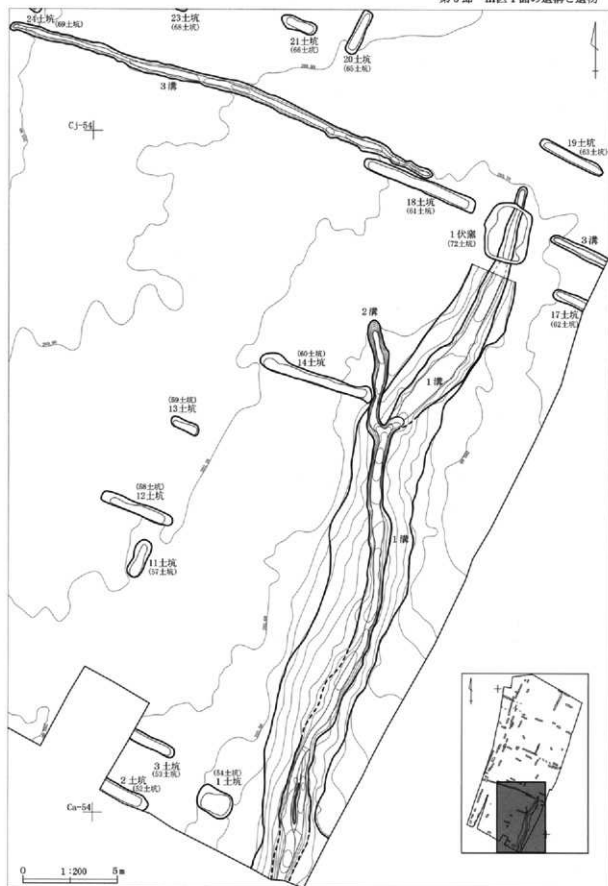
I区及びⅡ区間の農道下から、墳丘部を削平された古墳が検出されているが、I区とⅡ区のどちらにも入らず、しかも時代も古墳時代であるために、章を別にして第4章で報告している。



第3章写真4 Ⅲ区1面南部空撮【上が北】

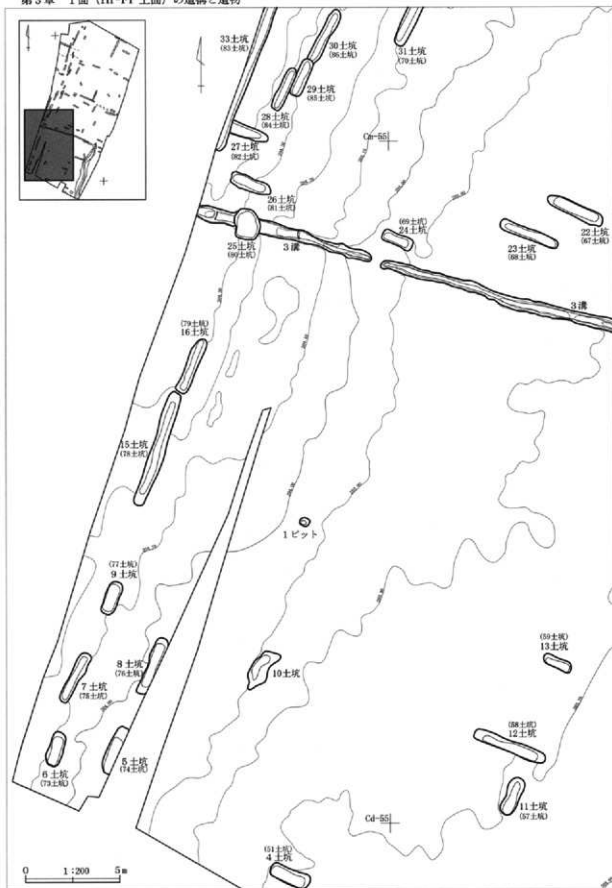


第3章第19图 III区1面(Hr-FP上面)遺構全体図

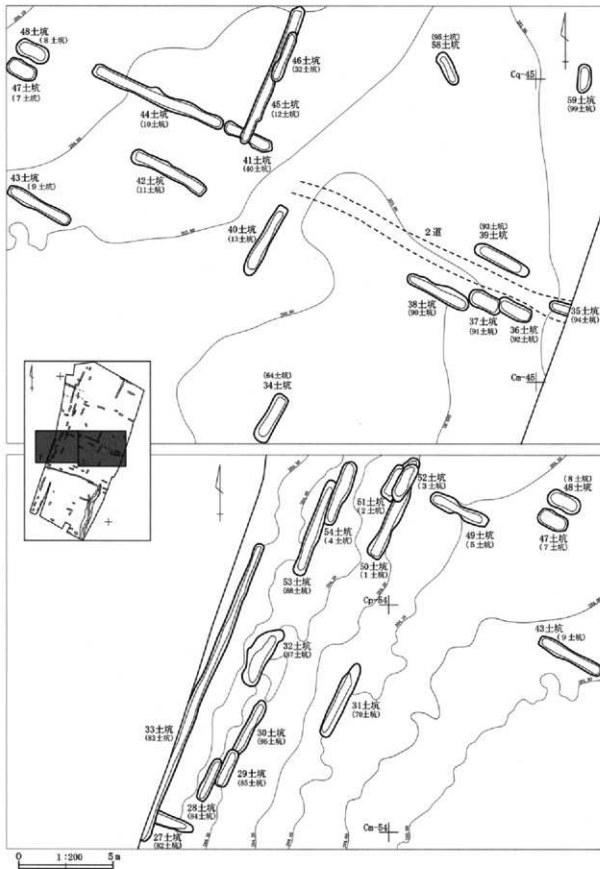


第3章第20図 Ⅲ区1面 (Hr-FP 上面) 遺構位置図(1)

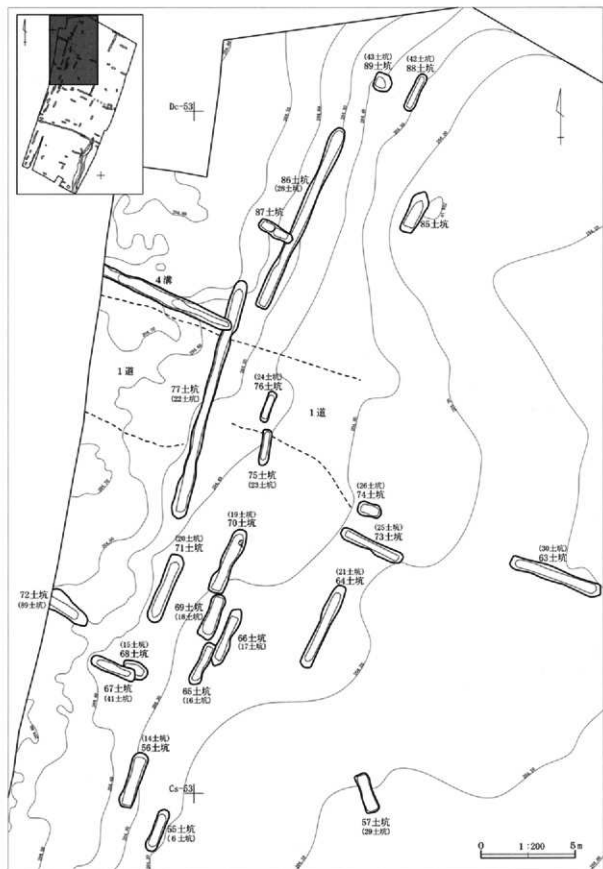
第3章 1面 (Hr-FP上面) の遺構と遺物



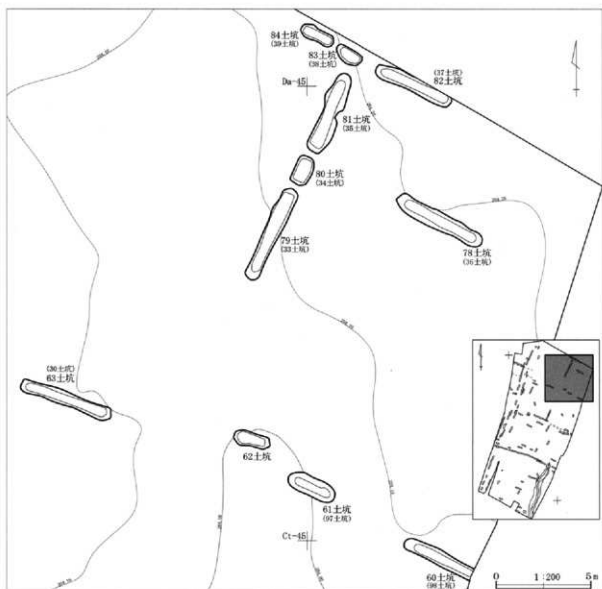
第3章第21図 Ⅲ区1面 (Hr-FP上面) 遺構位置図②



第3章第22図 Ⅲ区1面 (Hr-FP 上面) 遺構位置図(3)



第3章第23図 Ⅲ区1面 (Hr-FP上面) 遺構位置図(4)

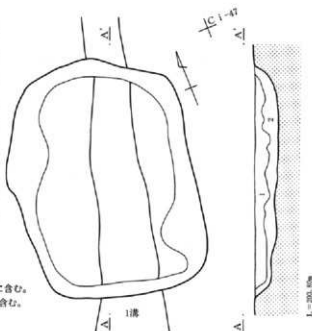


第3章第24図 III区1面 (Hr-FP 上面) 遺構位置図(5)

1. 伏 窯 (PL. 5)

伏窯が、調査区南側に1基検出された。この1号伏窯は、1号溝の北部起始部と重複して検出されている。規模は、長軸(南北)約3.15m・短軸(東西)約2.35m・深さ約0.3mであり、平面形は長方形を呈する。土層中に炭化物を多量に含んでおり、その検出状況から、「伏焼法」で焼き、炭を作った伏窯跡であると推定された。

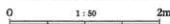
なお、本遺構で検出された炭3点は、炭化材樹種同定の分析で、3点共、コナラであると推定されている。



第3章第25図 III区1面1号伏窯

III区1面1号伏窯

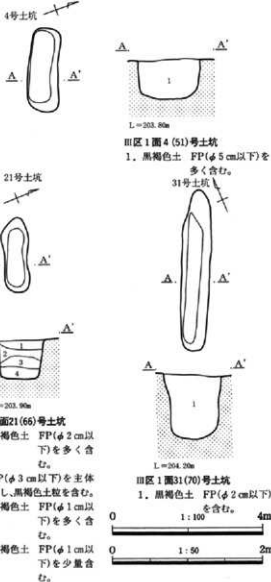
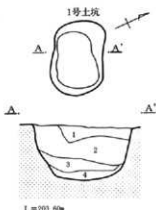
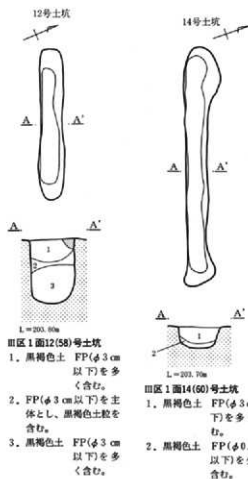
1. 黒色土 FP(φ 3 cm以下)を少量、炭化物(長軸15cm以下)を多量に含む。
 2. 黒色土 FP(φ 8 cm以下)を多量、炭化物(長軸3 cm以下)を少量含む。
- ※ FPは赤褐色に焼けているものを含む。



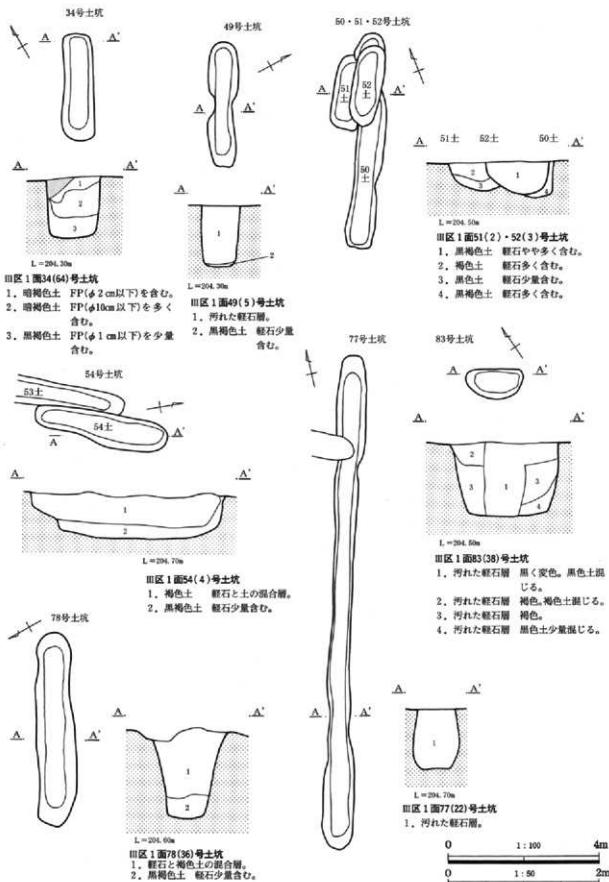
2. 土坑 (PL, 5)

Ⅲ区1面から、土坑が89基検出された。これらの土坑は、時代を特定できる出土遺物もほとんどないため、構築時期は不明であるが、ほとんどが中世～近代であると推定される。白井地区ではこんにゃく栽培が盛んであり、こんにゃく芋を冬期に保存する際、穴を掘って埋めたとされている。これら土坑の多くは、この痕跡であると推定される。

ここでは、89基の土坑中、1号・4号・12号・14号・21号・31号・34号・49号・50号・51号・52号・54号・77号・78号・83号土坑の15基の土坑について、断面図を示した。なお、平面図の縮尺は1/100で、断面図の縮尺は1/50で示している。

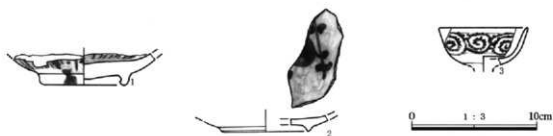


第3章第26図 Ⅲ区1面土坑(1)



第3章第27図 Ⅲ区1面土坑(2)

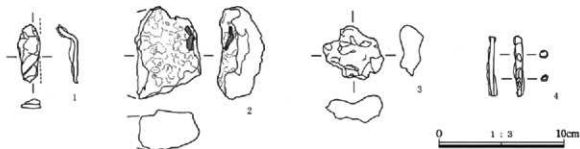
第3章 1面 (Hr-FP 上面) の遺構と遺物



第3章第28図 III区1面出土陶磁器

第3章表11 III区1面出土陶磁器観察表 (PL. 6)

番号	遺構名	旧遺構番号	器種	計測値 (cm)	残存状態	成・整形技法の特徴	備考
1	16号土坑	79号土坑	陶器 菊皿	径・(7.0) 残高・2.5	体部下位～ 底部破片	灰釉に刷縁軸を渡す。	瀬戸・美濃 17世紀か
2	39号土坑	93号土坑	磁器 皿	径・(7.0) 残高・1.3	底部破片	胎土やや灰色味を帯びる。内面染付。	肥前 17世紀
3	表採	—	磁器 仏飯器	口・(7.0) 残高・3.0	口縁～体部 1/3	焼成不良。	製作地不詳 17世紀末～19世紀中



第3章第29図 III区1面出土金属製品・鉄滓

第3章表12 III区1面出土金属製品遺物観察表 (PL. 6)

番号	遺構名	旧遺構番号	器種	計測値			残存状態	備考	
				長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)			
1	20号土坑	65号土坑	鎌の刃部	(4.5)	(1.7)	(0.7)	7	破片 鉄錆付着	
4	Cy-51G	Cy-51G-10	鉄釘	(4.7)	0.65	0.4	6	1/2?	鉄錆付着

第3章表13 III区1面出土鉄滓観察表 (PL. 6)

番号	遺構名	旧遺構番号	遺物名	計測値			重量 (g)	磁着度	メタル度	特徴
				長さ	幅	厚さ				
2	53号土坑	88号土坑	椀形鍛冶滓(小)	6.9	(4.8)	3.2	158.0	3	錆化(△)	残存約 2/3。やや厚手の椀形鍛冶滓。裏面に発泡したが床土が付着。淨質は密。
3	Cy-51G	Cy-51G-10	椀形鍛冶滓(極小)	4.5	4.1	1.9	45.0	1	M(○)	ほぼ完形。粘土質溶解物主体であるが、残存金属鉄が比較的多い。淨質はやや密。

第3章表14 Ⅲ区1面土坑計測表

土坑 番号	長軸方向	平面形状	規模 (m)			出土遺物	重 複	旧番号
			長径	短径	深さ			
1	西北西～東南東	長方形	2.00	1.30	0.70	—	—	54
2	西北西～東南東	長方形	(2.70)	(0.80)	—	—	—	52
3	西北西～東南東	長方形	(2.50)	(0.60)	—	—	—	53
4	西北西～東南東	長方形	2.20	0.80	0.50	—	—	51
5	北北東～南南西	長方形	3.10	(0.60)	—	—	—	74
6	北北東～南南西	長方形	1.80	0.80	—	—	—	73
7	北北東～南南西	長方形	2.95	0.55	—	—	—	75
8	北北東～南南西	長方形	3.20	0.50	—	—	—	76
9	北北東～南南西	長方形	1.80	0.70	—	—	—	77
10	北北東～南南西	不明	2.35	0.90	—	—	—	—
11	北北東～南南西	長方形	2.10	0.70	—	—	—	57
12	西北西～東南東	長方形	4.00	0.60	0.84	—	—	58
13	西北西～東南東	長方形	1.60	0.50	—	—	—	59
14	西北西～東南東	長方形	6.30	0.60	0.28	—	—	60
15	北北東～南南西	長方形	6.40	0.70	—	—	—	78
16	北北東～南南西	長方形	3.10	0.60	—	陶器碎片	—	79
17	西北西～東南東 (長方形)	長方形	1.80	0.70	—	—	—	62
18	西北西～東南東	長方形	6.40	0.70	—	—	—	61
19	西北西～東南東	長方形	3.70	0.60	—	—	—	63
20	北北東～南南西	長方形	2.50	0.60	—	鏝	—	65
21	西北西～東南東	長方形	2.00	0.70	0.50	—	—	66
22	西北西～東南東	長方形	3.20	0.70	—	—	—	67
23	西北西～東南東	長方形	3.30	0.60	—	—	—	68
24	西北西～東南東	長方形	1.70	0.65	—	—	—	69
25	北～南	方形	1.65	1.30	—	—	3号溝	80
26	西北西～東南東	長方形	2.20	0.75	—	—	—	81
27	西北西～東南東 (長方形)	(長方形)	(2.10)	0.80	—	—	33号土坑	82
28	北北東～南南西	長方形	2.40	0.55	—	—	—	84
29	北北東～南南西	長方形	2.15	0.65	—	—	30号土坑	85
30	北北東～南南西	長方形	(3.15)	0.60	—	—	29号土坑	86
31	北北東～南南西	長方形	4.30	0.80	0.84	—	—	70
32	北北東～南南西	不整形円形	3.45	0.50	—	—	—	87
33	北北東～南南西	長方形	16.95	0.55	—	—	—	83
34	北北東～南南西	長方形	2.75	0.80	0.80	—	—	64
35	西北西～東南東 (長方形)	(長方形)	(1.10)	0.70	—	—	—	94
36	西北西～東南東	長方形	(1.85)	0.85	—	—	37号土坑	92
37	西北西～東南東	長方形	(1.70)	0.95	—	—	36号土坑	91
38	西北西～東南東	長方形	3.65	0.65	—	—	—	90
39	西北西～東南東	長方形	3.20	0.75	—	磁器皿	—	93
40	北北東～南南西	長方形	4.15	0.65	—	—	—	13
41	西北西～東南東	長方形	2.85	0.60	—	—	45号土坑	40
42	西北西～東南東	長方形	4.35	0.70	—	—	—	11
43	西北西～東南東	長方形	3.75	0.60	—	—	—	9
44	西北西～東南東	長方形	7.45	0.75	—	—	—	10
45	北北東～南南西	長方形	7.90	0.60	—	—	41・46号土坑	12
46	北北東～南南西	長方形	2.80	0.50	—	—	45号土坑	32
47	西北西～東南東	長方形	1.65	0.90	—	—	—	7
48	西北西～東南東	長方形	1.90	0.85	—	—	—	8
49	西北西～東南東	不整形長方形	3.30	0.50	0.80	—	—	5
50	北北東～南南西	長方形	5.70	0.60	—	—	51・52号土坑	1
51	北北東～南南西	長方形	2.00	(0.45)	0.38	—	50・52号土坑	2
52	北北東～南南西	長方形	2.15	0.85	0.42	—	50・51号土坑	3
53	北北東～南南西	長方形	5.35	0.75	—	椀形鐵治淨	54号土坑	88
54	北北東～南南西	長方形	3.65	0.65	0.58	—	53号土坑	4
55	北北東～南南西	長方形	2.35	0.60	—	—	—	6
56	北北東～南南西	長方形	3.00	0.75	—	—	—	14
57	北北東～南南西	長方形	2.15	0.65	—	—	—	29
58	北北東～南南西	長方形	1.90	0.70	—	—	—	95
59	北～南	長方形	1.60	0.75	—	—	—	99
60	西北西～東南東 (長方形)	(長方形)	(3.90)	0.75	—	—	—	98
61	西北西～東南東	長方形	2.70	1.00	—	—	—	97
62	西北西～東南東	長方形	2.00	0.70	—	—	—	—
63	西北西～東南東	長方形	5.15	0.65	—	—	—	30
64	北北東～南南西	長方形	4.75	0.55	—	—	—	21
65	北北東～南南西	長方形	2.45	0.60	—	—	—	16
66	北北東～南南西	長方形	3.30	0.55	—	—	—	17

第3章 1面 (Hr-FP上面) の遺構と遺物

土坑番号	長軸方向	平面形状	規模 (m)			出土遺物	重複	旧番号
			長径	短径	深さ			
67	西北西～東南東	長方形	2.50	0.60	—	—	68号土坑	41
68	西北西～東南東	楕円形	1.40	0.90	—	—	67号土坑	15
69	北北東～南南西	長方形	2.50	0.70	—	—	—	18
70	北北東～南南西	長方形	3.70	0.65	—	—	—	19
71	北北東～南南西	長方形	3.85	0.75	—	—	—	20
72	西北西～東南東	(長方形)	(2.30)	0.90	—	—	—	89
73	西北西～東南東	長方形	3.55	0.55	—	—	—	25
74	西北西～東南東	長方形	1.25	0.70	—	—	—	26
75	北～南	長方形	1.90	0.58	—	—	—	23
76	北北東～南南西	長方形	1.70	0.45	—	—	—	24
77	北北東～南南西	長方形	12.90	0.55	0.78	—	4号溝	22
78	西北西～東南東	長方形	5.05	1.00	1.14	—	—	36
79	北北東～南南西	長方形	5.45	0.85	—	—	—	33
80	北北東～南南西	方形	1.60	1.00	—	—	—	34
81	北北東～南南西	長方形	4.50	0.75	—	—	—	35
82	西北西～東南東	長方形	4.25	(0.80)	—	—	—	37
83	西北西～東南東	楕円形	1.45	0.75	0.96	—	—	38
84	西北西～東南東	長方形	1.90	0.65	—	—	—	39
85	北北東～南南西	長方形	2.45	0.80	—	—	—	—
86	北北東～南南西	長方形	10.45	0.75	—	—	87号土坑	28
87	西北西～東南東	長方形	2.00	0.60	—	—	86号土坑	—
88	北北東～南南西	長方形	2.15	0.50	—	—	—	42
89	北北西～南南東	楕円形	1.15	1.00	—	—	—	43

3. 溝 (PL 5・6)

Ⅲ区1面では、溝が4条検出された。1号溝及び2号溝は、調査区の南東隅で検出されている。3号溝は、調査区の南から約1/3の地点で検出されており、4号溝は、調査区の北西隅近辺で検出されている。

1号溝は、北北東～南南西にかけて一部蛇行しながら走行する。規模は、長さ約39m・幅約50cm～4.5m・深さ約5cm～40cmである。北部の起始部で1号伏室と重複し、北部1/3の地点の西側で2号溝と重複する。覆土は黒褐色土・FP・黄褐色砂質土である。底部に砂質土や川砂の堆積があるため、水が流れた痕跡が認められる。遺物は、検出されなかった。

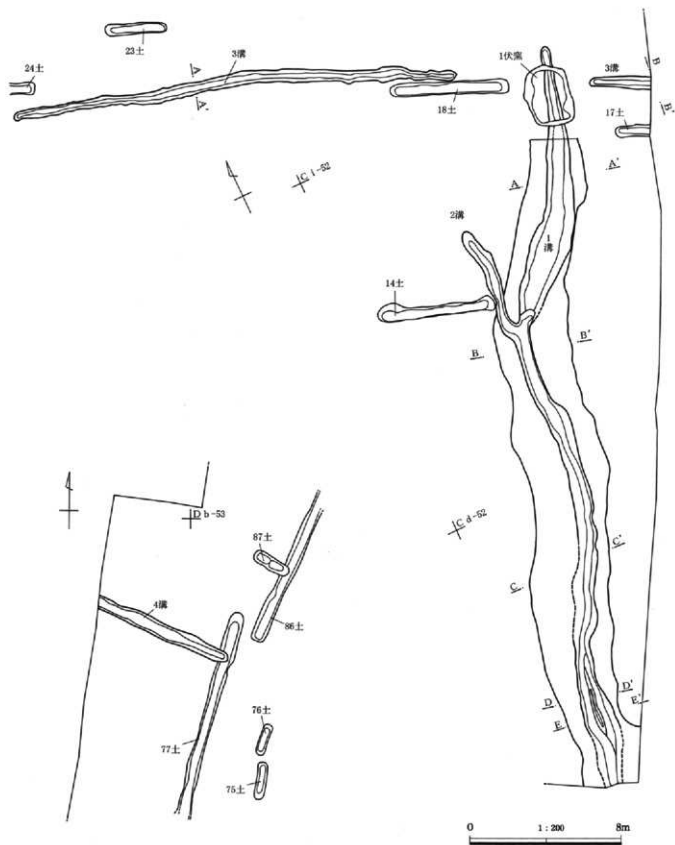
2号溝は、1号溝の北部1/3の地点で分岐し、北～南にかけて走行する。規模は、長さ約6m・幅約40cm～70cm・深さ約40cmである。覆土は、黒褐色土やFPであり、砂等の堆積は無いため、水が流れた痕跡は認められなかった。遺物は、検出されなかった。

3号溝は、調査区の南部から約1/3の地点を横切るように、北西～南東に断続的に3条が認められた。西側の溝は、長さ約9.5m・幅約50cm～80cmである。25号土坑と重複する。中央部の溝は、長さ約24m・幅約50cm～80cm・深さ約15cmの規模である。重複は、認められなかった。東側の溝は、長さ約3.2m・幅約50cm～60cm・深さ約60cmの規模である。重複は、認められなかった。覆土は黒褐色土やFPであり、砂等の堆積は無いため、水が流れた痕跡は認められなかった。遺物は、検出されなかった。

4号溝は、調査区の北西隅近辺で、北西～南東にかけて走行する。規模は、長さ約7.5m・幅約60cm～70cm・深さ約10cmである。南東部の起始部で、77号土坑と重複する。覆土は黒褐色土であり、砂等の堆積は無いため、水が流れた痕跡は認められなかった。遺物は、検出されなかった。

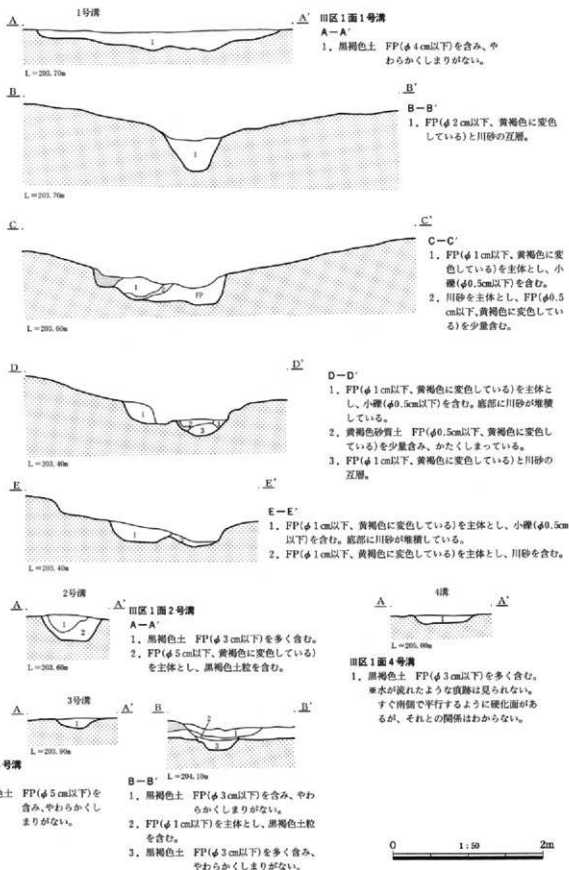
第3章表15 Ⅲ区1面溝計測表

遺構名	走行方向	規模			遺物	重複
		全長	幅	深さ		
1号溝	北北東～南南西	約39m	約50cm～4.5m	約5cm～40cm	無し	2号溝・1号伏室
2号溝	北～南	約6m	約40cm～70cm	約40cm	無し	1号溝
3号溝	北西～南東	約3.2m～24m	約50cm～80cm	約15cm～60cm	無し	25号土坑
4号溝	北西～南東	約7.5m	約60cm～70cm	約10cm	無し	77号土坑



第3章第30図 Ⅲ区1面1号~4号溝

第3章 1面 (Hr-FP 上面) の遺構と遺物



第3章第31図 田区1面1号～4号溝断面

第4節 IV区1面の遺構と遺物

IV区の総面積は7,390.5㎡で、調査区の中では最大の面積である。1面は、6世紀中頃に榛名山が噴火して降下した軽石であるFP(Hr-FP)層の上面である。したがって、時代は6世紀中頃～近代までとなる。但し、ほとんどの遺構は中世～近代であると推定される。IV区1面では、古代の住居1軒・掘立柱

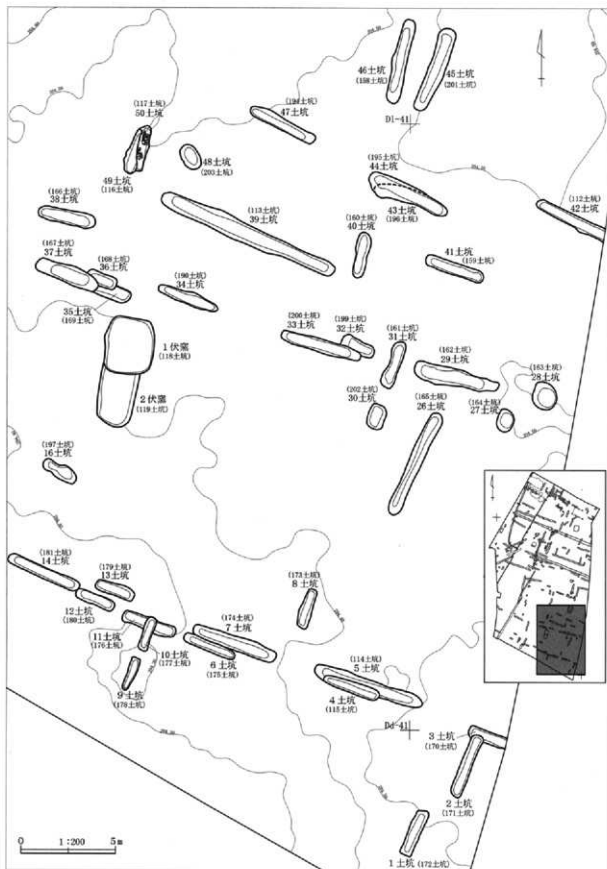
建物1棟・伏窯2基・土坑224基・溝2条が検出された。なお、I区及びII区との農道下から、墳丘部を削平された古墳が検出されているが、I区とII区のどちらにも入らず、しかも時代も古墳時代であるために、章を別にして第4章で報告している。



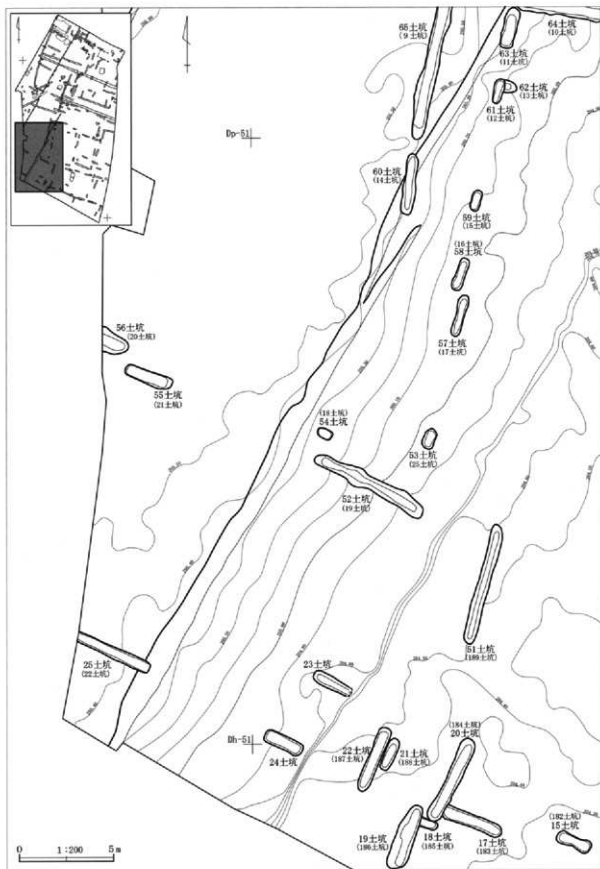
第3章写真5 IV区1面東部空撮 [上が北]



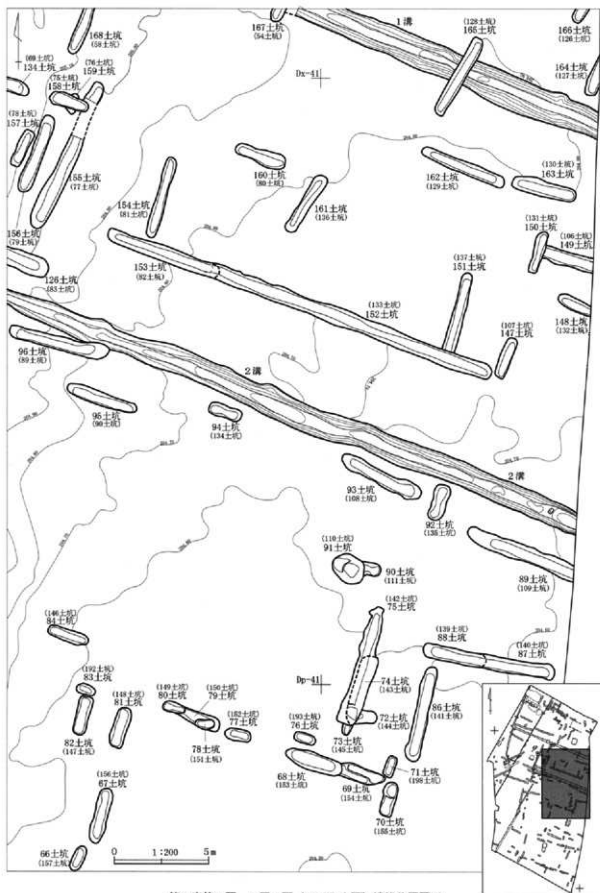
第3章第32图 IV区1面(Hr-FP 上面)遺構全体図



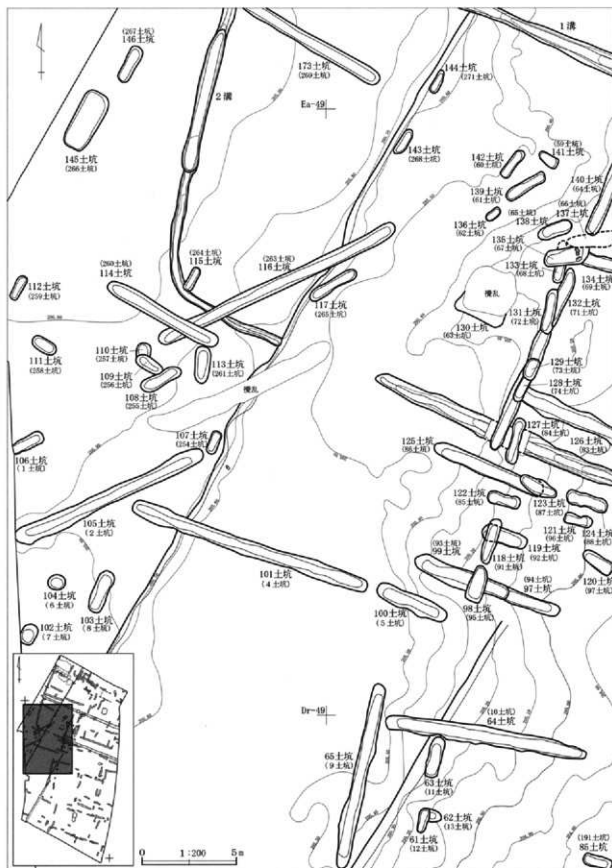
第3章第33図 IV区1面 (Hr-FP上面) 遺構位置図(1)



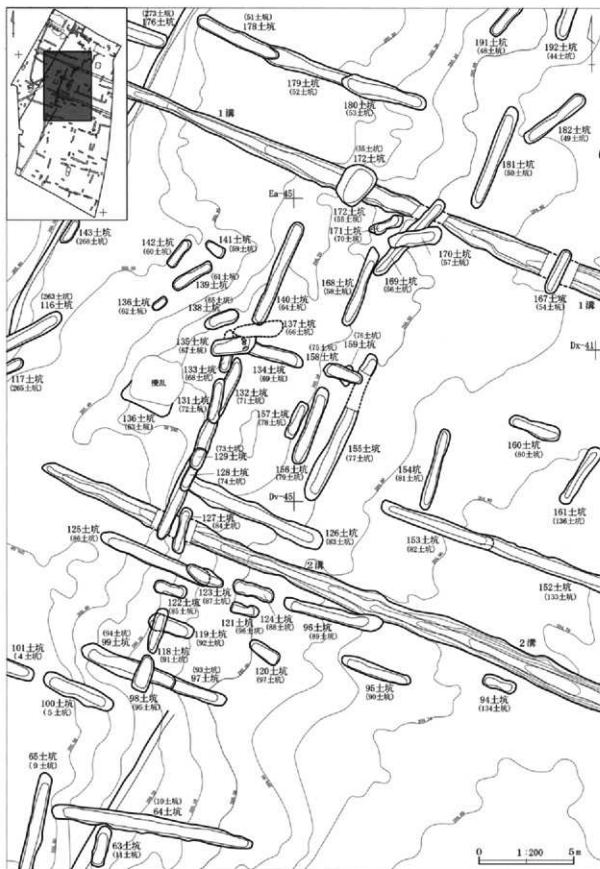
第3章第34図 IV区1面 (Hr-FP上面) 遺構位置図(2)



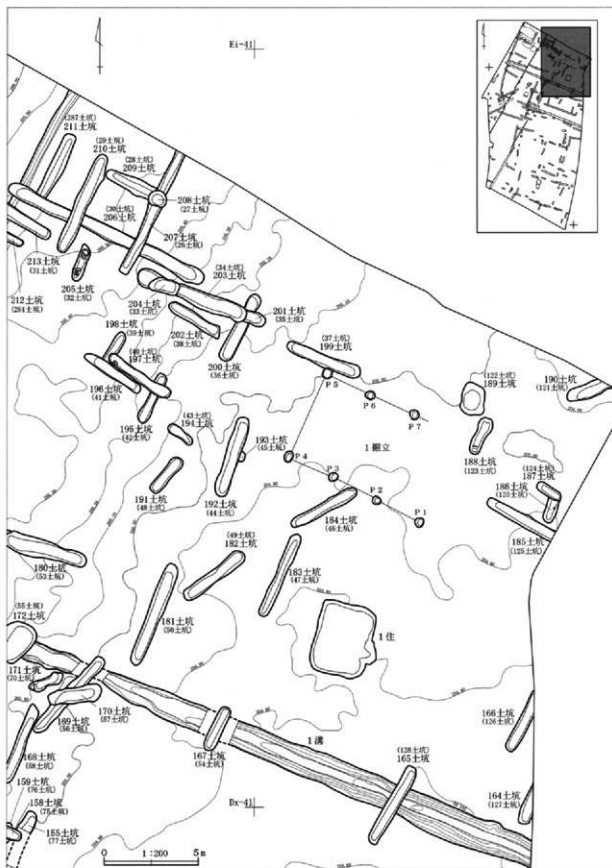
第3章第35図 IV区1面(Hr-FP上面)遺構位置図(3)



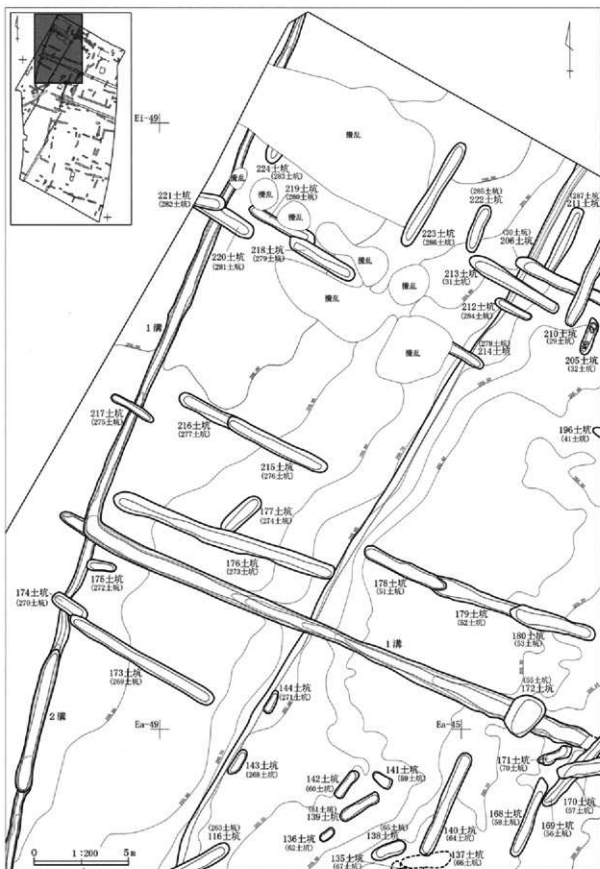
第3章第36図 IV区1面 (Hr-FP上面) 遺構位置図(4)



第3章第37図 IV区1面(Hr-FP上面)遺構位置図(5)



第3章第38図 N区1面 (Hr-FP 上面) 遺構位置図(6)



第3章第39図 IV区1面 (Hr-FP 上面) 遺構位置図(7)

1. 住居 (PL, 7)

IV区1面の北東部から、平安時代の住居1軒が検出された。このIV区1面1号住居は、6世紀中頃の榛名山噴火による降下軽石であるFP軽石を掘り込んで構築している。なお、今回の調査区のI区～V区で検出された平安時代の住居はこの1軒のみである。

平面形状：平面形状は、長方形である。

規模：規模は、長軸方向(南北)約3.75m・短軸方向(東西)約3m・深さ約40cm～約50cmである。

面積：面積は、約11.46㎡である。

覆土：覆土は、主に3層に分かれる。

床面：床面は、ほぼ平坦である。

竈(カマド)：竈は、東壁の中央やや南よりに検出され

た。突出部約50cm・両袖方向約80cmの規模である。竈の覆土は、主に5層に分かれる。

方位：N-105°-E

貯蔵穴：貯蔵穴は、検出されなかった。

柱穴：柱穴は、検出されなかった。

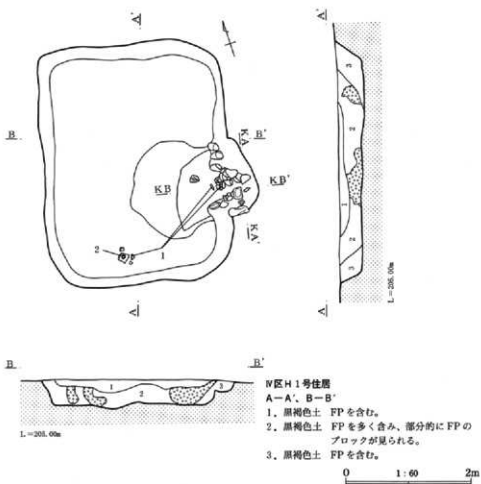
床下土坑：床下土坑は、検出されなかった。

周溝：周溝は、検出されなかった。

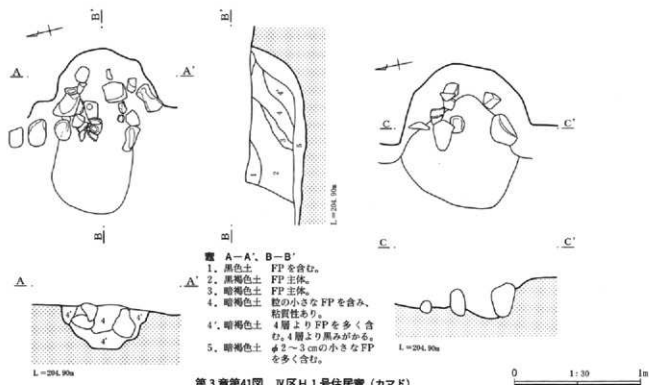
遺物：遺物は、須恵器埴土2点が検出された。この須恵器2点は、竈周辺と住居南の床面から検出されている。

時期：出土遺物の須恵器埴土より、時期は、10世紀前半の平安時代に比定されている。

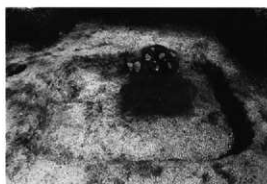
重複：重複は、認められなかった。



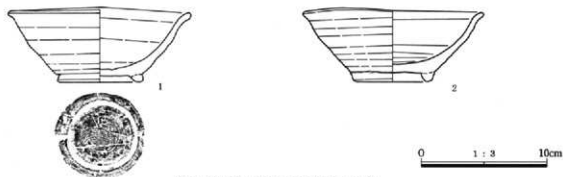
第3章第40図 IV区H1号住居



第3章第41図 IV区H1号住居竈(カマド)



第3章写真6 IV区H1号住居竈(カマド)



第3章第42図 IV区H1号住居出土遺物

第3章表16 IV区H1号住居出土遺物観察表 (PL. 7)

No.	住居番号	目遺構番号	土器種別	時期	法量 (cm) ①口径・②器高・③底径	①胎土②焼成③色調	成・整形技法の特徴	出土状況	残存状況
1	IV区1面1号住居	IV区1号住居	須恵系 埴	10世紀前半	①14.5-②25.5-③6.7	①胎・白色灰物・黒色灰物 ②還元焼③によい褐色	ロクロ製形、石臼用。器部 回転糸切後、高台貼付。	床・竈・ 覆土	4/5
2	IV区1面1号住居	IV区1号住居	須恵系 埴	10世紀前半	①14.0-②25.5-③(6.5)	①胎・白色灰物・黒色灰物 ②還元焼・焼し③黒褐色	ロクロ製形、高部ナデ 後、高台貼付。	床	4/5

2. 掘立柱建物

IV区1面から、掘立柱建物が1棟検出された。本1号掘立柱建物は、調査区北部に位置する。

規模：1間×3間である。柱穴の中心から計測して、桁行（長軸）約7.8m・梁行（短軸）約4.8mである。

柱穴：柱穴は、全部で7基検出された。北東隅の柱穴は、検出されなかった。第1次調査と第2次調査の境にあたるため、表土掘削の際に破壊され認識されなかったものと推定される。恐らく、元々は8基の柱穴を持つ構造であったと推定される。柱穴の大きさは、直径約40cm～約50cmであり、深さ約40

cm～約45cmである。

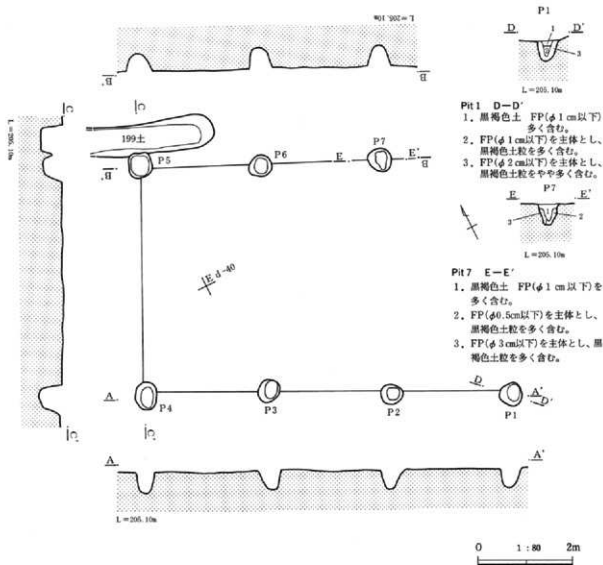
桁間：桁間は、柱穴の中心で計測して、約2.5m～約2.6mである。

梁間：梁間は、柱穴の中心で計測して、約4.8mである。

遺物：遺物は、検出されなかった。

時期：時期を推定できる遺物は検出されなかったため、時期は不明である。しかしながら、恐らく、中世～近世であると推定される。

重複：重複は、柱穴のP5が一部199号土坑と重複している。新旧関係は、P5の方が新しい。



第3章第43図 N区1面1号掘立柱建物

3. 伏 窯 (PL. 8)

伏窯が、調査区南側で2基重複した状態で検出され、1号伏窯・2号伏窯と命名した。なお、調査時は、それぞれ、118号土坑・119号土坑と命名したが報告書作成の際に名前の変更を行った。

(1) 1号伏窯 [118号土坑]

1号伏窯は、2号伏窯と重複した状態で検出された。1号伏窯は、2号伏窯の北側に位置する。新旧関係は、1号伏窯の方が2号伏窯よりも新しい。

規 模：規模は、長軸（南北）約3m・短軸（東西）約2.6m・深さ約0.2mである。

形 状：平面形状は、方形を呈する。

遺 物：遺物は、炭化材が多く検出されている。

なお、炭化材樹種同定の結果、クスギ（コナラ属コナラ亜属クスギ節）と同定されている。詳細は、自然科学分析を参照されたい。

そ の 他：本遺構は、「伏焼法」でクスギを焼き、炭を作った伏窯跡であると推定される。

(2) 2号伏窯 [119号土坑]

2号伏窯は、1号伏窯と重複した状態で検出された。2号伏窯は、1号伏窯の南側に位置する。新旧関係は、2号伏窯の方が1号伏窯よりも古い。

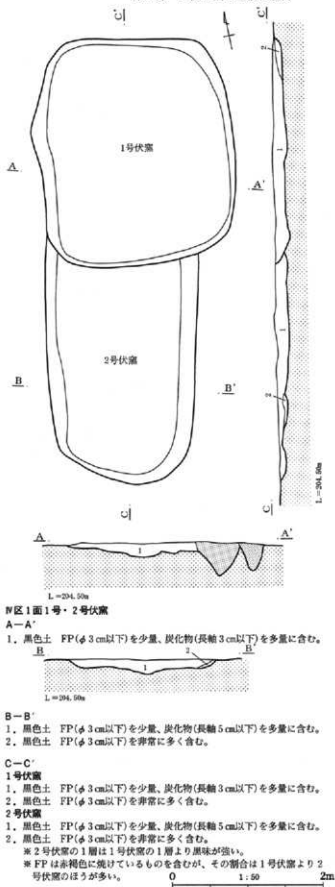
規 模：本2号伏窯の北部が1号伏窯と重複しているため、正確な規模は不明である。現状で、長軸（南北）約2.9m・短軸（東西）約2m・深さ約0.2mである。

形 状：本2号伏窯の北部が1号伏窯と重複しているため、正確な形状は不明である。形状は、恐らく、長方形を呈すると推定される。

遺 物：遺物は、炭化材が多く検出されている。

なお、炭化材樹種同定の結果、クスギ（コナラ属コナラ亜属クスギ節）と同定されている。詳細は、自然科学分析を参照されたい。

そ の 他：本遺構は、「伏焼法」でクスギを焼き、炭を作った伏窯跡であると推定される。

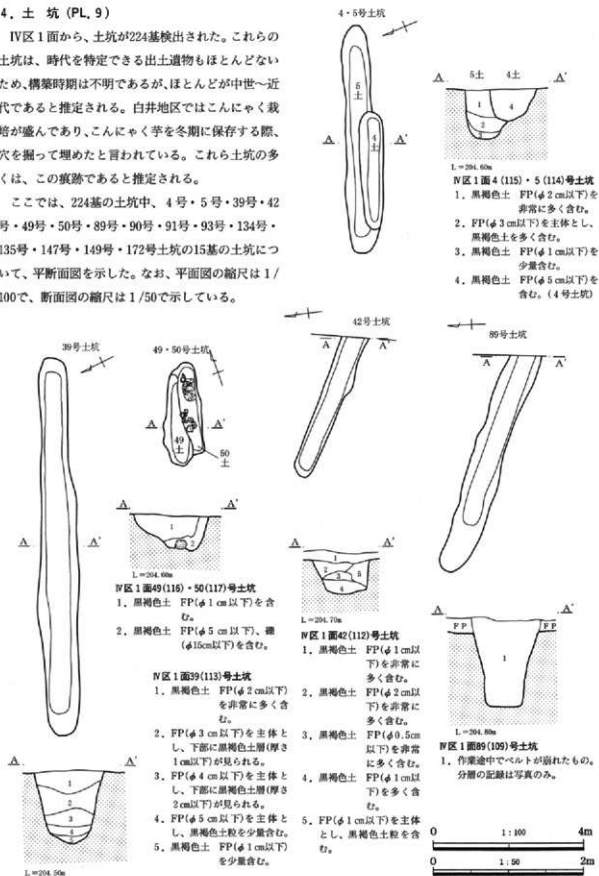


第3章第44図 IV区1面1号・2号伏窯

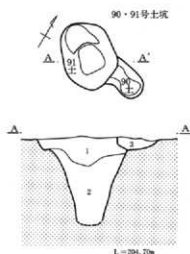
4. 土坑 (PL, 9)

IV区1面から、土坑が224基検出された。これらの土坑は、時代を特定できる出土遺物もほとんどないため、構築時期は不明であるが、ほとんどが中世～近代であると推定される。白井地区ではこんにやく栽培が盛んであり、こんにやく芋を冬期に保存する際、穴を掘って埋めたとされている。これら土坑の多くは、この痕跡であると推定される。

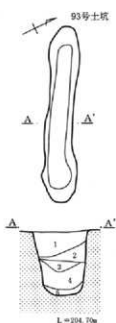
ここでは、224基の土坑中、4号・5号・39号・42号・49号・50号・89号・90号・91号・93号・134号・135号・147号・149号・172号土坑の15基の土坑について、平面図を示した。なお、平面図の縮尺は1/100で、断面図の縮尺は1/50で示している。



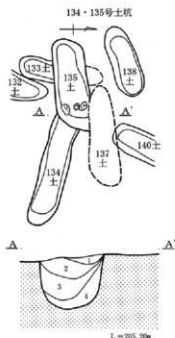
第3章第45図 N区1面土坑1)



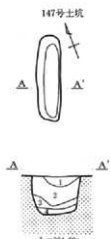
IV区1面90(111)・91(110)号土坑
 1. 黒褐色土 FP(φ 2cm以下)をやや多く含む。
 2. FP(φ 5cm以下)を主体とし、黒褐色土粒を非常に多く含む。
 3. 黒褐色土 FP(φ 3cm以下)を多く含む。



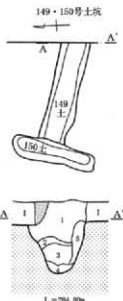
IV区1面93(108)号土坑
 1. FP(φ 3cm以下)を主体とし、黒褐色土粒を含む。
 2. 黒褐色土 FP(φ 1cm以下)を多く含む。
 3. FP(φ 5cm以下)を主体とし、黒褐色土粒を少量含む。
 4. FP(φ 3cm以下)を主体とし、黒褐色土粒を多く含む。
 5. 黒褐色土 FP(φ 1cm以下)を少量含む。



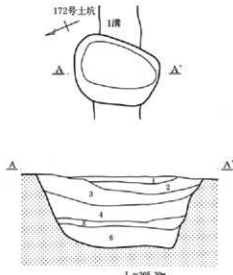
IV区1面134(69)・135(67)号土坑
 1. 暗褐色土 FP(φ 1cm以下)をやや多く含む。
 2. FP(φ 4cm以下)を主体とし、黒褐色土粒を多く含む。
 3. 黒褐色土 FP(φ 5cm以下)を多く含む。
 4. FP(φ 3cm以下)を主体とし、黒褐色土粒をやや多く含む。



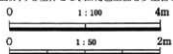
IV区1面147(107)号土坑
 1. FP(φ 4cm以下)を主体とし、黒褐色土粒を含む。
 2. 黒褐色土 FP(φ 1cm以下)を多く含む。
 3. 黒褐色土 FP(φ 2cm以下)を多く含む。
 4. 黒褐色土 FP(φ 1cm以下)を少量含む。



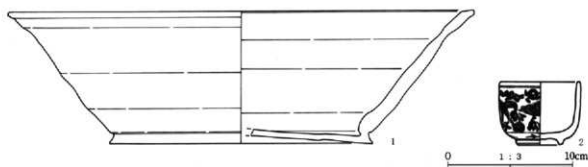
IV区1面149(106)号土坑
 1. 黒色～黒褐色土 緩丘崖際のみに残存、FPを含む。
 1. FP(φ 3cm以下)を主体とし、黒褐色土粒を含む。
 2. 黒褐色土 FP(φ 1cm以下)をやや多く含む。
 3. 黒褐色土 FP(φ 2cm以下)を多く含む。
 4. 黒褐色土 FP(φ 1cm以下)を少量含む。
 5. FP(φ 4cm以下)を主体とし、黒褐色土粒を少量含む。



IV区1面172(56)号土坑
 1. 黒褐色土 FP(φ 1cm以上)を多く含む。
 2. 黒褐色土 FP(φ 1cm以上)を非常に多く含む。
 3. FP(φ 6cm以下)を主体とし、黒褐色土粒を多く含む。
 4. 黒褐色土 FP(φ 2cm以下)を非常に多く含む。
 5. 黒褐色土 FP(φ 2cm以下)をやや多く含む。
 6. FP(φ 3cm以下)を主体とし、黒褐色土粒を少量含む。



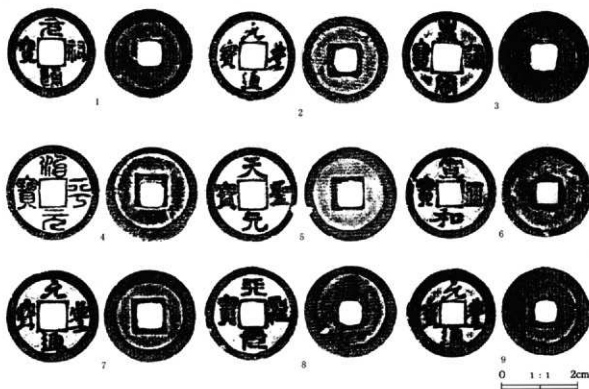
第3章第46図 IV区1面土坑(2)



第3章第47図 IV区1面出土陶磁器

第3章表17 IV区1面出土陶磁器観察表 (PL. 9)

番号	遺構名	旧遺構番号	種別	計測値 (cm)	残存状態	成・整形技法の特徴	備考
1	64号土坑	10号土坑	軟質陶器 鉢	口・36.95 高・10.45 底・20.90	口縁～底面 1/2	外面備付着。口縁端部平坦。	在地江戸時代
2	119号土坑	92号土坑	磁器 碗	口・6.4 高・5.0 底・(3.7)	口縁～底面 1/2	外面に竹葉と梅花状の注文様を焼き、その間に不明文様を散らす。人造料須を使用。	瀬戸・美濃 19世紀中～後



第3章第48図 IV区1面出土金属製品

第3章表18 IV区1面出土金属製品観察表 (PL. 9)

番号	遺構名	旧遺構番号	遺物の種類	計測値 (cm)		重量 (g)	残存状態	備考
				直径	厚さ			
1	186号土坑	120号土坑	銭貨	2.4	0.1	3.4	完形	元祐通宝。銅銭。北宋。元祐元年。1086年。
2	186号土坑	120号土坑	銭貨	2.4	0.15	3.4	完形	元豊通宝。銅銭。北宋。元豊元年。1078年。
3	186号土坑	120号土坑	銭貨	2.45	0.1	3.2	完形	皇宋通宝。銅銭。北宋。皇宋2年。1039年。
4	186号土坑	120号土坑	銭貨	2.5	0.1	3.6	完形	治平元宝。銅銭。北宋。治平元年。1064年。
5	186号土坑	120号土坑	銭貨	2.5	0.1	3.6	ほぼ完形	天聖元宝。銅銭。北宋。天聖元年。1023年。
6	186号土坑	120号土坑	銭貨	2.45	0.1	3.8	完形	宣和通宝。銅銭。北宋。宣和元年。1119年。
7	186号土坑	120号土坑	銭貨	2.5	0.1	3.5	完形	元豊通宝。銅銭。北宋。元豊元年。1078年。
8	186号土坑	120号土坑	銭貨	2.5	0.1	3.4	完形	天聖元宝。銅銭。北宋。天聖元年。1023年。
9	186号土坑	120号土坑	銭貨	2.4	0.1	3.8	完形	元豊通宝。銅銭。北宋。元豊元年。1078年。

第3章表19 N区1面土坑計測表

土坑 番号	長軸方向	平面形状	規模 (m)			出土遺物	重 複	旧番号	
			長径	短径	深さ				
1	北北東～南南西	長方形	2.60	0.70	—	—	—	172	
2	北北東～南南西	長方形	3.50	0.65	—	—	—	171	
3	西北西～東南東	(長方形)	(2.10)	0.65	—	—	—	170	
4	西北西～東南東	長方形	3.10	0.55	0.40	—	—	115	
5	西北西～東南東	長方形	6.00	0.80	0.64	—	—	114	
6	西北西～東南東	長方形	2.90	0.60	—	—	—	175	
7	西北西～東南東	長方形	4.65	0.80	—	—	—	174	
8	北北東～南南西	長方形	2.20	0.60	—	—	—	173	
9	北北東～南南西	長方形	1.90	0.45	—	—	—	178	
10	北北東～南南西	長方形	1.95	0.50	—	—	—	177	
11	西北西～東南東	長方形	2.95	0.65	—	—	—	176	
12	西北西～東南東	長方形	2.25	0.55	—	—	—	180	
13	西北西～東南東	長方形	2.15	0.65	—	—	—	179	
14	西北西～東南東	長方形	4.05	0.60	—	—	—	181	
15	西北西～東南東	不整形長方形	1.85	0.50	—	—	—	182	
16	西北西～東南東	不整形長方形	1.95	0.50	—	—	—	197	
17	西北西～東南東	長方形	(3.20)	0.70	—	—	20号土坑	183	
18	西北西～東南東	(長方形)	(0.95)	0.50	—	—	—	185	
19	北北東～南南西	長方形	3.60	1.05	—	—	—	186	
20	北北東～南南西	長方形	4.80	0.65	—	—	—	184	
21	北北東～南南西	長方形	1.80	0.60	—	—	—	188	
22	北北東～南南西	長方形	3.65	0.70	—	—	—	187	
23	西北西～東南東	長方形	(2.20)	0.65	—	—	—	23	
24	西北西～東南東	長方形	2.15	0.75	—	—	—	24	
25	西北西～東南東	(長方形)	(4.10)	0.60	—	—	—	22	
26	北北東～南南西	長方形	5.90	0.65	—	—	—	185	
27	北～南	橢円形	1.25	0.90	—	—	—	164	
28	北北西～南南東	円形	1.58	1.30	—	—	—	163	
29	西北西～東南東	長方形	4.55	0.80	—	—	—	162	
30	北北東～南南西	方形	1.30	0.95	—	—	—	202	
31	北北東～南南西	長方形	2.60	0.55	—	—	—	161	
32	西北西～東南東	長方形	1.90	0.75	—	—	—	199	
33	西北西～東南東	長方形	4.40	0.65	—	—	—	200	
34	西北西～東南東	長方形	3.35	0.60	—	—	—	190	
35	西北西～東南東	長方形	(1.75)	0.85	—	—	—	169	
36	西北西～東南東	長方形	1.65	0.65	—	—	—	168	
37	西北西～東南東	長方形	3.55	0.80	—	—	—	167	
38	西北西～東南東	長方形	3.10	0.65	—	—	—	166	
39	西北西～東南東	長方形	10.00	0.80	0.98	—	—	113	
40	北北東～南南西	長方形	2.40	0.60	—	—	—	160	
41	西北西～東南東	長方形	3.25	0.70	—	—	—	159	
42	西北西～東南東	(長方形)	(4.25)	0.65	0.42	—	—	112	
43	西北西～東南東	(長方形)	(4.05)	0.70	—	—	—	196	
44	西北西～東南東	長方形	4.45	0.75	—	—	—	195	
45	北北東～南南西	長方形	4.65	0.80	—	—	—	201	
46	北北東～南南西	長方形	4.55	0.75	—	—	—	158	
47	西北西～東南東	長方形	3.75	0.65	—	—	—	194	
48	北北西～南南東	橢円形	1.45	0.95	—	—	—	203	
49	北北東～南南西	長方形	2.50	0.70	0.32	—	—	50号土坑	116
50	西北西～東南東	長方形	2.50	(0.55)	0.48	—	—	49号土坑	117
51	北北東～南南西	長方形	6.55	0.65	—	—	—	189	
52	西北西～東南東	長方形	6.40	0.75	—	—	—	19	
53	北北東～南南西	橢円形	1.15	0.60	—	—	—	25	
54	西北西～東南東	橢円形	0.80	0.55	—	—	—	18	
55	西北西～東南東	長方形	2.60	0.65	—	—	—	21	
56	西北西～東南東	長方形	(1.50)	1.01	—	—	—	20	
57	北北東～南南西	長方形	2.15	0.45	—	—	—	17	
58	北北東～南南西	長方形	1.75	0.50	—	—	—	16	
59	北北東～南南西	長方形	1.15	0.55	—	—	—	15	
60	北～南	長方形	3.20	0.60	—	—	—	14	
61	北北東～南南西	長方形	1.35	0.45	—	—	—	62号土坑	12
62	—	(橢円形)	(0.65)	0.60	—	—	—	61号土坑	13
63	北北東～南南西	長方形	2.25	0.75	—	—	—	11	
64	東～西	長方形	10.75	0.90	—	歌賀陶器鉢	—	10	
65	北北東～南南西	長方形	10.00	0.75	—	—	—	9	
66	北北東～南南西	長方形	1.40	0.65	—	—	—	157	
67	北北東～南南西	長方形	3.00	0.75	—	—	—	156	
68	西北西～東南東	長方形	3.10	0.65	—	—	—	69号土坑	153
69	西北西～東南東	長方形	(2.40)	0.40	—	—	—	68号土坑	154
70	北北東～南南西	長方形	1.80	0.65	—	—	—	155	

第3章 1面 (Hr-FP 上面) の遺構と遺物

土坑番号	長軸方向	平面形状	規模 (m)			出土遺物	重 複	旧番号
			長径	短径	深さ			
71	北北東～西南西	長方形	1.10	0.50	—	—	—	198
72	東～西	(長方形)	(0.95)	0.63	—	—	73・74・75号土坑	144
73	北北東～西南西	(長方形)	(0.55)	0.40	—	—	72・74・75号土坑	145
74	北北東～西南西	(長方形)	(3.85)	(0.75)	—	—	72・73・75号土坑	143
75	北北東～西南西	不整形長方形	6.40	0.50	—	—	72・73・74号土坑	142
76	西北西～東南東	長方形	1.18	0.50	—	—	—	193
77	西北西～東南東	長方形	1.40	0.60	—	—	—	152
78	東～西	長方形	1.08	0.45	—	—	79号土坑	151
79	西北西～東南東	長方形	(2.00)	0.55	—	—	79号土坑	150
80	西北西～東南東	長方形	1.20	0.45	—	—	79号土坑	149
81	北北東～西南西	長方形	2.15	0.75	—	—	—	148
82	北北東～西南西	長方形	2.10	0.70	—	—	—	147
83	東～西	楕円形	1.05	0.60	—	—	—	192
84	西北西～東南東	長方形	2.45	0.65	—	—	—	146
85	東～西	長方形	1.50	0.60	—	—	—	191
86	北北東～西南西	長方形	5.10	0.75	—	—	—	141
87	西北西～東南東	長方形	(3.70)	0.75	—	—	88号土坑	140
88	西北西～東南東	長方形	(3.45)	0.75	—	—	87号土坑	139
89	西北西～東南東	長方形	(6.00)	0.75	1.10	—	—	109
90	東～西	(長方形)	(0.90)	0.65	0.14	—	—	111
91	西北西～東南東	楕円形	1.85	1.35	1.16	—	—	110
92	北北東～西南西	長方形	1.98	0.70	—	—	—	135
93	西北西～東南東	長方形	4.65	0.65	0.82	—	—	108
94	西北西～東南東	長方形	1.78	0.55	—	—	—	134
95	西北西～東南東	長方形	3.90	0.75	—	—	—	90
96	西北西～東南東	長方形	5.45	0.75	—	—	—	89
97	西北西～東南東	長方形	(2.90)	0.65	—	—	98・99号土坑	94
98	北北東～西南西	長方形	2.00	0.85	—	—	99号土坑	95
99	西北西～東南東	長方形	5.30	0.80	—	—	98号土坑	93
100	西北西～東南東	長方形	3.95	0.95	—	—	—	5
101	西北西～東南東	長方形	13.10	0.80	—	—	—	4
102	北北東～西南西	楕円形	1.10	0.85	—	—	—	7
103	北北東～西南西	長方形	2.60	0.75	—	—	—	8
104	—	円形	0.90	0.85	—	—	—	6
105	東北東～西南西	長方形	10.90	0.75	—	—	—	2
106	東北東～西南西	長方形	(1.80)	0.70	—	—	—	1
107	北北東～西南西	長方形	1.25	0.55	—	—	—	254
108	東北東～西南西	長方形	2.35	0.65	—	—	—	235
109	北西～南東	長方形	1.50	0.65	—	—	110号土坑	236
110	北～南	不明	(0.65)	0.80	—	—	109号土坑	237
111	北北東～西南西	長方形	1.40	0.75	—	—	—	238
112	北北東～西南西	長方形	1.40	0.55	—	—	—	239
113	北～南	長方形	2.60	0.80	—	—	—	261
114	西北西～東南東	長方形	6.50	0.75	—	—	116号土坑	260
115	北北東～西南西	長方形	1.40	0.50	—	—	2号溝	264
116	西南西～東北東	長方形	14.10	0.70	—	—	2号溝、114号土坑	263
117	西南西～東北東	長方形	2.80	0.50	—	—	—	265
118	北北東～西南西	長方形	2.45	0.65	—	—	119号土坑	91
119	西北西～東南東	長方形	2.45	0.80	—	磁器片	118号土坑	92
120	北西～南東	長方形	1.80	0.65	—	—	—	97
121	西北西～東南東	長方形	1.50	0.50	—	—	—	96
122	西北西～東南東	長方形	1.75	0.60	—	—	—	85
123	西北西～東南東	長方形	2.10	0.65	—	—	125号土坑	87
124	西北西～東南東	長方形	2.35	0.65	—	—	—	88
125	西北西～東南東	(長方形)	(6.20)	0.70	—	—	123号土坑	86
126	西北西～東南東	(長方形)	(7.60)	0.70	—	—	128・132号土坑	83
127	北北東～西南西	長方形	2.35	0.50	—	—	2号溝	84
128	北北東～西南西	(長方形)	(1.30)	0.55	—	—	129・132号土坑	74
129	北北東～西南西	長方形	1.15	0.70	—	—	128・132号土坑	73
130	西北西～東南東	不明	2.70	(0.35)	—	—	—	63
131	北北東～西南西	長方形	2.30	0.55	—	—	132号土坑	72
132	北北東～西南西	長方形	10.35	0.65	—	—	2号溝、128・129号土坑	71
133	北～南	長方形	(2.25)	0.55	—	—	135号土坑	68
134	西北西～東南東	長方形	(2.80)	0.65	—	—	133・135号土坑	69
135	東～西	長方形	2.30	0.90	0.68	—	133号土坑	67
136	北西～南東	長方形	0.80	0.45	—	—	—	62
137	東～西	長方形	(2.15)	(0.65)	—	—	—	66
138	北北西～南南東	長方形	1.85	0.70	—	—	—	65
139	東北東～西南西	長方形	2.30	0.55	—	—	—	61
140	北北東～西南西	長方形	5.80	0.65	—	—	—	64
141	北西～南東	長方形	1.15	0.55	—	—	—	59
142	北北東～西南西	長方形	1.65	0.50	—	—	—	60

第4節 IV区1面の遺構と遺物

土坑 番号	長軸方向	平面形状	規模 (m)			出土 遺物	重 複	旧番号
			長さ	幅	深さ			
143	北北東～南南西	長方形	1.55	0.40	—	—	—	268
144	北北東～南南西	長方形	1.30	(0.35)	—	—	—	271
145	北北東～南南西	長方形	3.30	1.45	—	—	—	266
146	北北東～南南西	長方形	2.10	0.65	—	—	—	267
147	北北東～南南西	長方形	2.25	0.58	0.50	—	—	107
148	西北西～東南東	(長方形)	(1.90)	0.70	—	—	—	132
149	西北西～東南東	(長方形)	(2.60)	0.75	0.94	—	—	106
150	北北東～南南西	長方形	2.25	0.49	—	—	—	131
151	北北東～南南西	長方形	(4.25)	0.55	—	—	—	152号土坑
152	西北西～東南東	長方形	(15.30)	0.75	—	—	—	151・153号土坑
153	西北西～東南東	長方形	6.25	0.65	—	—	—	152号土坑
154	北北東～南南西	長方形	4.35	0.50	—	—	—	81
155	北北東～南南西	長方形	8.40	0.85	—	—	—	77
156	北北東～南南西	長方形	4.25	0.65	—	—	—	79
157	北北東～南南西	長方形	2.00	0.55	—	—	—	78
158	北北東～南南西	長方形	2.10	0.90	—	—	—	75
159	北北東～南南西	不明	1.10	—	—	—	—	76
160	西北西～東南東	長方形	2.80	0.60	—	—	—	80
161	北東～南西	長方形	3.45	0.55	—	—	—	136
162	西北西～東南東	長方形	4.68	0.55	—	—	—	129
163	西北西～東南東	長方形	3.42	0.70	—	—	—	130
164	北北東～南南西	不明	(1.65)	0.70	—	—	—	127
165	北北東～南南西	長方形	4.35	0.55	—	—	—	128
166	北北東～南南西	(長方形)	(3.00)	0.60	—	—	—	126
167	北北東～南南西	長方形	2.50	0.65	—	—	—	1号溝
168	北北東～南南西	長方形	4.25	0.55	—	—	—	58
169	北東～南西	長方形	5.25	0.60	—	—	—	1号溝、170号土坑
170	東～西	長方形	2.80	0.85	—	—	—	169号土坑
171	北東～西南西	不整形長方形	1.90	0.45	—	—	—	70
172	北東～南西	方形	2.25	1.65	0.92	—	—	1号溝
173	西北西～東南東	長方形	8.75	0.65	—	—	—	174号土坑
174	西北西～東南東	長方形	2.10	0.70	—	—	—	173号土坑
175	西北西～東南東	長方形	1.50	0.45	—	—	—	1号溝
176	北北東～南南西	長方形	12.30	0.85	—	—	—	177号土坑
177	北東～南西	長方形	(2.40)	0.85	—	—	—	176号土坑
178	西北西～東南東	長方形	4.70	0.70	—	—	—	179号土坑
179	西北西～東南東	長方形	(3.55)	0.75	—	—	—	178・180号土坑
180	西北西～東南東	長方形	4.65	0.70	—	—	—	179号土坑
181	北北東～南南西	長方形	5.65	0.70	—	—	—	—
182	北東～南西	長方形	3.90	0.65	—	—	—	49
183	北北東～南南西	長方形	4.75	0.50	—	—	—	47
184	北北東～南南西	長方形	4.00	0.60	—	—	—	46
185	西北西～東南東	長方形	(4.00)	0.60	—	—	—	125
186	北北東～南南西	長方形	(1.25)	0.60	—	鏡貨	—	187号土坑
187	西北西～東南東	長方形	1.40	0.55	—	—	—	186号土坑
188	北北東～南南西	長方形	2.00	0.65	—	—	—	123
189	北～南	方形	1.70	1.20	—	—	—	122
190	西南西～東北東	長方形	(2.25)	0.85	—	—	—	121
191	北東～南西	長方形	2.30	0.60	—	—	—	48
192	北北東～南南西	長方形	4.40	0.70	—	—	—	193号土坑
193	北北東～南南西	不明	0.55	(0.30)	—	—	—	192号土坑
194	北西～南東	長方形	1.50	0.40	—	—	—	43
195	北北東～南南西	長方形	2.80	0.45	—	—	—	197号土坑
196	北西～南東	長方形	3.50	0.45	—	—	—	198号土坑
197	北西～南東	長方形	3.85	0.50	—	—	—	195・198号土坑
198	北東～南西	長方形	(1.75)	0.55	—	—	—	196・197号土坑
199	西北西～東南東	長方形	4.15	0.65	—	—	—	37
200	北北東～南南西	長方形	3.90	0.65	—	—	—	201・203号土坑
201	西北西～東南東	長方形	(1.00)	0.65	—	—	—	200・203号土坑
202	西北西～東南東	長方形	3.10	0.60	—	—	—	200・201・204号土坑
203	西北西～東南東	長方形	5.15	0.70	—	—	—	203号土坑
204	東～西	長方形	1.65	0.75	—	—	—	33
205	北北東～南南西	長方形	2.00	0.50	—	—	—	32
206	西北西～東南東	長方形	11.40	0.70	—	—	—	207・210・211号土坑
207	北北東～南南西	長方形	(7.15)	0.50	—	—	—	206・208・209号土坑
208	—	円形	0.95	0.85	—	—	—	207・209号土坑
209	西北西～東南東	長方形	(2.50)	0.70	—	—	—	207・208号土坑
210	北北東～南南西	長方形	6.00	0.70	—	—	—	205号土坑
211	北北東～南南西	長方形	(3.70)	0.65	—	—	—	206号土坑
212	西北西～東南東	長方形	2.10	0.45	—	—	—	284
213	西北西～東南東	長方形	5.45	0.65	—	—	—	31
214	西北西～東南東	長方形	(1.95)	0.55	—	—	—	278

第3章 1面 (Hr-FP上面) の遺構と遺物

土坑番号	長軸方向	平面形状	規模 (m)			出土遺物	重複	旧番号
			長径	短径	深さ			
215	西北西～東南東	長方形	5.75	0.80	—	—	216号土坑	276
216	西北西～東南東	長方形	(2.80)	0.70	—	—	215号土坑	277
217	西北西～東南東	長方形	2.55	0.40	—	—	1号溝	275
218	西北西～東南東	長方形	3.95	0.85	—	—	219号土坑	279
219	西北西～東南東	長方形	3.95	0.60	—	—	218号土坑	280
220	西北西～東南東	長方形	(2.65)	0.95	—	—	1号溝、221号土坑	281
221	東～西	長方形	(1.55)	0.80	—	—	1号溝、220号土坑	282
222	北北東～南南西	長方形	2.65	0.65	—	—	—	285
223	北北東～南南西	長方形	6.25	0.65	—	—	—	286
224	北北東～南南西	不明	(0.70)	(0.75)	—	—	—	284

5. 溝

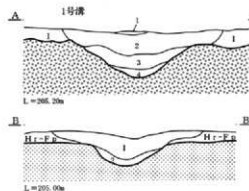
IV区1面では、溝が2条検出された。1号溝及び2号溝共に、「く」の字型を呈する。1号溝は連続しているが、2号溝は一部断続的である。

1号溝は、まず北北東～南南西に走行する部分と北西～南東に走行する部分に分かれる。北北東～南南西に走行する部分の規模は、全長約30m・幅約50cm～80cm・深さ約25cm～60cmである。重複は、220号・221号・217号土坑と認められたが、新旧関係は溝の方が古く土坑の方が新しい。北西～南東に走行する部分の規模は、全長約55m・幅約60cm～1.8m・深さ約25cm～60cmである。重複は、165号・167号・169号・172号土坑と認められたが、新旧関係は溝の方が古く土坑の方が新しい。

2号溝は、1号溝と同様に、まず北北東～南南西に走行する部分と北西～南東に走行する部分に分かれる。北北東～南南西に走行する部分の規模は、全長約20m・幅約40cm～80cm・深さ約15cm～50cmである。重複は、115号・174号・175号土坑と認められたが、新旧関係は溝の方が古く土坑の方が新しい。北西～南東に走行する部分の規模は、全長約58m・幅約60cm～1.6m・深さ約15cm～50cmである。重複は、96号・116号・127号・132号土坑と認められたが、新旧関係は溝の方が古く土坑の方が新しい。1号溝及び2号溝共に、覆土は、黒褐色土及びFPであり、底部に砂等の堆積が無いため、水が流れた痕跡は認められない。

第3章表20 IV区1面溝計測表

遺構名	走行方向	規模			遺物	重複
		全長	幅	深さ		
1号溝	北北東～南南西・北西～南東	約30m～55m	約50cm～1.8m	約25cm～60cm	無し	165号・167号・169号・172号・217号・220号・221号土坑
2号溝	北北東～南南西・北西～南東	約20m～58m	約40cm～1.6m	約15cm～50cm	無し	96号・115号・116号・127号・132号・174号・175号土坑



IV区1面1号溝

A-A'

1. 黒色～黒褐色土 段丘層のみに残存。FPを含む。

2. 黒褐色土 FP(φ1cm以下)を非常に多く含む。

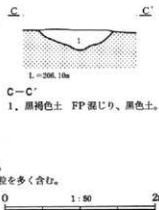
3. 黒褐色土 FP(φ2cm以下)を多く含む。

4. FP(φ1cm以下)を主体とし、黒褐色土粒を多く含む。

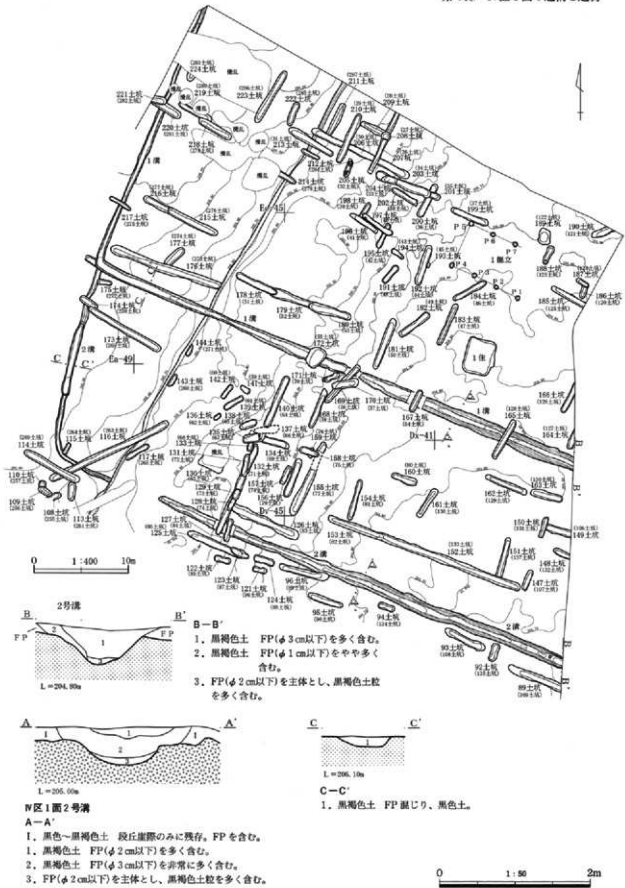
B-B'

1. 黒褐色土 FP(φ3cm以下)を多く含む。

2. FP(φ3cm以下)を主体とし、黒褐色土粒を多く含む。



第3章第49図 IV区1面1号溝断面

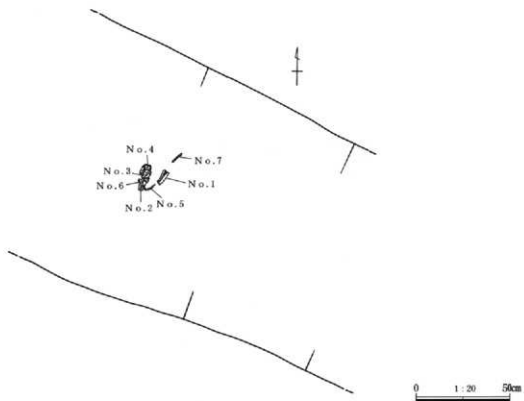


第3章第50図 IV区1面1号・2号溝、2号溝断面

1号溝出土馬歯 (PL. 8)

IV区1面の1号溝から、馬歯が検出された。本1号溝は、IV区の北側に位置し、「く」の字型を呈している。本馬歯は、北西から南東にかけて続く溝の東側で検出されている。

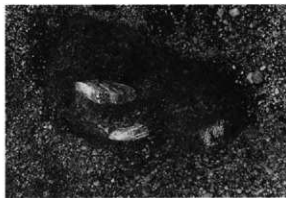
自然科学分析によると、本馬歯は、上顎左右のM1 (第1大白歯) ~ M3 (第3大白歯) の6本である。同一個体のもので、性別不明で約3歳~4歳の幼齡馬であると推定されている。



第3章第51図 IV区1面1号溝出土馬歯



第3章写真7 IV区1面1号溝出土馬歯



第3章写真8 IV区1面1号溝出土馬歯

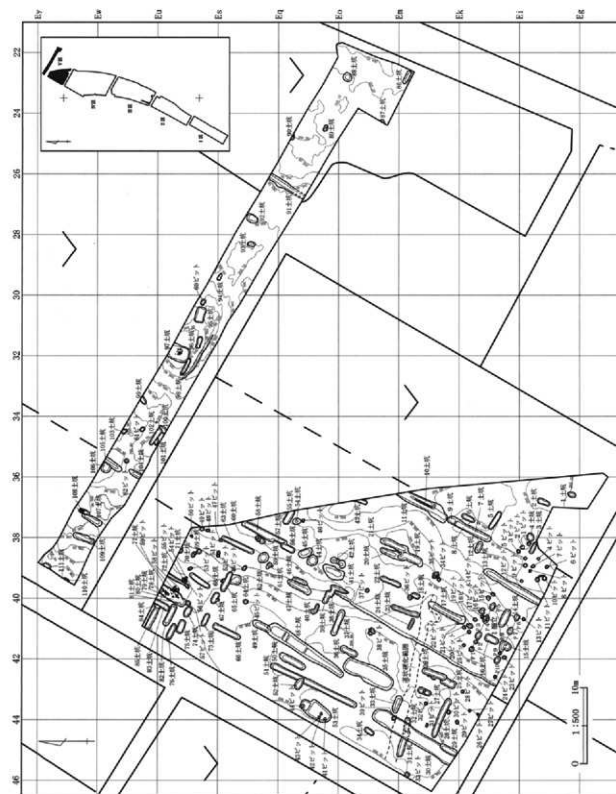
第5節 V区1面の遺構と遺物

V区の総面積は2,545.1㎡で、調査区の中では最小の面積であり、2箇所に分かれる。1面は、6世紀中頃に榛名山が噴火して降下した軽石であるFP(Hr-FP)層の上面である。したがって、時代は6世紀中頃～近代までとなる。但し、ほとんどの遺構は中世～近代であると推定される。V区1面では、

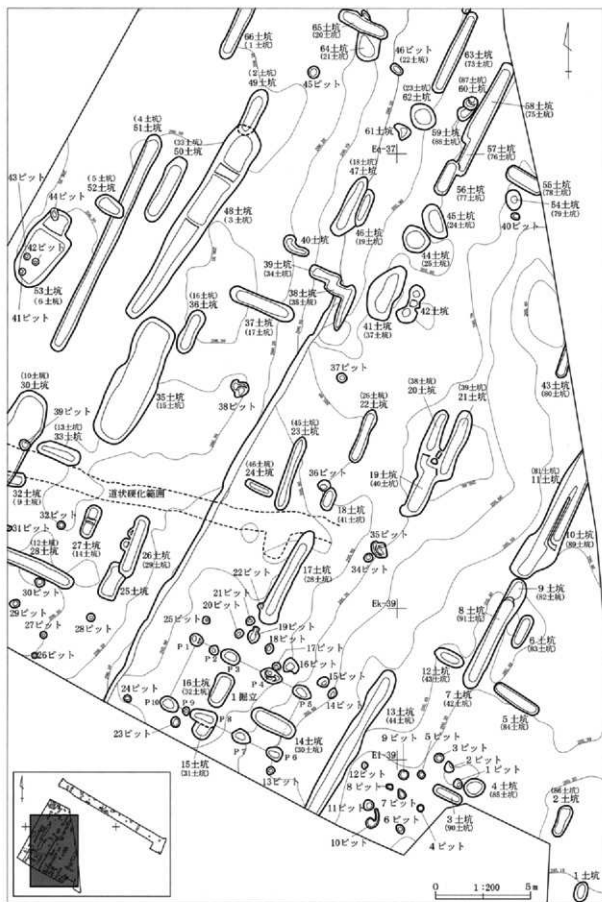
掘立柱建物1棟・土坑111基・ピット62基が検出された。なお、I区及びII区間の農道下から、墳丘部を削平された古墳が検出されているが、I区とII区のどちらにも入らず、しかも時代も古墳時代であるために、章を別にして第4章で報告している。



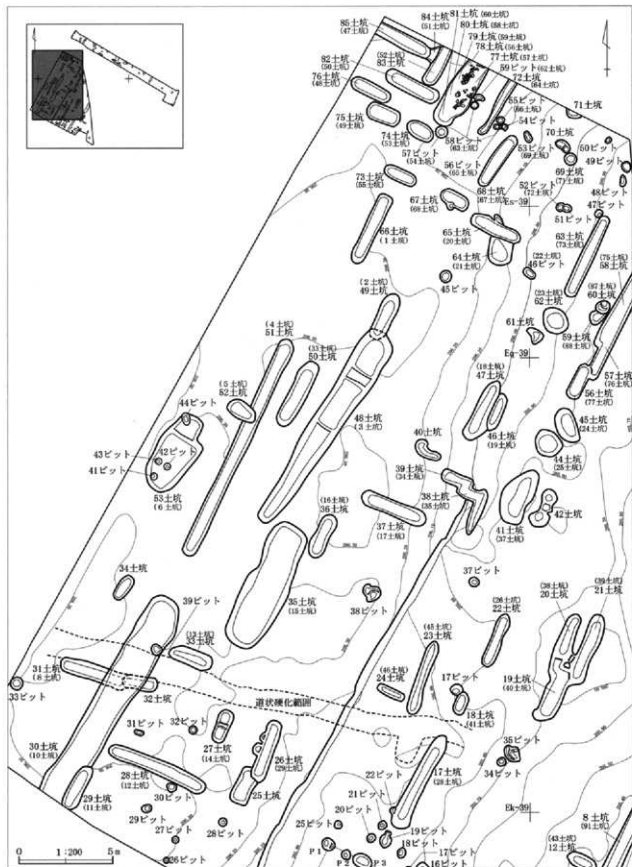
第3章写真9 V区1面空撮 [上が北]



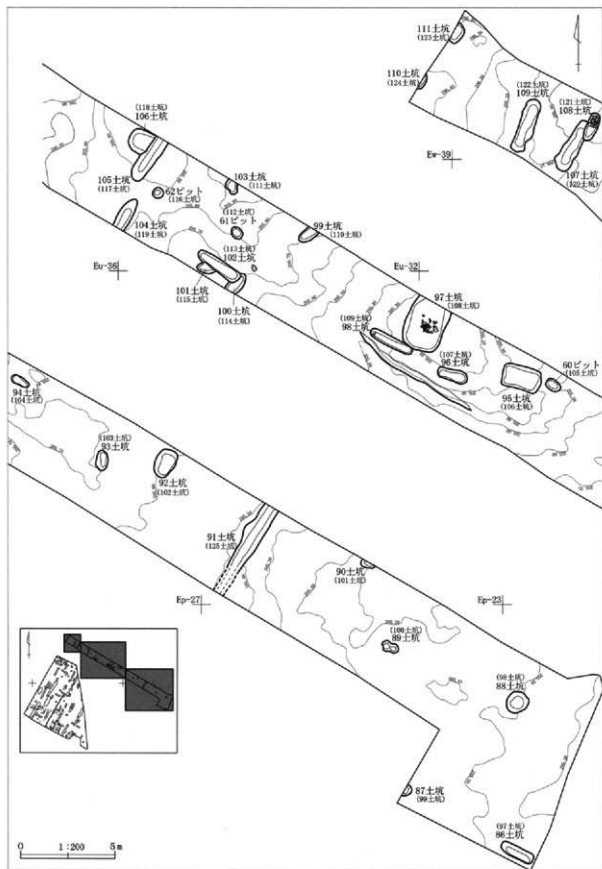
第3章第52図 V区1面 (Hr-FP 上面) 遺構全体図



第3章第53図 V区1面(Hr-FP上面)遺構位置図(1)



第3章第54図 V区1面 (Hr-FP 上面) 遺構位置図②



第3章第55図 V区1面 (Hr-FP上面) 遺構位置図(3)

1. 掘立柱建物 (PL, 11)

V区1面から、掘立柱建物が1棟検出された。本1号掘立柱建物は、調査区南部中央に位置する。

規模：基本は、1間×3間であるが、変則的にピットが2基認められる。柱穴の中心から計測して、桁行(長軸)約6.2m・梁行(短軸)約3.6mである。

柱穴：柱穴は、全部で10基検出された。柱穴の大きさは、直径約40cm～約1.45mとばらつきがあり、深さ約15cm～約55cmとばらつきがある。

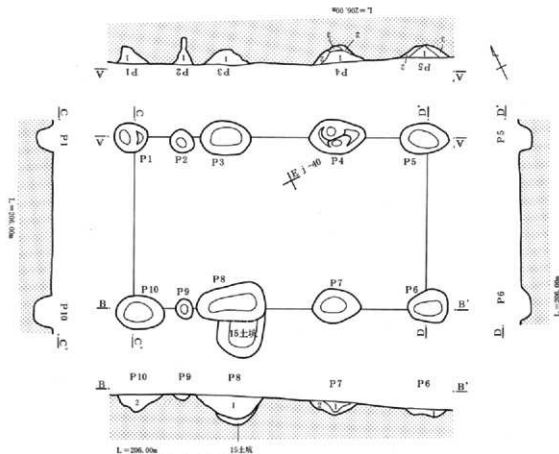
桁間：桁間は、柱穴の中心で計測して、約1m～約1.2mである。

梁間：梁間は、柱穴の中心で計測して、約3.6mである。

遺物：遺物は、検出されなかった。

時期：時期を推定できる遺物は検出されなかったため、時期は不明である。しかしながら、恐らく、中世～近世であると推定される。

重複：重複は、柱穴のP8と15号土坑に認められた。新旧関係は、P8の方が新しい。また、本掘立柱建物の内部に、14号土坑と16号土坑が検出された。本掘立柱建物と関連するかどうか及び新旧関係も不明である。



V区1面1号掘立柱建物

A-A'、B-B'

1. 黒褐色土 FP混土。やわらかい。
2. 黒褐色土 FP混土。FP多く、やや明るい色調。
3. にぶい黄褐色土 FP混土。FP主体。

15(31)号土坑

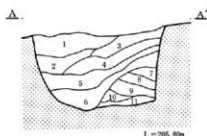
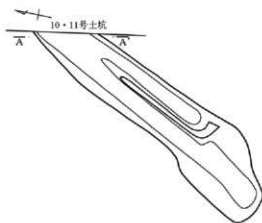
黒褐色土 FP少ない。黒色土主体でフカフカした土。

第3章第56図 V区1面1号掘立柱建物

2. 土坑 (PL.10)

V区1面から、土坑が11基検出された。これらの土坑は、時代を特定できる出土遺物もほとんどないため、構築時期は不明であるが、ほとんどが中世～近代であると推定される。白井地区ではこんにやく栽培が盛んであり、こんにやく芋を冬期に保存する際、穴を掘って埋めたと言われている。これら土坑の多くは、この痕跡であると推定される。

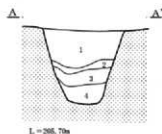
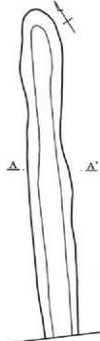
ここでは、11基の土坑中、10号・11号・13号・14号・17号・29号・30号・35号・97号・107号・108号土坑の11基の土坑について、平面図を示した。なお、平面図の縮尺は1/100で、断面図の縮尺は1/50で示している。



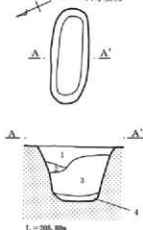
V区1面10(89)・11(81)号土坑

1. FP主体 粒小さい、砂利のよう。
2. FP主体 粒大きい。φ2～3cm程度。
3. FP主体 φ2cm程度。
4. FP主体 黒色土が混じる。
5. FP主体 粒大きい。φ2～3cm程度。
6. 黒色土 粒の小さなFPを含む。
7. FP主体 砂利のようなFP。
8. FP主体 砂利のような大きさに、φ2cm程度のFPが少し混じる。
9. FP主体 砂利のよう。
10. FP主体 φ2cm程度。
11. 黒色土 粒の小さなFPを含む。

13号土坑



14号土坑



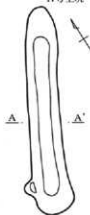
V区1面14(30)号土坑

1. 暗褐色土 フカフカしてやわらかい。FPごく少量。
2. FPの崩落土
3. 暗褐色土 FP主体。
4. 黒色土 FP少量混入する。

V区1面13(44)号土坑

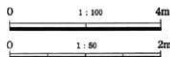
1. FP主体 粒大きい。φ5cm程。汚れている。
2. 黒色土 FP混土。FPは最少ない。
3. FP主体 粒小さい。φ1cm程。汚れている。
4. 黒色土 FP少ない。2層と同様の土。

17号土坑



V区1面17(28)号土坑

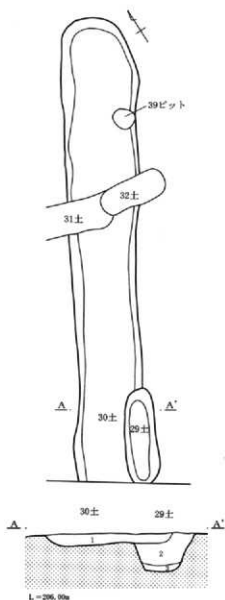
1. 暗褐色土 汚れたFP主体層。



第3章第57図 V区1面土坑(1)

第3章 1面 (Hr-FP 上面) の遺構と遺物

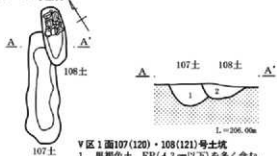
29・30号土坑



V区1面29(11)・30(10)号土坑

1. 暗褐色土 FP 混土(少量)新しう。FPがわずかに互層して入る。
2. FP 主体 汚れたFP
3. 黒色土 FP 混土。黒色土主体。

107・108号土坑

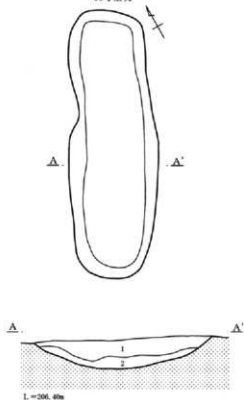


V区1面107(120)・108(121)号土坑

1. 黒褐色土 FP(φ3cm以下)を多く含む。
2. 黒褐色土 FP(φ3cm以下)、礫(φ5~20cm)を含む。

第3章第58図 V区1面土坑(2)

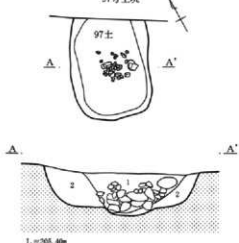
35号土坑



V区1面35(15)号土坑

1. 暗褐色土 FP 混土、黒色土主体。
2. 汚れたFP

97号土坑

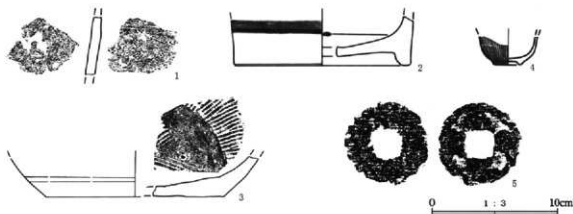


V区1面97(108)号土坑

1. FP(φ10cm以下)を主体とし、礫(φ20cm以下)を非常に多く含む。
2. FP(φ3cm以下)を主体とし、黒褐色土粒を多く含む。

0 1:100 4m

0 1:50 2m



第3章第59図 V区1面出土陶磁器・金属製品

第3章表21 V区1面出土陶磁器観察表 (PL, 11)

番号	遺構名	旧遺構番号	類別・器種	計測値 (cm)	残存状態	成・整形技法の特徴	備考
1	28号土坑	12号土坑	軟質陶器 内耳鍋	残高・4.6	体部破片	耳部残存しないが、器厚から内耳鍋と判断した。	在地。中世
2	77号土坑	57号土坑	陶器 榑木鉢	底・(14.3) 残高・3.6	底部破片	体部外面灰釉。	瀬戸・美濃 18世紀～19世紀
3	77号土坑	57号土坑	陶器 榑り鉢	底・(14.0) 残高・3.0	底部破片	内面使用により磨滅。	帯・明石、江戸時代
4	表拝	—	磁器 ミニチュアか、紅皿	底・(2.2) 残高・2.3	体部～底部	型作り。紅皿と同様な作り。釉調であるが、深い 縦線を呈する。江戸時代から明治初期であろう。	肥前 江戸～明治初期

第3章表22 V区1面出土金属製品観察表 (PL, 11)

番号	遺構名	旧遺構番号	遺物の種類	計測値 (cm)		重量 (g)	残存状態	備考
				直径	厚さ			
5	83号土坑	52号土坑	鉄貨	2.3	0.1	1.7	ほぼ完形	表面の腐食により不説。銅銭。

第3章表23 V区1面土坑計測表

土坑番号	長軸方向	平面形状	規模 (m)			出土遺物	重 複	旧番号
			長径	短径	深さ			
1	北北東～南南西	楕円形	1.20	0.70	—	—	—	—
2	北北東～南南西	長方形	1.80	0.70	—	—	—	86
3	西北西～東南東	長方形	1.70	0.60	—	—	—	90
4	—	円形	1.15	1.00	—	—	—	85
5	西北西～東南東	長方形	2.70	0.75	—	—	—	84
6	北北東～南南西	長方形	1.95	0.65	—	—	—	83
7	北北東～南南西	長方形	5.40	—	—	—	8・9号土坑	42
8	—	長方形	—	—	—	—	7・9号土坑	91
9	—	長方形	(1.10)	1.00	—	—	7・8号土坑	82
10	北北東～南南西	(長方形)	(6.95)	1.45	—	—	11号土坑	89
11	北北東～南南西	長方形	—	—	1.00	—	10号土坑	81
12	北北東～東南東	楕円形	1.65	0.80	—	—	—	43
13	北北東～南南西	長方形	(8.60)	1.00	0.98	—	—	44
14	北北東～東南東	長方形	2.50	1.10	0.72	—	—	30
15	西北西～東南東	不明	(0.80)	1.00	—	—	1号掘立柱建物 P 8	31
16	北北東～南南西	長方形	1.90	0.95	—	—	—	32
17	北北東～南南西	長方形	5.50	0.85	0.60	—	22号ビット	28
18	北北東～南南西	長方形	1.30	0.65	—	—	—	41
19	北北東～南南西	長方形	(3.95)	1.00	—	—	20・21号土坑	40
20	—	長方形	(3.60)	0.90	—	—	19・21号土坑	38
21	—	長方形	4.10	0.85	—	—	19・20号土坑	39
22	北北東～南南西	長方形	2.85	0.60	—	—	—	26
23	北北東～南南西	長方形	4.10	0.60	—	—	—	45
24	西北西～東南東	長方形	1.55	0.50	—	—	—	46
25	北北東～南南西	長方形	2.00	0.95	—	—	26号土坑	—
26	北北東～南南西	長方形	3.40	0.80	—	—	25号土坑	29
27	北北東～南南西	長方形	1.85	0.75	—	—	—	14
28	西北西～東南東	長方形	5.50	0.85	—	軟質陶器内耳鍋	—	12
29	北北東～南南西	長方形	2.50	0.85	0.50	—	—	11
30	北北東～南南西	長方形	12.30	1.70	0.16	—	31・32号土坑	10
31	西北西～東南東	長方形	(3.50)	0.90	—	—	30・32号土坑	8
32	西北西～東南東	長方形	(1.90)	0.70	—	—	30・31号土坑	9
33	西北西～東南東	長方形	2.35	0.90	—	—	—	13

第3章 1面 (Hr-FP 上面) の遺構と遺物

土坑番号	長軸方向	平面形状	規模 (m)			出土遺物	重 複	旧番号
			長径	短径	深さ			
34	西北西～東南東	楕円形	1.50	0.65	—	—	—	—
35	北北東～南南西	長方形	6.95	1.95	0.38	—	—	15
36	北北東～南南西	長方形	2.50	0.85	—	—	—	16
37	西北西～東南東	長方形	3.65	0.85	—	—	—	17
38	西北西～東南東	不整形長方形	1.80	0.65	—	—	39号土坑	35
39	西北西～東南東	不整形長方形	1.90	0.70	—	—	38号土坑	34
40	北西～南東	勾玉形	1.50	0.55	—	—	—	—
41	北北東～南南西	楕円形	3.20	1.20	—	—	—	37
42	北北東～南南西	不整形長方形	2.15	0.45	—	—	—	—
43	北北東～南南西	(長方形)	(1.50)	0.50	—	—	—	80
44	—	円形	1.50	1.35	—	—	—	25
45	北北西～南南東	楕円形	1.90	1.10	—	—	—	24
46	北北東～南南西	長方形	2.15	0.65	—	—	47号土坑	19
47	北北東～南南西	長方形	3.45	0.80	—	—	46号土坑	18
48	北北東～南南西	長方形	11.95	1.15	—	—	49号土坑	3
49	北北東～南南西	長方形	(2.70)	0.85	—	—	48号土坑	2
50	北北東～南南西	長方形	3.85	0.95	—	—	—	33
51	北北東～南南西	長方形	12.65	0.80	—	—	52号土坑	4
52	西北西～東南東	長方形	1.80	0.95	—	—	51号土坑	5
53	北北東～南南西	不整形	4.40	1.95	—	—	41～44号ビット	6
54	北～南	楕円形	1.10	0.85	—	—	—	79
55	西北西～東南東	長方形	(1.95)	0.90	—	—	—	78
56	北北東～南南西	長方形	2.00	0.80	—	—	57号土坑	77
57	北北東～南南西	長方形	(1.80)	0.60	—	—	56・58号土坑	76
58	北北東～南南西	長方形	(4.80)	0.85	—	—	57号土坑	75
59	—	不明	(0.70)	0.70	—	—	60号土坑	88
60	—	円形	0.75	0.70	—	—	59号土坑	87
61	—	不明	1.00	0.45	—	—	—	—
62	北北西～南南東	楕円形	1.45	1.30	—	—	—	23
63	北北東～南南西	長方形	4.75	0.75	—	—	—	73
64	北～南	(長方形)	(1.40)	1.30	—	—	65号土坑	21
65	西北西～東南東	長方形	2.85	0.65	—	—	64号土坑	20
66	北北東～南南西	長方形	3.95	0.75	—	—	—	1
67	西北西～東南東	長方形	1.60	0.80	—	—	—	68
68	北北東～南南西	長方形	3.25	0.70	—	—	—	67
69	—	円形	0.70	0.70	—	—	—	71
70	—	楕円形	0.85	0.45	—	—	—	70
71	—	不明	(0.40)	0.80	—	—	—	—
72	北北東～南南西	長方形	(3.40)	0.30	—	—	—	64
73	西北西～東南東	長方形	1.85	0.70	—	—	—	55
74	西北西～東南東	楕円形	1.55	0.90	—	—	—	53
75	西北西～東南東	長方形	1.90	0.95	—	—	—	49
76	西北西～東南東	長方形	2.30	0.80	—	—	—	48
77	北北東～南南西	(長方形)	(3.85)	1.15	—	陶器植木鉢・漆鉢	78・79・80・81号土坑	57
78	—	不明	—	—	—	—	77・79・80・81号土坑	56
79	—	不明	—	—	—	—	77・78・80・81号土坑	59
80	—	不明	—	—	—	—	77・78・79・81号土坑	58
81	—	不明	—	—	—	—	77・78・79・80号土坑	60
82	西北西～東南東	長方形	3.15	0.85	—	—	—	50
83	西北西～東南東	(長方形)	(2.25)	0.75	—	鏡貨	84号土坑	52
84	—	不明	(1.00)	0.40	—	—	83・85号土坑	51
85	西北西～東南東	(長方形)	(3.10)	0.80	—	—	84号土坑	47
86	西北西～東南東	長方形	1.85	0.65	—	—	—	97
87	北北東～南南西	不明	0.70	(0.40)	—	—	—	99
88	—	円形	1.25	1.10	—	—	—	98
89	西北西～東南東	不整形	0.95	0.45	—	—	—	100
90	西北西～東南東	不明	0.80	(0.35)	—	—	—	101
91	北北東～南南西	(長方形)	(3.70)	0.75	—	—	—	125
92	北北東～南南西	長方形	1.40	1.00	—	—	—	102
93	北～南	長方形	1.00	0.85	—	—	—	163
94	西北西～東南東	長方形	1.05	0.40	—	—	—	104
95	西北西～東南東	長方形	2.15	1.25	—	—	—	106
96	西北西～東南東	長方形	1.60	0.55	—	—	—	107
97	北北東～南南西	方畚か	(2.65)	2.15	0.54	—	98号土坑	108
98	西北西～東南東	長方形	2.45	0.65	—	—	97号土坑	109
99	北北東～南南西	(長方形)	(1.00)	0.70	—	—	—	110
100	北北東～南南西	(長方形)	(1.20)	0.70	—	—	102号土坑	114
101	東～西	不明	(0.65)	0.60	—	—	102号土坑	115
102	西北西～東南東	長方形	2.60	0.50	—	—	100・101号土坑	113
103	北北東～南南西	不明	(0.55)	0.60	—	—	—	111
104	北北東～南南西	(楕円形)	(1.80)	0.70	—	—	—	119
105	北北東～南南西	(長方形)	(2.65)	0.95	—	—	106号土坑	117
106	西北西～東南東	(長方形)	(1.25)	1.35	—	—	105号土坑	118

第5節 V区1面の遺構と遺物

土塔番号	長軸方向	平面形状	規模 (m)			出土遺物	重 複	旧番号
			長径	短径	深さ			
107	北北東～南南西	長方形	3.00	0.85	0.28	—	168号土坑	120
108	北北東～南南西	長方形	1.60	0.65	0.18	—	107号土坑	121
109	北北東～南南西	長方形	3.00	0.65	—	—	—	122
110	北北東～南南西	不明	0.90	(0.30)	—	—	—	124
111	北北東～南南西	不明	1.10	0.60	—	—	—	123

第3章表24 V区1面ビット計測表

ビット番号	長軸方向	平面形状	規模 (m)			出土遺物	重 複	旧番号
			長径	短径	深さ			
1	西南西～東北東	円形	0.57	0.50	—	—	—	—
2	北～南	不整形円形	0.60	0.38	—	—	—	—
3	東～西	円形	直径 0.54	—	—	—	—	—
4	北～南	円形	直径 0.44	—	—	—	—	—
5	北～南	楕円形	0.44	0.35	—	—	—	—
6	北北西～南南東	楕円形	0.56	0.35	—	—	—	—
7	北北西～南南東	楕円形	0.58	0.30	—	—	—	—
8	東～西	不整形円形	0.38	0.28	—	—	—	—
9	東～西	円形	直径 0.54	—	—	—	—	—
10	東～西	不整形	0.68	0.48	—	—	—	—
11	南西～北東	不整形円形	0.60	0.48	—	—	—	—
12	北～南	円形	直径 0.40	—	—	—	—	—
13	北北東～南南西	楕円形	0.46	0.28	—	—	—	21号ビット
14	北北東～南南西	楕円形	0.61	0.28	—	—	—	22号ビット
15	東北東～西南西	楕円形	0.63	0.34	—	—	—	23号ビット
16	北北西～南南東	楕円形	0.88	0.42	—	—	—	11号ビット
17	—	円形	直径 0.44	—	—	1号掘立柱建物 P4	—	24号ビット
18	北北東～南南西	楕円形	0.56	0.30	—	—	—	10号ビット
19	北北東～南南西	不整形	0.92	0.31	—	—	—	9号ビット
20	北東～南西	楕円形	0.50	0.38	—	—	—	7号ビット
21	北東～南西	楕円形	0.52	0.31	—	—	—	8号ビット
22	不明	不明	(0.42)	—	—	—	—	17号土坑
23	北～南	楕円形	0.65	0.33	—	—	—	20号ビット
24	北北西～南南東	楕円形	0.39	0.27	—	—	—	19号ビット
25	北東～南西	楕円形	0.45	0.32	—	—	—	6号ビット
26	—	円形	直径 0.32	—	—	—	—	16号ビット
27	—	円形	直径 0.37	—	—	—	—	4号ビット
28	—	円形	直径 0.43	—	—	—	—	5号ビット
29	東北東～西南西	楕円形	0.55	0.33	—	—	—	2号ビット
30	北西～南東	楕円形	0.56	0.28	—	28号土坑	—	3号ビット
31	西北北～東南東	長円形	0.51	0.28	—	—	—	—
32	—	円形	直径 0.42	—	—	—	—	12号ビット
33	北北西～南南東	楕円形	0.68	0.48	—	—	—	1号ビット
34	北東～南西	楕円形	0.48	0.36	—	—	—	—
35	北西～南東	不整形	1.08	0.53	—	—	—	26号ビット
36	西北北～東南東	楕円形	0.65	0.38	—	18号土坑	—	17号ビット
37	西北北～東南東	不整形円形	0.56	0.53	—	—	—	—
38	北西～南東	不整形	0.98	0.68	—	—	—	—
39	北東～南西	楕円形	0.57	0.38	—	30号土坑	—	13号ビット
40	西北北～東南東	不整形円形	0.48	0.30	—	—	—	—
41	東～西	円形	直径 0.40	—	—	—	—	—
42	東～西	円形	直径 0.38	—	—	—	—	—
43	東～西	円形	直径 0.38	—	—	—	—	—
44	北北東～南南西	長円形	0.65	0.34	—	—	—	—
45	—	円形	直径 0.63	—	—	—	—	—
46	北西～南東	長円形	0.72	0.40	—	—	—	22号土坑
47	東北東～西南西	楕円形	0.45	0.30	—	63号土坑	—	—
48	北～南	不整形	0.63	0.23	—	—	—	—
49	北西～南東	楕円形	0.58	0.36	—	—	—	—
50	北東～南西	楕円形	0.36	0.26	—	—	—	—
51	西北北～東南東	楕円形	0.50	0.33	—	52号ビット	—	—
52	不明	不明	(0.48)	—	—	51号ビット	—	72号土坑
53	北北西～南南東	長円形	0.65	0.32	—	—	—	69号土坑
54	北北西～南南東	楕円形	0.40	0.21	—	—	—	—
55	東北東～西南西	楕円形	0.45	0.30	—	—	—	—
56	北西～南東	楕円形	0.35	0.20	—	—	—	—
57	—	円形	直径 0.65	—	—	—	—	54号土坑
58	—	円形	直径 0.43	—	—	—	—	—
59	西北北～東南東	不整形	0.62	0.26	—	—	—	—
60	北西～南東	楕円形	0.90	0.60	—	—	—	105号土坑
61	北西～南東	楕円形	0.70	0.60	—	—	—	112号土坑
62	西～東	円形	0.65	0.60	—	—	—	116号土坑

第6節 1面(FP上)遺構まとめ

I区～V区の1面(FP上)の総調査面積は、24,106.4㎡である。これら調査区からは、平安時代住居1軒・掘立柱建物3棟・伏窓3基・土坑624基・ビット67基・溝8条・道状硬化面3条が検出された。これらの遺構の時期は、特定できる遺物の検出が少ないためそのほとんどが不明である。しかしながら、恐らく、中世～近代に属すると推定される。

なお、I区北部及びII区南部とその中間の村道下から、7世紀代の1号古墳が1基検出されているが、FP軽石を掘り込んで構築しており、時期も他の1面遺構とは異なるために章を別立てにして報告している。

1. I区1面まとめ [3,461.3㎡]

I区1面からは、掘立柱建物1棟・土坑112基・ビット8基が検出された。

2. II区1面まとめ [4,751.3㎡]

II区1面からは、土坑87基・溝2条が検出された。

3. III区1面まとめ [5,958.2㎡]

III区1面からは、伏窓1基・土坑89基・溝4条・道状硬化面2条が検出された。

4. IV区1面まとめ [7,390.5㎡]

IV区1面からは、平安時代の住居1軒・掘立柱建物1棟・伏窓2基・土坑224基・溝2条が検出された。

5. V区1面まとめ [2,545.1㎡]

V区1面からは、掘立柱建物1棟・土坑111基・ビット62基・道状硬化面1条が検出された。

第3章表25 1面遺構まとめ

区名	調査区面積	住居	掘立柱建物	伏窓	土坑	ビット	溝	道状硬化面
I区	3,461.3㎡	—	1棟	—	112基	8基	—	—
II区	4,751.3㎡	—	—	—	87基	—	2条	—
III区	5,958.2㎡	—	—	1基	89基	—	4条	2条
IV区	7,390.5㎡	1軒	1棟	2基	224基	—	2条	—
V区	2,545.1㎡	—	1棟	—	111基	62基	—	1条
総計	24,106.4㎡	1軒	3棟	3基	623基	70基	8条	3条

第4章 I・II区間1号古墳の調査

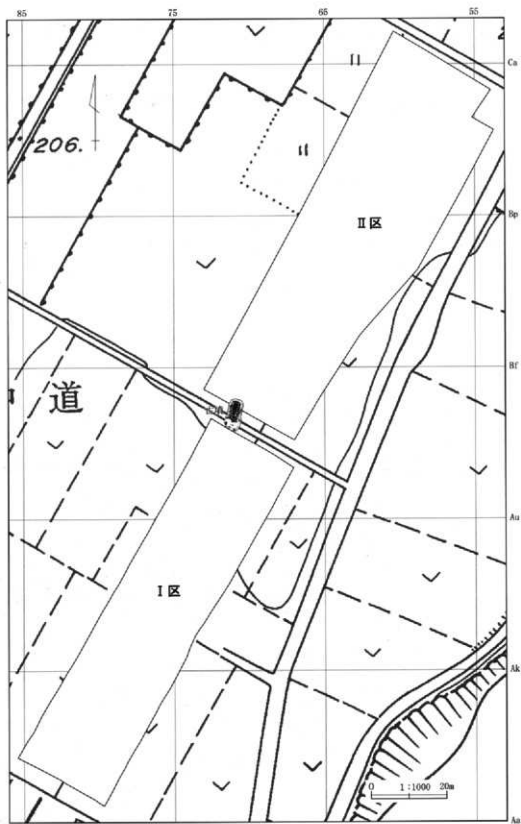
調査区のI区北部及びII区南部とその間に位置する農道下から、墳丘部を削平された古墳が1基検出された。このI・II区間1号古墳（以下、1号古墳）は、I区とII区にまたがっており、しかも、FP（Hr-FP）を掘り込んで構築しており1面や2面とも時期が異なるため、章を別立てにした。

群馬県には、1938（昭和13）年に県内8,423基の古墳を集成した「上毛古墳総覧」があるが、この1号古墳は総覧に記載されていない。恐らく、調査時にはすでに墳丘部が削平されていたために認識されなかったと推定される。1号古墳は、6世紀中頃に榛名山が噴火して降下した軽石であるFP（Hr-FP）層を掘り込んで構築しており、年代は約7世紀後半の古墳終末期であると推定される。本1号古墳の石室の規模は、全長3.2m・玄室長2.11m・羨道長1.19m・玄室最大幅1.10m・羨道前幅0.79mである。墳形は円墳で、規模も約15m以下であると推定される。渋川市の白井地区には、白井古墳群が存在するが、1号古墳はこの古墳群の北側に位置することになる。なお、1号古墳の玄室からは、微細な破片の状態で見骨が検出されたが同定は不可能であった。また、遺物として土師器杯の他、須恵器の台付埴・台付長頸壺・蓋・杯・埴・埴・大甕が検出されている。

次頁からの原稿は、平成14年度の2003（平成15）年2月～同3月にかけて、当時遺跡発掘担当者として本1号古墳を調査した、現群馬県立歴史博物館学芸係専門員（学芸員）の杉山秀宏氏による。



第4章写真1 I・II区間1号古墳空撮 [上が北]



第4章第1図 Ⅰ・Ⅱ区間1号古墳位置図

第1節 白井北中道川遺跡1号古墳

1. はじめに

白井地区には、白井古墳群と呼ばれるHr-FP降下後の古墳が現在確認されている中で26基ある。しかし、吾妻川・利根川の合流地点付近から南中道までで、それより北側では確認されていなかった。本古墳は、白井古墳群の最北端に位置するものである。(第2図)

当古墳は「上毛古墳総覧」にも載っており、調査前にはその存在を一切認めなかった。軽石を削いでいく中で、石室の基底部がいきなり検出されたことにより、初めて古墳と認定されたものである。

2. 古墳の構築順から見た遺構の説明

今回の報告では、当古墳をその構築・使用順に沿って遺構の説明をしようと思う。

構築の順序としてまず、①石室の掘り方を掘削する。②前庭設置予定地下部に深い土坑を掘り、黒土を採取した後埋めて、石室掘り方土坑と同じレベルに合わせて、黒土を前庭床面から羨道構築予定地の南半分まで敷きこむ。③奥壁、側壁の順に石を積み上げ、控え積みの石を裏側にいくつか積み上げながら、墳丘の軽石を積み上げていく。④③と併行して、玄室・羨道下部に平石を敷いた後、同じく、玄室・羨道に小石を敷き詰める。⑤前庭に弱くハの字形に拡がる石列を築く。⑥墳丘を仕上げる。⑦遺体を納め、副葬品を置く。⑧石室を閉塞する。

以上のような大きく8工程が考えられる。以下、①～⑧までの工程ごとの説明を行う。

①工程(石室の掘り方掘削) …第3図、第11図①

古墳の石室を築こうとする地点に石室の掘り方の土坑を掘削する。深さ約50cm、隅丸長方形で長辺8.4m、短辺3.4mで、軽石層中位まで掘るのを止めており、軽石面で、平坦面を形造る。この面には何らの造作もない。この上に直接石室の基底石を置いている。

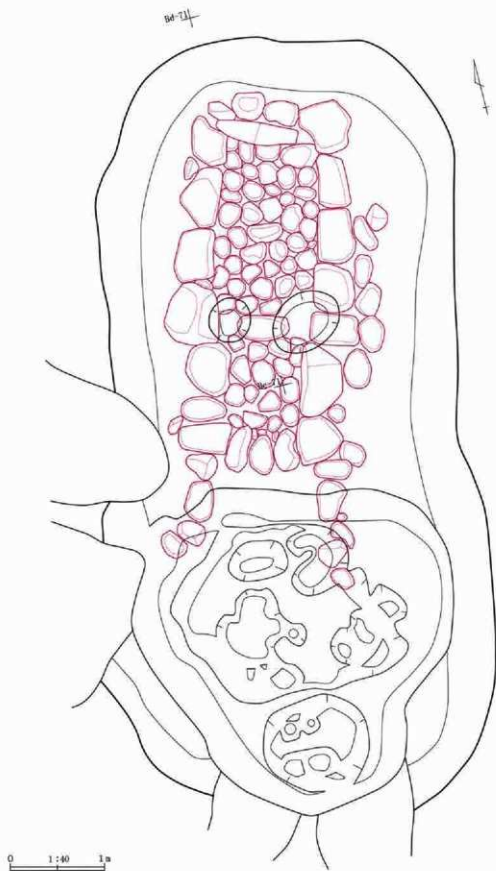
②工程(前庭下部土坑掘削・埋土・整形)

…第3図、第4図A断面図、第5図F・G・H断面図、第11図②工程①②

南側の前庭となる予定の区域の下に深い土坑を掘る。土坑は深さ1m、長さ3.55m、短径3.40mを有する不正円形で、その後には築かれた石室や前庭との機軸線とは方角としてはやや東向きにずれている。三段構造になっており、まず、やや緩やかな傾斜角で、1mほど掘削した後、少し平坦面を設け、北側と南側両方に2ヶ所、平面不正円形にさらに深く0.25～0.3mほど掘り下げている。その一番深く掘り下げた平坦面の底面に、複数の不正円形の径0.7～1.2mの土坑があり、その土坑の底面には鋤先の掘削痕跡がいくつか明瞭に残っており、整地をしようとする意識の無いことが分かる。なぜ、これほど深く掘削したのかであるが、この深さまで掘ることによって初めて軽石下のかつて表土であった黒土が出土するので、先ほど述べたような、整地をしようとする意識の無いことなども併せて考えてみると、黒土を採取するために掘削したものであろう⁽¹⁰⁾。その



第4章第2図 白井古墳群分布図

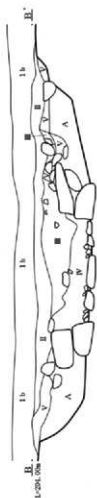


第4章第3図 I・II区間1号古墳石室掘り方・前底部土坑

A.



1:200.0m.



1:200.0m.



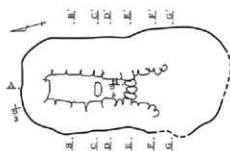
1:200.0m.



1:200.0m.



1:200.0m.



2>尺

第4章第4圖

- I. II区中間
- a. 黒褐色土
- b. 黄褐色土
- c. 黒褐色土
- III. 黒褐色土
- IV. FP軽石混土
- V. FP軽石混土

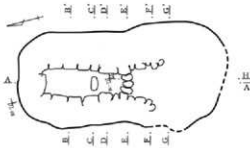
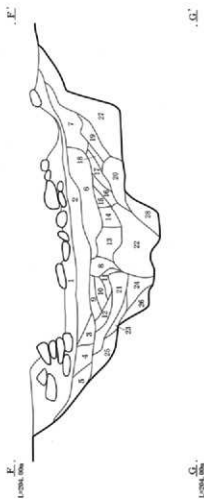
- 1号古墳 石室覆土
- やや軟質でFP軽石を5%含む。(埋物貯倉層)
- 極めて硬質でFP軽石を10%含む。(遺物貯蔵化層)
- やや軟質でFP軽石を30%含む。(耕作により攪拌)
- やや軟質でFP軽石を10%含む。(耕作時のヤケ層)
- 1b 層よりやや硬くFP軽石を15%含む。(耕作により攪拌)
- やや軟質でFP軽石を40%含む。河原石散在。(耕作により攪拌)

- 自然侵入による二次埋積で黒褐色土を10%含む。
- IV層に準じるの黄褐色土を15%前後含む。

- I. II区中間 1号古墳 覆り方強土 (石室蓋)
- A. FP軽石混土 覆積の軽石を主体に5~15%前後の黒褐色土が混じる。
- B. 黒褐色土 軟質で埋積にFP軽石が増雑して混じる。
- 穴門柱の置き取り直脚に入った土と考えられる。



第4章第4圖 I・II区間1号古墳石室断面図(1)

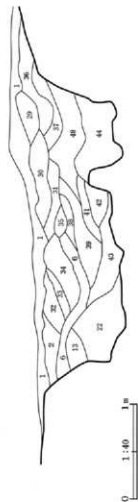


第4章附録5 図

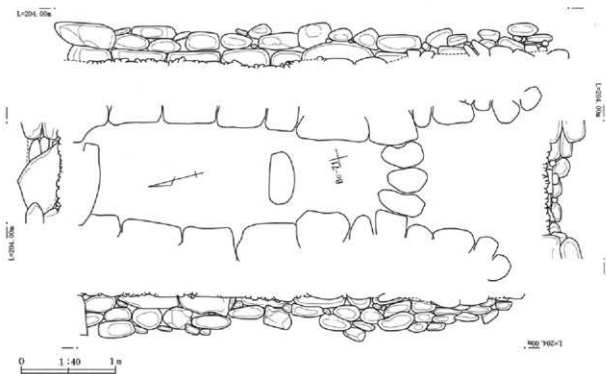
1. II区中部
2. 黒褐色土
3. 黒褐色土
4. 黒褐色土
5. 黒褐色土
6. 黒褐色土
7. FP 軽石混土
8. 暗赤褐色土
9. FP 軽石混土
10. FP 軽石混土
11. FP 軽石混土
12. 暗褐色土
13. FP 軽石混土
14. FP 軽石混土
15. FP 軽石混土

16. 黒褐色土 6層に準じるが色調やや暗い。
17. FP 軽石混土 細粒の軽石を主体に45%の黒褐色土が混入する。
18. FP 軽石混土 細粒の軽石を主体に30%の黒褐色土が混入する。
19. FP 軽石混土 7層に準じるが大粒の軽石が下半層に集中。
20. FP 軽石混土 6層に準じるがやや暗い。
21. FP 軽石混土 大粒の軽石を主体に5%の黒褐色土が混入する。
22. FP 軽石混土 細粒の軽石を主体に5%の黒褐色土が混入する。
23. FP 軽石混土 細粒の軽石を主体に25%の黒褐色土が混入する。
24. 暗赤褐色土 やや軟質でFP 軽石を10%、FA 火山灰を25%含む。
25. FP 軽石混土 細粒の軽石を主体に15%の暗褐色土が混入する。
26. 暗赤褐色土 24層に準じるがFP 軽石が比較的多い。
27. 暗褐色土 26層に準じる。
28. 暗褐色土 27層に準じる。
29. 黒褐色土 3層に準じる。
30. 黒褐色土 硬質でFP 軽石を45%含む。
31. FP 軽石混土 11層に準じる。
32. FP 軽石混土 10層に準じる。
33. FP 軽石混土 細粒・細粒の軽石が5%の黒褐色土とともに混入する。
34. 黒褐色土 硬質で1層に準じるがやや暗い。
35. 黒褐色土 硬質で1層に準じるがやや暗い。
36. FP 軽石混土 細粒の軽石を主体に40%の黒褐色土が混入する。
37. FP 軽石混土 細粒の軽石を主体に40%の黒褐色土が混入する。
38. FP 軽石混土 大粒・細粒・細粒の軽石が35%の黒褐色土とともに混入する。
39. FP 軽石混土 大粒・細粒・細粒の軽石が35%の黒褐色土とともに混入する。
40. FP 軽石混土 7層に準じる。
41. FP 軽石混土 7層に準じる。
42. FP 軽石混土 7層に準じる。
43. FP 軽石混土 大粒・細粒の軽石が50%の黒褐色土とともに混入する。
44. FP 軽石混土 大粒・細粒の軽石を主体に5%の黒褐色土が混入する。

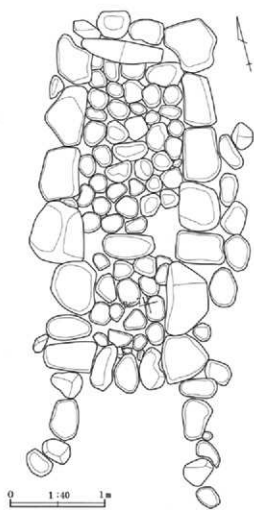
第4章附録5 図 1・II区南1号墳石室断面図(2)



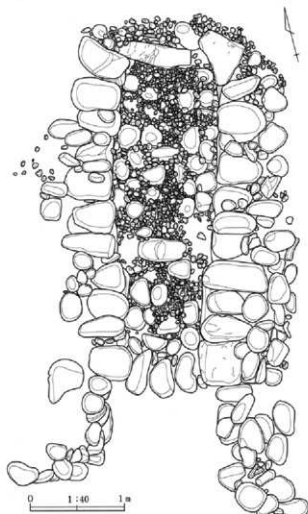
第4章附録5 図 1・II区南1号墳石室断面図(2)



第4章第6图 I・II区間1号古墳石室展開図

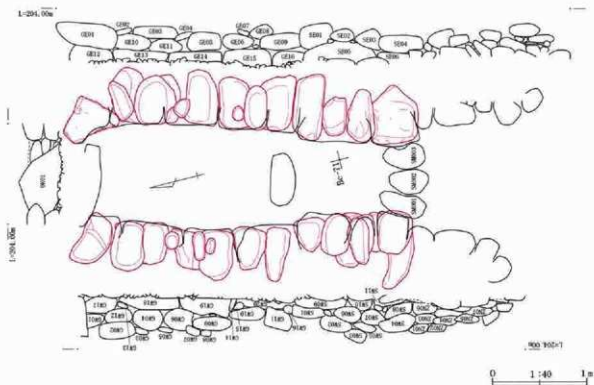


第4章第7图 I・II区間1号古墳石室基底図

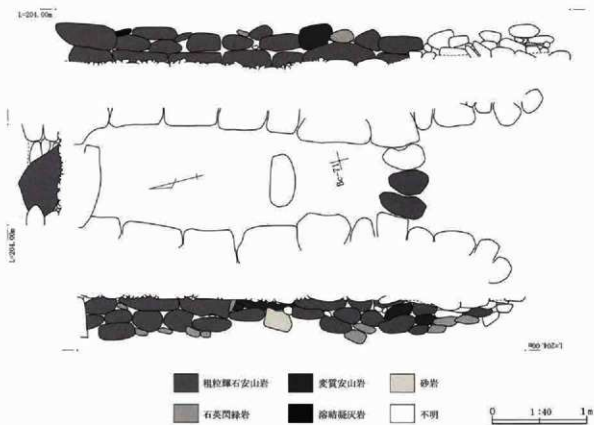


第4章第8图 I・II区間1号古墳石室平面図

第4章 I・II区間1号古墳の調査



第4章第9図 I・II区間1号古墳石室構築状況



第4章第10図 I・II区間1号古墳石材別石室石材図

第4章表1 I・II区間1号古墳石室使用石材一覧

石No.	使用部位	石 材	備考	石No.	使用部位	石 材	備考
OK01	女室 奥壁	鏡石		GW17	女室 西側壁	根石	
GE01	重側壁	2段目		GW18			
GE02		3段目		GW19			
GE03				GW20			
GE04		間詰		SE01	羨道 東側壁	2段目	
GE05		2段目		SE02			
GE06				SE03			
GE07		間詰		SE04			
GE08		3段目		SE05			
GE09		2段目		SE06			
GE10				SW01	西側壁	2段目	
GE11				SW02			
GE12		根石		SW03			
GE13				SW04			
GE14				SW05			
GE15				SW06			
GE16				SW07			
GW01	西側壁	2段目		SW08			
GW02		3段目		SW09			
GW03		間詰		SW10			
GW04		2段目		SW11			
GW05		間詰		石No.	使用部位	石 材	備考
GW06		2段目		Smo01	羨門	西側	
GW07		間詰		Smo02		中央	
GW08				Smo03		東側	
GW09		2段目		石No.	使用部位	石 材	備考
GW10				ZN01	前庭	西側壁	
GW11				ZN02			
GW12				ZN03			
GW13		間詰		ZN04			
GW14				ZN05			
GW15				ZN06			
GW16				ZN07			

後掘削した黒土が少し混じったFP軽石でこの土坑を埋めていき、平坦地にする。この平坦面に厚さ10cmほどの黒色土を敷くのである。この平坦面のレベルは、石室の掘り方の床面に合わせている。

③工程（女室・羨道の構築）

…第3図、第4図A～E断面図、第5図F断面図、第6～10図、第11図③工程、表1

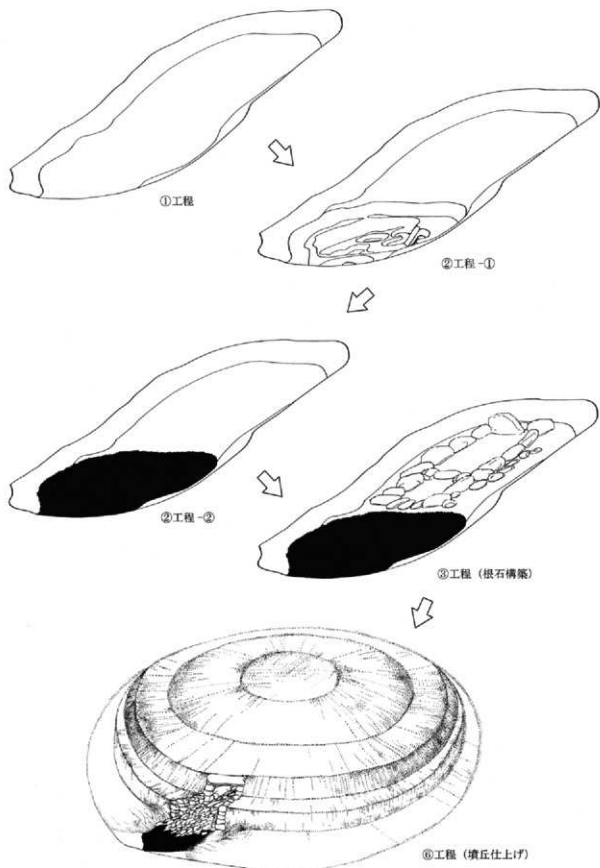
横穴式石室の方位は南面し、N-16°-Eを測る。石室は、弱い両袖型を呈し、女室部は弱い胴張りをもつものである。

女室・羨道ともに、基底石及び2～3段までしか残存しておらず、石室の石の配置順序に関してははっきりしない。ただ、通常、奥壁の基底石を置いてそこを基点に構築する場合が多く、当古墳でもそのような構築方法と考えられる。石室全長は、表1にもあるように、全長3.2m、女室長2.11m、羨道長1.19m、女室最大幅1.10m、羨道前幅0.79mである。

石の材質は、飯島氏に鑑定をしていただき、その

結果は表1、第10図にある。いずれも、すぐ東を流れる利根川の河原石である粗粒輝石安山岩や石英閃緑岩を中心に使用している。奥壁・側壁ともに石を置いた後ろ側に控え積みの小石を詰めるが、粗密があり、奥壁・女室北東部コーナーあたりには多いが、それ以外は少なく、構造的に少し弱かったと考えられる。控え積みの外側に黒褐色土を15%ほど混じった軽石を填丘として積み上げている。ただし、前庭に近い羨道の南半分位までは、前庭下部より掘り上げた黒土を中心に裏込めの土として使用しており、（第4図-E、第5図-Fの1層土）それより北側の軽石を中心とした裏込めの土とは異なっている。

石積みは、平面形はゆるやかな胴張り、奥壁は、鏡石を立てかけるようにして置き、その裏側にやや小振りの石を3石置いて安定させている。側石基底石は長側面を石室内面に向けて平置きに置き、第2石は、反対に短側面を石室内面に向けておくことで、互い違いになっている。女室の羨道よりの所には玄



第4章第11図 I・II区間1号古墳構築工程・復原図

門の門柱石があったと思われる箇所に抜き取り痕跡があり(第3図、第4図C断面B層)、本来は、石室の調査途中で出土した棒状の石が2点あり、それが門柱石であった可能性が高い。

羨道は、非常に短く1m強で、末期の特徴を示している。石積みの仕方は、玄室と同じく基底石は平置きで、第2段石は、長側面の方向が替わって互い違いに置くようになっている。

④工程(玄室・羨道床面石・円礫の設置)

…第4図B～D断面図、第7・8図

玄室・羨道をほぼ築いた段階で、玄室・羨道内に平石を置いたものと思われる。羨道の所の床面には、縦長に偏円形の平石を3石並べている。また、玄門の地点に横長の大石を榎石として石室主軸に直行する形で置いており、前述したようにその両側に門柱石を置いていた。床石はすべて、奥・側壁の石と同様に利根川の河原石を持ち込んだものである。その後、玄室・羨道ともに径2～10cmほどの円礫を平石の上に敷き詰めている。

⑤工程(前庭の造作)…第7・8・12図

弱くハの字形に開く側石を数石置いて、前庭の空間を造る。羨道に比べてやや小振りの、利根川から持ってきた河原石を数段置いている。前庭の床面は、当初、黒土で覆われていたものと思われる。前庭からの出土遺物は土師器と須恵器で、東側を中心に出土している。ここで気をつけたいのは、羨門前東側より床面上でほぼ完形の土師器杯が1個出土しているが、これ以外は、床面下部や側壁の内側からの出土で、古墳・石室の構築過程での土師器・須恵器の破砕行為による祭祀がなされたことが伺える。このような行為の後に前庭が築かれたと考えられる。

⑥工程(墳丘仕上げ)…第11図⑥工程

墳丘は既に失われており、古墳の規模・墳形ともに不明である。ただ、石室の規模や近隣のFP 軽石降下後の7世紀代の古墳の様相を見る限り、墳形は円墳で規模も15m以内の範囲に収まるものと推定される。墳丘の形を規定する堀も全く認められず、この古墳の構築方法の想定も困難である。ただ、墳丘の

あった地点に、葦石らしきものは一切認められなかったこと、前庭下部の掘り込み土坑から採取したと考えられる黒色土の量が少なく、墳丘の盛り土として使用できたとは考えられないことから、おそらくこの古墳は、墳丘盛り土は膨大に堆積していた周囲の軽石を広い範囲に掘り取り墳丘を構成したものと考えられる。堀を掘削して、その部分の軽石を使用しようにも、崩壊してしまうことから、工法を変えたものと考えられる。

⑦工程(遺体・副葬品設置)…第12図

盗掘が激しいので、情報は限定されたものである。玄室奥壁北東部を中心に80cm×90cmの不定形状に、骨が粉状になって分布しており、少なくとも遺体がこの箇所に置かれていたことが分かる。副葬品は、鐏子が1個、玄室奥壁寄り東側壁脇より出土している。また、大型刀子が玄室玄門寄り東側壁脇より切先を西に向けて出土した。それ以外の遺物は、石室内覆土をすべてフルイにかけて精査したが、発見できなかった。盗掘により滅失した可能性もあり、本来の副葬品の品目・量、追葬の有無は不明である。

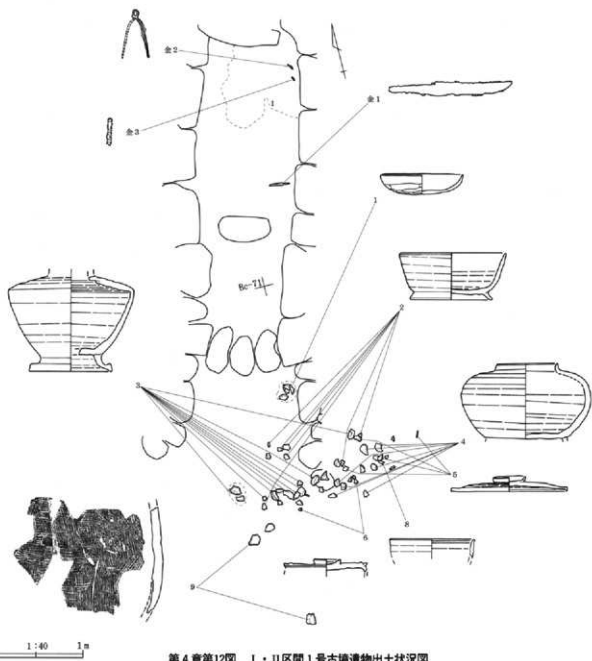
羨道部からは何も出土しなかった。後に述べるように羨道床面上部に閉塞がなされており、羨道床面への後世の擾乱はないので、追葬は羨道部では行われなかったと思われる。

⑧工程(閉塞)…第13図

閉塞を行う。玄室への追葬の有無が不明なため、閉塞は最終段階のものとして考えるしかない。羨道部及び前庭の羨門寄りの部分に閉塞石が残存していた。径50cm未満の不整形の亜角礫や亜円礫を2～3重に詰めていた。間には軽石と黒褐色土が入っていた。この中からも、副葬品・土師器・須恵器は出土しなかった。

以上のような工程で当古墳は構築された。副葬品・石室形態より、7世紀後半の築造と考えられる。

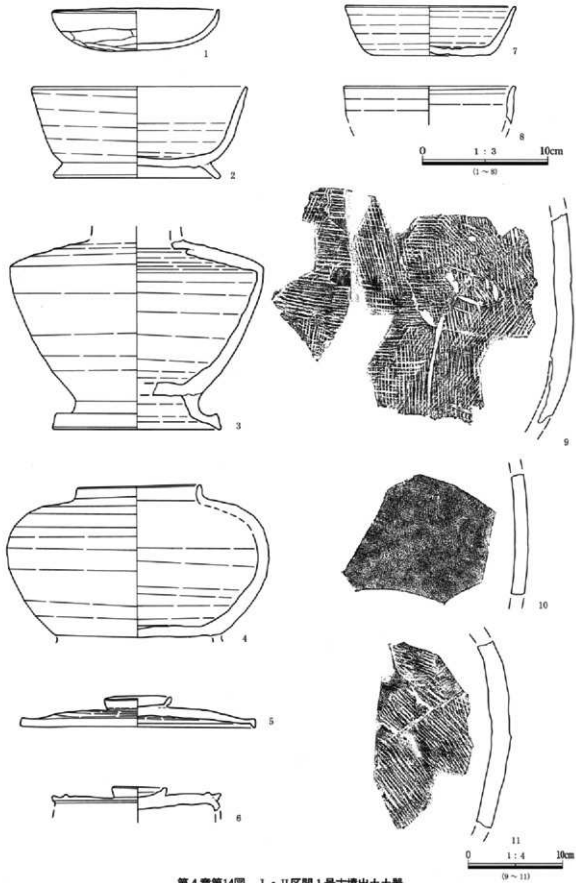
注① ただし、赤城山南麓に分布する前庭土坑については、このような解釈が成り立つことは言えず、今後さらに検討していく必要がある。



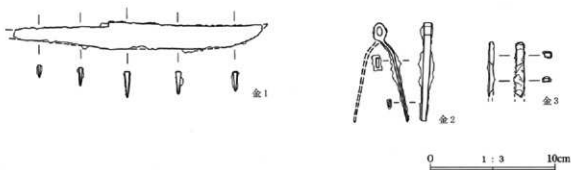
第4章第12図 I・II区間1号古墳遺物出土状況図



第4章第13図 I・II区間1号古墳羨道閉塞図



第4章第14図 1・11区間1号古墳出土土器



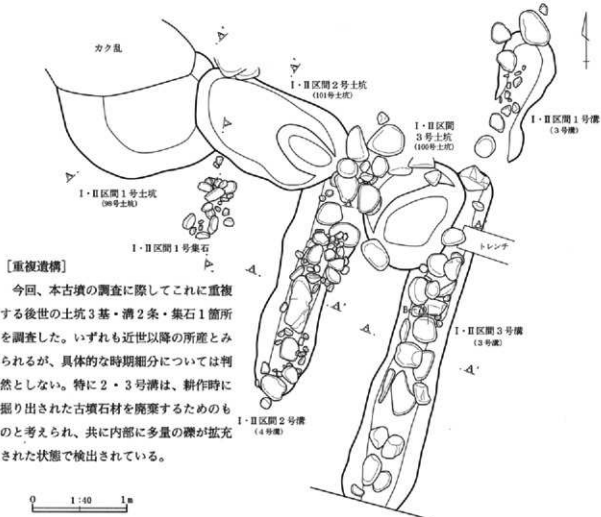
第4章第15図 I・II区間1号古墳出土鉄製品

第4章表2 I・II区間1号古墳出土土器観察表

No	種類	法量 (cm)		出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	成形・調整の特徴
		口径・底径・器高				
1	土師器 土坪	口径 一 13.2	器高 3.3	女門前前庭東床面	①良好。細砂粒少量含む ②酸化、良好 ③7.5YR6/6 ④3/4	口唇部は、ほぼ垂直に立ち上がり、内面には成形時に凹凸あり。外面は手持ちヘラケズリ。
2	須恵器 台付椀	口径 底径 器高 17.0 13.3 7.1		前庭東壁内部 前庭東床面下	①発出した小穴多数あり。細砂粒少量含む ②還元 ③N4/ ④4/5	高めの付高台を有する椀。内面ロクロによるヨコナデ調整。外面はロクロによるヘラケズリ。
3	須恵器 台付長頸壺	口基部径 肩部径 高台径 器高 7.3 20.2 [13.4] (15.0)		前庭東壁内部 前庭東床面下	①良好。細砂粒少量含む ②還元 ③N7/ ④2/3	粘土掻き上げ後、内外面ともにロクロによるヨコナデ調整。大型の高台を付す。
4	須恵器 台付短頸壺	口径 頸部高 胴部径 器高 9.9 1.0 20.7 12.1		前庭東壁内部	①良好。細砂粒少量含む ②還元 ③10Y6/1 ④1/5	ロクロ成形により、内面ヘラケズリ、外面ヨコナデ調整。本来付いていた高台は外れて無い。
5	須恵器 蓋	つまみ径 口径 器高 (5.3) 18.7 2.4		前庭東壁内部	①良好。細砂粒少量含む ②還元 ③10Y5/ ④3/4	中くぼみのボタン状つまみつく。天井中央は平らで、緩やかに傾斜して縁部の口唇は垂直に稍曲する。天井部ヘラケズリ。
6	須恵器 蓋	つまみ径 口径 器高 4.4 (15.4) (1.9)		前庭東壁内部 前庭東床面下	①良好。細砂粒少量含む ②還元 ③5Y7/1 ④2/3	中くぼみのボタン状つまみつく。天井部分は全体に平直で、端部近くに一糸の隆起線が走る。口唇部欠失。
7	須恵器 坪	口径 底径 器高 [13.5] [9.6] 4.0		1号墳周辺	①良好。細砂粒少量含む ②還元 ③7.5Y6/1 ④1/6	口辺内外面ともにヨコナデ調整。下面回転ヘラケズリ。
8	須恵器 椀	口径 底径 器高 [6.8] 一 (2.9)		前庭東壁内部	①良好。細砂粒少量含む ②還元 ③2.5Y6/2 ④1/8	口唇部内面に少し傾斜。辺内外面ともにヨコナデ調整。
9	須恵器 大甕	長 幅 (16.1) (20.1)		前庭南床面下	①良好。細砂粒少量含む ②還元 ③5Y6/1 ④1/20	外面平行タタキ。内面ケズリ。(底部に近い破片)
10	須恵器 大甕	長 幅 (9.2) (11.0)		前庭南床面下	①良好。胎土精良 ②還元 ③5Y6/2 ④1/20	内外面ともにナデ。特に外面は丁寧なナデを施す。
11	須恵器 大甕	長 幅 (14.5) (7.4)		1号墳南倉土中	①良好。細砂粒少量含む ②還元 ③5Y6/1 ④1/20	外面平行タタキ。内面ナデ。

第4章表3 I・II区間1号古墳出土鉄製品観察表

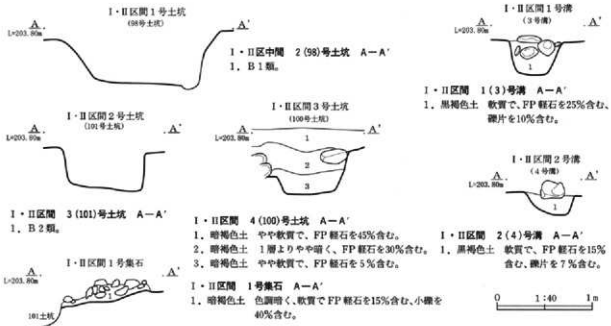
No	種類	法量 (cm・g)		出土位置	特 徴	成形・調整の特徴
		長・幅・厚・重				
1	鉄小刀	長 幅 厚 重 (19.7) 2.1 0.4 45		玄室南側東壁寄り	切先と基部が欠損。ほぼ完形。間は両開の可能性あり。	
2	鉄製鎌子	長 幅 厚 重 7.8 0.8 0.2 6		玄室東側東壁近く	鉄製のピンセット。つまみ部の片側欠損。2が欠損部の可能性あり。つまみ部分は少し細く、薄くなっている。	3と同一体の可能性あり。
3	鉄鎌子片?	長 幅 厚 重 (4.3) 0.8 0.2 2		玄室東側東壁近く	1の鎌子のつまみ部分の破片の可能性高い。	2と同一体の可能性あり。



〔重複遺構〕

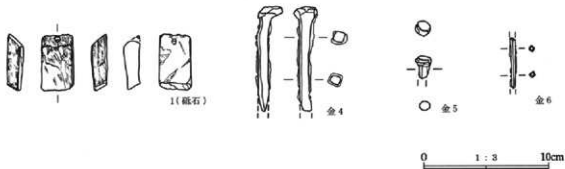
今回、本古墳の調査に際してこれに重複する後世の土坑3基・溝2条・集石1箇所を調査した。いずれも近世以降の所産とみられるが、具体的な時期細分については判然としない。特に2・3号溝は、耕作時に掘り出された古墳石材を廃棄するためのものと考えられ、共に内部に多量の礫が拡充された状態で検出されている。

第4章第16図 I・II区間1号古墳重複遺構平面図



第4章第17図 I・II区間1号古墳重複遺構断面図

第4章 I・II区間1号古墳の調査



第4章第18図 I・II区間1号古墳出土石器・金属製品

第4章表4 I・II区間出土石器・金属製品観察表

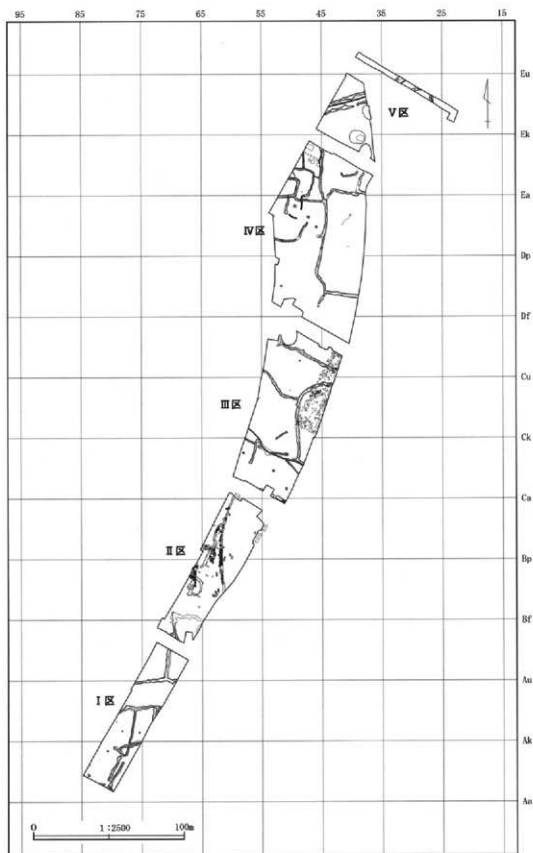
No	種類	法量 (cm・g)				出土位置	特 徴	成形・調整の特徴
		長	幅	厚	重			
1	砥石	長 4.4	幅 2.5	厚 1.2	重 21	1号墳周辺	粘板岩製の砥石。研磨痕跡はあまり認められない。上部に1孔を有し、柄帯用と考えられる。	古墳からの出土遺物の可能性もある。
4	鉄釘	全長 (8.2)	頭部幅 1.8	茎元幅 1.0	頭部厚 1.9 茎元厚 0.7 (43)	1号墳周辺	和釘。茎端欠損するも、ほぼ完形。	古墳からの出土遺物の可能性もある。
5	鉄釘頭	全長 (1.8)	頭部幅 1.3	茎元幅 0.7	頭部厚 1.0 茎元厚 0.7 (0.8)	1号墳周辺	釘の頭？。	古墳からの出土遺物の可能性もある。
6	鉄釘	長 (4.0)	幅 (0.6)	厚 0.15	重 1	1号墳南倉土	釘の茎部？。	古墳からの出土遺物の可能性もある。

第5章 2面(Hr-FP下面)の遺構と遺物

2面は、6世紀中頃に榛名山が噴火して降下した軽石であるFP(Hr-FP)層の下面である。したがって、6世紀中頃の面が、約1m～2mの軽石によりそのままバックされたことになる。I区では、畦10条・立木跡5箇所が検出された。II区では、畦8条・立木跡7箇所が検出された。III区では、道1条・畦6条・倒木痕3箇所・立木跡5箇所が検出された。IV区では、畦10条・倒木痕1箇所・立木跡7箇所が検出された。V区では、道1条・畦4条が検出された。2面の合計で、道2条・畦38条・倒木痕4箇所・立木跡24箇所が検出された。



第5章写真1 2面(Hr-FP下面)全景空撮【上が北】



第5章第1図 2面 (Hr-FP下面) 全体図

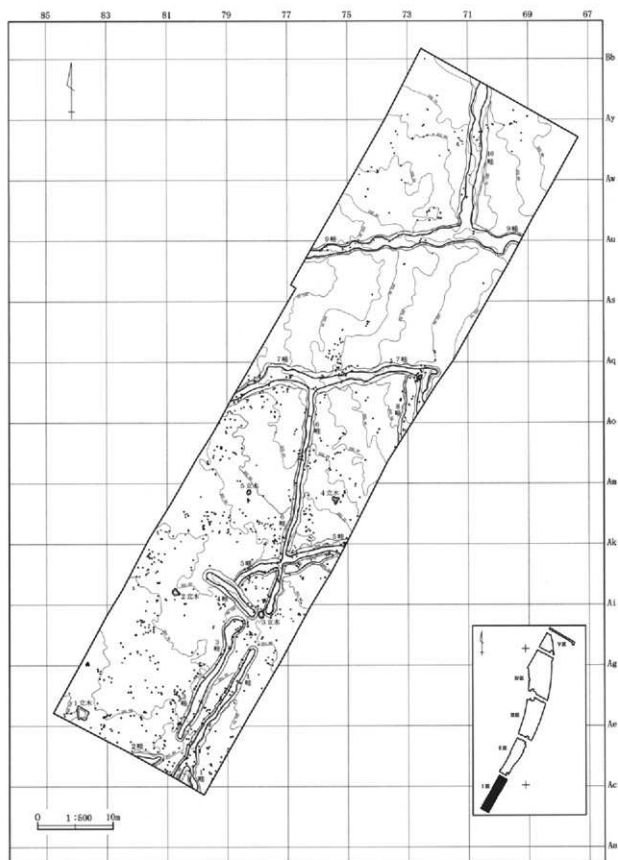
第1節 1区2面の遺構と遺物

1区は、調査区が一番南にある。総面積は、3,461.3㎡である。2面は、6世紀中頃に榛名山が噴火して降下した軽石であるFP (Hr-FP) 層の下面である。このFP 軽石は、現地で約1mも堆積しているため、6世紀中頃の生活面がそのまま保存されている。1

区2面では、畦状遺構10条・立木跡5箇所が検出された。その他、一面に無数の馬蹄痕が検出されている。但し、ここで記載した4号畦は、3号立木跡に立っていた木が倒れた倒木痕の可能性が高い。



第5章写真2 1区2面空撮 [上が北]



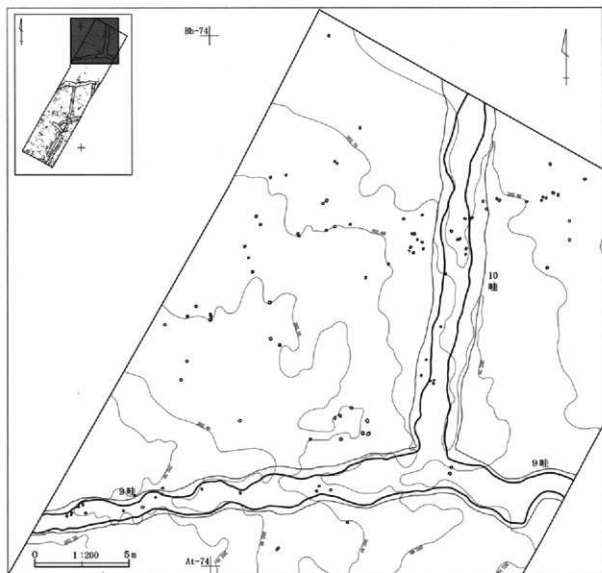
第5章第2図 1区2面 (Hr-FP 下面) 遺構全体図



第5章第3図 I区2面 (Hr-FP 下面) 遺構位置図(1)



第5章第4図 1区2面 (Hr-FP下面) 遺構位置図②



第5章第5図 1区2面 (Hr-FP 下面) 遺構位置図(3)

1. 畦状遺構 (PL, 18・19)

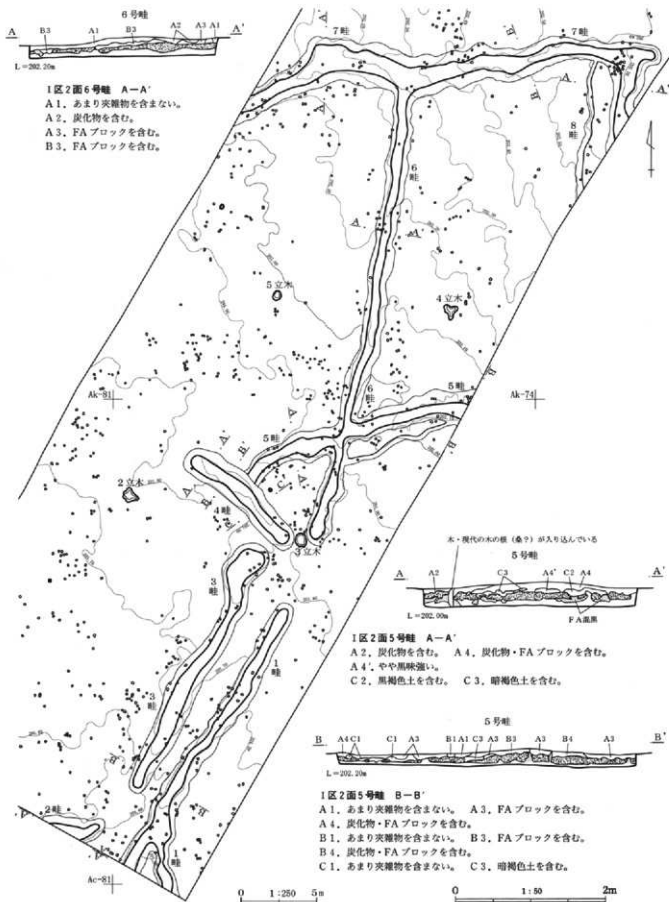
1区2面 (FP下) では、畦状遺構が10条検出された。これらの畦状遺構は、調査区外にかかっているものが多く、全容が判明したのは、3号・4号・6号畦の3条の畦のみである。

これら10条の畦は、無秩序に形成されたものでは

なく、人為的に構築されたものと推定される。実際、5号・7号・9号畦の3条の畦は、東西方向に平行して走行している。また、6号・8号の2条の畦は南北方向に平行して走行しており、10号畦は、8号畦と続くように南北に走行している。

第5章表1 1区2面畦状遺構計測表

畦番号	旧畦番号	全長	幅	方向	検出状態	備 考
1号畦	1号畦	20.5m	1.3m~2.2m	北東~南西	一部	南西部で二叉に分岐。
2号畦	2号畦	3m	0.8m~1.8m	東西	一部	—
3号畦	3号畦	18.5m	1m~2.3m	北東~南西	全容	1号畦と平行して走行。
4号畦	4号畦	9m	1.5m~2.2m	北西~南東	全容	3立木の倒木根と推定。
5号畦	5号畦	15m	1.2m~2.8m	東西	一部	中央部で、6号畦と交差。西側で、4号畦と重複。
6号畦	6号畦	30m	1.2m~1.6m	南北	全容	北部の起始部は7号畦で、南部で5号畦と交差。8号畦と平行して走行。
7号畦	7号畦	27.5m	1.3m~3.3m	東西	一部	6号畦と3号畦の起始部は、この7号畦の南側。9号畦と平行して走行。
8号畦	8号畦	6m	3m~3.6m	南北	一部	北部の起始部は7号畦で、6号畦と平行して走行。
9号畦	9号畦	28m	1.2m~2.6m	東西	一部	7号畦と平行して走行。10号畦の起始部は、この9号畦。
10号畦	10号畦	19m	2m~2.8m	南北	一部	南部の起始部は、9号畦。



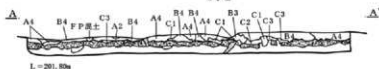
第5章第6図 1区2面1～8号畦、5・6号畦断面



I区2面1号畦 A-A'

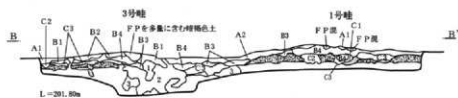
- A1, あまり夾雑物を含まない。 A2, 炭化物を含む。 A4, 炭化物・FAブロックを含む。
 B3, FAブロックを含む。 B4, 炭化物・FAブロックを含む。
 C1, あまり夾雑物を含まない。 C3, 暗褐色土を含む。 C4, 炭化物・黒褐色土を含む。

2号畦



I区2面2号畦 A-A'

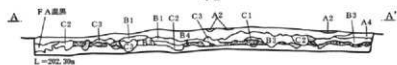
- A2, 炭化物を含む。 A4, 炭化物・FAブロックを含む。
 B3, FAブロックを含む。 B4, 炭化物・FAブロックを含む。
 C1, あまり夾雑物を含まない。 C2, 黒褐色土を含む。 C3, 暗褐色土を含む。



I区2面1・3号畦 B-B'

- 1, 暗褐色土 FP, FAを含む。しまりない。 2, 暗褐色土 しまりなく、やわらかい。
 3, 黒褐色土 VI層主体でFA粒を多く含む。しまりなくやわらかい。
 A1, あまり夾雑物を含まない。 A2, 炭化物を含む。
 B1, あまり夾雑物を含まない。 B2, 炭化物を含む。 B3, FAブロックを含む。 B4, 炭化物・FAブロックを含む。
 C1, あまり夾雑物を含まない。 C2, 黒褐色土を含む。 C3, 暗褐色土を含む。

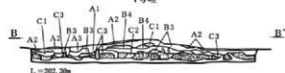
7号畦



I区2面7号畦 A-A'

- A2, 炭化物を含む。 A4, 炭化物・FAブロックを含む。
 B1, あまり夾雑物を含まない。 B3, FAブロックを含む。 B4, 炭化物・FAブロックを含む。
 C2, 黒褐色土を含む。 C3, 暗褐色土を含む。

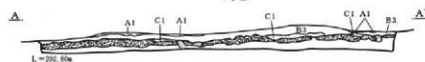
7号畦



I区2面7号畦 B-B'

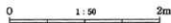
- A1, あまり夾雑物を含まない。 A2, 炭化物を含む。 A3, FAブロックを含む。
 B3, FAブロックを含む。 B4, 炭化物・FAブロックを含む。
 C1, あまり夾雑物を含まない。 C2, 黒褐色土を含む。 C3, 暗褐色土を含む。

8号畦

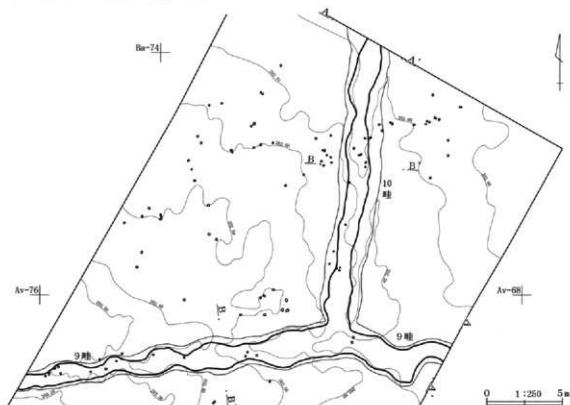


I区2面8号畦 A-A'

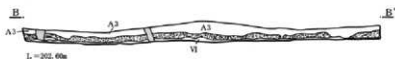
- A1, あまり夾雑物を含まない。 B3, FAブロックを含む。
 C1, あまり夾雑物を含まない。



第5章第7図 I区2面1～3・7・8号畦



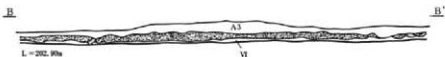
I 区 2 面 9 号畦 A-A'
 A 3, FA ブロックを含む。
 VI, 黒色～黒褐色土 白色軽石、黄褐色軽石を含む。



I 区 2 面 9 号畦 B-B'
 A 3, FA ブロックを含む。
 VI, 黒色～黒褐色土 白色軽石、黄褐色軽石を含む。



I 区 2 面 10 号畦 A-A'
 A 1, あまり夾雑物を含まない, FA 粒を少量含む。 A 3, FA ブロックを含む。
 VI, 黒色～黒褐色土 白色軽石、黄褐色軽石を含む。

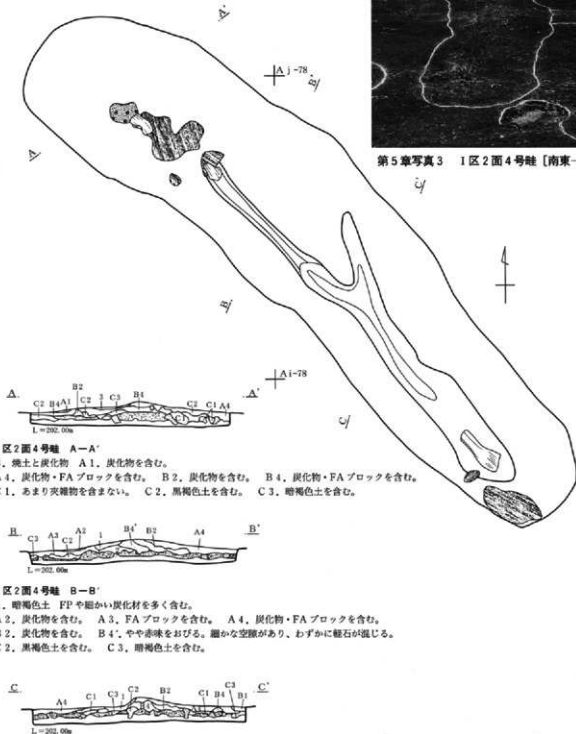


I 区 2 面 10 号畦 B-B'
 A 3, FA ブロックを含む。
 VI, 黒色～黒褐色土 白色軽石、黄褐色軽石を含む。

第5章第8図 I 区 2 面 9 号・10号畦



第5章写真3 I区2面4号畦 [南東→]



I区2面4号畦 A-A'

3. 雑土と炭化物 A 1. 炭化物を含む。
 A 4. 炭化物・FAブロックを含む。 B 2. 炭化物を含む。 B 4. 炭化物・FAブロックを含む。
 C 1. あまり夾雑物を含まない。 C 2. 黒褐色土を含む。 C 3. 暗褐色土を含む。

I区2面4号畦 B-B'

1. 暗褐色土 FPや細かい炭化材を多く含む。
 A 2. 炭化物を含む。 A 3. FAブロックを含む。 A 4. 炭化物・FAブロックを含む。
 B 2. 炭化物を含む。 B 4'. やや赤味をおびる。細かな空隙があり、わずかに軽石が混じる。
 C 2. 黒褐色土を含む。 C 3. 暗褐色土を含む。

I区2面4号畦 C-C'

1. 暗褐色土 FPや細かい炭化材を多く含む。
 A 4. 炭化物・FAブロックを含む。
 B 1. あまり夾雑物を含まない。
 B 2. 炭化物を含む。 B 4. 炭化物・FAブロックを含む。 B 4'. やや赤味をおびる。細かな空隙があり、わずかに軽石が混じる。
 C 1. あまり夾雑物を含まない。 C 2. 黒褐色土を含む。 C 3. 暗褐色土を含む。

第5章第9図 I区2面4号畦

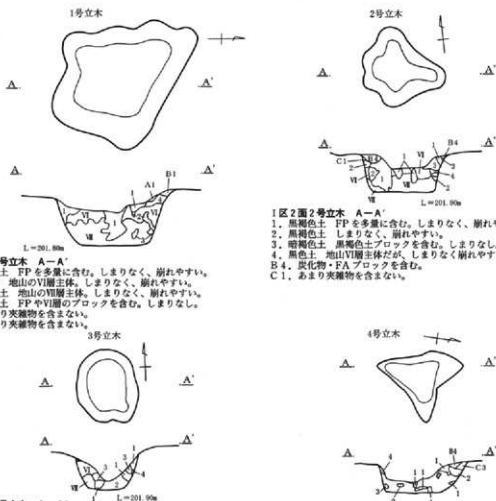
2. 立木 (PL, 19)

I 区 2 面 (FP 下) では、立木痕が 5 箇所検出された。但し、5 号立木は詳細な図面が無いため、不明である。これら、5 箇所の立木痕の内、1号・2号・4号・5号の 4 箇所には倒木痕が認められなかった。これら 4 箇所は、FP 降下前に伐採されたか、あるいは FP 降下時には立木があり、FP によって埋まっ

たために立ち枯れした可能性がある。

一方、4号畦として記載した畦は、3号立木に立っていた木が FP 降下前に倒木したのか、あるいは伐採したままの状態であった可能性がある。

なお、2号立木及び4号畦は、炭化材の樹種同定により、コナラ属コナラ亜属コナラ節と同定されている。



- 1 区 2 面 1 号立木 A-A'
1. 黒褐色土 FP を多量に含む。しまりなく、崩れやすい。
 2. 黒色土 地山の VI 層主体。しまりなく、崩れやすい。
 3. 暗褐色土 地山の VII 層主体。しまりなく、崩れやすい。
 4. 黒褐色土 FP や VI 層のプロックを含む。しまりなし。
- A1. あまり夾雑物を含まない。
B1. あまり夾雑物を含まない。

- 1 区 2 面 2 号立木 A-A'
1. 黒褐色土 FP を多量に含む。しまりなく、崩れやすい。
 2. 黒褐色土 しまりなく、崩れやすい。
 3. 暗褐色土 黒褐色土プロックを含む。しまりなし。
 4. 黒色土 地山 VI 層主体だが、しまりなく崩れやすい。
- B4. 炭化物・FA プロックを含む。
C1. あまり夾雑物を含まない。

- 1 区 2 面 3 号立木 A-A'
1. 黒褐色土 FP を多量に含む。しまりなく、崩れやすい。
 2. におい黄褐色土 FA プロックを含む。しまりなく、崩れやすい。
 3. 黒色土 地山の VI 層主体であるが、固くしまっている。
 4. 暗褐色土 FP を少量含む。しまりなく、崩れやすい。

- 1 区 2 面 1~4 号立木 共通土層
- VI. 黒色~黒褐色土 白色軽石、黄褐色軽石を含む。
VII. 黒褐色~暗褐色土 淡色黒ボク土。白色軽石、黄褐色軽石を含む。

- 1 区 2 面 4 号立木 A-A'
1. 黒褐色土 FP を多量に含む。しまりなく、崩れやすい。
 2. 黒色土 VI 層主体。柱状の FA 含む。しまりない。
 3. 黒色土 VII 層主体。しまりない。
 4. 暗褐色土 FA を多く含む。しまりなく、崩れやすい。
- B4. 炭化物・FA プロックを含む。
C3. 暗褐色土を含む。

第5章第10図 1区2面立木

第5章表2 1区2面立木計測表

立木番号	旧立木番号	平面形状	規 模		深さ	備 考
			長軸	短軸		
1号立木	1号立木	不整形	2.15m	1.7m	70cm	重複無し。
2号立木	2号立木	不整形	1.1m	1m	50cm	重複無し。
3号立木	3号立木	楕円形	90cm	80cm	50cm	重複無し。但し、4号畦はこの3号立木が倒れた倒木痕の可能性が高い。
4号立木	4号立木	不整形	1.1m	85cm	40cm	重複無し。

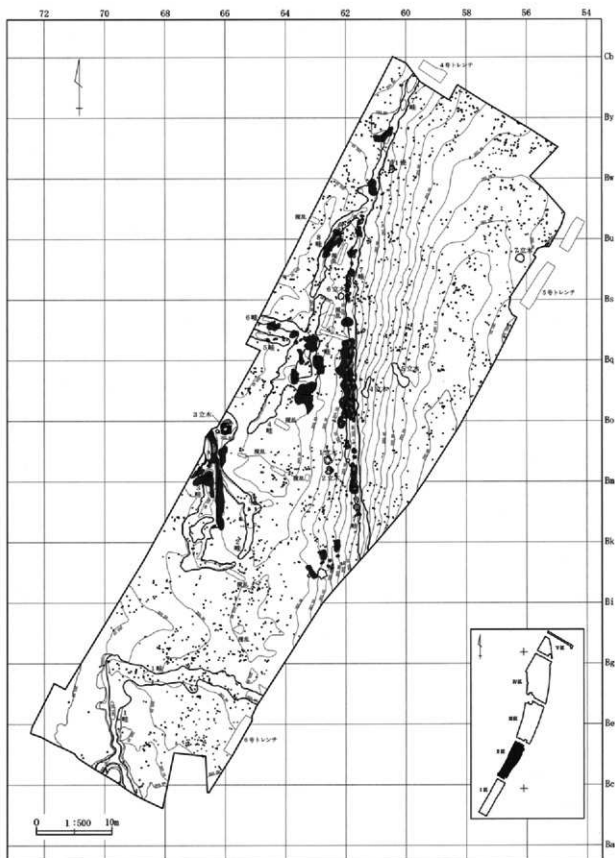
第2節 II区2面の遺構と遺物

II区の総面積は、4,751.3㎡である。2面は、6世紀中頃に榛名山が噴火して降下した軽石であるFP(Hr-FP)層の下面である。このFP軽石は、現地で約1mも堆積しており、6世紀中頃の生活面がそ

のまま保存されている。II区2面では、畦状遺構8条・立木跡7箇所が検出された。その他、一面に無数の馬蹄痕が検出されている。



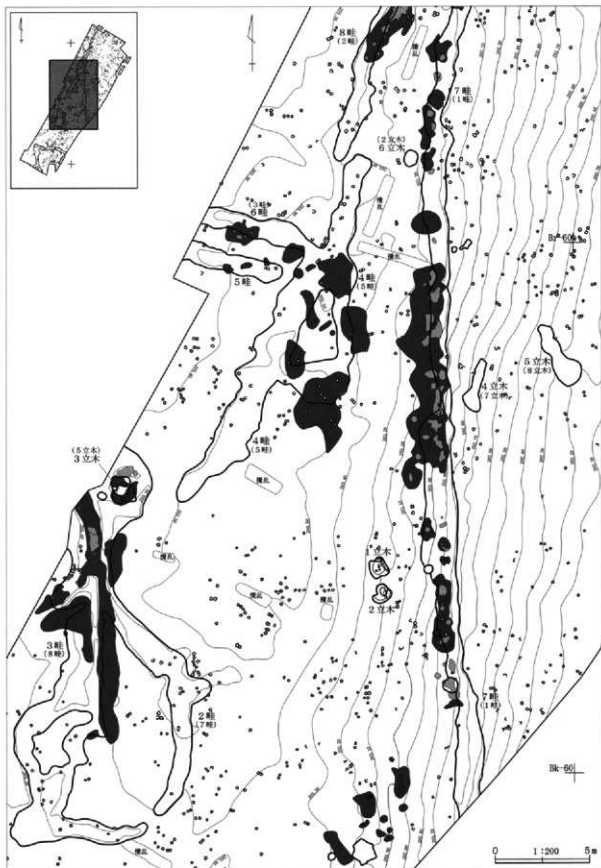
第5章写真4 II区2面空撮【上が北】



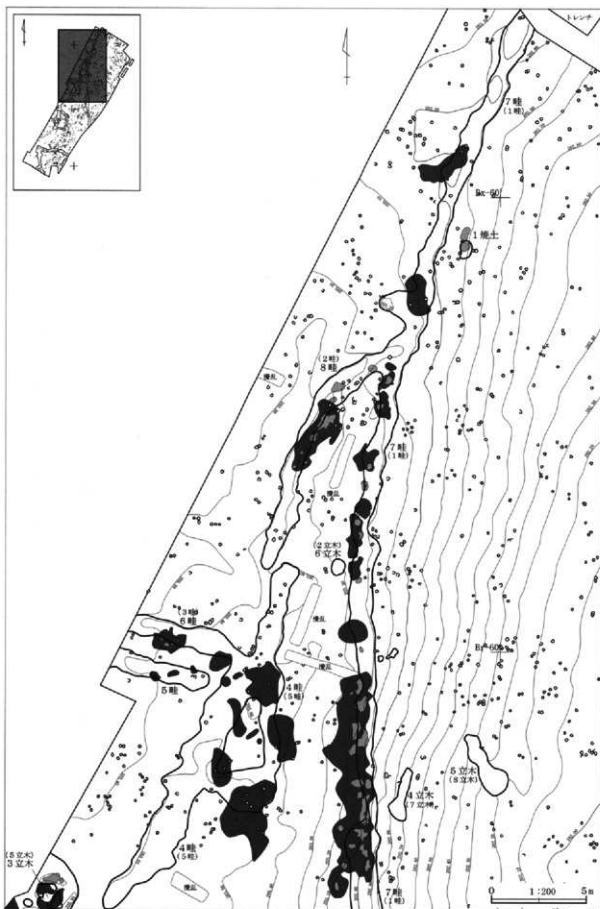
第5章第11図 II区2面 (Hr-FP 下面) 遺構全体図



第5章第12図 II区2面 (Hr-FP 下面) 遺構位置図(1)



第5章第13図 II区2面 (Hr-FP下面) 遺構位置図(2)



第5章第14図 II区2面 (Hr-FP 下面) 遺構位置図(3)

1. 畦状遺構 (PL, 20~22)

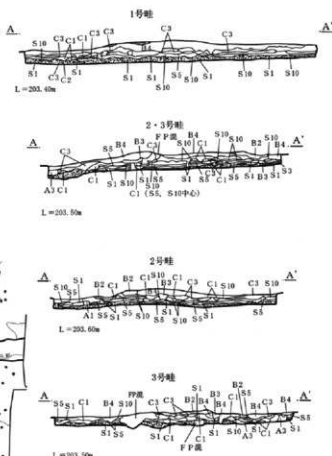
II区2面 (FP下) では、畦状遺構が8条検出された。これらの畦状遺構は、調査区外にかかっているものが多く、全容が判明したものは4号・8号の2

条の畦のみである。

これら8条の畦は、無秩序に形成されたものではなく、人為的に構築されたものと推定される。

第5章表3 II区2面畦状遺構計測表

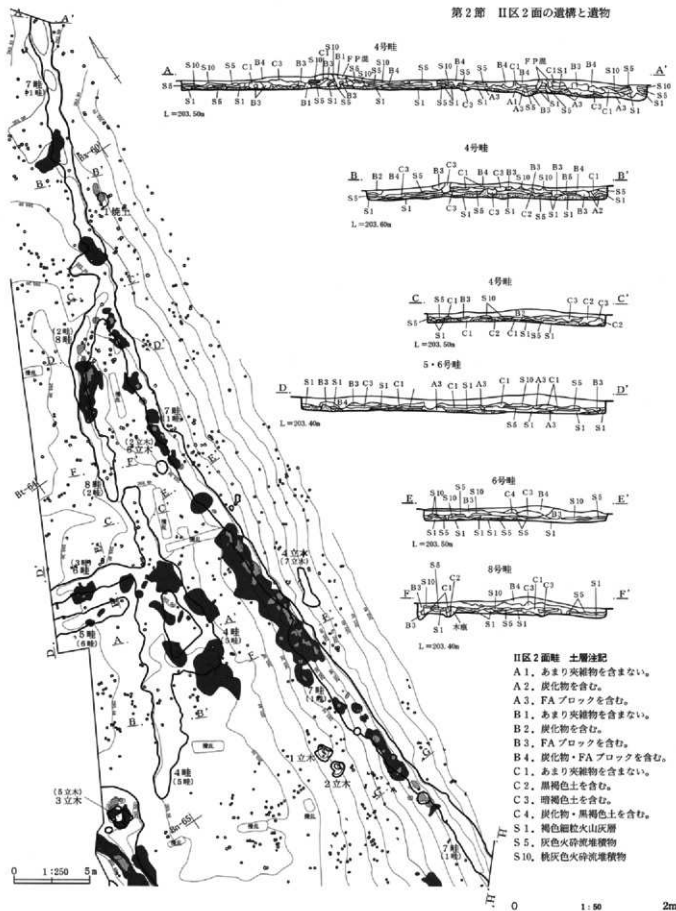
畦番号	延長	幅	方向	掘削状況	備考
1号畦	9号畦	35m	0.6m~4m	東西・南北	一部 西側で直角に曲がり、南側で二又に分かれる。
2号畦	7号畦	13m	0.6m~2.4m	南東~南北	一部 3号畦と平行。
3号畦	8号畦	24m	0.6m~5m	東西~南北	一部 2号畦と平行。
4号畦	5号畦	21m	0.8m~5.5m	北西~南東	全容 西側は、6号畦の起點部。
5号畦	5号畦	5m	0.8m~1m	東西	一部 6号畦と平行。
6号畦	3号畦	5.5m	0.6m~1.4m	東西	一部 3号畦と平行。東部の起點部は、4号畦の西側。
7号畦	1号畦	65m	0.6m~2.6m	南北	一部 西側は、8号畦の起點部。
8号畦	8号畦	13.5m	0.6m~1.4m	北東~南西	全容 東部の起點部は、7号畦の西側。



- II区2面畦 土層注記
- A 3. FAブロックを含む。
 - B 2. 炭化物を含む。
 - B 3. FAブロックを含む。
 - B 4. 炭化物・FAブロックを含む。
 - C 1. あまり炭化物を含まない。
 - C 2. 黒褐色土を含む。
 - C 3. 暗褐色土を含む。
 - S 1. 褐色細粒火山灰層
 - S 3. 白色降下粒石層
 - S 5. 灰色火砕流堆積物
 - S 10. 桃灰色火砕流堆積物

第5章第15図 II区2面1~3号畦

第2節 II区2面の遺構と遺物



- II区2面畦 土層記号
- A1. あまり夾雑物を含まない。
 - A2. 炭化物を含む。
 - A3. FAブロックを含む。
 - B1. あまり夾雑物を含まない。
 - B2. 炭化物を含む。
 - B3. FAブロックを含む。
 - B4. 炭化物・FAブロックを含む。
 - C1. あまり夾雑物を含まない。
 - C2. 黒褐色土を含む。
 - C3. 暗褐色土を含む。
 - C4. 炭化物・黒褐色土を含む。
 - S1. 褐色細粒火山灰層
 - S5. 灰色火砕泥堆積物
 - S10. 桃灰色火砕泥堆積物

第5章第16図 II区2面4号～8号畦

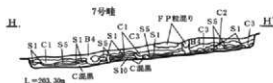
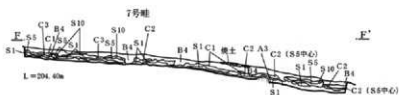
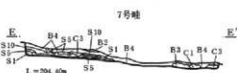
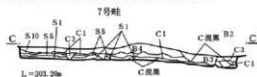
第5章 2面 (Hr-FP 下面) の遺構と遺物



- II区2面7(1)号畦 A-A'
1. 黒褐色土 フカフカしてやわらかい。炭化物粒を少量含む。
 2. 暗褐色土 フカフカしてやわらかい。FAと1層の混土。
 3. にぶい黄褐色土 サラサラしてやわらかい。(FA)
 4. にぶい黄褐色土 しまって固い。砂状。(FA)
 5. にぶい黄褐色土 やや粘性の有るやわらかい土。(FA)



- B-B'
1. 黒褐色土 フカフカしてやわらかい。炭化物粒を少量含む。
 2. にぶい黄褐色土 サラサラしてやわらかい。(FA)
 3. にぶい黄褐色土 しまって固い。砂状。(FA)
 4. にぶい黄褐色土 やや粘性の有るやわらかい土。(FA)
 5. 1層と2層の混土。(FA主体)
 6. 1層と2層と3層の混土。FA50%混入。



- II区2面畦 共通土層注記
- A 3. FA ブロックを含む。
 - B 2. 炭化物を含む。
 - B 3. FA ブロックを含む。
 - B 4. 炭化物・FA ブロックを含む。
 - C 1. あまり夾雑物を含まない。
 - C 2. 黒褐色土を含む。
 - C 3. 暗褐色土を含む。
 - S 1. 褐色細粒火山灰層
 - S 5. 灰色火砕流堆積物
 - S 10. 桃灰色火砕流堆積物



第5章第17図 II区2面7号畦断面

2. 立木 (PL,23)

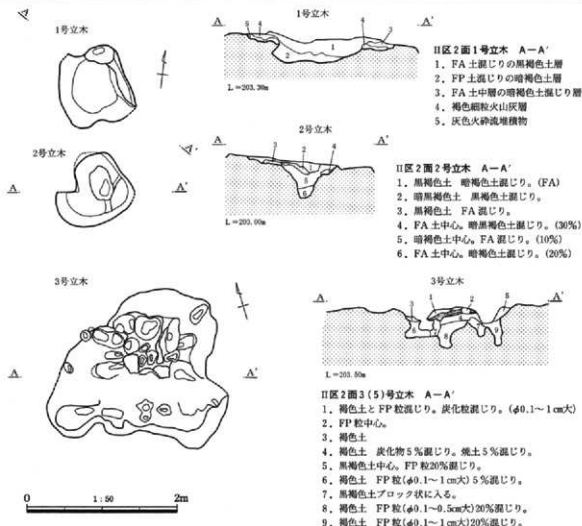
II区2面 (FP下) では、立木痕が7箇所検出された。これらの内4号立木及び5号立木は、倒木痕の可能性が高い。倒木方向は、4号立木が北方向であり、5号立木が北西方向である。但し、どちらからも炭化材等は検出されておらず、しかも、立木の根の部分にはFA (Hr-FA) の堆積が認められないため、FA降下後からFP (Hr-FP) 降下前の数十年の

間に倒木が起きたと推定される。また、4号立木は、5号立木に比べて、倒木の痕跡が少ないが、倒木の時期差によるものと推定される。

他の立木には倒木の痕跡が認められなかった。したがって、これらの立木は、FP降下前に伐採されたか、あるいはFP降下時には立木があり、FPによって埋まったために立ち枯れた可能性がある。

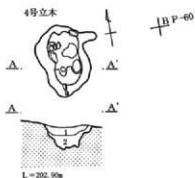
第5章表4 II区2面立木計測表

立木番号	旧立木番号	平面形状	規 模			備 考
			長軸	短軸	深さ	
1号立木	1号立木	不整四角形	1.15m	1.15m	30cm	重複無し。
2号立木	2号立木	不整形	1 m	1 m	48cm	重複無し。
3号立木	5号立木	不整円形	2.2m	1.9m	50cm	重複無し。
4号立木	7号立木	楕円形	90cm	65cm	25cm	倒木痕の可能性あり。北方向に倒木。重複無し。
5号立木	8号立木	不整形	3.45m	80cm	30cm	倒木痕の可能性あり。北西方向に倒木。重複無し。
6号立木	4号立木	不整形	1.5m	80cm	40cm	重複無し。
7号立木	3号立木	円形	1.1m	1 m	50cm	重複無し。



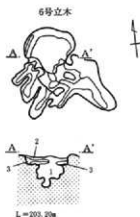
第5章第18図 II区2面1~3号立木

第5章 2面 (Hr-FP 下面) の遺構と遺物



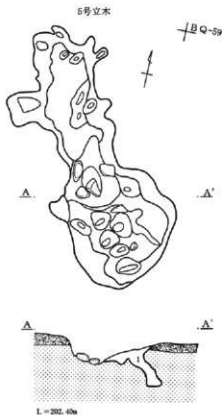
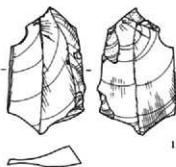
II区2面4(7)号立木 A-A'

1. 暗褐色土 FP粒(φ0.1~3cm大)10%混じり。
2. 暗黒褐色土 FP粒(φ0.1~3cm大)20%混じり。



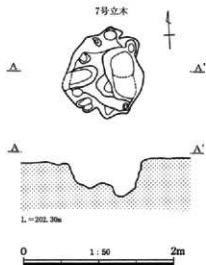
II区2面6(4)号立木 A-A'

1. 暗褐色土 FP混じり。木根の入り込んだ状況。
2. 灰色火砕流堆積物
3. 褐色細粒火山灰層



II区2面5(8)号立木 A-A'

1. 褐色土 FP土混じり土。



第5章第19図 II区2面4~7号立木、6号立木出土石器

第5章表5 II区2面6号立木出土石器観察表 (PL.23)

No	出土位置	層位	器種	石材	計測値 (cm)			重さ (g)	残存状態	備考
					長さ	幅	厚さ			
1	6号立木	—	剥片	黒曜石	3.3	2.0	0.7	3.1	完形	旧4号立木

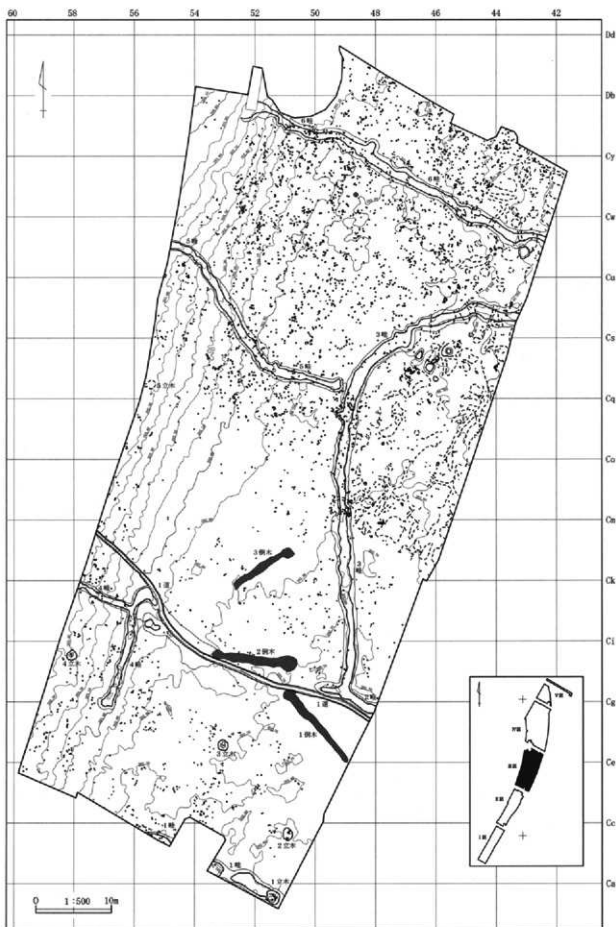
第3節 Ⅲ区2面の遺構と遺物

Ⅲ区の総面積は、5,958.2㎡である。2面は、6世紀中頃に標名山が噴火して降下した軽石であるFP(Hr-FP)層の下面である。このFP軽石は、現地で約1mも堆積しており、6世紀中頃の生活面がそ

のまま保存されている。Ⅲ区2面では、道1条・畦状遺構6条・立木跡5箇所・倒木痕3箇所が検出された。その他、一面に無数の馬蹄痕が検出されている。



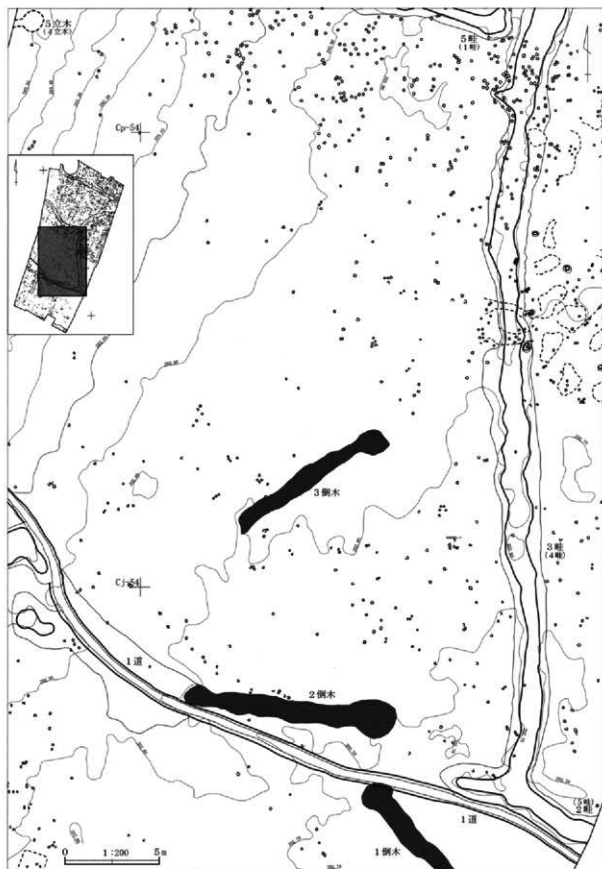
第5章写真5 Ⅲ区2面南部空撮【上が北】



第5章第20图 III区2面(Hr-FP下面)遺構全体図



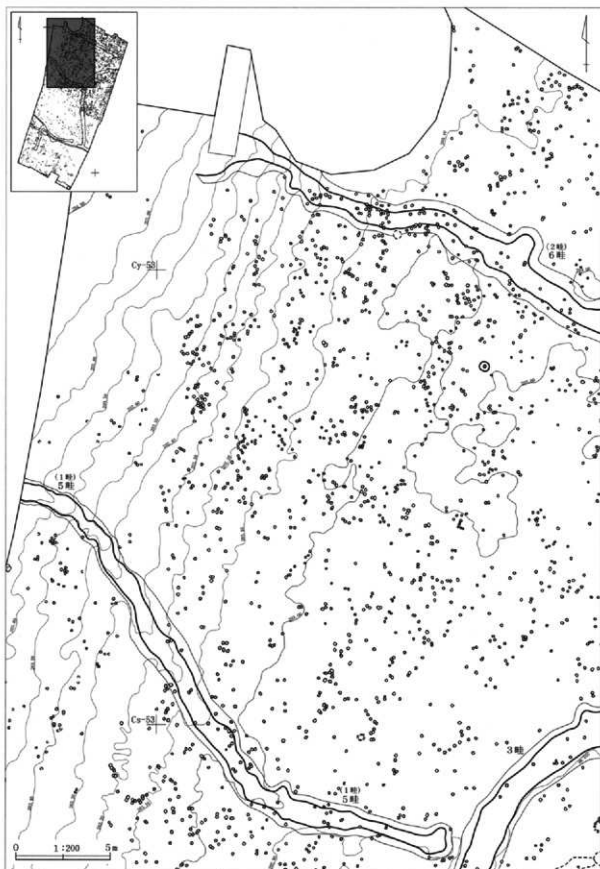
第5章第21図 III区2面 (Hr-FP下面) 遺構位置図(1)



第5章第22図 Ⅲ区2面 (Hr-FP下面) 遺構位置(図2)



第5章第23図 III区2面 (Hr-FP 下面) 遺構位置図(3)



第5章第24図 III区2面 (Hr-FP 下面) 遺構位置図(4)

1. 道

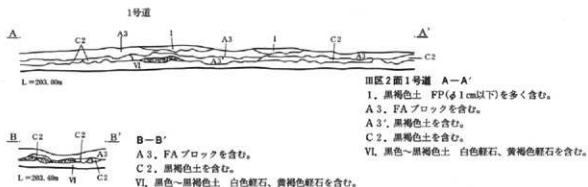
Ⅲ区2面(FP下)では、道が1条検出された。この1号道は、約45.5mの長さで、調査区を東西に横切り、一部蛇行しながら走行する。

幅は、約60cm～80cmで、道の中央部と端部では、約10cmの高低差がある。この道は、現生の馬が放牧地内に同規模の道を作る事例もあり、馬による可能性も考えられる。

道の表面は、硬化しており、長期にわたって恒常的に使用されていたと推定される。



第5章写真6 Ⅲ区2面1号道【東→】



第5章第25図 Ⅲ区2面1号道断面

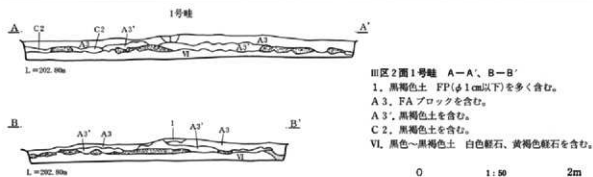
2. 畦状遺構(PL.24・25)

Ⅲ区2面(FP下)では、畦状遺構が6条検出された。これらの畦状遺構は、調査区外にかかっているものが多く、全容が判明したものは、なかった。

これら6条の溝は、無秩序に形成されたものではなく、人為的に構築されたものと推定される。実際、4号畦は直角に曲がった部分があり、5号溝は、走行の湾曲部が1号道と平行して同じである。

第5章表6 Ⅲ区2面畦状遺構計測表

畦番号	旧畦番号	全長	幅	方向	検出状態	備 考
1号畦	7号畦	20m	1m～2.7m	北西～南東	一部	一部、調査用入口で切れているが、継続しているものと推定される。
2号畦	5号畦	7.5m	1.5m	北西～南東	一部	3号畦の南部の起始部は、この2号畦の北部。
3号畦	3・4号畦	62m	1.5m～3.5m	東～南西・南北	一部	弓状を呈する。南部の起始部は、2号畦の北部。
4号畦	6号畦	25m	1m～1.5m	北西～南東・南北	一部	T字状を呈する。
5号畦	1号畦	31.5m	1m～2.5m	東西	一部	走行は、一部、蛇行する。
6号畦	2号畦	43m	1.5m～3m	北西～南東	一部	ほぼ、直線である。

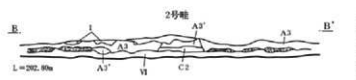


第5章第26図 Ⅲ区2面1号畦断面

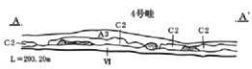
0 1:50 2m



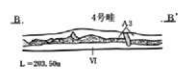
田区2面2(5)号畦、1号道 A-A'
A 3, FA ブロックを含む。
VI, 黒色~黒褐色土 白色軽石、黄褐色軽石を含む。



B-B'
1, 黒褐色土 FP(φ1cm以下)を多くを含む。
A 3, FA ブロックを含む。
A 3', 黒褐色土を含む。
C 2, 黒褐色土を含む。
VI, 黒色~黒褐色土 白色軽石、黄褐色軽石を含む。



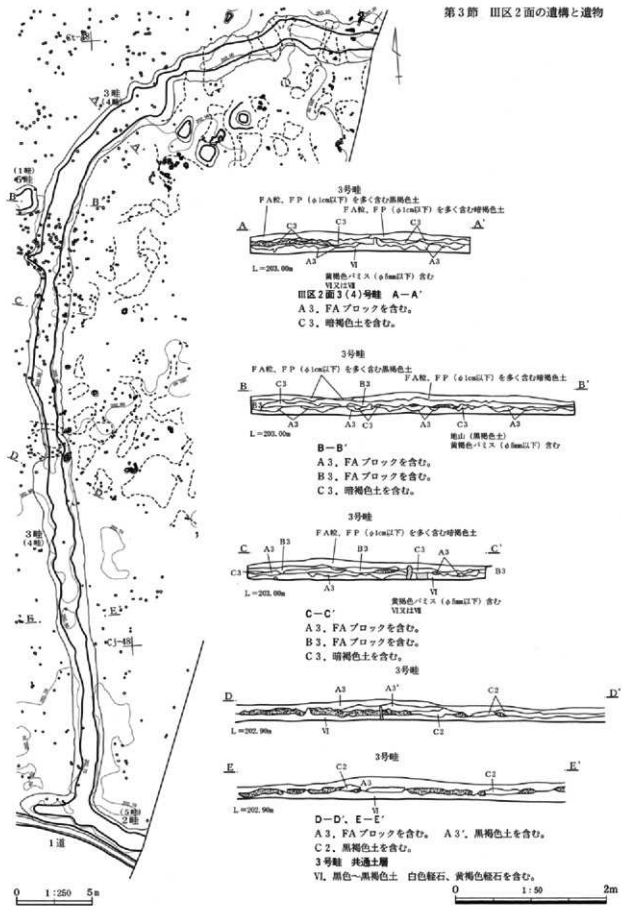
田区2面4(6)号畦 A-A'
A 3, FA ブロックを含む。 C 2, 黒褐色土を含む。
VI, 黒色~黒褐色土 白色軽石、黄褐色軽石を含む。



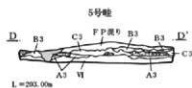
B-B'
A 3, FA ブロックを含む。
VI, 黒色~黒褐色土 白色軽石、黄褐色軽石を含む。



第5章第27図 田区2面1号道・2号・4号畦

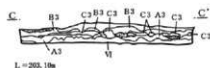


第5章第28図 Ⅲ区2面3号畦



Ⅲ区2面5(1)号畦 D-D'

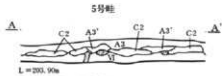
- A 3, FA ブロックを含む。
- B 3, FA ブロックを含む。
- C 3, 暗褐色土を含む。
- W, 暗黒褐色土 白色・黄褐色軽石を含む。



Ⅲ区2面5(1)号畦 C-C'

- A 3, FA ブロックを含む。
- B 3, FA ブロックを含む。
- C 3, 暗褐色土を含む。
- W, 暗黒褐色土 白色・黄褐色軽石を含む。





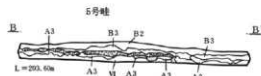
Ⅲ区2面5(1)号畦 A-A'

- A3, FAブロックを含む。
 A3': A3層よりFAの含有率が高い。
 C2, 黒褐色土を含む。
 W, 暗黒褐色土 白色・黄褐色軽石を含む。



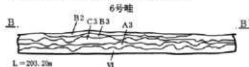
Ⅲ区2面6(2)号畦 A-A'

- A3, FAブロックを含む。
 B2, 炭化物・FA粒を含む。FP粒(ϕ 1cm以下)を含む。
 B3, FAブロックを含む。FP粒(ϕ 1cm以下)を含む。
 C3, 暗褐色土を含む。
 W, 暗黒褐色土 白色・黄褐色軽石を含む。



B-B'

- A3, FAブロックを含む。
 B2, 炭化物・FA粒を含む。FP粒(ϕ 1cm以下)を含む。
 B3, FAブロックを含む。FP粒(ϕ 1cm以下)を含む。
 W, 暗黒褐色土 白色・黄褐色軽石を含む。



B-B'

- A3, FAブロックを含む。
 B2, 炭化物・FA粒を含む。FP粒(ϕ 1cm以下)を含む。
 B3, FAブロックを含む。FP粒(ϕ 1cm以下)を含む。
 C3, 暗褐色土を含む。
 W, 暗黒褐色土 白色・黄褐色軽石を含む。

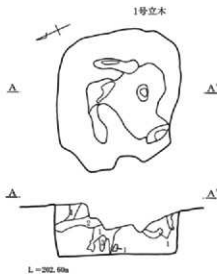
0 1:50 2m

第5章第30図 Ⅲ区2面5号・6号畦断面

3. 立木 (PL.27)

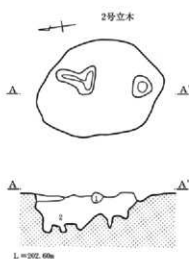
Ⅲ区2面 (FP下) では、立木痕が5箇所検出された。これら5箇所の立木痕には、倒木痕が認められなかった。これらは、FP降下前に伐採されたか、あるいはFP降下時には立木があり、FPによって埋まったために立ち枯れた可能性がある。

なお、樹種同定の結果、2号立木はコナラ属コナラ亜属クスギ節に、6号立木はコナラ属コナラ亜属コナラ節に同定されている。また、1号・3号・4号立木では、不明草本類も同定されている。



Ⅲ区2面1(3)号立木 A-A'

- 1, 黒褐色土 FP(ϕ 2cm以下)を多く含む、やわらかい。
 2, 暗褐色土 FP(ϕ 5mm以下)を多く含む、やわらかい。
 3, 黒褐色土 黄褐色パミスを少量含む、固くしまっている。



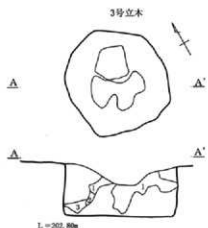
Ⅲ区2面2号立木 A-A'

- 1, 暗褐色土 FP(ϕ 5mm以下)とFA粒を含む。
 2, 黒褐色土 FP(ϕ 1cm以下)と炭化物を含む。

0 1:50 2m

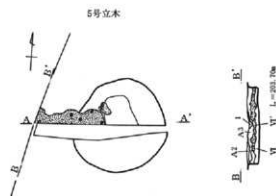
第5章第31図 Ⅲ区2面1号・2号立木

第5章 2面 (Hr-FP 下面) の遺構と遺物



Ⅲ区2面3(1)号立木 A-A'

1. 黒褐色土 FP(φ2cm以下)を非常に多く含む。
2. 暗褐色土 FP(φ2cm以下)を少量含み、固くしまっている。
3. 暗褐色土 FP(φ2cm以下)を少量含み、非常にやわらかい。



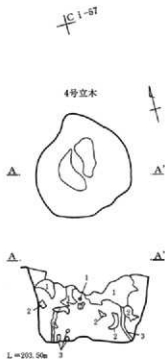
L=203.70m

Ⅲ区2面5(4)号立木 A-A'

1. 黒褐色土 FP(φ1cm以下)を非常に多く含む。
 2. 黒褐色土 FA粒、炭化物、焼土ブロック(φ1cm以下)、黄褐色パミス(φ2mm以下)を含む。
 3. 黒褐色土 FA粒、炭化物、黄褐色パミス(φ2mm以下)、褐色土粒を含む。
 4. 黒褐色土 FP(φ5mm以下)、炭化物を含み、非常にやわらかい。
 5. 黒褐色土 炭化物、黄褐色パミス(φ2mm以下)、褐色土粒を含み、非常にやわらかい。
 6. 黒褐色土 褐色土粒を多く含む。
 7. 褐色土 黒褐色土粒を多く含む。
- A 3. FAブロックを含む。
A 6. 焼土・炭化物を含む。
C 2. 黒褐色土を含む。
VI. 黒色～黒褐色土 白色軽石、黄褐色軽石を含む。

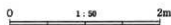
B-B'

1. 暗褐色土 炭化物、焼土ブロック、FPを含み、非常にやわらかい。
- A 2. 炭化物を含む。
- A 3. FAブロックを含む。
- VI. 黒色～黒褐色土 白色軽石、黄褐色軽石を含む。
- VI. FAブロックを多く含む。



Ⅲ区2面4(5)号立木 A-A'

1. 黒褐色土 FP(φ20mm以下)、FA粒、黄褐色パミス(φ2mm以下)、炭化物を含む。
2. 黒褐色土 FP(φ5mm以下)、黄褐色パミス(φ2mm以下)を少量含み、褐色土粒を多く含む。
3. 黒褐色土 黄褐色パミス(φ2mm以下)を少量含み、褐色土粒を多く含む。



第5章第32図 Ⅲ区2面3号～5号立木

第5章表7 Ⅲ区2面立木計測表

立木番号	旧立木番号	平面形状	規模			備考
			長軸	短軸	深さ	
1号立木	3号立木	不整形円形	1.8m	1.6m	70cm	重複無し。
2号立木	2号立木	楕円形	1.7m	1.25m	45cm	重複無し。
3号立木	1号立木	不整形円形	直径1.35m		70cm	重複無し。
4号立木	5号立木	不整形円形	直径1.25m		85cm	重複無し。
5号立木	4号立木	不整形円形	直径1.2m		50cm	各側が調査区外であるため全容は不明だが、倒木痕の可能性が高い。

4. 倒木痕 (PL.26)

Ⅲ区2面 (FP下) から、倒木痕が3箇所検出された。調査時は、炭化材として記載したが、報告時に名称と番号を付け替えた。

これらの倒木痕は、1号道近辺で検出されている。長さは、約9m～12mであり、いずれも、立木していた根の場所は円形を呈し、そこからいずれかの方向に直線状に炭化材が検出されている。倒木の方向はばらばらであり、規則性は無い。

炭化材樹種同定によると、1号～3号倒木はすべてコナラ属コナラ亜属コナラ節であり、「コナラ」であった可能性が高い。他の区の2面 (FP下) で検出

された立木の炭化材樹種同定も、コナラであった。また、時代は異なるが、弥生時代住居の建築部材の炭化材樹種同定結果は、コナラとクスギが大部分を占めている。この遺跡近辺は、弥生時代から古墳時代にかけて、クスギやコナラがある雑木林であった可能性が高い。

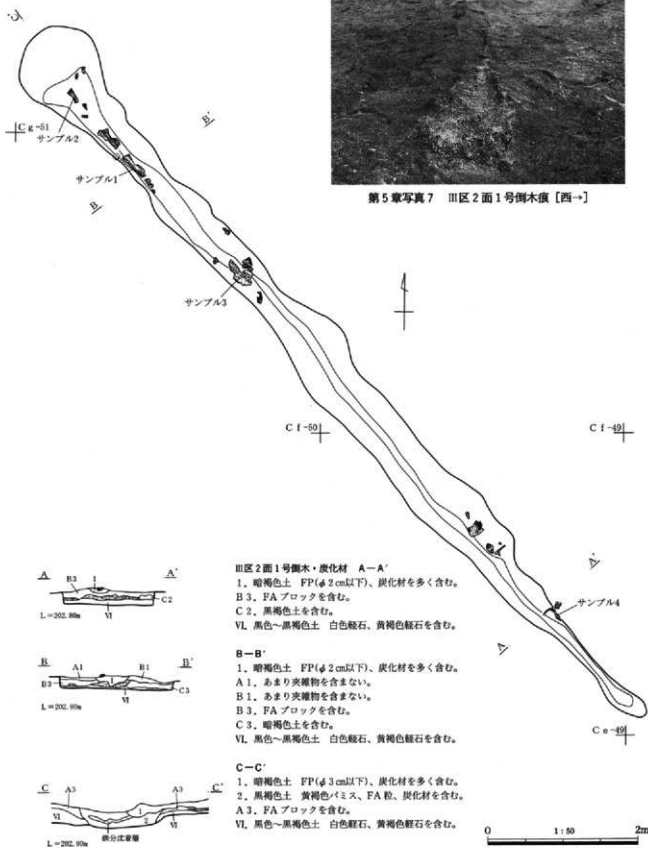
これらの炭化材の検出状況は、いずれも、炭化材の下にFA (Hr-FA) が堆積している。FP (Hr-FP) 降下時には立木痕の根の部分の陥没が埋まりかけている。以上の所見から、倒木時期は、FA降下後～FP降下前であると推定される。

第5章表8 Ⅲ区2面倒木痕計測表

倒木番号	旧番号	倒木方向	全長	幹部幅	立木部直径	備考
1号倒木	No.2 炭化材	南東	12.1m	15cm～75cm	直径1.1m	炭化材の下にFAが堆積
2号倒木	No.1 炭化材	西	10.6m	25cm～60cm	直径1.35m	炭化材の下にFAが堆積
3号倒木	No.3 炭化材	西南西	8.7m	15cm～50cm	直径1.15m	炭化材の下にFAが堆積



第5章第33図 Ⅲ区2面1～3号倒木痕

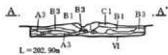
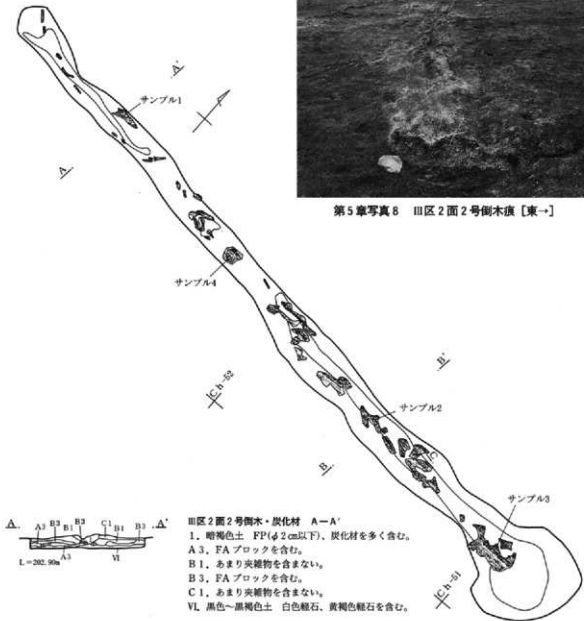


第5章写真7 III区2面1号倒木痕〔西→〕

第5章第34図 III区2面1号倒木痕・炭化材

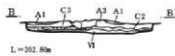


第5章写真8 Ⅲ区2面2号倒木痕【東→】



Ⅲ区2面2号倒木・炭化材 A-A'

1. 暗褐色土 FP(φ2cm以下)、炭化材を多く含む。
- A3, FAブロックを含む。
- B1, あまり夾雑物を含まない。
- B3, FAブロックを含む。
- C1, あまり夾雑物を含まない。
- VI, 黒色～黒褐色土 白色軽石、黄褐色軽石を含む。



B-B'

1. 暗褐色土 FP(φ2cm以下)、炭化材を多く含む。
- A1, あまり夾雑物を含まない。
- A3, FAブロックを含む。
- C2, 黒褐色土を含む。
- C3, 暗褐色土を含む。
- VI, 黒色～黒褐色土 白色軽石、黄褐色軽石を含む。

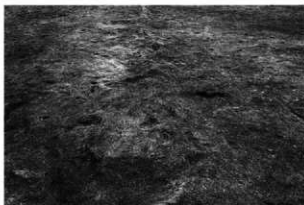


C-C'

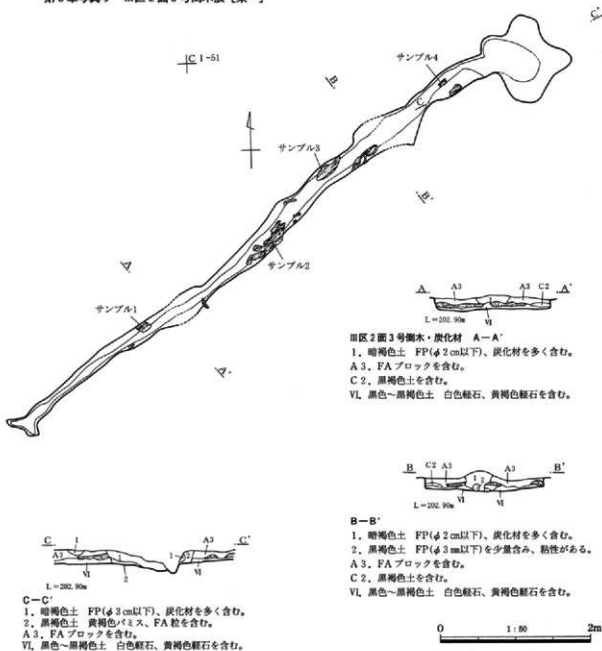
1. 暗褐色土 FP(φ3cm以下)、炭化材を多く含む。
2. 黒褐色土 黄褐色パミス、FA粒を含む。
- A3, FAブロックを含む。
- VI, 黒色～黒褐色土 白色軽石、黄褐色軽石を含む。

第5章第35図 Ⅲ区2面2号倒木痕・炭化材

0 1:50 2m



第5章写真9 Ⅲ区2面3号倒木痕【東→】



第5章第36図 Ⅲ区2面3号倒木痕・炭化材

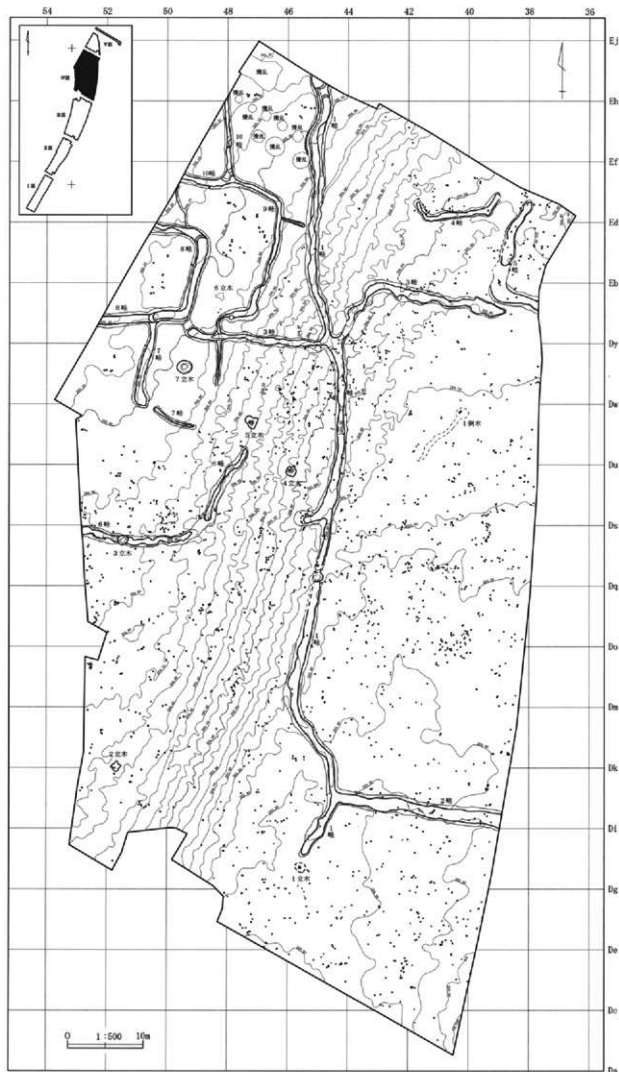
第4節 IV区2面の遺構と遺物

IV区の総面積は、7,390.5㎡である。2面は、6世紀中頃に榛名山が噴火して降下した軽石であるFP(Hr-FP)層の下面である。このFP軽石は、現地で約1mも堆積しており、6世紀中頃の生活面がそ

のまま保存されている。IV区2面では、畦状遺構10条・立木跡7箇所・倒木痕1箇所が検出された。その他、一面に無数の馬蹄痕が検出されている。



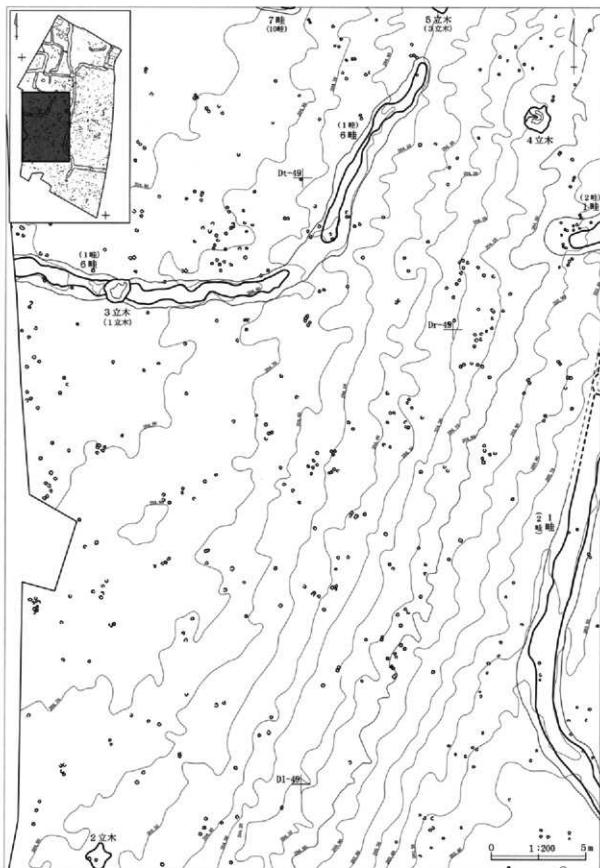
第5章写真10 IV区2面中央部空撮 [上が北]



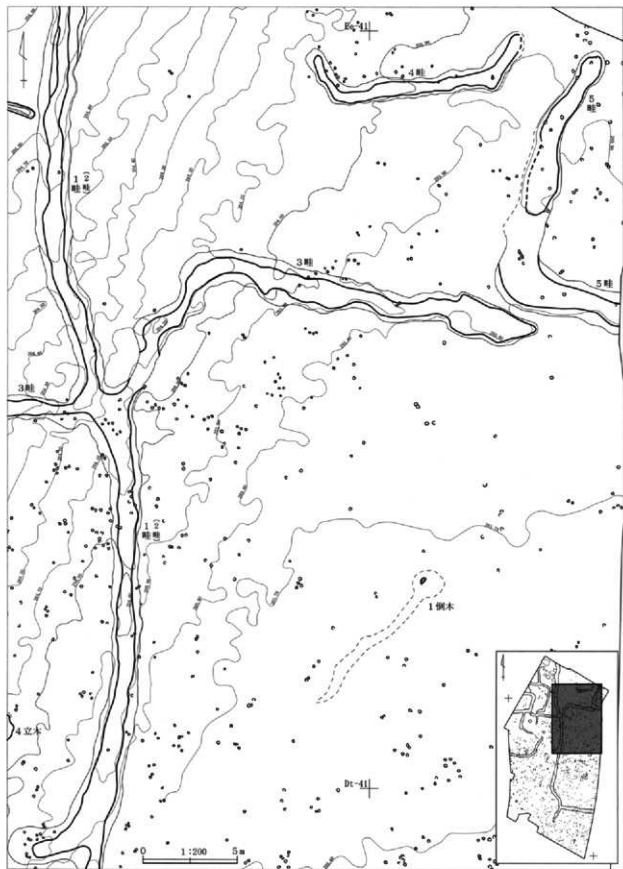
第5章第37图 N区2面(Hr-FP下面)遺構全体图



第5章第38図 IV区2面 (Hr-FP 下面) 遺構位置図1)



第5章第39図 N区2面 (Hr-FP 下面) 遺構位置図(2)



第5章第40図 IV区2面 (Hr-FP 下面) 遺構位置図(3)



第5章第41図 IV区2面 (Hr-FP 下面) 遺構位置図(4)

1. 畦状遺構 (PL.28・29)

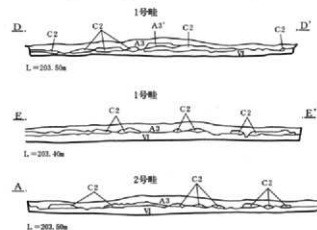
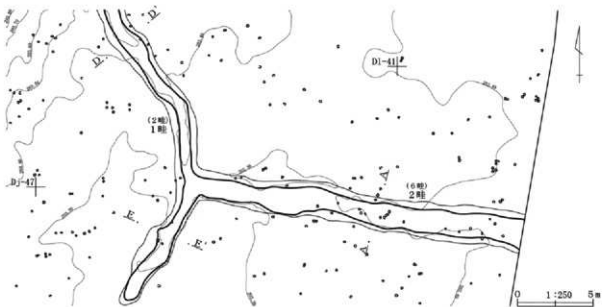
IV区2面 (FP下) では、畦状遺構が10条検出された。これらの畦状遺構は、調査区外にかかっているものが多く、全容が判明したのは、4号・7号畦の2条の畦のみである。

これら10条の畦は、無秩序に形成されたものではなく、人為的に構築されたものと推定される。特に、

調査区北西部で検出された、7号～10号畦は、水田のように区画されている。但し、群馬県で認められるFA下の小区画水田よりは規模が大きい。水田面は他の場所に比べると比較的平坦であるが、比高差が30cmも認められる場所があり、水を張るには困難が予想されるため、陸稲の可能性もある。

第5章表9 IV区2面畦状遺構計測表

畦番号	旧畦番号	全長	幅	方向	検出状態	備 考
1号畦	2号畦	106.5m	55cm～2.3m	南北	一部	南西部で二又に分岐
2号畦	6号畦	21.5m	90cm～1.3m	東西	一部	西側の起始部は、1号畦の東側。
3号畦	3号畦	47m	45cm～1.9m	東西・南北	一部	1号畦と平行して走行
4号畦	4号畦	15m	30cm～60cm	東西・南北	全容	「シ」の字形で、北部に開く。
5号畦	5号畦	19m	1m～2.8m	東西・南北	一部	「し」字原を呈する。
6号畦	1号畦	26m	15cm～1m	東西・南北	一部	北部の起始部は7号畦で、南側で5号畦と交差。8号畦と平行して走行。
7号畦	10号畦	23m	15cm～1.6m	南北	一部	6号畦と8号畦の起始部は、この7号畦の南側。9号畦と平行して走行。
8号畦	9号畦	28m	30cm～1.5m	東西・南北	一部	北部の起始部は7号畦で、6号畦と平行して走行。
9号畦	8号畦	28.5m	15cm～1.1m	東西・南北	一部	7号畦と平行して走行。10号畦の起始部は、この9号畦。
10号畦	7号畦	17m	35cm～1.4m	東西・南北	一部	南側の起始部は、9号畦。



IV区2面1(2)号畦 D-D'
A3, FAブロックを含む。
A3', A3層よりFAを多く含む。
C2, 黒褐色土を含む。
VI, 黒色～黒褐色土 白色軽石、黄褐色軽石を含む。

E-E'
A3, FAブロックを含む。
C2, 黒褐色土を含む。
VI, 黒色～黒褐色土 白色軽石、黄褐色軽石を含む。

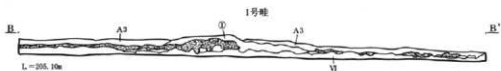
IV区2面2(6)号畦 A-A'
A3, FAブロックを含む。
C2, 黒褐色土を含む。
VI, 黒色～黒褐色土 白色軽石、黄褐色軽石を含む。

第5章第42図 IV区2面1号・2号畦

0 1:50 2m



第5章第43図 IV区2面1号・3号~10号畦



N区2面1(2)号畦 A-A'

- ①, FA 炭土。A3とは明確の差と、しまり具合で区分。A3より明るく、しまり強い。
A3, FA ブロックを含む。
VI, 黒色～黒褐色土 白色礫石、黄褐色礫石を含む。



B-B'

1. A(黒褐色土)、FPを少量含む。 2. FA ブロックを含む。



C-C'

1. A(黒褐色土)、FPを含む。 2. FA ブロックを含む。



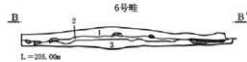
N区2面3号畦 A-A'

1. あまり炭化物を含まない。
2. FA と黒褐色土の混土。黄細粒子を極少量含む。(C2)か？



N区2面6(1)号畦 A-A'

1. 炭化物を含む。 2. 暗褐色土を含む。
3. FA ブロックを含む。
FA, 1号道下FA、上部 硬くしまった褐色細粒火山灰層 (S-11)、下部 褐色細粒火山灰層を主体とし、灰色火砕流堆積物を少量含む。



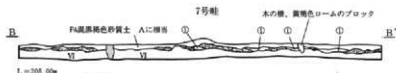
B-B'

1. 炭化物を含む。 2. 黒褐色土を含む。
3. FA ブロックを含む。
FA, 1号道下FA、上部 硬くしまった褐色細粒火山灰層 (S-11)、下部 褐色細粒火山灰層を主体とし、灰色火砕流堆積物を少量含む。



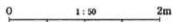
N区2面7(10)号畦 A-A'

- ①, FA 主体の黒褐色砂質土。A3に相当か。
②, ①層の攪拌土。①層の様にFAはブロック状ではなく、粒状。
VI, 黒色～黒褐色土 白色礫石、黄褐色礫石を含む。

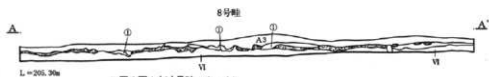


B-B'

- ①, FA 主体の黒褐色砂質土。A3に相当か。
VI, 下位は褐色砂質土が底層。



第5章第44図 IV区2面1号・3号・6号・7号畦断面

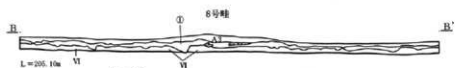


N区2面8(9)号畦 A-A'

①, 黒褐色砂質土 最大5mmまでのFA粒多混。

A3, FAブロックを含む。

VI, 黒色~黒褐色土 白色軽石、黄褐色軽石を含む。

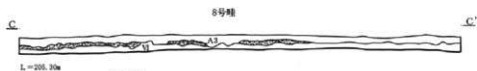


B-B'

①, 黒褐色砂質土 最大5mmまでのFA粒多混。

A3, FAブロックを含む。

VI, 黒色~黒褐色土 白色軽石、黄褐色軽石を含む。



C-C'

A3, FAブロックを含む。

VI, 黒色~黒褐色土 白色軽石、黄褐色軽石を含む。



N区2面9(8)号畦 A-A'

A3, FAブロックを含む。

VI, 黒色~黒褐色土 白色軽石、黄褐色軽石を含む。

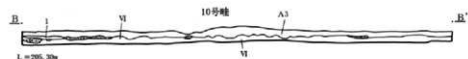


N区2面10(7)号畦 A-A'

1, A3 FAブロックを含む

2, 黒褐色砂質土

VI, 黒色~黒褐色土 白色軽石、黄褐色軽石を含む。

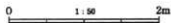


N区2面10(8)号畦 B-B'

A3, FAブロックを含む。

1, 黒褐色砂質土 ϕ 5mm.

VI, 黒色~黒褐色土 白色軽石、黄褐色軽石を含む。



第5章第45図 N区2面8号~10号畦断面



IV区2面3号畦 B-B'

1. A (黒褐色土) FPを少量含む。
2. 黒褐色土を含む。
3. FAブロックを含む。



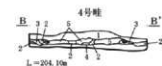
C-C'

1. A FPを含む黒褐色土。
2. 黒褐色土を含む。極少量FPを含む。



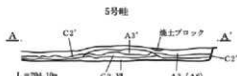
IV区2面4号畦 A-A'

1. 黒褐色土 FPを少量含む。
2. 黒褐色土を含む。
3. 黒褐色土を含む。2層より黒褐色土を多く含み、黒みがかった。



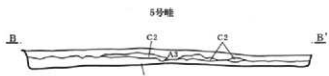
B-B'

1. 暗黒褐色土 部分的にFPを多く含む。
2. FAブロックを含む。
3. FAブロックを含む。2層より明るい。
4. FAブロックを含む。2・3層より多くFAを含む。
5. 黒褐色土を含む。



IV区2面5号畦 A-A'

- A3 (A6). 上面に炭化物、焼土ブロックを多く含む。
- A3'. A3層よりFAを多く含む。
- C2. 黒褐色土を含む。
- C2'. C2層より黒褐色土を多く含む。
- VI. 黒色~黒褐色土 白色軽石、黄褐色軽石を含む。



B-B'

- A3. FAブロックを含む。
- C2. 黒褐色土を含む。
- VI. 黒色~黒褐色土 白色軽石、黄褐色軽石を含む。



第5章第46図 IV区2面1号・3号~5号畦

2. 立木 (PL, 30)

IV区2面 (FP下) では、立木痕が7箇所検出された。これらの内7号立木は、調査時には1号落ち込みとして記載されていたが、整理時に立木と同様であるととして立木に含めた。これら7箇所の立木痕すべてに、倒木痕が認められなかった。

したがって、これらの立木は、FP降下前に伐採されたか、あるいはFP降下時には立木があり、FPに

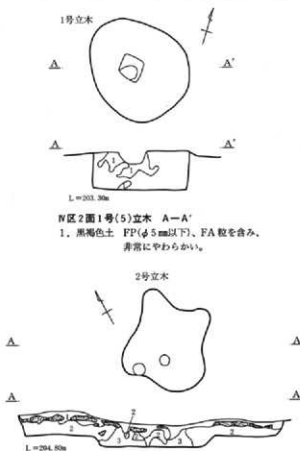
よって埋まったために立ち枯れした可能性がある。

但し、1号落ち込みは、中央部が2面検出面よりレベルが約10cm下で検出されたため、FA降下時の立木である可能性もある。

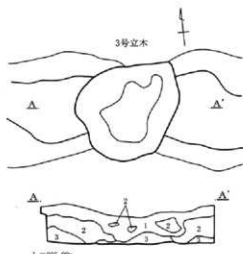
4号立木及び6号立木は、炭化材の樹種同定により、コナラ属コナラ亜属コナラ節と同定されている。

第5章表10 IV区2面立木計測表

立木番号	旧立木番号	平面形状	規 模			備 考
			長軸	短軸	深さ	
1号立木	5号立木	楕円形	1.4m	1.2m	50cm	重複無し。
2号立木	2号立木	不整形	1.4m	1.35m	30cm	重複無し。
3号立木	1号立木	不整形	1.5m	1.3m	50cm	重複無し。
4号立木	4号立木	不整形	1.4m	1.3m	30cm	重複無し。
5号立木	3号立木	不整形	1.8m	1.5m	40cm	重複無し。
6号立木	6号立木	不整形	1.2m	80cm	40cm	重複無し。
7号立木	1号落ち込み	楕円形	2m	1.7m	35cm	重複無し。



- N区2面1号(5)立木 A-A'
1. 黒褐色土 FP(φ5mm以下)、FA粒を含み、非常にやわらかい。
- N区2面2号立木 A-A'
1. FA主体の灰褐色土。ごく少量の炭化物及び黒褐色土のブロックを含む。
 2. 黒褐色土 黄細粒子を含む。
 3. 暗褐色土 もろい、黄細粒子を含む。

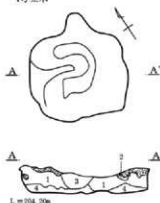


- N区2面3号(1)立木 A-A'
1. 暗褐色土 もろく、FPと黄細粒子を含む。
 2. 黒褐色土 1層より水分を含み、しまりのある粘質土。黄細粒子を含む。
 3. 暗褐色土 砂質。



第5章第47図 IV区2面1～3号立木

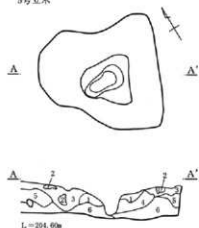
4号立木



IV区2面4号立木 A-A'

1. 黒褐色土 黄細粒子、及び暗褐色土のブロックを含む。
2. 黒色土 FAを含む。
3. 黒褐色土 大量のFPと、極少量の炭化物を含む。
4. 暗褐色土 黄細粒子を含む。

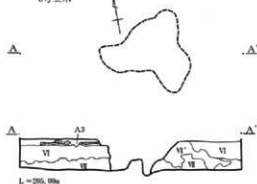
5号立木



IV区2面5(3)号立木 A-A'

1. 黒褐色土 もろく、FPと黄褐色軽石を含む。
2. 黒色土 FAを含む。
3. 黒褐色土 しまりある粘質土。黄細粒子を含む。
4. 暗褐色土 炭化物と黄細粒子を含む。
5. 暗褐色土 しまりある粘質土。
6. 黒褐色～暗褐色土 淡色黒ボク土。

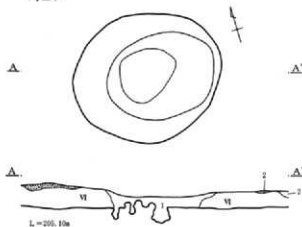
6号立木



IV区2面6号立木 A-A'

- A3. FAブロックを含む。
- VI. 黒色～黒褐色土 白色軽石、黄褐色軽石を含む。
- VII. 攪拌されて、顆粒状、ボンボンになったVI層。
- VII. 黒褐色～暗褐色土 淡色黒ボク土。白色軽石、黄褐色軽石を含む。

7号立木



IV区2面7(1)号立木 A-A'

1. 攪拌されて、顆粒状、ボンボンになったVI層。全体がスが入った様になり、一部は顆粒状。しまり弱い。炭化物が混入し、その一部はφ5cm前後の木の根らしく、リング状。
2. FA 凝黒褐色砂質土
- VI. 黒色～黒褐色土 白色軽石、黄褐色軽石を含む。

0 1:50 2m

第5章第48図 IV区2面4号～7号立木

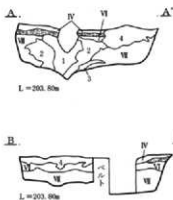
4. 倒木痕 (PL, 30)

IV区2面 (FP下) から、倒木痕が1箇所検出された。この1号倒木は、長さ約9.3mであり、立木していた根の場所は円形を呈し、そこから南西の方向に倒れている。幹の部分の幅は約30cm~70cmであり、根の部分の直径は約1.5mである。

根の部分のセクションでは、根の転倒を確認できなかった。したがって、この倒木は、根本付近で幹が折れ、幹だけが転倒した可能性がある。倒木時期は、検出状況から、FA (Hr-FA) 以前である可能性が高い。

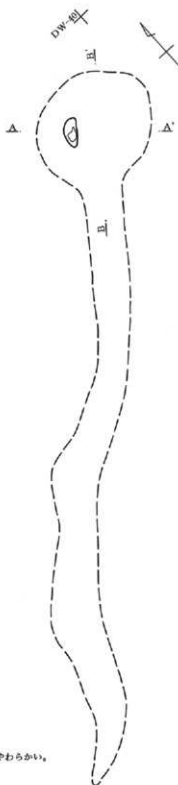


第5章写真11 IV区2面1号倒木痕 [北東→]



IV区2面1号倒木 A-A'、B-B'

1. 黒褐色土 FP(ϕ 1 cm以下)を含む。非常にやわらかい。
2. 黒褐色土 FP(ϕ 1 cm以下)、黄褐色バミス(ϕ 3 mm以下)を含む。
3. 黒褐色土 褐色土粒、FP(ϕ 5 mm以下)、黄褐色バミス(ϕ 3 mm以下)を含む。やわらかい。
4. 黒褐色土 FP(ϕ 1 cm以下)、FA粒、黄褐色バミス(ϕ 3 mm以下)を含む。
- IV. 黒褐色土 層厚 5~10cm。
- VI. 黒色~黒褐色土 白色軽石、黄褐色軽石を含む。
- VII. 黒褐色~暗褐色土 淡色黒ボク土、白色軽石、黄褐色軽石を含む。



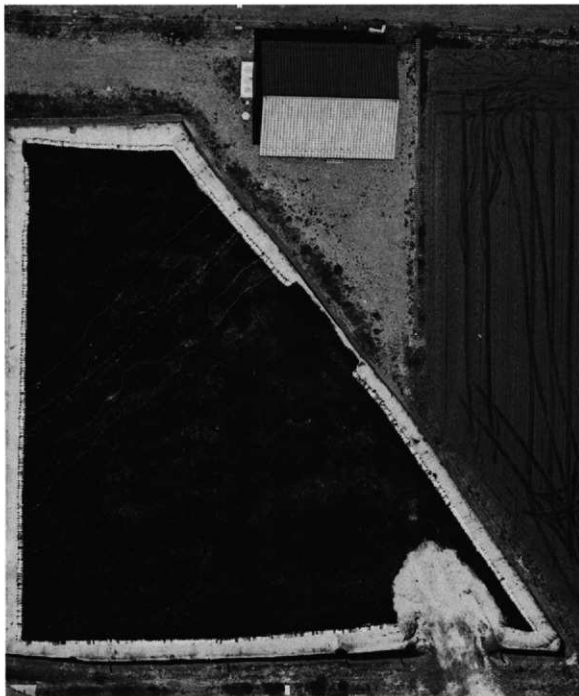
0 1:50 2m

第5章第49図 IV区2面1号倒木痕

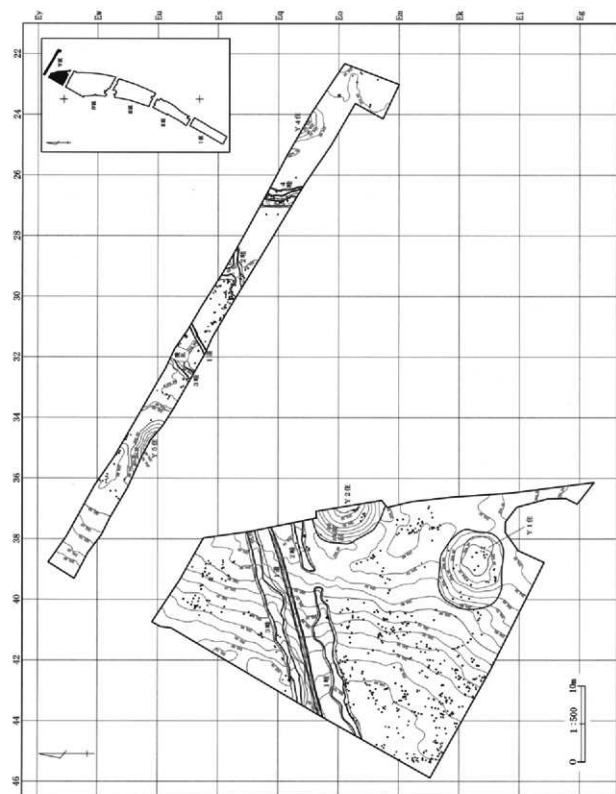
第5節 V区2面の遺構と遺物

V区の調査区は2箇所に分かれ、総面積は、2,545.1㎡となる。2面は、6世紀中頃に榛名山が噴火して降下した軽石であるFP(Hr-FP)層の下面である。このFP軽石は、現地で約1mも堆積しており、6世紀中頃の生活面がそのまま保存されている。

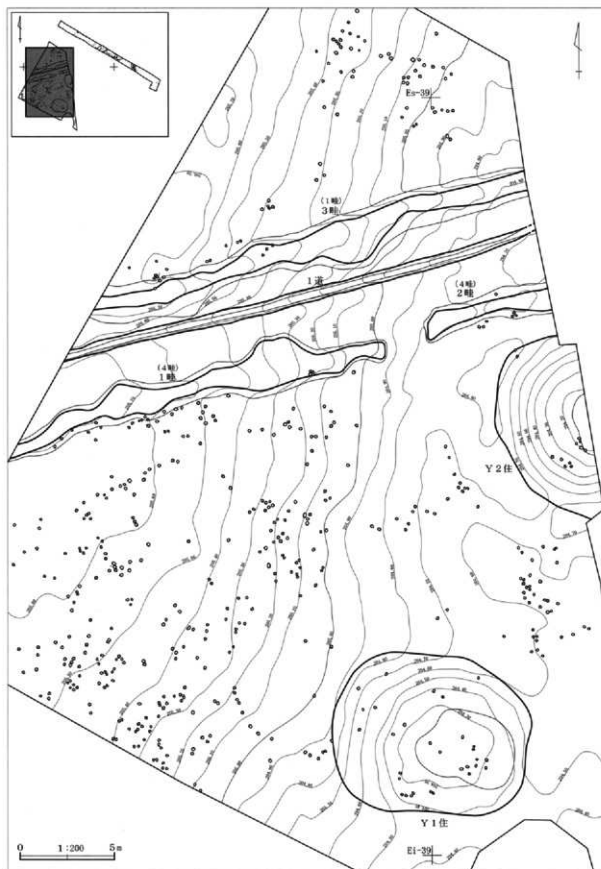
V区2面では、道1条・畦状遺構4条が検出された。また、弥生～古墳時代住居の凹みが5箇所検出されている。その他、一面に無数の馬蹄痕が検出されている。



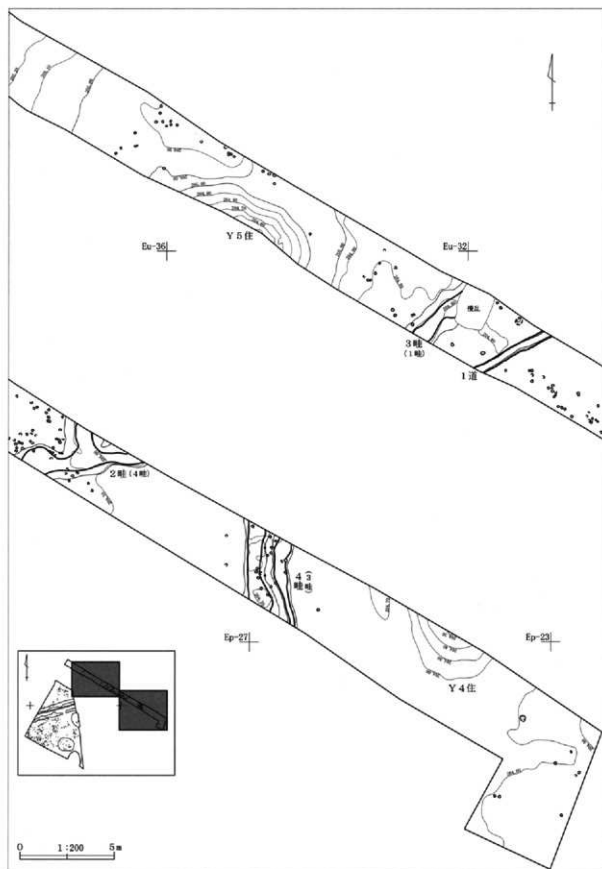
第5章写真12 V区2面空撮【上が北】



第5章第50図 V区2面 (Hr-FP 下面) 遺構全体図



第5章第51図 V区2面(Hr-FP下面)遺構位置図(1)



第5章第52図 V区2面 (Hr-FP 下面) 遺構位置図②

1. 道 (PL, 31)

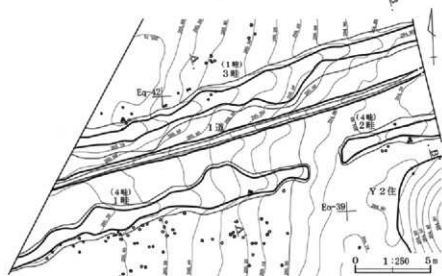
V区2面 (FP下) では、道が1条検出された。この1号道は、V区の南側調査区で約25.5m・北側調査区で約4mの長さである。調査区を北東～南西に横切り、ほぼ直線状に走行する。

幅は、約60cm～80cmで、道の中央部と端部では、約10cmの高低差がある。この道は、現生の馬が放牧地内に同規模の道を作る事例もあり、馬による可能性も考えられる。

道の表面は、硬化しており、長期にわたって恒常的に使用されていたと推定される。なお、同様の道はIII区2面でも検出されており、規模及び形状共に似通っている。



第5章写真13 V区2面1号道【東→】



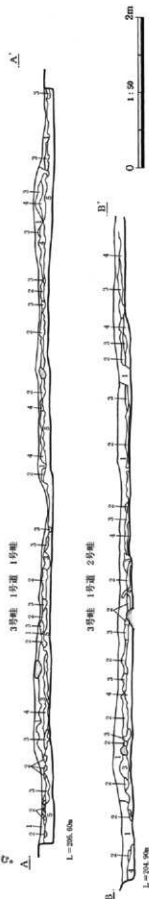
V区3(1)号畦、1号道、1(4)号畦 A-A'

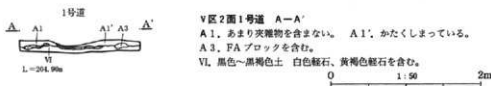
1. 黒褐色土 極少量の黄細粒を含む。
2. 褐灰色土 部分的にFAを含む。
3. 黒褐色土 少量の黄細粒を含む。
4. 褐灰色土 3層より多くのFAブロックを含む。
5. 黒褐色土 黄細粒を少量を含む。

V区2(4)号畦、1号道、3(1)号畦 B-B'

1. 黒褐色土 極少量の黄細粒を含む。
2. 褐灰色土 部分的にFAを含む。
3. 褐灰色土 3層より多くのFAブロックを含む。
4. 黒褐色土 少量の黄細粒を含む。

第5章第53図 V区2面1号道、1号～3号畦





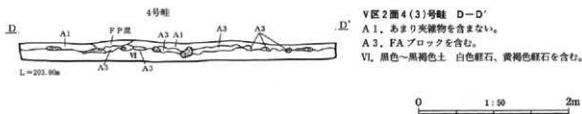
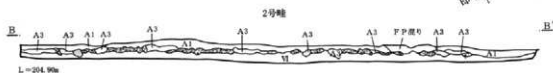
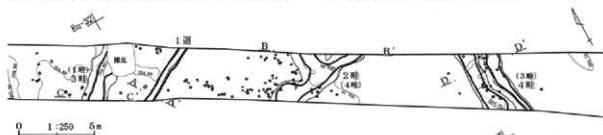
第5章第54図 V区2面1号道断面

2. 畦状遺構 (PL.31)

V区2面 (FP下) では、畦状遺構が4条検出された。これらの畦状遺構は、調査区外にかかっているものが多く、全容が判明したものは、なかった。

これら4条の畦は、無秩序に形成されたものではなく、人為的に構築されたものと推定される。実際、

1号～3号畦の3条の畦は、1号道をはさんで東西方向に平行して走行している。なお、3号畦及び2号畦は、調査区南側から北側に続いているため、推定ではあるが同じ畦として扱った。但し、4号畦は、方向も異なるため、別の畦とした。



第5章第55図 V区2面2号～4号畦

第5章表11 V区2面畦状遺構計測表

畦番号	位置	田番号	全長	幅	方向	検出状態	備 考
1号畦	本体	4号畦	20.5m	1m～3m	北東～南西	一部	1号道と平行して、南部に位置する。
2号畦	本体	4号畦	6.8m	1m～1.8m	北東～南西	一部	1号道と平行して、南部に位置する。
2号畦	縦断部	4号畦	5m	1.5m～2m	北東～南西	一部	1号道と平行して、南部に位置する。
3号畦	本体	1号畦	24.5m	1.2m～3m	北東～南西	一部	1号道と平行して、北部に位置する。
3号畦	縦断部	1号畦	2.5m	1.5m～1.8m	北東～南西	一部	1号道と平行して、北部に位置する。
4号畦	縦断部	3号畦	4m	2.2m～2.5m	南北	一部	—

3. 弥生～古墳時代住居跡凹み

V区2面(FP下)では、弥生～古墳住居の凹みが5箇所検出された。これは、FP及びFA降下時にはすでに廃絶された住居の周堤帯と陥没した堅穴部である。但し、5軒中、4軒の住居は調査区外にかかっているため、全容が判明したのはY1号住居のみである。この弥生～古墳住居は、別章で詳述する。

第5章表12 V区2面弥生～古墳時代住居凹み計測表

住居番号	旧住居番号	長 軸	短 軸	高低差
Y1号住居	2号住居	10.5m	8.5m	70cm
Y2号住居	1号住居	(10m)	(5m)	70cm
Y3号住居	3号住居	不明瞭	不明瞭	10cm
Y4号住居	4号住居	(8.3m)	(2.3m)	30cm
Y5号住居	5号住居	(7.8m)	(1.6m)	50cm



第5章写真14 Y1号住居2面(FP下)検出状況【東→】



第5章写真15 Y2号住居2面(FP下)検出状況【南西→】



第5章写真16 Y3号住居2面(FP下)検出状況【東→】



第5章写真17 Y4号住居2面(FP下)検出状況【南→】



第5章写真18 Y5号住居2面(FP下)検出状況【東→】

第6節 2面(FP下)遺構まとめ

I区～V区の2面(FP下)の総調査面積は、24,106.4m²である。これら調査区からは、道2条・畦状遺構38条・立木跡24箇所・倒木痕3箇所・弥生時代住居跡の凹み6箇所が検出された。これらの遺構の時期は、榛名山が6世紀中頃に噴火した際の降下軽石下であるため、6世紀中頃の生活面がそのままバックされていたことになる。

1. I区2面まとめ [3,461.3m²]

I区1面からは、畦状遺構10条・立木跡5箇所が検出された。

2. II区2面まとめ [4,751.3m²]

II区2面からは、畦状遺構8条・立木跡7箇所が検出され。

3. III区2面まとめ [5,958.2m²]

III区2面からは、道1条・畦状遺構6条・立木跡5箇所・倒木痕3箇所が検出された。

4. IV区2面まとめ [7,390.5m²]

IV区2面からは、畦状遺構10条・立木跡7箇所・弥生時代住居跡の凹み1箇所が検出された。

5. V区2面まとめ [2,545.1m²]

V区2面からは、道1条・畦状遺構4条・弥生時代～古墳時代住居跡の凹み5箇所が検出された。

第5章表13 2面遺構まとめ

区名	調査区面積	道	畦状遺構	立木痕	倒木痕	弥生～古墳時代住居凹み	備考
I区	3,461.3m ²	—	10条	5箇所	—	—	4号畦は、倒木痕の可能性大
II区	4,751.3m ²	—	8条	7箇所	—	—	—
III区	5,958.2m ²	1条	6条	5箇所	3箇所	—	—
IV区	7,390.5m ²	—	10条	7箇所	1箇所	1箇所	—
V区	2,545.1m ²	1条	4条	—	—	5箇所	—
総計	24,106.4m ²	2条	38条	24箇所	4箇所	6箇所	—

第6章 3面の調査 (FA 上下面)

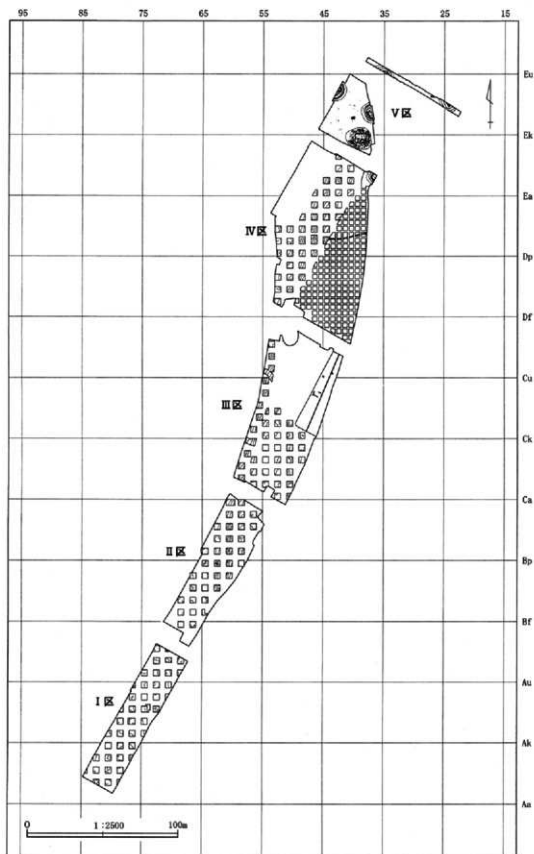
FA (Hr-FA) は、6世紀初頭の標名山の噴火による降下火山灰である。一説には、6世紀初頭のFAと6世紀中頃のFP (Hr-FP) とは、約30年間の時間差があるという。すると、FAの上層にある黒色土は、FA降下後から、約30年間の堆積層で、その後FPに再び覆われたということになる。

発掘調査時は、FA上を3面とし、FA下を4面としたが、本報告書では、これと一緒に報告する。調査の方法は、調査区に4mグリッドを規則的に設定して、そのグリッド内のみを掘り下げ、遺構が検出された場合はそのグリッドの周りだけ広げて調査を行うという方法である。I区及びII区では、遺構は認められなかった。III区では、FP降下時には根が残っていたか埋没していた立木痕が2基検出された。また、IV区では、道が1条検出された。V区では、遺構は認められなかった。

なお、この3面で検出された遺構外遺物についても本章に掲載した。遺構外遺物は、弥生土器の甕・壺、土師器の小型甕・壺・器台が検出されている。



第6章写真1 白井北中道川遺跡II区3面調査風景 [南→]



第6章第1図 3面 (Hr-FA上下面) 全体図

第1節 調査の概要

白井中道III遺跡では、FA (Hr-FA) 層の上面を3面として、またFA (Hr-FA) 層の下面を4面として調査を行った。本報告書では、この3面及び4面を3面として扱う。

調査の方法は、基本的に4m×4mグリッドを設定し、遺構の有無及びFA (Hr-FA) の残存状況を確認した。但し、III区北東部・IV区北西部・V区は、全面で掘り下げている。これは、調査年度が4箇年にわたっていることにより、その時点での調査担当者の考え方にもよるし、調査面積が狭い場合はグリッドを設定するよりも全面に掘り下げた方が効率的であるという理由による。

I区及びII区では、遺構は検出されなかった。III区では立木痕2基が、IV区では道1条が検出されている。V区は、弥生時代終末期～古墳時代初頭の住居が検出されたために、全面で掘り下げている。なお、I区～V区にかけて、馬蹄痕が検出されているが、図には反映されていない。

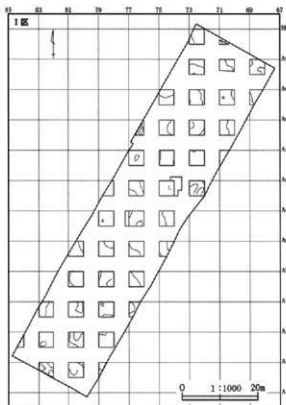
第2節 I区の検出状況

I区では、FA (Hr-FA) は、一部を除いて基本土層IV層中にブロック状に点在しているのみで、面として確認することはできなかった。また、遺構も検出されなかった。さらに、遺構外出土遺物も検出されなかった。

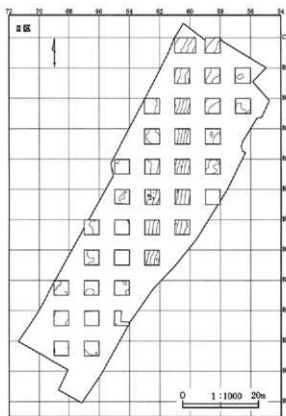
第3節 II区の検出状況

II区では、FA (Hr-FA) は、I区と同様に一部を除いて基本土層IV層中にブロック状に点在しているのみで、面として確認することはできなかった。また、遺構も検出されなかった。

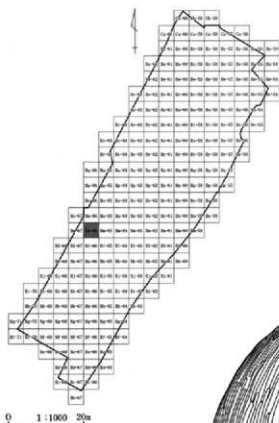
遺構外出土遺物として、Bm-66Gから土師器瑇1点が検出されている。なお、本土師器は、土器集中という遺構名称で取り上げられたが、出土状況は、土師器片が直径約2mの位置に点在しているというものである。検出状況からは、意図的に破壊したかどうかは、確認できない。



第6章第2図 I区3面全体図



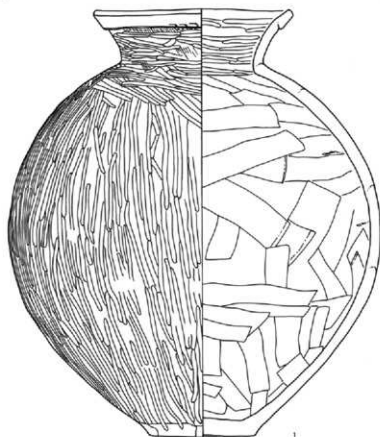
第6章第3図 II区3面全体図



第6章第4図 II区遺構外出土遺物位置図



第6章写真2 II区Bm-66G遺物出土状況 [南→]



第6章第5図 II区遺構外出土遺物

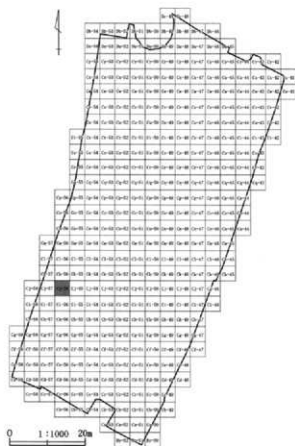
第6章表1 II区遺構外出土土器観察表 (PL. 22)

番号	出土位置	類別 器種	計測値 (cm)	残存状態	焼成	色調		胎土	成・製形技法の特徴
						色	番号		
1	Bm-66G 土器集中	土師器 甕	口・(15.8) 高・33.8 底・8.4 最大径・29.4	ほぼ完形	酸化焰	橙	7.5YR6/6	砂粒	口縁端部平相面ヨコナデの折り返し。外面口縁部ハケ状工具による調整後ミガキ。胴部ミガキ。底部周辺ヘラ調整後、ミガキ。内面口縁部ミガキ。胴部ヘラ調整、ナデ。

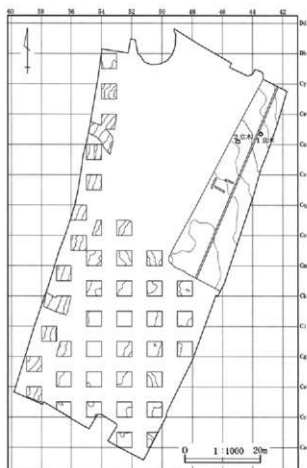
第4節 Ⅲ区の検出状況

Ⅲ区では、FA(Hr-FA)は、Ⅰ区及びⅡ区と同様に一部を除いて基本土層Ⅳ層中にブロック状に点在しているのみで、面として確認することはできなかった。

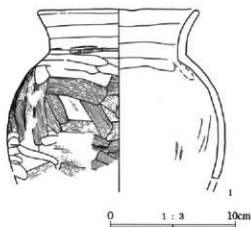
遺構は、調査区の北東部で、1号立木及び2号立木の2箇所が検出された。また、遺構外出土遺物として、Cj-56Gから土師器の小型甕が1点検出されている。



第6章第7図 Ⅲ区遺構外出土遺物位置図



第6章第6図 Ⅲ区3面全体図



第6章第8図 Ⅲ区遺構外出土遺物

第6章表2 Ⅲ区遺構外出土器観察表 (PL-27)

番号	出土位置	種別 器種	計測値 (cm)	残存状態	焼成	色 調		胎土	成・整形技法の特徴
						色	番号		
1	Cj-56G	土師器 小型甕	口・12.8 残高・13.4 最大径・17.3	口縁～胴部 中位	酸化焰	明赤褐	5YR5/6	砂粒	口縁部内外面コナダ。胴部外面ハケ目状工具による調整。内面胴部ヘラナダ、ナダ。

1. 立木

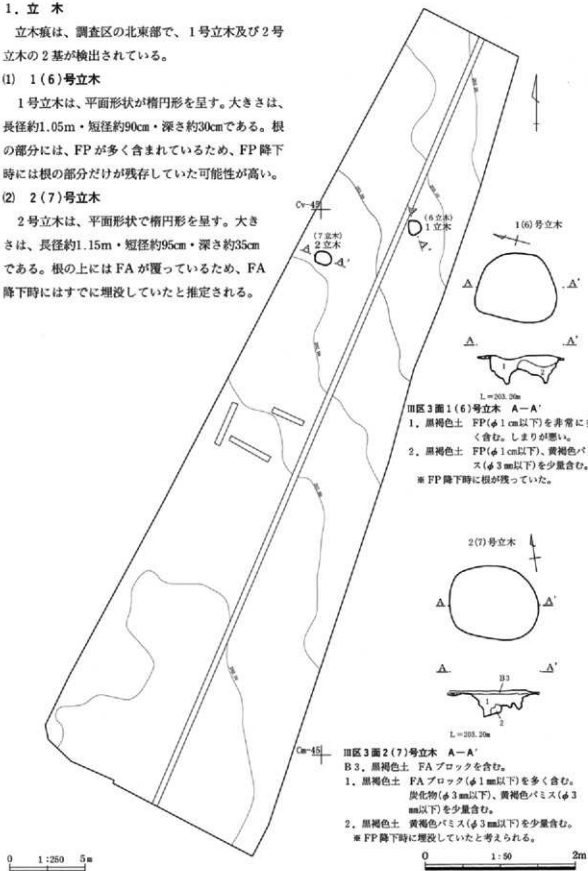
立木痕は、調査区の北東部で、1号立木及び2号立木の2基が検出されている。

(1) 1(6)号立木

1号立木は、平面形状が楕円形を呈す。大きさは、長径約1.05m・短径約90cm・深さ約30cmである。根の部分には、FPが多く含まれているため、FP降下時には根の部分だけが残存していた可能性が高い。

(2) 2(7)号立木

2号立木は、平面形状で楕円形を呈す。大きさは、長径約1.15m・短径約96cm・深さ約35cmである。根の上にはFAが覆っているため、FA降下時にはすでに埋没していたと推定される。



第6章第9図 田区3面1号・2号立木

第5節 IV区の検出状況

IV区では、FA(Hr-FA)は、I区～III区と同様に一部を除いて基本土層IV層中にブロック状に点在しているのみで、面として確認することはできなかった。

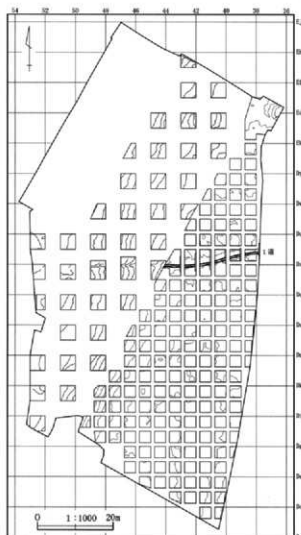
1. 道

調査区の中央部で東～西にかけて、道が1条検出された。このIV区3面1号道の規模は、全長約60m・幅約50cm～70cmである。興味深いことに、この道の規模は、III区及びV区の2面(FP下)で検出された道と規模が同様であり、馬が歩くことによってできた道と似通っている。図化は、IV区東側に限った。

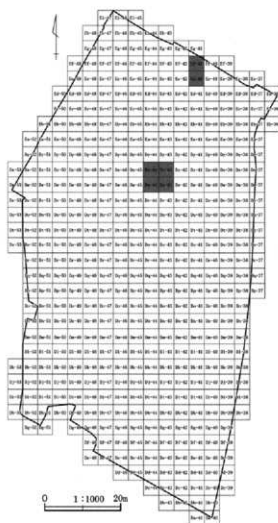
遺構外出土遺物として、1号道遺物集中から弥生土器の壺1点・Ee-41Gから弥生土器壺1点・Ef-41Gから土師器器台2点が出土している。



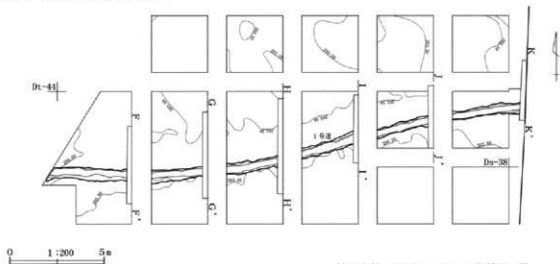
第6章写真3 IV区1号道全景 [西→]



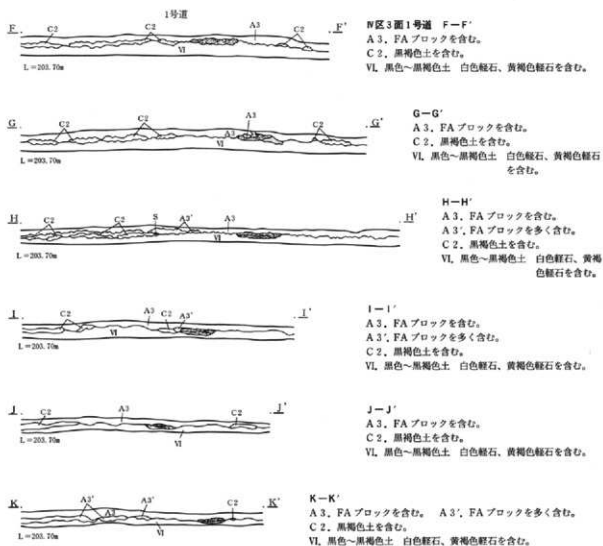
第6章第10図 IV区3面1号道位置図



第6章第11図 IV区遺構外出土遺物位置図



第6章第12図 IV区3面1号道平面図



第6章第13図 IV区3面1号道断面図